4　内約交渉と南京国民政府の成立

496

昭和14年11月1日　興亜院会議決定

「中央政治會議指導要領」

付記一　昭和十四年十一月一日、興亜院会議諒解「「中央政治會議指導要領」ニ關スル諒解事項」

二　昭和十四年十一月一日「「中央政治會議指導要領(案)ニ關スル諒解」

中央政治會議指導要領

昭和十四年十一月一日
興亞院會議決定

第一　方　針

現下内外ノ情勢推移ニ鑑ミ新中央政府ノ樹立ハ支那側内部ノ基礎的條件ノ充足ヲ中核トシ對第三國及重慶工作ニ關スル措置ヲ外廓トシテ之ヲ施策シ且帝國政府ノ事變ニ對スル全局ノ態勢整備ニ卽應シ帝國ノ自主的見地ニ基キ之カ構成竝ニ樹立ノ時期ヲ決定スヘク中央政治會議ニ於テハ如上ノ考慮ニ主眼ヲ置キ主トシテ内政問題ニ重點ヲ置カシムル如ク指導スルモノトス

第二　要　領

一、中央政治會議ニ關シテハ豫メ新中央政府ノ主要構成分子ニ對シ以下定ムル所ノ我方要望事項ヲ諒解セシメタル上同會議ヲ開催セシムル如ク指導シ以テ支那側ノ決議事項トノ間ニ矛盾スル所無カラシムル如ク措置スルモノトス

二、中央政治會議ニ於テハ中央政府樹立ノ基礎工作トシテ別紙第一「中央政府(新ヌカ)樹立ニ關スル大綱」ヲ確定セシムルモノトス

三、支那側工作ノ重點ヲ基礎地盤ノ設定、對重慶工作、兵力整備、資金準備等各般ニ亙ル人的要素及基礎的實力ノ具備ニ關スル準備ノ完成特ニ重慶側諸勢力ノ切崩獲得ニ置カシメ汪ヲ中核トシテ吳、既成政權等協力一致シテ右工作ノ完成ニ施策努力セシムルモノトス

四、新中央政府ノ構成竝ニ樹立ノ時期ハ前記準備工作ノ進展ノ程度及全局ニ亘ル情勢ヲ考慮シ日本側ト協議ノ上之ヲ定ムヘキモノナルコトヲ撤(徹カ)底セシムルモノトス

五、新中央政府ノ政綱及政策ニ關シテハ日支新關係調整ニ關スル原則、所要ノ既成事實ノ承認等日本側ノ要望ヲ包容シ且之ト矛盾スル所無カラシムルモノトス

六、新中央政府ノ名稱、首都及國旗ニ付テハ既定方針ニ據ルモノトス

七、既成政府ノ名稱廢止、地方制度及地方自治ノ程度ニ關シテハ別紙第二「新中央政府既成政權間ノ關係調整要領」ニ基キ我方ノ要請ヲ諒解セシメ所要ノ措置ヲ爲サシムルモノトス

尙右要請以外ノ新支那地方政治形態ニ關シテハ別紙第三「新支那地方政治形態ニ關スル指導腹案」ニ據リ內面指導スルモノトス

八、日支間ノ新關係調整ニ付テハ中央政治會議後新中央政府樹立前同政府ノ主要構成分子ヲシテ日本側ニ對シ確約ヲ爲サシムルモノトシ其ノ確約ニ關スル要綱ニ關シテハ別紙第四「新中央政府樹立前新中央政府ノ主要構成分子ノ日本側ニ對スル確約ニ關スル件(案)」ト豫定ス

右確約ヲ爲サシムル爲現地指導機關ニ於テ主要構成分子ニ對シ逐次事前ニ所要ノ內面指導ヲ爲スモノトシ中央政治會議前其ノ大要ニ關シ一應ノ諒解ヲ遂ケシムルモノトス

但シ右確約事項中ノ特定事項ヲ支那側ニ示ス時機竝ニ區分ニ關シテハ現地ヨリ中央ニ連絡ノ上之ヲ定ムルモノトス

九、第三國關係ニ付テハ日滿支及第三國ノ共通福祉ヲ增進スルコトヲ旨トスルモ第三國ヲシテ事變中特殊事態ノ存在ヲ認メシメ事態ノ鎭靜ニ伴ヒ第三國ノ利益ヲ尊重シツツ逐次新事態ニ卽應スル如ク合理的ニ調整セラルヘキ方針ヲ以テ對處スルモノトス

〔備考〕

八、ノ但書ノ確約事項中ノ特定事項トハ別紙第四中「日支新關係調整要項」第二ノ三及四ヲ指スモノトス

別紙第一(中央政治會議ニ於テ確定セシムベキモノ)

新中央政府樹立ニ關スル大綱

一、新中央政府ハ國民黨、既成政權、其ノ他ノ黨派及爲シ得レバ飜意改替ノ重慶政府等ヲ以テ其ノ構成分子ト爲シ其ノ適宜協力ニ依リ之ヲ樹立スルモノトス

二、新中央政府ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル爲人的要素及基礎的實力（武力竝ニ財力）ノ具備ニ關シ日本側ト連繫シテ具體的ニ萬般ノ施策ヲ講シ努力邁進スルモノトス

重慶政府ノ重要分子獲得ニ關シテハ汪精衞ヲ中心トシ既成政權、各黨各派等協力シ施策ニ遺憾無キヲ期スルモノトス

三、新中央政府ハ日支新關係調整ニ關スル原則ニ準據シテ日支ノ國交ヲ正式ニ調整スルモノトシ之カ構成分子代表者ハ右日支新關係調整ニ關スル原則的事項ニ關シテ新中央政府樹立前日本側ト協議決定スルモノトス

四、重慶政府カ抗日容共政策ヲ放棄シ且所要ノ人的改替ヲ行フコト竝ニ第一號及第三號ヲ受諾シタル場合ニハ之ヲ飜意改替セルモノト認ムルモノトス

別紙第二（中央政治會議ニ關シ我方要請事項トシテ諒解セシメ所要ノ措置ヲ爲サシムベキモノ）

新中央政府既成政權間ノ關係調整要領

第一、蒙古聯合自治政府ト新中央政府トノ關係調整要領

一、蒙古聯合自治政府ト新中央政府トノ新關係設定ノ爲中央政治會議開催前日本側指導ノ下ニ汪精衞又ハ其ノ代表者ト德王又ハ其ノ代表者トヲ北京又ハ青島ニ於テ會見セシメ左記事項ヲ文書ヲ以テ約セシムルモノトス

記

㈠新中央政府ハ蒙古聯合自治政府ノ高度防共自治ノ既成事實ヲ認ムルコト

㈡兩政權ノ關係調整ニ關シテハ本諒解ニ基キ新中央政府成立後別途協定スルコト

三、前號ノ諒解成立セル際ハ中央政治會議ニ蒙古聯合自治政府ヨリ其ノ代表者ヲ出席セシムルモノトス

但シ中央政治會議ニ於テハ蒙古聯合自治政府ノコトニ關シテハ前記諒解事項ノ範圍ヲ脫逸（ママ）セル事項ニ付テハ論議セシメザルモノトス

第二、臨時政府ト新中央政府トノ關係調整要領

一、北支ハ日滿兩國トノ國防上經濟上ノ强度結合地帶タル特殊性ニ鑑ミ日支新關係調整ニ關スル原則ニ基ク對日

滿局地處理ノ爲北支ニ中央政府ノ下ニ在ル華北政務委員會（假稱、以下同ジ）及軍事處理機關ヲ設置セシムルモノトス

二、華北政務委員會ト新中央政府トノ關係及華北政務委員會ノ構成權限竝ニ華北政務委員會ト軍事處理機關トノ關係及軍事處理機關ノ編成等ニ關スル具體的事項ハ中央政治會議ニ於テ下協議ヲ行フベキモ新中央政府樹立直前ニ臨時政府ト新中央政府ノ代表タルベキ者トノ間ニ於テ之ヲ概定セシムルモノトス

三、臨時政府ノ政府ナル名稱ヲ廢止シ華北政務委員會ニ移行スル場合ハ差當リ既成ノ事實ヲ繼承シ政務ノ停止澁滯等無カラシムルト共ニ經濟機構ノ運營上信用ノ動搖ヲ防止スル等人心ノ不安無カラシムル爲所要ノ措置ヲ爲サシムルモノトス

第三、維新政府ト新中央政府トノ關係調整要領

一、維新政府ノ立場ヲ尊重シ其ノ動搖ヲ防止シツツ新中央政府ト融合歸一スル如ク誘導シ新中央政府樹立迄ハ安ンジテ政務ヲ繼續セシムルモノトス

二、維新政府ヲシテ新中央政府樹立後政務委員會等ヲ設置セザルコトヲ納得セシムルモ其ノ主要人物ノ體面ト地位トニ關シテハ汪側ヲシテ考慮セシムルモノトス

三、新中央政府樹立セラレテ維新政府解消スル場合新中央政府ハ差當リ既成ノ事實ヲ繼承シ逐次調整ヲ行フモノトシ政務ノ停止澁滯等無カラシムルト共ニ經濟機構ノ運營上信用ノ動搖ヲ防止スル等人心ノ不安無カラシムル爲所要ノ措置ヲ爲サシムルモノトス

四、日支新關係調整ニ關スル原則ニ準據シ揚子江下流地帶ニ於テ日支經濟强度結合ノ具現ヲ容易ナラシムル爲日支協力事項ニ關シ主トシテ新上海ニ於テ行政機構上所要ノ措置ヲ爲サシムルモノトス

第四、其ノ他

一、上海、靑島、厦門ニ關シテハ其ノ特別行政區域タル事實ヲ容認セシムルモノトス

二、南支沿岸特定島嶼中海南島ニハ中央政府直轄ノ局地的行政組織（軍事處理機關共）ヲ設置セシムルモノトス

別紙第三（取扱ニ關シテハ備考參照）

新支那地方政治形態ニ關スル指導腹案

第一　方　針

新支那地方政治形態ニ關シテハ別紙第二「新中央政府既成政權間ノ關係調整要領」ニ定ムルモノノ外下記要領ニ據リ內面指導スルモノトス

第二　要　領

一、蒙疆

蒙疆（概ネ內長城線（含ム）以北ノ地域トス）ハ外交（對日滿交涉ヲ除ク）以外ノ行政、立法、司法及軍事竝ニ對外蒙交涉ニ關シ既成事實ヲ基礎トシ廣汎ナル自治ヲ認メラレタル高度ノ防共自治區域トスルモノトス

二、北支

1區域

北支ハ概ネ內長城線（含マス）以南ノ河北省及山西省、山東省竝ニ概ネ黃河以北ノ河南省ノ地域トスルモノトス

2北支ノ政治形態ニ對スル日本側要請ノ限度左ノ如シ

㈠支那側ハ日支新關係調整ニ關スル諸原則ニ卽シ日滿兩國及蒙疆ニ對シ次號ニ揭クル範圍ノ地方的處理ノ爲北支ニ華北政務委員會（假稱、以下同ジ）及軍事處理機關ヲ置キ之ニ必要ナル權限ヲ附與スルモノトス

㈡北支ニ於ケル地方的處理ノ範圍ニハ左ノ諸項ヲ含ムモノトス

㈠北支ニ於ケル共同防衞就中防共及治安協力事項ニ關シ

1、日本軍駐屯ニ伴フ事項ニ關スル處理

2、日支防共、治安協力ニ關スル所要事項ノ處理

3、其ノ他日支軍事協力ニ關スル處理

㈡北支ニ於ケル經濟提携就中埋藏資源ノ開發及日滿北支物資需給事項ニ關シ

4、日本側ニ對スル埋藏資源ニ關スル特別便益供與ニ關スル處理

5、日滿、蒙疆及北支間物資需給ノ合理化ニ關スル處理

6、日滿、蒙疆及北支間ノ通貨及爲替ニ付テノ協力ニ關スル處理

7、航空、鐵道、通信及主要海運ニ關スル日支協力ニ關スル處理

㈢其ノ他

8、日本人顧問及日本人職員ノ採用ニ關スル處理

㈢北支ニ於ケル日支間ノ軍事協力及經濟提携上北支ノ聯銀制度及之ニ關聯スル制度ヲ存續スルヲ必要トスル間ハ中央政府ハ其ノ存續ヲ認メ且所要ノ助成ヲ爲スモノトス

註右日本側要請ノ限度ハ日支間ニ於ケル新關係カ正常ノ狀態ニ調整セラレタル場合ノモノヲ示スモノトス

3華北政務委員會ノ構成權限ハ前記2ノ日本側要請ヲ具現スルニ必要トスル程度ニ迄逐次調整セラルベキモ當分ノ間現狀ノ儘トスルモノトス

差當リ華北政務委員會ト新中央政府トノ間ヲ律スベキ主要事項左ノ如シ

㈠華北政務委員會所要經費支辨ノ爲必要ナル收入ヲ確保セシムル如ク措置スルモノトス

之カ爲關稅、鹽稅及統稅ハ建前トシテ中央政府ノ中央稅トスルモ差當リハ關稅收入剩餘ノ一定割合竝ニ鹽稅收入ノ剩餘及統稅收入ハ華北政務委員會ニ屬セシムルモノトス尙右國稅徵稅機關ニ對スル監督ハ中央政府ヨリ華北政務委員會ニ委任スルモノトス

㈡官有財產ハ現狀ノ儘華北政務委員會ニ屬セシメ追テ調整スルモノトス

㈢海關、郵政及航空ハ新中央政府ノ統一管理ノ下ニ在ラシムベキモ之ガ現狀ノ改變ハ逐次行フモノトス

㈣華北政務委員會ハ或ル程度ノ起債權ヲ有スルモノトス

㈤特任官ヲ除ク所屬官吏ノ人事權ハ華北政務委員會ニ屬スルモノトス

㈥隴海線ノ管理運營ハ華北政務委員會ニ屬スルモノトス

㈦外交交涉ハ中央政府之ヲ行ヒ日滿トノ地方的處理ニ伴フ交涉ハ華北政務委員會之ヲ行フモノトス

又蒙疆トノ地方的處理ニ伴フ交涉ハ華北政務委員會之ヲ行フモノトス

三、中支(新上海及揚子江下流地域)

㈠中支ニ於ケル經濟上ノ日支强度結合實現ニ關スル事項ハ維新政府ニ代リ新中央政府ニ於テ之ヲ繼承スルモノトス

㈡新上海ニ對スル日本側ノ要請限度左ノ如シ

(1)左ノ諸項ヲ以テ新上海ニ於ケル日支協力事項ト爲スモノトス
(イ)新上海ノ建設ニ關スル協力事項
(ロ)新上海ニ於テ措置セラルル日本軍駐屯ニ伴フ事項
(ハ)新上海ニ於テ措置セラルル航空、主要海運、揚子江水運及通信ニ關スル協力事項
(ニ)其ノ他一般日支協力ニ關シ新上海ニ於テ處理セラルル事項
(2)支那側ハ日支新關係調整ニ關スル諸原則ニ卽シ前號ニ揭クル日支協力事項ノ具現ヲ容易ナラシムル爲新上海ニ於テ行政機構上所要ノ措置ヲ爲スモノトス
(三)揚子江下流地帶ニ於ケル日支經濟强度結合態勢具現ノ爲中支經濟協議機關ヲ設置スル等所要ノ措置ヲ爲スモノトス
四、厦門
厦門ニ關シテハ其ノ特別行政區域タル事實ヲ容認セシムルモノトス
五、海南島
海南島ニ中央政府直轄ノ局地的行政組織(軍事處理機關共)ヲ設置シ同島ニ於ケル日本ノ特殊地位ニ基ク左記要求事項ヲ處理セシムルモノトス
(イ)日本軍駐屯ニ伴フ事項
(ロ)日支軍事竝ニ治安協力ニ關スル事項
(ハ)國防上必要ナル特定資源ノ確保ニ關スル事項
(ニ)航空、通信及海運ニ關スル事項
(備考)
本腹案ハ將來日支間ニ約定セラルベキ我方要請事項及支那側ノ內政問題トシテ自發的ニ措置セラルベキ事項ニ互リ我方指導ノ腹案タルモノトス從ツテ本腹案ハ支那側內政問題ニ付支那側相互ニ於テ決定困難ナル場合ニモ我方斡旋指導ノ基準タルモノトス

別紙第四(新中央政府樹立前同政府構成分子ヲシテ日本側ニ對シ確約セシムベキモノ)

新中央政府樹立前新中央政府ノ主要構成分子ノ日本側ニ對スル確約ニ關スル件(案)

第一　方　針

新中央政府成立後日支ノ新國交ヲ調整スベキ基準タル下記

要綱ヲ中央政治會議後新中央政府樹立前其ノ主要構成分子ヲシテ確約セシムルモノトス

第二　要綱

一、日支兩國政府ハ別冊日支新關係調整ニ關スル原則ニ準據シ新國交ヲ調整スルコト

二、事變中新國交修復以前ニ於ケル既成事實ノ存在ヲ認メ事態之ヲ許スニ伴ヒ右原則ニ準據シテ逐次調整セラルベキコト

三、事變繼續中ハ之ニ伴フ必然ノ要求ニ基ク所要ノ特殊事態ノ存續ヲ認ムルコト

右特殊事態ハ情勢ノ推移乃至事變ノ解決ニ伴ヒ日支新關係調整ニ關スル原則ニ準據シ逐次整理セラルベキコト

別冊

日支新關係調整ニ關スル原則

日滿支三國ハ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ理想ノ下ニ相互ニ善隣トシテ結合シ東洋平和ノ樞軸タルコトヲ共同ノ目標トス之カ爲基礎タルヘキ事項左ノ如シ

左　記

一、互惠ヲ基調トスル日滿支一般提携就中善隣友好、防共共同防衛、經濟提携原則ヲ設定スルコト

二、北支及蒙疆ニ於ケル國防上竝ニ經濟上日支强度結合地帶ヲ設定スルコト

蒙疆地方ハ前項ノ外特ニ防共ノ爲軍事上竝ニ政治上特殊地位ヲ設定スルコト

三、揚子江下流地域ニ於ケル經濟上日支强度結合地帶ヲ設定スルコト

四、南支沿岸特定島嶼ニ於ケル特殊地位ヲ設定スルコト

五、右諸項ノ具体的事項ニ關シテハ別紙要項ニ準據スルコト

日支新關係調整要項

第一　善隣友好ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ相互ニ本然ノ特質ヲ尊重シ渾然相提携シテ東洋ノ平和ヲ確保シ善隣友好ノ實ヲ擧グル爲各般ニ亘リ互助連環友好促進ノ手段ヲ講スルコト

一、支那ハ滿洲帝國ヲ承認シ日本及滿洲ハ支那ノ領土及主權ヲ尊重シ日滿支三國ハ新國交ヲ修復スルコト

二、日滿支三國ハ政治、外交、教育、宣傳、交易等諸般ニ亘

リ相互ニ好誼ヲ破壊スルカ如キ措置及原因ヲ撤廃シ且將來ニ亘リ之ヲ禁絶スルコト

三、日滿支三國ハ相互提携ヲ基調トスル外交ヲ行フコト

四、日滿支三國ハ文化ノ融合、創造及發展ニ協力スルコト

五、日本ハ新中央政府ニ顧問ヲ派遣シ新建設ニ協力スルコト

特ニ強度結合地帶其ノ他特定ノ地域ニ在リテハ所要ノ機關ニ顧問職員ヲ配置スルコト

六、日滿支善隣關係ノ具現ニ伴ヒ日本ハ漸次租界、治外法權等ノ返還ヲ考慮スルコト

第二　共同防衛ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ協同シテ防共ニ當ルト共ニ共通ノ治安安寧ノ維持ニ關シ協力スルコト

一、日滿支三國ハ各々其ノ領域内ニ於ケル共産分子及組織ヲ芟除スルト共ニ防共ニ關スル情報宣傳等ニ關シ提携協力スルコト

二、日支共同シテ防共ヲ實行スルコト

之カ爲日本ハ所要ノ軍隊ヲ北支及蒙疆ノ要地ニ駐屯スルコト

三、第二項以外ノ日本軍隊ハ全般竝ニ局地ノ情勢ニ卽應シ成ルベク早期ニ之ヲ撤收スルコト

但シ北支及南京、上海、杭州三角地帶ニ於ケルモノハ治安ノ確立スル迄之ヲ駐屯セシムルコト

共通ノ治安安寧維持ノ爲揚子江沿岸特定ノ地點及南支沿岸特定ノ島嶼及之ニ關聯スル地點ニ艦船部隊ヲ駐屯スルコト尙揚子江及支那沿岸ニ於ケル艦船ノ航泊ハ自由トスルコト

四、支那ハ前項治安協力ノ爲ノ日本ノ駐兵ニ對シ財政的協力ノ義務ヲ負フコト

五、日本ハ概ネ駐兵地域ニ存在スル鐵道、航空、通信竝ニ主要港灣水路ニ對シ軍事上ノ要求權及監督權ヲ保留スルコト

六、支那ハ日本軍駐兵地域内ニ於ケル警察隊及軍隊等武裝團體ノ配置竝ニ軍事施設ハ當分ノ間治安及國防上必要ノ最少限トスルコト

日本ハ支那ノ軍隊、警察隊建設ニ關シ顧問及教官ノ派遣、武器ノ供給等ニ依リ協力スルコト

〔備考〕

一、中央政治會議前右第三號内容ノ取扱ハ左記ニ準據ス

左記

支那カ日支新關係ニ於ケル其ノ義務實行ヲ保證シ得且治安ノ回復セラルル限リ日本ハ約定以外ノ兵力ヲ撤收ス（註―右保障ノ確實ナラサル場合ニハ所要ノ期間駐兵ノ必要ヲ豫期スルモノトス）

二、右第四號ニ付テハ中央政治會議前ニ於テハ之ニ觸レサルモノトス

第三　經濟提携ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ互助連環及共同防衛ノ實ヲ擧クル爲產業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ共同互惠ヲ旨トスルコト

一、日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交易、航空、交通、通信、氣象、測量等ニ關シ前記主旨竝ニ以下各項ノ要旨ヲ具現スル如ク所要ノ協定ヲ締結スルコト

二、北支蒙疆ニ於ケル資源就中埋藏資源ノ開發利用ニ付支那ハ共同防衛竝ニ經濟的結合ノ見地ヨリ日本ニ特別ノ便益ヲ供與シ其ノ他ノ地域ニ於テモ特定資源ノ開發利用ニ關シ經濟的結合ノ見地ヨリ必要ナル便益ヲ供與スルコト

三、一般產業ニ付テハ日本ハ支那側ニ必要ナル援助ヲ與フルコト

農業ニ關シテハ之カ改良ヲ援助シテ其ノ增產ヲ圖リ支那民生ノ安定ニ資スルコト

四、支那ノ財政經濟政策ノ確立ニ關シ日本ハ所要ノ援助ヲ爲スコト

五、交易ニ關シテハ妥當ナル關稅竝ニ海關制度ヲ採用スル等日滿支間ノ一般通商ヲ振興スルト共ニ日滿支就中北支間ノ物資需給ヲ便宜且合理的ナラシムルコト

六、支那ニ於ケル交通、通信、氣象竝ニ測量ノ發達ニ關シテハ日本ハ所要ノ援助乃至協力ヲ與フルコト

全支ニ於ケル航空ノ發達、北支ニ於ケル鐵道（隴海線ヲ含ム）、日支間及支那沿岸ニ於ケル主要海運、揚子江ニ於ケル水運竝ニ北支及揚子江下流ニ於ケル通信ハ日支交通協力ノ重點トスルコト

七、日支協力ニ依リ新上海ヲ建設スルコト

附

中央政府ハ事變發生以來支那ニ於テ日本國臣民ノ蒙リタル權利利益ノ損害ヲ補償スルコト

〔備考〕

以上日支新關係調整要項ノ取扱ニ關シテハ當分ノ間一切之ヲ極祕扱トシ尚正式國交調整ヲ行フニ際シテモ右要項ハ支那內部又ハ第三國ニ對スル顧慮上公開扱竝ニ祕密扱（例ヘハ第二共同防衞原則ニ於ケル第三號ノ一部、第四號、第五號及第六號ノ第一項等）ノ兩者ニ區分セラルヘキモノトス

（付記一）

「中央政治會議指導要領」ニ關スル諒解事項

昭和十四年十月三十日　連絡委員會決定
昭和十四年十一月一日　興亞院會議諒解

一、「中央政治會議指導要領」第二要領六、ノ「既定方針」トハ新中央政府ノ名稱及首都ニ關シテハ昭和十四年六月十六日五相會議諒解「中國側ノ提出セル時局收拾ニ關スル具體的辦法及日本側意見」第六、本辦法ニ關スル日本側ノ意見二、ヲ意味シ、新中央政府ノ國旗ニ關シテハ今回別途決定セラルベキ「新支那ノ國旗ニ關スル件」ヲ意味スルモノナリ

二、別紙第四「新中央政府樹立前新中央政府ノ主要構成分子ノ日本側ニ對スル確約ニ關スル件」ハ將來日支間新條約ノ基礎トナルベキ極メテ重大ナル事項ナルヲ以テ　御前會議ニ於テ御決定ヲ仰グカ又ハ少クトモ內閣總理大臣ヨリ上奏スルコトヲ要スベク、此ノ手續ヲ經テ初メテ確定ニ至ルベキモノナルヲ以テ、「中央政治會議指導要領」第二要領八、第一項ニ於テハ「豫定ス」ナル字句ヲ用ヒタルモノナリ

（別紙第四「新中央政府樹立前新中央政府ノ主要構成分子ノ日本側ニ對スル確約ニ關スル件（案）」トシタル理由亦同ジ）

三、別紙第二「新中央政府既成政權間ノ關係調整要領」第二、臨時政府ト新中央政府トノ關係調整要領一、及二、竝ニ別紙第三「新支那地方政治形態ニ關スル指導腹案」第二要領二、北支2㈠ハ將來軍事處理機關ヲ設置スルコトモ出來又ハ之ヲ設置セズシテ華北政務委員會（軍事處理機關ヲ含ム）トスルコトモ出來ル意味ニシテ、新中央政府樹立迄ニ之ヲ確定スルモノナリ

四、別紙第二「新中央政府既成政權間ノ關係調整要領」第三、維新政府ト新中央政府トノ關係調整要領四、竝ニ別紙第

三「新支那地方政治形態ニ關スル指導腹案」第二要領三、中支㈡ニ於ケル「新上海」ノ區域ハ概ネ現在ノ上海特別市ノ區域ニ據ルコトトシ今後尚研究スルモノトス

五、別紙第三「新支那地方政治形態ニ關スル指導腹案」第二要領三、中支㈡⑵ニ於テ「前號ニ揭グル日支協力事項ノ具現ヲ容易ナラシムル爲新上海ニ於テ行政機構上所要ノ措置ヲ爲スモノトス」トアルハ「當該行政機構ニ於テ前號ニ揭グル日支協力事項ヲ具現スルニ必要ナル財源上所要ノ措置ヲ爲ス」ノ意ヲモ含ムモノナリ

六、別紙第四「新中央政府樹立前新中央政府ノ主要構成分子ノ日本側ニ對スル確約ニ關スル件」ハ將來ニ於ケル條約ノ基礎トシテ日本國ニ對シ確約セシムルモノニシテ確約ノ日本側當事機關ニ關シテハ別ニ研究スルモノトス

七、別紙第四「確約ニ關スル件」中ノ「共同防衞ノ原則ニ關スル事項」中ニハ「日支新關係調整方針」別紙「日支新關係調整要領」第二「共同防衞ノ原則ニ關スル事項」三、ノ軍事同盟ニ關スル事項ヲ揭記シアラザルモ、右ハ此ノ際諸般ノ影響ヲ考慮シ「確約」中ニ明記スルコトヲ避ケタルノミニシテ、日支間新條約締結ノ際ハ支那側ニ提示シ其ノ內容タラシムルモノナリ

八、別紙第四「確約ニ關スル件」中ノ「共同防衞ノ原則ニ關スル事項」三、ハ新中央政府樹立前確約ヲ爲サシムル際ニハ其ノ全文ヲ支那側ニ提示スルモ中央政治會議前ノ指導ニ當リテハ之ヲ伏セ、現地ニ於テ指導ヲ必要トスル場合ニ於テハ右「共同防衞ノ原則ニ關スル事項」ノ〔備考〕一、ノ如ク應對スルモノトス

右〔備考〕一、中「約定」トアルハ現存ノ約定及將來締結セラルベキ約定ヲ含ム意ナリ

九、別紙第四「確約ニ關スル件」中ノ「共同防衞ノ原則ニ關スル事項」四、ハ中央政治會議前ノ指導ニ當リテハ全然之ニ觸レズ、新中央政府樹立前確約ヲ爲サシムルニ際シテ之ヲ支那側ニ提示スルモノトス

（付記二）

中央政治會議指導要領（案）ニ關スル諒解

一、本會議決定ノ「新中央政府樹立前新中央政府ノ主要構成分子ノ日本側ニ對スル確約ニ關スル件」（案）、「新中央政府既成政權間ノ關係調整要領」及「新支那地方政治形

（欄外記入）

態ニ關スル指導腹案」ニ基キ汪精衛及王、梁ヲ指導スルニ當リテハ無理押シニ本案ヲ押付クルカ如キコトヲナサス先方申出ノ希望カ合理的ナラハ相當ニ之ヲ考慮スルコト

二、「新中央政府樹立前新中央政府ノ主要構成分子ノ日本側ニ對スル確約ニ關スル件」（案）ニ基キ將來兩國ノ關係ヲ正式ニ調整スル場合其ノ爲ノ條約案ニ付テハ第三國關係ヲモ考慮シ其ノ形式表現等ニ付十分工夫ヲ繞ラスヘキコト

（欄外記入）

野村大臣ヨリ提出、一同異議ナシ

497

昭和14年11月1日　興亜院会議決定

「新支那ノ國旗ニ關スル件」

新支那ノ國旗ニ關スル件

昭和十四年十一月一日

興亞院會議決定

新支那ノ國旗ハ民心把握ノ爲青天白日滿地紅旗ノ使用ヲ認ム、但シ必要ノ期間其ノ上部ニ「反共和平」等ト明瞭ニ表示セル三角大形黃地布片ヲ附ス

〔備考〕

當分ノ間治安ノ維持、人心ノ不安防止等ノ爲特定地域ニ於テハ從來使用セル旗ヲ揭揚スルコト妨ゲナシ

498

昭和14年11月1日　興亜院会議決定

「中國主權尊重原則實行等ニ關スル中國側希望及之ニ對スル日本側回答要旨」

昭和十四年十一月一日

興亞院會議決定

中國主權尊重原則實行等ニ關スル中國側希望及之ニ對スル日本側回答要旨

目次

〔甲〕中國側希望

第一、中國主權尊重原則實行ニ關シ日本ニ對スル希望

第二、新中央政府財政問題ニ關聯シ日本側ニ對スル希望

第三、日本側ニ希望スル雜件

〔乙〕日本側回答要旨

第一、「中國主權尊重原則實行ニ關スル希望」ニ對スル回答要旨

第二、「新中央政府財政問題ニ關聯スル希望」ニ對スル回答要旨

第三、「日本側ニ希望スル雜件」ニ對スル回答要旨

〔甲〕中國側希望

第一、中國主權尊重原則實行ニ關シ日本ニ對スル希望

日本カ眞ニ中國ノ主權ヲ尊重セラレントスル誠意ヲ有セラルルコトハ赴日日本要路ト接觸シテ之ヲ感得シ深ク銘肝シアル所ナリ

目下中央政府樹立工作ニ專念シツツアリ殊ニ人的要素及基礎的實力ノ具備ニ全力ヲ指向シアル所彼等ニ日本側ノ誠意ヲ抽象的ニ說明スルモ尙懷疑的心境ヨリ脫却シ得サルハ遺憾トスル所ナリ、茲ニ於テ彼等ニ對シテハ更ニ一步ヲ進メ更ニ具體的內容ヲ以テスルコト此際特ニ必要ナルヲ痛感スル次第ナリ

以下政治、軍事、經濟ニ分チ記述スル所ノモノハ右目的遂行ノ爲豫メ日本ノ諒解及保證ヲ得置キ度キ條件ナリ、固ヨリ詳細辨法ハ中央政府樹立後兩國政府間ニ於テ日支調整原則及其ノ精神ヲ基調トシ愼重研究ノ上決定セラルヘキモノタルヤ勿論ナリ

一、內政ニ付テ

中國ノ內政ノ獨立自主タルヘキコトニ關シテハ日本ノ屢次闡明セラルル原則ナルモ尙事實ニ則シテ日本ノ好意ヲ國民ニ證明シ其ノ注意ヲ喚起センカ爲以下緊要ナル數點ヲ列擧シ日本側ノ實行ヲ切望ス

一、中國ハ絕對ニ抗日排日ノ思想言論ヲ嚴禁シ親日的國民敎育ヲ徹底勵行スヘク日本側ニ於テモ亦侮華侵華思想乃至態度ヲ是正シ親華敎育ヲ實施セラレ度シ

二、我國民ヲシテ日本カ我內政ニ干涉スルノ意圖アルカ如キ疑惑ヲ抱カシメサル爲中央政府ニ在リテハ政治顧問及之ニ類似スルカ如キ名義職位ヲ設クルヲ避ケラレ度政治的ニ日本ト商議ヲ要スル事項ハ總テ正當ナル經路ヲ經テ中華民國駐在日本大使ト行フコトト致シ度シ

三、中央政府各院、各部中行政關係ノ院、部ニ於テハ內政干

渉ノ疑惑ヲ避クル爲日本人ヲ職員トシテ任用セサルコト
ト致シ度シ
自然科學ノ技術ニ關スル各部ニ於テハ日本ノ專門家ヲ技
術顧問トシテ招聘スルモ其ノ職域ハ技術方面ニ限定シ一
般行政ニハ參劃セサルコトヲ方針トス、從テ當該部ノ技
術ト關係アル會議ニハ主管長官ノ通知ニ依リ之ニ列席ス
ルヲ得ルモ一般行政會議ニハ列席セサルモノトス
但シ技術顧問ノ招聘ニ當リテハ上級官廳ノ認可ヲ受クル
ヲ要ス
技術顧問ニ關スル任用規定及服務規定ハ中央政府之ヲ公
布ス
四、各省政府及特別市政府ニ於テモ上述ノ趣旨ニ依リ政治顧
問又ハ類似ノ名義ヲ有スル職位ヲ設ケス
日本軍ノ撤退以前ニ在リテハ當該地方ニ於ケル日本軍ト
ノ商議及一般涉外事項ニ關シ各當該省政府及特別市政府
ニ臨時的ニ交涉專員ヲ設ケ此ノ事ニ當ラシム
日本軍ニシテ省政府又ハ市政府ノ協力ヲ必要トスル場合
ハ外交的手續ヲ以テシ命令式文書又ハ口頭ノ通知ヲ以テ
セサル樣致サレ度シ

省政府所屬ノ各廳及特別市政府所屬ノ各局ニ於テモ純行
政事項ニ關シテハ政治顧問又ハ類似ノ名義ヲ有スル職位
ヲ設ケス但シ自然科學技術ノ必要上技術顧問ヲ任用スル
場合ハ中央政府ニ於ケル辨法ニ準ス
五、縣政府及普通市政府ハ人民ト直接接觸スル行政機關ナル
ヲ以テ我人民ヲシテ日本ニ對スル疑畏心理ヲ起ササラシ
ムル爲如何ナル名義タルヲ問ハス日本人ノ職員ヲ任用セ
サルヲ可トス
縣政府ハ涉外事項ニ關シ交涉祕書ヲ設クルヲ得
日本軍ノ撤兵以前ニ於テ當該地方縣市政府ノ協力ヲ必要
トスル場合ニハ外交方式ニ依ルコトトシ命令式文書又ハ
口頭ノ通知ヲ以テ行ハサルコトト致サレ度シ
現ニ作戰中ノ地域以外ノ各縣宣撫班ハ速ニ撤退スルコト
ニ決定セラレ度シ
六、各地方政府ノ威信ヲ保持シ且我人民ノ日本ニ對スル惡感
ヲ避クル爲撤兵以前ニ於テハ日本駐屯軍ハ省市縣政府ト
商議ヲ行フ爲ニハ專任人員ヲ指定シ其ノ責ニ任セシメラ
レ度シ
七、財政獨立ヲ表現スル爲中國ニ在ル日本ノ如何ナル機關及

個人ト雖直接間接ヲ問ハス各種各個ノ稅收機關ヲ占有シ又操縱スルコトナキ樣セラレ度シ

軍事上特異ノ狀態ヲ發生セルモノ（例ヘハ鹽稅ノ如シ）ハ速ニ其ノ稅收行政ヲ常態ニ復スル如クシ又中國ニ於ケル如何ナル機關、個人ト雖之ヲ阻止シ又ハ妨害ヲ加フルカ如キコトナキ樣セラレ度シ

ハ、中國ニ於ケル日本（下級）軍民ノ中國人ヲ侮辱スルカ如キ行動及態度ナキ樣是正セラレ度シ斯カル些細ナル事故カ兩國民間ノ親善ノ障害ヲナスコト大ナリ殊ニ撤兵以前ニ於テ此ノ點ニ關シ特別ノ注意ヲ拂ハレ度シ

二、軍　事

中日兩國國防方針既ニ一致セル以上我國ノ軍事施設ハ必ス日本ト同一共同目標ヲ對象トスルヤ勿論ナリ

唯中國ノ最高軍權ノ獨立性ニ關シ必ス之ヲ確立スル如クスルコト緊要ナリ

之カ爲左記諸項ヲ實行セラレ度シ

一、中央ノ最高軍事機關（軍事委員會又ハ國防委員會ノ如シ）ニ在リテハ顧問團ヲ設ケ日獨伊三ケ國ノ軍事專門家ヲ招聘シテ之ヲ組織ス

顧問人數ハ日本人二分ノ一獨伊人二分ノ一トシ主席ハ日本人之ニ當リ國防計畫及軍事施設ノ企畫ヲ輔佐ス其ノ職權ノ範圍及服務規定ハ中央政府之ヲ制定ス

二、各種軍事教育機關ニハ日獨伊軍事專門家ヲ教官トシテ招聘スルヲ得

三、中國軍隊ヲ監視シ或ハ束縛スルカ如キ疑惑ヲ避クル爲各部隊內ニ如何ナル名義タルヲ問ハス日獨伊軍事專門家ヲ任用シ或ハ招聘シテ職務ヲ擔任セシムルヲ得ス

但シ中央ノ最高軍事機關ヨリ派遣シタル顧問ニシテ臨時各部隊ヲ視察スルモノハ此ノ限ニ非ス

但シ其ノ視察ハ人事ニ涉ラサルヲ要ス

四、各種ノ兵器製造工場ハ必要アル場合日獨伊ノ專門家ヲ技師トシテ任用スルコトヲ得

其ノ職權ハ技術ノ方面ニ限リ各工場ノ人事行政及經理ニ參加セス

五、中央政府南京歸還ノ後中國軍隊ニシテ新中央政府ニ復歸スルモノアル時ハ協議ノ上日本軍ハ局部ノ撤退ヲ行ヒ其ノ區域ヲ該復歸軍隊ニ與ヘラレンコトヲ希望スルモ然ラサレハ他ノ區域ヲ其ノ駐屯地トナス如ク考慮アリ度シ

三、經　濟

經濟合作ハ互惠平等ノ原則ニ據ルヘキハ旣ニ兩國人士ノ公認セル所ニシテ此ノ原則ノ具體化ヲ計ル爲速ニ左記諸項ヲ實行セラレ度シ

一、軍事期間中國ニ於ケル日本ノ機關或ハ個人ノ爲ニ占領又ハ沒收セラレタル中國ノ公營及私營ノ工場、鑛山及商店ハ速ニ之ヲ中國側ニ返還セラレ度ク別ニ適當ナル合辨辦法ヲ規定シ度シ

二、現在合辨中ノ公私事業ニシテ固有資產ノ評價適正ヲ缺クモノハ客觀的標準ニ基キ再評價スルコトト致シ度シ

三、合資經營ノ公私事業ニ對シ日本側カ株券等ヲ提供シテ實際上ノ出資ヲ行ヒアラサルモノアルハ不當ナルヲ以テ是正セラレ度シ

四、合資經營ノ公私事業ニシテ日本側ノ資本額ハ百分ノ四十九ヲ超過スルコトヲ得サルコトト致シ度シ

五、合資經營ノ公私事業ノ最高主權ハ固ヨリ中國ニ屬スルモノタルヲ要ス

六、中央政府南京歸還前軍事期間中ニ南北兩組織ノ許可セル契約ハ之ヲ再審查ノ餘地ヲ與ヘラレ度シ

〔備　考〕

四、五、等ハ當然ノ事ニ屬スルモ中國人ノ復歸及投資ヲ速カナラシムル爲新中央政府ニ於テ更メテ宣傳ノ要アリト思料シ豫メ日本側ノ諒解ヲ得度キ希望ニ出テタルニ過キス

第二、新中央政府財政問題ニ關聯シ日本側ニ對スル希望

曩ニ中國ノ主權ノ尊重ニ關スル原則ノ實行ニ關シ日本側ニ希望ヲ提出シタル所之ニ對シ充分其ノ趣旨ヲ諒トセラレ之レカ實現ニ努力セラルヘキ旨回答セラレタルハ感謝ニ堪ヘサル所ナリ、然ル所中央政府成立ノ時期漸ク眼前ニ迫リ其ノ財政的基礎ニ關シ種々研究ヲ重ネアル所ナルカ財政問題ノ解決ニ關シ如何ナル方法ヲ選フニ拘ハラス左記各項ハ必須條件ナルモノノ如ク思料セラルルニ付茲ニ日本側ニ意見ヲ開陳シ御同意ヲ要望セントスル次第ナリ

固ヨリ左記各項ノ實行ニ當リテハ諸般ノ情勢ヲ顧慮シ地域的、時期的ニ考慮ヲ加フル要アルヘキモノト思料シアリ

第一、關稅收入ニ關スル件

(1)正金銀行ニ保管中ノ關稅ヨリ中央政府成立前ニ借款形式ヲ以テ四千萬元ヲ借入レタシ

(2)中央政府成立後正金銀行保管ノ關稅ハ全部之ヲ中央政府ニ引渡シ爾後毎月ノ關稅收入ハ之ヲ中央政府國庫ニ納ムルコトニ關シ諒解ヲ與ヘラレ度シ但シ一部分ハ從前通リ正金銀行ニ保管シ其ノ他ハ中央政府指定ノ支那銀行ニ保管スルコトトスルモ差支ナシト思考シアリ尙昨年五月日英關稅協定ニ依リ關稅ヲ正金銀行ニ保管スルコトトナリテヨリ以來現在迄ニ亙ル上海海關稅收入ハ一億八千餘萬元ト推定シアリ、又外債及賠償金ハ本年一月卅一日迄ハ旣ニ重慶政府ヨリ償還濟ミナルヲ以テ本年一月以前ニ於ケル外債及賠償金ノ基金竝ニ關稅剩餘ヲ日本側ノ好意ニ依リ中央政府ニ交付セラルルナラハ中央政府ノ財政的基礎ノ重要部分タラシメ得ヘシト思料シアリ、但シ其ノ中央政府ニ對スル正式交付手續ハ中央政府成立後タルヘキハ勿論ナリ

第二、統稅ニ關スル件

目下江蘇、浙江、安徽三省ノ統稅局ハ獨立ノ組織ヲ有シ維新政府ニ隷屬セス、毎月ノ稅收ハ一旦日本側ニ納メ日本側ヨリ其ノ一部ヲ維新政府ニ交付シアル趣ナリ

中央政府成立ノ際ニハ該局ハ財政部之ヲ接收シ稅收ハ國庫ニ納ムル如ク豫メ御諒解ヲ得置キ度シ

第三、鹽稅ニ關スル件

鹽稅ハ新中央政府ノ重要ナル財政的基礎タルヘキモノナルカ現在全ク收入ナク中支ニ通源公司アルモ日本人經營ノ食鹽運搬販賣機關トシテ納稅ヲ負擔シアラサルモノノ如ク承知シアリ

仍テ中央政府成立前日本側ト商議ノ上中央政府成立後ハ鹽稅ニ關スル稅務行政及納稅辨法ハ事變前ノ情態ヲ基準トシ復歸スル如ク希望シ日本側ノ同意ヲ得タシ

第三、日本側ニ希望スル雜件

一、長江開放ニ關スル件

長江開放問題ハ作戰ト不可分ノ關係ニアルコトハ能ク諒承スル所ナルモ新中央政府カ第三國ノ事實上ノ承認ヲ獲得スルト否トハ進テ重慶政權ノ運命ニ重大ナル影響アル所ニシテ長江開放問題ノ取扱如何カ右第三國ノ歸趨ヲ決スル關鍵トモ思料セラル、就テハ長江開放問題ニ關スル日本側ノ意向拜承致シタシ

二、京滬鐵路通行證ハ新中央政府成立後ハ政府ヨリ發給スルコト及首都停車場及各城門ノ檢查ハ爲シ得レハ中國憲兵

警察ニ於テ之ヲ行ヒ日本軍憲兵ガ城内ニ於テ犯罪者ヲ逮捕スル場合ハ中國ノ憲兵警察ト立會ノ上之ヲ行フコト等ハ作戰途上ノ日本側ニ對シ之ヲ要望スルコトハ無理ナルコトハ深ク諒解スル所ナルモ玆ニ小問題ニシテ且困難ナル問題ヲ捉ヘ日本側ニ要望スル所以ノモノ一ニ首都ノ威嚴ヲ保持シ且民心ヲ轉向改善スルコトニ寄與スル所大ナリト思考スレハナリ、御考慮ヲ希望ス

〔乙〕日本側回答要旨

第一、「中國主權尊重原則實行ニ關スル希望」ニ對スル回答要旨

帝國ハ日滿支三國ガ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ理想ノ下ニ相互ニ善隣トシテ結合シ東洋平和ノ樞軸タルコトヲ共同ノ目標ト爲シ之ガ爲互惠ヲ基調トスル日滿支一般提携就中善隣友好、共同防衞、經濟提携ノ原則ヲ設定スルヲ以テ日支兩國國交調整ノ基礎ト爲スコトハ屢次聲明ノ通ナリ、今後益々相互相信シ至誠實行以テ新秩序ノ建設ニ邁進セラレンコトヲ望ム

一、內政ニ付テ

一、趣旨ニハ異存無キ所ナリ、日滿支三國ハ相互ニ本然ノ特質ヲ尊重シ渾然相提携シテ東洋ノ平和ヲ確保シ善隣友好ノ實ヲ擧グル爲各般ニ亙リ互助連環友好促進ノ手段ヲ講ズベキモノニシテ單ニ思想、言論、敎育ノミナラズ日支兩國ハ政治、外交、宣傳、交易等諸般ニ亙リ相互ニ好誼ヲ破壞スルガ如キ措置及原因ヲ撤廢シ且將來ニ亙リ之ヲ禁絕スベキモノナリ

二及三、政治的ニ中央政府ト商議ヲ要スル事項ニ付テハ中華民國駐在日本大使ニ於テ措置スルヲ本旨トスルヲ以テ中央政府ニ政治顧問ヲ設クルコト竝ニ中央政府ノ各院各部ニ日本人職員ヲ任用スルコトハ日本側トシテモ亦考ヘアラザル所ナリ、就テハ日支善隣結合關係ヲ具現スル爲兩國ノ協力事項ニ關シ齟齬遺漏無キ樣密ニ日本大使ト連絡ヲ保タレ度シ

日支協力事項ニ付テハ自然科學的技術ニ關シテノミナラズ財政、經濟等ニ關シテモ日本ノ專門家ヲ中央政府ノ顧問トシテ招聘スルコト竝ニ中央政府直轄ノ所要機關ニ敎授、敎官、稅關吏、技術官等ニ付日本人職員ヲ任用スルコトハ日支兩國ノ爲必要且有利ナリト思料ス又日本人顧問及職員ノ任用及服務等ニ關シテハ豫メ日本側ト協議ノ

上決定スルコトト致シ度シ

四、各省政府、特別市政府及各其ノ所屬ノ各廳各局ノ全般ニ亙リ政治顧問ヲ設クルノ考ヘハ之ヲ有セザルモ日支強度結合地帶其ノ他特定ノ地域ニ在リテハ其ノ實現ヲ期スル爲日支協力事項ニ關シ其ノ程度ニ應シ所要ノ機關ニ日本人顧問職員ヲ置クコトヲ以テ日支兩國ノ爲必要且有利ナリト思料ス

日本軍トノ商議等ニ關シ支那側ニ於テ各當該地方政府ニ交涉專員ヲ設クルコトハ趣旨ニ於テ異存無キ所ナリ

日本軍ニシテ地方政府ノ協力ヲ必要トスル場合命令式文書又ハ口頭ノ通知ヲ以テセザルコトハ趣旨ニ於テ異存無キモ事變繼續中ノ特殊事情ニ卽スル措置ニ付テハ辨法ヲ商議シ度シ

技術的顧問ニ關シテハ中央政府ニ於ケル辨法ニ準ズルコト異存無シ

五、縣政府及普通市政府ニ日本人職員ヲ任用セザルコトニ付テハ日本側トシテモ本來異存無キ所ナリ、但シ事變中特定ノ地域ニ於ケル特殊事態ハ支那側トシテモ當然之ヲ認メラルベキモノナリ

縣政府ノ交涉祕書及日本軍トノ關係ニ付テハ前項回答同樣ナリ

各縣宣撫班ハ日支雙方ノ努力ニ依リ事態ノ鎭靜ニ伴ヒ之ヲ整理スルコトニ異存無シ

六、要望ニ副フ如ク考慮スベシ

七、稅收機關ニ關シテハ之ヲ占有シ又ハ操縱スルノ意思無シ

軍事上特異ノ狀態ヲ發生セルモノニ關シテハ事態ノ鎭靜ニ伴ヒ要望ニ副フ如ク致シ度シ

八、申出ノ如キ事實ノ根絕ヲ期スル樣努ムベシ、尙貴方ニ於テモ此ノ如キ事實ノ原因トナルベキ事故ヲ排除スル樣セラレ度シ

二、軍事ニ付テ

一及三、日支新關係調整原則ニ卽シ日支兩國ノ軍事協力事項ニ關シテハ所要ノ日本人軍事顧問ヲ設ケテ處理スルコトシ日支軍事協力事項ニ關シテハ第三國ヲ介入セシメザルモノトス

右以外ノ一般軍事ニ關シ支那側ニ於テ第三國人タル軍事專門家ヲ招聘スルコトニ付テハ前記趣旨ヲモ考慮シ別ニ協議スルコトト致シ度シ

三、趣旨ハ全般トシテ異存無キモ日支軍事協力ヲ特ニ必要トスル地域ニ於ケル特定ノ軍隊ニハ日支軍事協力事項ニ關シ所要ノ日本人軍事專門家ヲ入ルルコトヲ日支兩國ノ爲必要且有利トスルコトアルベシ

四、異存ナシ

五、復歸軍隊ノ駐屯區域ニ付テハ申出ノ趣旨ニ基キ其ノ都度協議スベシ

三、經濟ニ付テ

一、目下管理中ノ公營私營ノ工場鑛山及商店ハ占領且沒收スルモノニ非ズ、敵性アルモノ竝ニ軍事上ノ必要等特殊事情アルモノノ外財產保護ノ措置トシテ管理セシメタルモノニ對シテハ事態ノ鎭靜ニ伴ヒ日支新關係調整ノ原則ニ卽シ合理的方法ニ依リ逐次貴方ニ移管スル如ク考慮シアルハ勿論ナリ、其ノ細目ハ別途具體案ヲ以テ示ス可シ、尙貴方ニ於テ返還ノ際ハ日支經濟提携ノ本旨ニ則リ適當ナル合辨々法ヲ講スルト共ニ民心安定ニ利用スル等其ノ處置ニ遺憾無キヲ期セラレ度シ

二、日支官憲ノ直接指導下ニ處理セル範圍ノモノニ付テハ當時ノ實狀ニ卽シ妥當ナル方法ニ依リ公正ニ評價サレタルモノナルモ民間相互ノ合辨等ニシテ適正ヲ缺クモノ在ルニ於テハ日支間ニ委員ヲ設ケ再評價セシムル等善處スルニ異存無シ

三、日支官憲直接指導下ニ處理セルモノニハ斯ルモノ無シト認メアルモ萬一日支經濟提携ノ本旨ニ合致セズ不當ト認ムルモノアルニ於テハ之ヲ是正セシムルニ異存無シ

四、日支新關係調整ノ原則ニ卽シ主トシテ日支經濟ノ强度結合ヲ具現スベキ地域就中該地域ニ於ケル特定事業ニ付テハ特別ノ措置ヲ要スベク右以外ニ在リテハ異存無キ所ナリ

五、合資經營ノ支那法人ニ付テハ其ノ最高主權カ中國ニ屬スルモノナルコト勿論ナルモ其ノ運用ニ當リテハ日支双方ノ密接ナル協力ニ依リ經濟提携ノ具現ニ遺憾無カラシメラルベキモノトス

六、臨時、維新兩政府ノ發布セル法令及日支官憲ニ於テ協議ノ上之ヲ行ヒタルモノハ一應中央政府ニ於テ之ヲ確認スベク萬一日支新關係調整ノ原則ニ反スルモノアルニ於テハ後日日支協議ノ上再審査スルニ異存無シ

第二、「新中央政府財政問題ニ關聯スル希望」ニ

對スル回答要旨

一、關稅收入ニ關スル件

(1)現在横濱正金銀行上海支店ヲシテ保管セシメアル上海海關ノ關稅收入ヨリ新中央政府成立前ニ一定條件ノ下ニ借款形式ヲ以テ四千萬元ヲ融通スルコトニ付テハ充分ニ誠意ヲ以テ配慮スベキモ其ノ金額ニ關シテハ追テ具體的ニ協議スルコトト致シ度シ

(2)中央政府成立後ノ關稅收入ノ保管ノ件ニ付テハ日英海關協定ノ關係モアリ從來通リ横濱正金銀行ヲ之ガ預託銀行トスルコトト致シ度シ、尤モ貴政府ノ收入ニ充テラルベキ剩餘金ノ取扱方ニ付テハ政府國庫金制度ノ整備スルニ至ル迄差當リ從前通リトス

尙關稅ハ建前トシテ中央稅トスルモ關稅收入剩餘ノ一定割合ヲ蒙疆及北支ニ對シ交付スルコトヲ考慮スルノ要アリト思料ス

尙外債及賠償金ノ基金ニ付テハ日英海關協定ニ依リ日本側ニ於テ保管スル義務アルヲ以テ其ノ保管ヲ繼續スルモノナリ、而シテ新中央政府成立以前ニ於ケル關稅剩餘ニ付テハ事變中ノ特殊事態ニ鑑ミ特別ニ處理セラルベキモノト承知アリ度シ

二、統稅ニ關スル件

異存無キモ上海特別市ノ財源ニ付テハ充分ニ考慮アリ度シ

三、鹽稅ニ關スル件

新中央政府成立後ニ於テ北支及蒙疆以外ノ鹽務行政及鹽稅納稅辨法ヲ事變前ノ情態ヲ基準トシ逐次調整スルニ付商議スルコト異存無シ

第三、「日本側ニ希望スル雜件」ニ關スル回答要旨

一、長江開放ニ關スル件

長江流域ニ於ケル日本軍ノ作戰行動上ノ必要緩和セラレテ其ノ全部又ハ尠クトモ一部地域ノ開放ヲ行フ事態ノ速ニ招來セラルルコトヲ日本側トシテハ希望シアルモ現在ノ事態ニ於テハ未タ其ノ時期ヲ明示シ得ス

二、京滬鐵路通行證ノ發給及首都停車場等ノ檢查ニ關スル件

貴方ノ意見ニ對シテハ新中央政府ノ行政權尊重ノ趣旨ニ鑑ミ主義上異存無キ所ナルモ其ノ實際上ノ調整ニ付テハ治安ノ狀況等現地ノ實情ニ卽應シ日支双方ノ現地關係官憲間ニ於テ協議スルコトト致シ度シ

499

昭和14年11月1日

内約交渉議事録（第一回）

日支國交調整原則ニ關スル協議會（矢野書記官記）

第一回會議議事要錄

十一月一日於上海六三花園開催

自午前十一時至午後三時半

列席者　中國側　周佛海　梅思平　陶希聖　周隆庠

日本側　影佐少將　須賀大佐　犬養健

谷萩大佐　矢野書記官　清水書記官

一、影佐少將ノ開會挨拶要旨

日本側ノ意嚮ハ日本ノ要望ヲ一度ニ其全部ヲ汪先生ニ呈出シ聊カモ留保シ置カサルコト日本ノ誠意ヲ披瀝スル所以ナリト考察シ茲ニ其全貌ヲ紹介スル次第ナリ

但日本ノ要望ハ日支永遠ノ平和ヲ樹立センカ爲メノ要望ニシテ戰勝者ノ立場ヲ以テスル要求ニアラス、諸君ハ右見地ニ基キ同志トシテ自由ナル意見ヲ開陳セラルル事ヲ希望ス

今後連續談合スルコトトナル處相當意見ノ隔タリアランモ中日關係調整ノ大目的達成ノ爲眼前ノ利害ヲ超越シ採ルヘキハ採リ棄ツルヘキハ棄ツヘク虛心坦懷互ニ相信シ討議ヲ進ムヘキコトヲ希望ス

本日諸君ニ開示スル案ハ之ヲ決定セハ爾後其條項ノ性質ニ依リ、或ルモノハ全（公カ）然締約スルモノモアルヘク、或ハ祕密協定ニ委ヌルモノモアラン、又事項ニ依リテハ成文ニ作成セサルモノモアランカ之等ハ外交技術ニ讓ルコトトナルニ非スヤト思考ス

二、梅思平ヨリ先ツ拜見シテカラ何分ノ意見ヲ述フルコトトシ度シトノ意見アリ　中國側ニ熟讀スル時間ヲ與フル爲メ支那側ヲ殘シ日本側ハ退場シ暫時休憩セリ

三、休憩後ノ日支双方質疑應答要旨

梅思平（以下梅ト略記ス）

今日ハ字句ニ付質問ヲナシ、一般的且概括的ニ意見ヲ述ヘ、何レ熟讀研究シタル上日ヲ改メテ當方ノ具體的問題ニ關スル意見ハ申上ルコトト致シ度シ

陶希聖（以下陶ト略記ス）

中央政府樹立ハ一般平和運動ノ前進トナルヲ以テ日本案ヲ研究シタル上、現狀ヲ直チニ全部修正スルコトハ

不可能ナランモ或部分ハ修正シ眞ニ日本ハ日支合作ノ誠意ヲ有スルモノトイフ證左ヲ一般民衆ニ示シタラ效果的ト思考ス

影、陶氏ノ意見ハ御尤モナリ又日本側ニ於テモ現事態ニ對シ修正ヲ要スヘキ點アルコトハ痛感シアル所ナルニ付、貴方ニ於テハ單ニ日本側案ニ對シ防勢的態度ヲ持スルコトナク、進ンテ何レノ諸事象ハ之ヲ修正ヲ希望スト イフ工合ニ坦懷ニ申出アリ度シ

梅、共同防衛ノ項ニテ軍隊駐屯地點ニ關シテ承ルコトヲ得ハ幸甚ナリ

影、之ハ事機密ニ屬スルニ付、今暫ク祕密ニシテ置カレ度ク申上クル時期ノ來ル迄暫時待タレ度シ

梅、強度結合地帶トハ如何

影、緊密ニ結ヒ付ク觀念ヲ強度結合ノ文字ニテ表ハセリ結合目的ハ地域ニ依テ必スシモ同一ナラス　北支蒙疆ハ國防上經濟上ノ強度結合地帶、揚子江下流地域ハ經濟上ノ強度結合地帶ナリ

梅、共同防衛ニ關スルモノノ中第二項ノ「日本ハ所要ノ軍隊ヲ北支蒙疆ノ要地ニ駐屯ス」トアルカ、之ハ嘗テ重光堂ニ於テ我々カ談合セシ時ノ「蒙疆及ヒ所要ノ北支諸地點」トイフノト稍々意味カ異ナルニ非スヤ

影、其ノ後ノ情勢ノ變化ニ依リ殊ニソ聯ノ西北地域ニ於ケル情勢ニ鑑ミ北支ニ於ケル考方ヲ變更セサルヘカラサルニ至リシハ當然ナリ

梅、右第五項ノ駐兵地域トハ防共ノミナリヤ其ノ他ヲモ含ムヤ

影、右ハ防共上ノ駐兵モ治安上ノ駐兵モ作戰上ノ駐兵モ凡テ駐兵ヲ要スル地域ヲ包含スルモノナリ

周、別紙第一ノ五項ニ「顧問ヲ派遣ス」トカ「顧問ヲ配置」トイフカ如ク如何ニモ日本側カ勝手ニ顧問ヲ出ス樣ニ見ユル處此ノ如キ字句ハ適當ナル字句ニ改ムルコト可然ト思フ

影、之ハ約束カ出來テカラノ事ニシテ勝手ニ日本側カ一方的ニ派遣シ又ハ配置スルノ意ニ非ス　其用語ノ可否ハ討論ノ時ニ讓リ度シ

陶、顧問問題ハ主權尊重原則ニ對スル最少限度要望ノ中ニ於テモ問題トナリタリ　之ハ第五項ト如何ナル關係アリヤ

影、兩者同一主旨ナリ
梅、別紙第三ノ第二項ノ「其ノ他ノ地域」トハ北支蒙疆以外ノ全地域ナリヤ　又特定資源トイフコトト必要ナル便益トアリ北支蒙疆ノ項トハ稍々違フ様ニ見ユルカ如何
影、然リ　又前者ハ強ク且一般的ニテ後者ハ制限的ニシテ且其限度モ「必要ナル」トノ形容詞ニテ制約セラレアルヲ注意セラレ度シ
周、日支新關係調整要綱別冊(東京案別紙第二、第三ノコトナリ)ノ備考ノ意味ヲ聞キ度シ
影、將來日支間ニ約定トシテ定メ置クヘキモノアリ　又貴國内政問題トシテ貴方自發的ニ措置セラレテ解決スルモノアリ　兩者ヲ包含スル次第ナリ
陶、既成事實ヲ繼承シ云々トテ華北ノ部ト維新政府ノ部ニ在ルカ之ハ貴國トノ話合ニテハ平等互惠ノ原則ニ從ヒ再檢討スルコトトナリ居ル處既成事實ヲ其儘承繼スルトイフハ觀念ノ抵觸ナキヤ否ヤ
影、右兩者ハ抵觸セス　差當リ事態ノ混亂ヲ防ク爲メ既成事實ヲ承繼シ後ニ漸ヲ逐ヒ修正スヘキハ之ヲ修正スルコトニスルヲ實際的必要性アリト考フ　換言スレハ修正ハスルカ一應既成事實ハ承繼スルコトノ意ニテ差當リトイフ字句ニ留意アリ度シ
陶、新上海ニ於ケル日支ノ結合ハ日支經濟協議機關ヲ設クル考方ヨリセハ經濟ニ關スルモノノミト考ヘテヨキヤ
影、大體經濟ヲ主トスルカ第三國關係複雜ナル新上海方面ニハ單ニ經濟ノミニテハ不充分ナルヘシ　政治及文化ヲモ含ムモノト思料ス
梅、貴方御交付ノ書類中ニ協力トカ援助トカノ文句ヲ拜見スル次第ナルカ之ハ權利的觀念ニヨルカ或ハ義務的觀念ニ基クモノカ何レナリヤ
影、ソレハ事柄ニヨルヘシ　例ヘハ日支經濟强度結合ノ必要上國防資源開發ノ如キハ中國側ニ於テハ義務トシテ日本側ニ協力スルモノト解セラレ度シ
梅、新上海ノ建設ノ協力トイフカ如キハ中國側ニ於テ協力ヲ求メサレハ如何トモシ難カルヘシトイフコトニナルニ非スヤ
影、東亞和平ノ癌タル對租界問題ノ如キ新上海ヲ建設セスンハ究極的目的ヲ達成シ得サルニ付支那側ノ協力ヲ必

要トスル次第ニシテ中國側ヨリ見ルトキハ租界問題解決スル爲協力ヲ日本ニ要請スル權利ヲ有シ又義務ト考ヘルト云フ氣持ヲ必要トスル

陶、要スルニ協力トハ合作（コオペレーシヨン）トイフ意ナリヤ

影、然リ

周、質問ナケレハ一般的討議ニ移ツタラ如何

四、一般的且概括的討議要旨

梅、此ノ度貴方ヨリ二個ノ文書ヲ貰ヒタルカ我方同志ハ皆之ヲ通讀シ驚キタルト共ニ安心モシタル次第ナリ

安心シタルハ日本ノ要求ハコレ以上ナシトイフ點テアリ、驚愕シタルハ大變廣範圍ニ亘ル點ナリ　近衞聲明ノ基礎ハ日本ニ於テ廟議決定セルモノニ基ク趣ナルカ我方ノ提出セル具體的要望モ亦據ツテ來ル所以アリ卽チ客年十一月上海ニ於テ貴方ト協議セシ記錄ニ基ク次第ニシテ近衞聲明モ亦之ニ基礎ヲ置クヘキモノト思考スル處近衞聲明ニハ撤兵ノ項ノ如キハ言及サレ居ラサルモ要スルニ今後我々ノ討議ハ基礎ヲ近衞聲明、昨年ノ上海會議ノ記錄及本年六月ノ東京ニ於ケル約束ノ三ツニ置クヘキニシテ而シテ右三個ノ文書ニナキモノハ我方トシテハ受諾スルニ困ル次第ナリ　又右三個ノ文書中矛盾アルモノハ修正スルコトヲ要スト思料ス

影、御說ハ分ル

陶、先ツ第一ニ吾人カ今後討議ヲ進ムルニ際シ貴方ニ於テ同志トシテ諒解セラレ度キ事ハ吾人ハ同一ノ目的ニ向ヒ努力シ居ルコトニシテソハ和平ト新政府組織ノ二點ニシテ重慶カ和平ヲナササルニ付已ムナク吾人ハ新政府ヲ組織シ之ニ當ル必要生シタルニ付之ハ手段ニシテ目的ハ日支間ノ和平達成ニ在リ、從テ斯カル諒解ノ下ニ今後討議ヲ進行セハ解決ハ容易ニナルナラン、從テ要綱ノ討論ニ當リテモ將來如何ニスルヤ、現在ニ於テ如何ニ處理スヘキヤ及過渡的ニ如何ニスルヤノ問題アルヘキモ之等ハ凡テ共同目的タル和平達成其ノ手段タル重慶崩壞ニ目安ヲ置キ決定スヘキモノト思考ス

今貴方ノ御要望ヲ見ルニ特殊地帶設定ノコトニ多ク言及サレ居ル處之等モ調整シ得ルモノアルニ非スヤト思考ス　卽チ重慶崩壞ノ手段トシテハ何物カ中國民衆ヲ說伏スルニ足リ之等ヲ把握スルニ足ル事實カナクンハ、

不可ト思考スル次第ニシテ之等目的及手段ヲ前提トシテ今後要綱ヲ討論シ戴ケハ議論ハ少ク容易ニ問題ヲ解決シ得ト解セラル

第二ノ點ハ日本側ニ於テ次ノ事ヲ認識シ置カレ度キ事ナリ

卽チ日本ハ東洋永遠ノ平和ヲ招來サレ度キ存念ト見受クルカ日本側モ多大ノ犧牲ヲ拂ハレタルト將來中國カ再ヒ反抗スルニ非スヤトノ懸念ヲ有サルルナラン　又我方モ貴方ノ御懸念ハ諒トスルモ汪氏ノ和平運動ハ重慶ヲ崩壞シ得テ且民衆カ受諾シ得テコソ始メテ中日國交ノ調整カ出來ル次第ニシテ之カ出來レハ將來再ヒ中日間ニ戰ハ起リ得サルニ非スヤ　從ツテ此間ノ事情ヲ御諒解下サラハ吾人ノ協議ハ圓滑ニ進行出來ルニ非スヤト思考ス　日本側ノ中國ヲ援助シ新中央政府樹立ニ助力ヲ與ヘラルルコトハ感謝スル次第ナルカ新政府カヨク活動シ得ル樣ニセラレ度ク卽チ子供ノ存在ハ認ムルモ之ヲ病氣ノ儘ニシ置クニ於テハ何等ノ役ニモ立タスト思考ス

吾人ノ方ヨリ提出セル中國主權尊重ニ關スル要望中日本側ヨリ見ルトキハ高キ要求ト見ユルモノアルヤモ計ラレサルカ之ハ日本側ニ於テ戰勝ノ結果ヲ要求セストノ御趣旨テアリ、旁吾人ノ和平運動達成ニ得策ナリトノ見地ヨリ要望シ居ル次第ナリ

影、

陶氏ノ觀念ニハ稍々御訂正ヲ願ハサルヘカラサル點アリ、卽陶氏ハ戰爭終結、和平招來ノミヲ目的トセラレ居ル處單ニ其ノ目的タケナラハ事變直前ノ狀態ニ復歸セハ足ルモノナランカ中日兩國ハ單ニ戰爭止ムルノミナラス將來兩國ハ東洋ノ平和、東洋ノ防護ノ見地ヨリ日支合作協力カ必要ニシテ之ヲ理想トシテ今後日支兩國ハ進ムヘキモノト思フ　陶氏ハ特殊地域ヲ一例トシテ擧ケラレタルカ單ニ和平ヲ目的トスルナラハ特殊地域ノ如キハ意義ナキモ日支協力ノ必要性ヨリ觀察シ此必要ヲ認ムルニ至ルモノト思料ス

周、

先刻來梅、陶兩氏ノ話サレタル事ヲ自分ヨリ綜合シ申上度シ　先ツ梅先生ノ言ヲ綜合スルニ第一ニ今後ノ討議ノ議題ハ昨年ノ上海會議ノ記錄近衞聲明及本年六月ノ東京協定ノ三個ニ基礎ヲ置クヲ要ス　然ルニ今度貴方ヨリ御交付ヲ受ケタル書類ヲ見ルニ右三者ヨリ逸脫

シ居ルモノ相當アルヤニ見受ケラルルニ付右三者ヲ基礎トシテ

㈠貴方御交付ノ二個ノ文書ト前記三者ト照合シ合致スルモノハ之ヲ討議決定シ

㈡然ラサルモノハ之ヲ討議ヨリ除キ今後モ出ササル樣ニセラレ度ク

㈢前記三個ノ基礎中矛盾スルモノハ之ニ合致スル樣修正サレ度シ

ノ三點ニ歸着スルモノノ如シ

次ニ陶氏議論ノ要旨ハ

貴方御交付ノ書類ヲ見テ同志ノ意見トシテハ日本側ノ御要望ハ原則ニ多クノ但書カ附加サレ居ル處之ハ例ヲ手形ニトルトキハ三年、五年先ニ現金化サルルモノニシテ現在中國ノ餓エ居ル狀態ヨリ見ルトキハ差向キ現金化サルル手形ヲ望ム次第ナリ　トイフニ在ルカ如シ

梅、我方ニ於テハ明日、明後日兩日間ニヨリ研究シ置キ度ク今日ハ未タ逐條審議ノ用意ナキニ付之ハ後日ニ讓リ度シ

影、然ラハ概括的ニテモ討議スルコトアラハ之ヲヤリ又思ヒ付ノ儘飛ヒ々々ニテモ討議スルコトアラハ之ヲ行ヒテハ如何

周、自由ナル意見トシテ申上クルト蒙疆地域ノ點ナルカ之ハ中國側ノ從來ノ解釋トシテハ察哈爾、綏遠兩省ヲ指スモノト思考スル所貴方ノ言ハルル蒙疆ニハ右以外ノ地カ含マレ居ルヤニ見ユルカ之ハ支那側トシテハ問題ナリ

影、之ハ現在ノ蒙疆自治政府ノ管轄區域ヲ指スモノニシテ貴方ノ問題トセラルルハ晋北十三縣(山西北部)ノコトナラン

貴方ニ聞キタキハ蒙疆ヲ察、綏兩省ノ行政區域ニ限定センントスルニハ貴方ニ於テ何カ特別ノ理由アルヤ

周、理由ハ極メテ簡單ニシテ山西北部ノ十三縣ハ完全ニ漢民族化セル地域ナルカ故ナリ、又北支ニ河南省ノ一部ヲ入ルルコトハ從來ノ觀念上相當問題ナリ　但本日ハ討論ニアラス問題ノ焦點タルコトヲ指摘スルノミニ止メタシ

梅、揚子江下流地域ノ問題ハ東京ニ於テモ言及セサルコトトナリ居リシ處今之ヲ持出サレテハ同志中ニモ反對ア

リ困ルコトニナルナリ

影、之ハ梅氏ノ誤解ナリ　揚子江下流地域ヲ經濟上ノ強度結合地帶トイフコトヲ中國側提出ノ具体的辨法中ニ日本側意見トシテ明記サレアリ

陶、揚子江下流地帶ハ吳越平原ニシテ歷史上東南地方カ西北諸省ヲ統一シ來リタリ　又此ノ地方ハ中國ノ經濟上最重要地帶ニシテ財界有力者モ此ノ地方ニ集マリ居リ中央政府樹立ノ基礎トナル地帶ナレハ若シ財界有力者ノ反對アルトキハ中央政府ノ基礎トナルヘキ地域ニ反對勢力ヲ作ルコトトナリ中央政府組織上基礎薄弱トナリ困ル

影、日支事變後ハ日支合作ヲナスヘキモノニシテ對立スヘキモノニ非ス　貴說ノ如ク經濟的要域ナルヲ以テ又特ニ合作ノ要アルニ非スヤ　日本カ獨占シタリ又ハ侵略シ來リハセスヤトノ疑念カラ斯ク申サルルナランモ當方ニハ決シテ其ノ意アルニ非ス　眞ノ意味ノ經濟合作ヲ庶幾スルモノナリ

而モ第三國トノ經濟關係ヲ排斥スルモノニ非ス　事變前貴方ハ揚子江下流地帶ニ於テハ日本トハ合作セサルモ外國トナラハ合作ストイフ狀態ニシテ之ヲ改メ日支間ノ經濟合作ヲナサントイフニ過キス

陶、經濟上ノ強度結合地帶ヲ好マストイフハ經濟合作ヲセストイフニ非スシテ寧ロ經濟合作ハ全國ニ亙リ必要ニシテ我方モ亦之ヲ望ム所ナルカ之ハ一般合作ヲナス項目アルニ拘ラス特ニ揚子江下流地帶ニ此ノ項ヲ設ケタルハ何カ經濟合作ノ外ニ郵政其ノ他ニ亙リ魂膽アルニ非スヤトノ疑問生スヘシ

影、文字上強度結合地帶ニ關シ誤解アルヤニ見ユル處實ハ經濟合作ノ出來ルハ蒙疆華北外ニテハ揚子江下流地域位ノモノニシテ其ノ他ノ地域ニテハ仲々出來サルヘク揚子江下流ニテシツカリ日支間ニ經濟上ノ提携ヲナサントイフ意ナリ　陶氏ハ煙草ノ小賣リ、拉車迄合作セヨトノ要望ナルヤニ誤解セラレ居ル處之ハ協議ノ進ムニ從ヒ何レノ部門ニ合作スヘク何レノ部門ハ自由トスヘキヤ等分明スヘシ　日本ノ考方ノ精神ハ陶氏モ分ラレタコトト思フカ如何

陶、若シ互惠平等ノ原則ニ則リ合作スルナラハ問題ナキモ心配サルルハ斯カル地域ヲ設定セン爲互惠平等ノ原則

ヨリ逸脱シテ郵便ヲモツト統制スルトイフカ如キ附帯的問題ノ發生ヲ惧ルルナリ

影、ソレハ實際問題ヲ討議スルトキ分明スヘク決シテ心配サルルコト非サルヘシ

梅、例ヘハ華盛頓會議ニ際シ門戸開放ノ原則カ約束サレタルニ其ノ後日本ノミカ門戸ヲ閉メラレタル次第ナルカ今度ハ逆ニ日本カ地位ヲ代リ列國ヲ閉メ出スノミナラス中國人ヲモ閉メ出スニ非スヤトノ誤解ヲ生スルコトアリ

影、門戸開放ハ原則上之ヲ認メサルヘカラス但昨年ノ上海會議ニ於テ日本ハ他ノ列國ヨリモ優先スト協議決定シタル次第ヲ想起セラルルヲ要ス　又日支双方互惠ノ原則ニ則ル上ハ中國人ヲ閉メ出スコト有リ得ヘカラサルニ非スヤ

梅、結論ニ於テハ日支兩國ノミカ斯カル地域ニ於テ經濟活動ヲナスコトハ理想ナルカ之ヲ今直チニ發表セハ外國人ハ驚愕シ中國新政府樹立ニ對シテモ多大ノ妨害ヲナスヘク又維新政府方面ニ於テモ經驗セル次第ナルカ日本人ノミカ經濟活動ヲ獨占スルトイフカ如キ危惧ノ念ヲ中國人一般ニ有シ居レリ　或ハ何等カノ文句ヲ入レテ誤解ヲ防クコト望マシ

影、貴方ハ何トカシテ揚子江下流地域ノ問題ヲ削除セントスルカ如クニ見ユル處トウモ其動機ニ疑ヲ持タザルヲ得ス

須賀（今後須ト略記ス）貴方ハ作戰中ノ特殊狀態ヲ見テ危惧ノ念ヲ有スルニ非スヤ　又工場ニシテモ經營主ハ逃亡シ一方生產品ノ需要ハ充足スルノ要アリ　又勞働者ヲ養フ必要（治安上）モアリ已ムナク經營主不在ノ工場ヲ日本ヨリ資本家ヲ連レ來リ條件付ニテ（將來中國側經營主歸來セハ合辨其ノ他整理ヲナス）工場ヲ經營セシメタル次第ニテ此ノ點誤解ナキヲ要ス　故ニ一局部ノミヲ見テ議論スルト急惧（危カ）ノ念或ハ誤解カ生スルナランモ全般ヲ綜合シ討論研究シテ行ケハ分ルニ非スヤト思フ

梅、卒直ニ申上クルト華北政務委員會ノ項ヲ見ルニ憲法規定ノ如ク詳シク言及サレ居ル處之ハ日本側ノミノ意見ナリヤ　中國人ノ意見モ入リ居ルヤ

影、之ハ中國側ノ意見モ多分ニ取入レラレアルモ國防、經

濟的ノ特殊地域タル必要上政務委員會ノ權限トシテ此ノ位ノモノハ必要トスル日本側ノ自主的意見ニモヨリタルモノナリ

梅、我々モ斯ク考ヘ居リタリ

南支沿岸特定島嶼トハ海南島ノミヲ指スモノナリヤ

須、然ラス　海南島ノミナラス三灶島、南明島、東沙島、西沙群島等ヲ指シ居レリ

梅、去年重光堂ニ於テ話合ヒタル時ハ華北以外ノ地域ニテ日本ニ優先權ヲ認ムルコトニナリ居リタルカ近衛聲明ニハ優先權ノコトニ言及シ非サル處今後優先權ノ文句ハ使用セサルカ宜シキヤ否ヤ

影、今後連日討議スルハ全テソノ儘發表スルモノニモ非ス又或事項ハ祕密協定ニスル等ハ他日外交接衝ノ際形式ハ整フルコトトナリソレ迄ハ同志トシテノ話合ナリ

梅、貿易ノ統制權ノ問題即チ一例ヲ引クニ中國農民ノ作物ハ全部日本人會社ニ安ク賣リ日本側會社ハ之ヲ外國ニ賣リ其ノ間ノサヤヲトル　而モ之ハ中國政府ノ統制外ニナリ不便ヲ感スルコトトナル

影、之ハ全ク同感、日本側ニテモ修正ヲ要スルコトアルコトヲ知リ居ルヲ以テ從ツテ修正スヘキハ修正スルコトトナルヘシ

先刻來小生ヨリ貴方ニ於テ防禦的立場ニ立タス卒直ニ不滿ナル現狀ノ修正ヲ要望セラレ度シト述ヘタルハ斯カルコトヲ意味ス

周、維新政府ニ於テハ驅テ解散サルルノテ今ノ間ニ一生懸命統制會社其ノ他既成事ヲ盛（實ヤカ）ンニ作リツツアルカ日本側モ亦既成政權ヲ鞭撻シテ既成事實ヲ造ルコトニ汲々タル樣ニ思ハル、今急キ斯ル既成事實ヲ造リ置ク要ナク又コレヲヤラレテハ汪先生ノ中央政府ハ決シテ强化シ難シ　合理的ノ事實ヲ造ル要アラハ協定後ノ機會ヲ俟タレタキ熱望ナリ

影、貴說ヨク諒解セリ　ヨク調ヘ斯カル不合理ナル既成事實ヲ造成スル事實アルナラハ善處スル樣努力スヘシ又矢野君、小池君ニ於テ我方ノ經濟問題ノ係官トシテ働キ居ルニ付現狀ヲヨク諒解サルルコト必要ニシテ誤解ニ基ク疑惑モアル樣ニ思料ス

次回ヨリ經濟關係ノ爲小池氏ヲ參加セシメ度シ

梅、今日ハ之ニテ閉會シ四日午前九時（上海時間）ヨリ開會

致シタシ

500

昭和14年11月2日　在上海三浦大使館参事官より野村外務大臣宛（電報）

内約交渉における日本側提案に対し汪側は占領地域の既成事実を継承するもので近衛声明の原則に背馳すると不満を表明について

上　海　11月2日後発
本　省　11月2日夜着

公使第二號（極祕、館長符號扱）
往電第一號ニ關シ
其ノ後汪精衛指導ニ關シテハ
一、一日東京案別紙第二乃至第四ヲ未定稿トシテ開示シ所要ノ說明ヲ加ヘテ先方ノ意見ヲ徵セル處先方ニ於テハ一兩日愼重研究ノ上意見ヲ開陳スルコトトナレルカ汪側ニ於テハ日本側カ最近諸種ノ獨占會社ヲ頻々トシテ創立スル等極力既成事實ノ造成ニ努メ之ヲ東京案別紙第二第三ノ通リ既成事實トシテ繼承セシメントスルハ近衛聲明ト對照シテ矛盾撞著ノ嫌アリ日本ニ於テ眞ニ近衛聲明ニ立脚シ支那ト合理的ノ協定ヲ締結セハ日本ノ諸企圖ハ右原則ニ違反セサルモノナル限リ之ヲ遂行シ得ルニ拘ラス今中央政府樹立ヲ前ニシテ右原則ト背馳スルカ如キ既成事實ノ設定ヲ企圖スルコトハ汪精衛等ヲシテ民心ノ把握及政府ノ强化ヲ不可能ナラシムル惧アルモノトシテ最モ此ノ點ヲ强調シ居レリ
二、次回ハ來ル四日會談ヲ行フ筈
往電第一號ト共ニ漢口ヘ轉電セリ
北京、南京、廣東、香港ヘ轉電セリ

501

昭和14年11月4日

内約交渉議事録（第二回）

日支國交調整原則ニ關スル協議會（扇少佐記）

第二回會議議事要錄

自十一月四日午前十時十分至午后四時三十分

列席者　中國側　周佛海、陶希聖、梅思平、周隆庠
　　日本側　影佐少將、谷萩大佐、須賀大佐
　　扇少佐、犬養、小池、矢野書記官

清水書記官

周、本日ノ會談モ前回ノ通リ同志ノ資格ニテ討議シ外交的形式ヲトラサルコトト致度而シテ討議ノ結果結論ニ到達スルコトヲ希望スルモ其ノ結論ハ飽迄試案トシテ置キ度唯今ヨリ調整要項ヲ逐次討議ノコトト致度討議ノ順序ハ原則ヨリ具體問題ニ入ルヲ本筋トスルモ、貴方ノ御提示ノ原則ニハ但書多ク附加サレ居ルニ依リ別紙ヨリ先ツ審議シタル後原則ノ審議ニ歸ルヲ便宜ト思考ス　要領第一項ハ問題ナシ　二ハ既成事實ノ存在ヲ認メ三ハ特殊事態ノ存續ヲ認ムル問題ニシテ具體的方法ヲ研究セサレハ此ノ現ハシ方ニテハ危惧ノ念ヲ與ヘルニ付二、三項ヲ取消シ別ニ一項目ニ取纏ムルコトトシテ具體的方法ヲ先ツ研究シタル上再ヒ此ノ問題ニ歸ルコトトシタシ

影、具體的方法ヲ先ニ研究スルコトハ差支ナシ

周、別冊(二頁)ノ原則事項ハ近衞聲明、上海會談、東京協定等ニアリ　文字上ノコトハ別トシ原則ハ別ニ異議ナキモ比較的詳シク研究スヘキハ別紙ナリト思考スルニ付先ツ具體的ニ入リ文字上ノ事ハ後ニ考フルコトトシタシ

陶、別紙善隣友好ノ原則ニ關スル事項ニ於テハ文字上ノ修正ヲ希望シタキモノアリ　卽チ「渾然」ハ中國ノ用語ニ依ルニ合併ヲ意味シ誤解ヲ生スル恐アリ

影、渾然ノ字句ハ本然ノ特質ヲ發展充實スルコトト關連的ニ解スルヲ要ス　貴見ノ如ク合併ヲ意味スルモノニアラス

陶、支那ニテハ合シテ融ケル意味ヲ表ハス　親密ニ相提携トシテハ如何

影、其ノ様ナ意味ニ於テ研究スヘシ

周、第一項「支那ハ滿洲帝國ヲ承認シ」以下ノ文句ニ漢文流ニ文字ヲ加ヘタシ例ヘハ「支那ノ領土ノ完整及主權、行政權ノ獨立ヲ尊重シ」ノ如キ文句ニ直サレタシ

影、本日ノ我々同志ノ間ニテハ細カキ字句ノ如キハ他日ニ讓ルトシ內容ヲ主トシテ討議シタシ

周、第二項、第三項問題ハナシ　第四項モ問題ナシ

梅、第五項ハ全部削除ヲ可ト認ム、其ノ理由ハ主權尊重ニ對スル最低條件ニテモ言及シアリ　又之ニ關シ貴方ノ回答モ得アルニ付宜シカラン　又其ノ部分ハ比較的小

サキ問題テアリ他項トノ振合モアリ形式上ヨリ見ルモ取除クヲ可トス主要ナル各項ト竝ヘルハ面白カラス

影、日本側トシテハ善隣友好ノ表現トシテ顧問ノ問題ハ主要問題ト考ヘ居レリ　故ニ顧問ニ關スル原則迄モ此所ニ掲ケ置クノ要アリ

陶、第五項顧問職員ノ問題ニハ三點アリ

一、顧問ハ自發的ニ招聘スルコト

二、中國ノ法令官吏服務規定ニ從フコト

三、義務的ニ服務スルニ非（四字アキ）ニ服務スルコトトシ行政ニハ干渉セス

他ノ項目ハ何レモ日滿支三國關係ノ主要原則ナルニ此ノ項ノミハ具體的事實ナルヲ以テ之ヲ竝ヘレハ日本ノ所謂善隣友好ハ顧問ヲ入レルコトナリト誤解シ易シ一般國民ノ誤解ヲ招クコトモ考ヘ技術的取扱ニ於テ別ナ所ニ入レ度、精神ヲ無視スルニ非ス

周、若シ是非書クナラハ御互ニ交換ノ意味トシ「中日兩國ハ必要ニ應シ政治顧問ヲ除キ財政經濟技術ニ關シ御互ニ顧問職員ヲ交換ス」トセハ如何

陶、「技術的學術的人才ヲ交換ス」トイフコトニ修正セハ如何

影、趣旨ハヨク判レリ更ニ研究スヘシ

陶、別ナ所例ヘハ經濟提携ノ次ギ等ニ置クハ如何　此處ニ入レレハ政治顧問ヲ含ムカ如キ響アリ　他ニ適當ナル場所アリト思考ス

周、文字上ニテ修正シタキ意味ヲ參考ノ爲示セハ

「中日双方ハ必要アル場合政治顧問ヲ除キ相手國ニ對シ財政經濟ノ技術的顧問竝ヒニ自然化學的顧問ヲ招聘スルコトヲ得此ノ具體的事項ハ別ニ定ム　職員ハ稅關敎官及專門技術員ニ限ル」ノ如キモノトセハ如何

影、研究シ置カン

周、六項ハ問題ナシ

周、第二共同防衞ノ項ナルカ共同防衞ノ代リニ共同防共ニ變ヘテ戴ケサルヤ、實ハ近衞聲明上海會議等ニモ定メタル事ニシテ且從來我方ハ宣傳ニモ防共ノ字句ヲ使用シ來リ而モ共同防衞ハ防共ヨリモ範圍廣クナリ　從來ノ了解ノ經緯ヨリ見テモ適當ナラス

影、防共カ主タル事ハ勿論ナルモ共通ノ治安維持カアルカラ共同防衞トナリ居レリ　防共カ主タル事ニハ問題ナ

シ

周、實ハ其ノ次ノ共通ノ「治安安寧」維持ヲ削除シテ戴キ度次第ナリ　共通ノ治安安寧ト謂ヘハ範圍廣クナリ四川雲南ニモ及フコトトナル　前文中「……防共ニ當ル」丈トシ以下ヲ削除シタシ

影、日本軍ハ防共駐兵ノ外ニ治安駐兵ヲナス譯ニテ而モ中央政府樹立後ハ貴國軍隊モ追々出來ルナランモ差當リノ情勢ヲ考フル時ハ「共通治安維持」ヲ削除シテトウシテヤツテ行ク積リナリヤ

周、防共ハ略々永久的ノモノニシテ共通治安ハ永久的ノモノニ非ルヲ以テ之ハ別ノ項ニテ規定スルコトトシ此所ニハ恆久的性質ノモノノミヲ定ムルコトトス　例ヘハ去年ノ協定ノ二項ニ協定以外ノ地域ニ於テハ二ケ年以內ニ撤兵云々トアリ　一時的現象ナルヲ以テ共通ノ治安安寧ニ關シテハ別ニ書入ルルヲ可ト認ム

陶、更ニ說明センニ日華協議記錄中第一條二項ニ「防共ハ日、獨、伊防共協定ニ準シ」云々トアリ其ノ意ハ近衛聲明ニモアル處、防共ハ駐兵ヲ包含セス　汪氏ノ通電ニモ防共ハ內政干涉ニ非ストナシアリ　若シ防共ニ駐兵ヲ伴フナラハ內蒙ニ限ルヘキナリ從テ駐兵權ハ內蒙ノミニ限ルヘキニシテ他ノ治安上ノ駐兵ハ二年以內ニ撤兵スルコトトナリ居レリ　中國民衆ハ日本カ防共ノ名義ニテ駐兵權ヲ設定シ駐兵ニテ中國ノ內政干涉ヲ行フトテ三年前ト同樣ノ如ク誤解スル恐アリ　防共ト駐兵ヲ一緒ニスルカ如キ形トシ度クナシ

周、日華協議記錄第六條ニハ「協約以外ノ日本軍ハ日華兩國ノ平和克復後卽時撤退ヲ開始ス　但シ中國內地ノ治安恢復ト共ニ二年以內ニ完全ニ撤兵ヲ完了シ中國ハ本期間ニ治安ノ確立ヲ保證シ且駐兵地點ハ雙方合議ノ上之ヲ決定ス」トアリ共同防共ハ永久的性質ニシテ治安駐兵ハ二ケ年トナリ居レハ一時的ノモノナルニ付防共駐兵ト區別スルヲ要ス

影、上海會談ニ於ケル治安駐兵ハ二年以內トアルモ同時ニ此間ニ中國ハ治安ノ確立ノ責任アリ換言スレハ治安確立カ駐兵期間ヲ決スル一條件ナリ　恰モ防共駐兵ハ「ソ」聯ノ積極政策カ繼續スルコトカ前提條件ナルト同樣ナリ

同シ場所ニ書キテモ何等差支ナシト思フ

周、當方ニテ一番困ルコトハ駐兵ヲ廣範圍ニ解釋サルルコトニシテ之ハ民心把握上障害アリ、上海會議記錄ニハ防共駐兵ト雖モ期限ヲ附シアルモ之ハ比較的恆久的ニシテ治安駐兵ハ大體二ケ年トナリ居ルヲ以テ矢張別ニ共通治安ニ關シテハ防共ト離シ別ニ項目ヲ作リ此處ニハ防共ニ關スルモノノミヲ纏メテハ如何

影、此處ニ記載スルモノハ凡テ極祕ナレハ之ハ人民ニ見セルヘキモノニアラス

周、勿論祕密事項トシ發表セサルモ駐兵ノ事實ヲ國民カ見レハ之ニ對シ說明ヲ必要トス　故ニ其ノ說明ハハツキリセサルヘカラス

影、防共協定、治安駐屯ニ關シテハ何レモ別個ノ協定ヲ必要トス　之等原則ハ趣旨ヲ協議シ置キ條約締結ノ場合ニ形式ヲ整フレハ可ナリ　本原則ハ協定ノ材料タルノミ

陶、內容ヨリ申スモ防共駐兵ト治安駐兵トヲ分ケテ研究スルヲ便トス　實ハ駐兵地域ニ關シ直ク次ニ言及サレ居ルニ付將來條約ヲ定ムル上ニ就テモ防共駐兵治安駐兵ニ應シ夫々地點何處々々ト分チテ考フルヲ好都合トス

周、矢張防共駐兵ト治安駐兵トハ別項トサレ度シ共通治安維持ノ駐兵ハ別項ヲ設ケテモ可ナリ　若シ此處ニ置ク混淆シテ誤解シ易シ卽日本軍隊駐兵地域ニ於テハ中國側ハ第五項第六項ノ適用ヲ受ケ殊ニ軍備制限ヲ受クルコトトナルヲ以テ工作上重大ノ影響アリ

影、駐兵ニハ防共作戰治安等アリ又年限ノ長短アルモ苟クモ日本軍隊ノ駐兵アル限リ鐵道ニ類スル監督權要求權等ノコトモアリ防共駐兵及治安駐兵ハ兩者同樣ニシテ五項六項ハ駐兵ニ伴フ必然ノ要求タルナリ

周、例ヘハ航空、鐵道、通信ニ對スル要求監督等ハ駐兵アル間當然ニシテ否定セス　唯臨時的ト永久的トハ別トシ混淆スルハ宜シカラス　別々ニ書クヲ適當トス

影、臨時、永久ト言フモ防共必スシモ永久ニハアラス　治安駐兵必スシモ短小時日ト言フヘカラス　此處ニ一緒ニ揭ケ置クコト然ルヘシト思考ス

梅、時間ノ長短ノ外ニ觀念上ノ問題アリ防共駐兵ト治安維持駐兵トハ同シカラス　防共ハ對外的ニシテ治安維持ハ對內、內政的ナリ　故ニ駐兵カ內政ニ關係セハ內政干涉ノ響アリ　尤モ撤兵前ノモノナラハ已ムヲ得サル

事態トシテ諒解スルモ治安維持駐兵カ防共駐兵ト同一場所ニ書キ置カルルコトハ内政干渉ノ嫌アリ

影、和平トナレハ結構ナルモ昨日迄ハ抗日ナリシ軍隊カ直ニ信頼シ得ルヤ　我國民ノ主觀ヨリ見レハ實際ニ心カラノ提携ニ至ル迄ハ相當ノ努力ト日子トヲ必要トスヘシ　内政干與ヲ理由トシ直ク撤兵スルヲ以テ原則ト見ルナラハ何ノ爲ニ血ヲ流シタコトトナルカ内政干渉ト言ハルルコトハ理論的ニハ一應諒解シ得ルモ我方ヨリ見レハ戰止ミタリトテ直ニ全支那軍隊ヲ絶對信頼スル事ハ蓋シ不可能ナリ故ニ當分ノ治安駐兵ハ内政干渉トハ關係ナシ

周、規定其ノモノヲ否定スルモノニ非ス　規定ハ別々ニ爲サント云フノミ　歐米外交ハ巧妙ナルニ日本外交ハ拙劣ナリト云ハルルハ損ニ非スヤ　之ハ技術ノ問題ナリ別々ニ規定スルコトカ賢明ナラン　一緒ニ規定スルト幹部同志ノ間ニ於テ通過困難ナリ

梅、治安駐兵ヲ別ニ否定スル譯ニアラス　之ヲ防共ト分ケテ規定スルカ良カラントニ云フナリ

影、趣旨ハ判リタルヲ以テ技術ノ問題ナラハ後日篤ト研究セン

周、先刻ノモノヲ繰返シ申上クレハ防衛ヲ防共トシ、共通ノ治安安寧ノ件ヲ削除セラレ度ト言フニ在リ　第一項ハ問題ナシ

第二項「之カ爲日本ハ北支及蒙疆ノ要地ニ駐兵ス」トアルカ之ハ上海會議ニ於テハ蒙疆及平津地方トナリ居リタルカ之ノ項モ共通蒙疆及平津ノ要地トセラレ度

影、之ハ當時ヨリ見テ擴大シ居レル處其レハ其ノ後ノ情勢ノ變化ニ依リ其ノ必要生シタリ　之ハ汪先生カ六月日本ニ行カレタル時モ北支ハ國防上及經濟上ノ強度結合地帶ナルコトヲ認メラレタルコトニモ稽ヘ又軍事的ニモ赤色兵力カ北支ニ延ヒテ居ル今日平津ニテハ足ラサルヲ以テ斯クスル必要生シタリ

梅、本問題討論上ニハ假定的大前提アラン　之ハ重慶政府カ崩壞シタル時ヲ前提トシテ討論シ居ル次第ナリ　仍テ今日ノ事實ハ之ヲ承認スルモ重慶カ崩壞シ、中國カ自己ノ軍隊ニ依リ治安維持カ可能トナリタル時ノコトヲ論スル次第ナルヲ以テ二者混同セサル樣願ヒタシ

陶、之モ觀念上ノ問題ナルカ作戰治安防共駐兵ヲ分ケスシ

テ赤軍ヲ目標トシテ論スルナラハ明確ニナルナリ　例ヘハ江南ニ新四軍ナルモノアリ

之ハ共産軍ナレハ之ニ對シテノ防共駐兵ヲ爲ササルヲ得サルコトトナリ觀念ノ混亂ヲ來ス虞アリ

影、平和克復後汪氏ノ許ニ幾何ノ軍隊カ出來ルカハ將來ノ想像ノ問題ナリ

今兩君ノ話ハ中國軍隊カ全部汪氏ノ指揮下ニ入リタル時ノ話ヲ爲シ居レルカ防共軍事協定ハ其時始メテ結フニ非ス其ノ以前ニ締結ノ必要アルナリ

梅、若シモ軍隊カ復歸セサル時ハ其レハ作戰又ハ治安駐兵ニシテ防共駐兵ハ防共ナレハ矢張リ分ケテ討論スルコト必要ナラン　補足的ニ申上クルト同志幹部ノ心理ヲ尊重スルコトヲ要ス　幹部ハ防共駐兵ハ蒙疆及平津ニ限ラルルモノト思考シ居レリ　重慶ヲ出テテ一年足ラスニシテ條件カ過重サルルハ著シク吾人ノ意氣ヲ阻喪セシム

陶、此ノ問題ハ平和運動ノ基礎的精神ニシテ之ニ依レハ防共ニハ附帶條件カ無イト云フノニ又汪氏モ其ノ聲明ニ於テ防共ハ國際的協定ニシテ內政的ノモノニ非スト云ヒ居レルニ貴方ノ話ノ樣ナリトセハ國民ハ平和運動ニ失望シ我々モ苦境ニ陷ル次第ナリ

影、和平運動ハ貴國ノミナラス我方モ同樣ニ云ヘル　汪氏ノ運動カ始マレハ軍隊ハ復歸シ實力ヲ得ルト云ヒ居リタルニ現狀ニテハ仲々困難ニシテ有力日本人中ニモ仲々強硬ナル非難アリ斯ノ如キ現狀ニテハ日本ハ昨年ヨリ以上ノ強化ノ責任ヲ負擔セサルヲ得サルニ至レリ北支カ國防上強度結合地帶タルコトハ汪先生上京ノ節諒解ヲ取リツケタルモノニシテ今卒然トシテ提案セルモノニ非ス

周、此ノ問題ニ關シ個人的考ヲ申上ケン

最前ノ通防共駐兵ハ內蒙平津ヨリ北支ニ擴大シタルカ貴方ノ言ノ如ク情勢ノ變化ニ依ルト云ヘハ無限ニ變化シ行クモノナレハ之ハ理由トサレサル樣願ヒ度　例ヘハ江南ニ新四軍カ出現シ之ハ共產軍ナルカ之ニ對シテモ防共駐兵ヲ必要トスルニ至ラン　又目下日蘇國交調整カ傳ヘラレ或ハ成功スルヤモ計ラレス　然ラハ日蘇不可侵條約カ出來ルコトモアリ得ヘク其ノ際ハ防共協定カ取消サルルヤモ計ラレス　平津ヨリ江南ニ駐兵擴

大ノ場合モアリ得ヘク又防共協定取消ニ依リ駐兵ノ必要無クナル場合モアリ得ヘシ　従テ情勢ノ變化ニ關シテハ主張セラレサルコトヲ希望ス　重慶ニハ軍隊多ク汪側ニハ軍隊ナシ從テ重慶倒壞セサル場合ニ於テハ之レ防共ニ非スシテ作戰駐兵ヲ必要トシ重慶ノ倒壞ヲ見ル迄五十年六十年ニテモ駐兵ヲナスノ要アラン、之ハ作戰駐兵ナレハ防共駐兵ト別ニシテ考慮スルコトヲ要ス

防共駐兵地域カ北支全体ニ及フカ否カハ不明トシ、之ハ追テ協定作製ノ時決定スルナランモ若シ之カ北支全体ニ及フモノニ非ルナラハ此處ニ明確ニ定メテハ如何、私見トシテ(彼圖上ニ線ヲ引ク)山東ノ德州ヨリ河北石家莊ニ一線ヲ引キ石家莊ヨリ山西太原ニ至ル線以北ヲ防共區域トナシテハ如何、實ハ之ハ未タ幹部トモ諮リ居ラス又陶、梅兩氏トモ未タ相談シ居ラサルヲ以テ全クノ個人トシテノ意見ナルカ私見トシテ申上ケテ見ル次第ナリ

影、

之ハ小生ハ統帥部ノ考ヘ方ハ未タ分明ナラサルモ本項ニハ要地ト記載シアル處之ハ對蘇戰略要地ト考フヘキモノト思考ス　歐洲情勢ヨリ見レハ對蘇作戰ニ於テハ蘇聯ハ中國ヲ侵略シ來ル時中國ニ於テハ如何ニセラルルヤ　私見ナルカ將來汪氏カ軍隊ヲ獲得セラレタル時蘇聯カ中國ヲ侵ス時ハ中國ハ西北ヲ防キ日本ハ蒙疆北支ヲ防衛スルコトトナルモノト思考ス　若シ中國自身ニ於テ防キ得ルナラハ之ニ越シタルコトナシ　日本ハ其ノ際ハ大イニ助カル次第ナルカ斯ル場合ハ別トシ日本ハ好ムト好マサルニ拘ラス防共ニ關シ中國ニ援助セサルヲ得サルコトニナルハ必然ノ因緣ナリ　之ハ繰返シ議論スルモ無駄ナルヲ以テ研究シ置クコトトシタラ宜シカラン

周、

防共ハ矢張リ蘇聯ニ對スルモノナルカ余ハ軍事ニ關シテハ素人ナルモ將來對蘇戰爭發生ノ際ハ少クトモ山西ハ中國側ニ於テ軍事ヲ負擔セサルヲ得サルニ至ラン對蘇作戰ハ內蒙カ第一線トナリ第二線ハ河北山西ノ北部石家莊太原ハ第三線トナルナラン防共地域トシテハ第三線迄ニテ充分ニシテ最前ト最大限度ヲ申上ケタル次第ナリ

影、

之ハ防禦線ノ向キカ違フ　蘇聯ノ中國ヲ侵スニ三線ア

リ　一ハシベリアヨリ滿洲ニ出ツル線、二ハ外蒙ヨリ內蒙ニ出ツル線、三ハ新疆ヨリ甘肅、陝西ニ來ル線之ナリ　中國軍カ山西河北南部ニ於テ敗戰セハ日本軍ハ後方ヲ遮斷サレ大イナル苦境ニ立ツヘシ（之ハ圖示セリ）

谷、蘇聯ノ戰ハ線ニ非ス面ナリ　敵ノ後方ニ味方ヲ得ルナリ　現ニ中國共產軍カ其ノ役割ヲナシ居レリ　斯ハ防共上重大ナル問題ナリ

周、第一第二第三線ト申上ケタルモ西ノ方面ニ敵カ襲來スルモ之ハ側面ニモ防禦シ得ルコト固ヨリ當然ナリ　要ハ平和ノ時ノ駐兵ニシテ戰時ニハ新疆迄モ駐兵ノ要アルニ至ラン　之ハ其ノ時ノ合意ニ依リ定メテ然ルヘシ

陶、現ニ英佛ハ共同作戰ヲ「マジノ」線ニ於テ爲シツツアルカ之ハ別ニ平時ヨリ條約ヲ締結シ居リタルモノニ非ス

谷、現在新疆省ニハ二個旅ノ機械化部隊アリ中國共產軍ハ陝西方面ニテ其ノ前哨部隊タリ　現在ハ既ニ平時ニ非スシテ戰時トモ解釋シ得ルナリ　從テ平時ヨリ協議シ置カスンハ目的ヲ達シ難ク戰時ノミノ問題ニ非ス　眞實ニ戰爭發生ノ際ハ北支ノミニテモ不充分ノ場合アルヘキモサリトテ對蘇問題ノ爲ニ中國ノ問題ヲ考ヘサルハ困ルナリ

（食事休憩）

影、午前ヨリ會談ノ結果ニ基キ所見ヲ述フレハ共同防衛ハ共同防共ニ變更スルコトニ同意、治安駐兵ハ別項トス、二項ノ駐兵地點ハ余一個ノ考ニテハ如何トモ出來兼ヌルモ趣旨ハ了承セリ

周、次ハ第五項中ニ「駐兵地域ニ存在スル鐵道、航空、通信云々ヲ保留ス」トアルカ地域ハ防共駐兵地域ニ於テハ其ノ內容如何

又保留スト云フハ一定期間ナリヤ　永久的ナリヤ

影、時間的意味ニ非スシテ斯ル權利ヲ有スルノ意ニシテ又要求權竝ニ監督權ト云フハ作戰上又ハ警備上前記事項ニ對シ要求又ハ監督スルコトノ權利例ヘハ作戰ニ際シ之カ輸送等種々作戰上ノ要求ヲ爲スコトニナルカ之ヲ指スモノナリ

梅、若シ斯ル意味ナラハ文字上今少シ明確ニ書ク方宜シカルヘシ例ヘハ「第三國ニ對スル作戰ノ場合」等トス

而シテ「駐兵區域ハ防共駐兵地域ニ限定シ鐵道、航空、通信竝ニ重要港灣水路ノ行政權及管理權ハ中國ニ屬スルモ防共軍事ニ必要ナル時ハ日本軍ニ對シ軍事上ノ輸送及通信ノ便宜ヲ與フ」ト云フト同一意味ナレハ斯ク修正シ置クコトヲ適當ト認ム

周、先ノ案ニテ不充分ナレハ「平時ハ――スル」「戰時ハ――スル」ト分チテモ可ナリ

影、戰時ニ於テ初メテ軍事要求權竝ニ監督權カ發動スルニ於テハ間ニ合ハス　平時ヨリ常ニ命令要求權アリテ之ニ依リテ萬般ノ準備ヲナシ居ラサルニ於テハ機ヲ失シ敵ニ機先ヲ制セラルル虞アリ　平時ノ便宜モ戰時ノ爲ナルヲ以テ戰爭ヲ廣ク解シ宣戰布告後ト云フカ如ク狹義ニ解セサルヲ要ス

精神ハ判リタリ　ヨク研究セン

梅、當方ニ於テ一番惧ルルハ權利ノ內容ニシテ鐵道ノ經營ヲ全部貴方ニ持行カルルコトヲ恐ルルナリ

小、實際ノ經營方法ヲ見ラルル時ハ軍事要求監督權カ極メテ狹キモノナルコトヲ理解セラルヘシ

周、第六項全般ニ於テ考慮スヘキハ軍備制限ノ如クニ見ユルコトナリ「**トラウトマン**」大使斡旋ノ際外交部次長徐謨カ案ヲ會議ニ持參シ來リタル時白崇禧カ眞先ニ日本ハ軍備制限ヲ要求シ居ラスヤト聞キ徐カ「無シ」ト答ヘタルヲ不思議カリ居リタリ

裁兵ト見ヘル文字ハ軍隊懷柔ニハ最大ノ癌ナリ　中國ノ現狀ニ於テ經濟上到底自ラ軍備制限ヲ爲ササルニ得サル狀態ニアリ　而モ汪氏モ南京ニ政府樹立ノ時最モ心痛シ居ラルルノハ軍隊ノ配置ニシテ之ニ依リ將來第二ノ通州事件ノ如キ不祥事ノ發生スルコトニシテ斯クテハ吾人ノ和平運動ハ全ク水泡ニ歸スルコトトナル次第ナレハ貴方ヨリ要求ナクトモ我方ニ於テハ充分心得居ル次第ナレハ本項前半ハ削除セラレテ何等差支ナキモノト認ム

影、貴方ノ御話ハ同情ヲ以テ聞キ置クヘシ

周、第六項ノ後段ナルカ之ハ三個ニ分チテ御話セン

先ツ顧問ニ關シテハ(警察ヲ含ム)最少限度ノ要望中ニアル通リ部隊ノ中ニ入レサルコトニシテ之ハ誤解ヲ起ス基ナリ

次ニ教官モ最少限度要求ノ通セラレ度シ第三ニハ武器

ハ日本ヨリノミ買ヒ第三國ヨリノ供給ヲ受ケ又ハ中國ニ於テ自ラ製造スルコトヲ止メヨト云ハルルハ困ル殊ニ同志トシテ申上クル次第ナルカ中國ハ經濟上未タ重工業ナキ爲自ラ製造スルコト能ハス　而モ在外正貨ヲ使ヒ果シタル後ナレハ外國ヨリ武器ヲ買フ金モナシ仍テ六項後半ハ防共ニ關係ナキニ付之ハ別ニ項ヲ設ケテ置キテハ如何

影、貴方ノ話ハ當方ノ意志トハ違フ　顧問ハ勝手ニ置クニ非スシテ又教官モ希望（勝手カ）ニ置クニ非ス　武器モ貴國カ希望ナラ供給スルモノニシテ要スルニ貴國ニ於テ希望アラハ云々ト云フ意味ナリ　日本ノ好意ヨリ出テタルコトナリ

周、余談ナルカ犬養氏トモ談シタル次第ナルカ精神上必要ナルコトハ日本側ハ戰勝國ト思ハスツマリ中國ヲ戰敗國ト考ヘスシテ和平ヲ行ハサルヘカラス

然シ一般中國民衆ハ敗レタルヲ以テ何ヲ云ヒ出スカ計リ難シト云フ心理狀態ニアリ

影、日本側ハ昨日迄ノ抗日軍隊ガ親日ニ變ルコトアリ得ヘカラサルニ付總テ明確ニ書キ置カサルヘカラストシ又貴方ハ日本ノ文書ニハ何カ魂膽アルニ非スヤトテ我方ノ文書ヲ表ヨリ裏ヨリタメツスカメツスル傾向アリカチニシテ從テ我々ハ仲々骨カ折レル次第ナリ

谷、日本軍隊ヲシテ云ハシムレハ蔣介石ハ獨佛ノ顧問ヲ重要地位ニ用ヒ來リ又抗日ノ盛ナル時ニ於テスラ白崇禧ハ六十數人ノ日本人顧問ヲ其ノ部隊ニ配置シ之カ訓練ニ當ラシメ又糞察ニ於テモ宋哲元ハ十數人ノ顧問ヲ日本ヨリ入レタル例アリ　然ルニ之カラ愈々日支兩國ハ相提携シテ行カントスルニ際シ何カ故ニ顧問ヲ斯モ嫌惡スルヤト不思議カル次第ナリ

周、強テ誤解ノナキ樣ニスレバ過去ノ經驗ニ於テ顧問問題ハウマク行カサリシニ付止メタ方可ナリトモ云ヒ得ル次第ナリ

陶、日支兩方面ニ心配アルナランモ此ノ間ニハ時間上ノ差異アラン日本ノ心配ハ將來再ヒ戰爭カ起ルナラントノ心配ナルモ中國ノ其レハ和平カ巧ク行カサレハ戰爭カ止マサルヘシト云フニアリ

畢竟日本ノ心配ハ明日ノ朝食ノ心配ニシテ中國ノハ今日ノ夕食ノ心配ヲ爲ササルヲ得サル次第ナリ

周、六項後段ハ防共ノ所ニ入レス他ノ適當ナル所ニ出シテハ如何
影、他ニ適當ナル場所モ見當ラス「要スレハ云々」トセハ如何
周、獨立主權ノ處ニモ顧問ヲ置クコトニ言及シ此處ニモ亦出テ來アルモ其ハ不必要ナラスヤ
影、何故ニ此處ニ書クコトヲ反對スルヤ
周、防共ノモノニ非ス　從テ此處ニ書カストモ可ナリト思考ス　事實ハ同シコトナリ
清、此ノ書類ヲ其ノ儘協定スルニ非スシテ他日ノ協定締結ノ材料タルニ過キサルモノナレハ此處ニアリテモ宜シカラズヤ
周、假令正式條文ニ非スト雖モ防共ノ体裁上別ニ項ヲ設クルコト然ルヘシ
周、防共ノ軍隊ニ顧問ヲ入レルハ結局全部ノ軍隊ニ入ルルコトトナルヘシ　寧ロ部隊ニハ顧問ヲ入レスシテ戰時ニ於テハ支那ノ軍隊ヲ貴國ノ指揮下ニ入レテモ可ナリ
影、地域モ前ニアル通リ日支協力ヲ必要トスル特定ノ地域ニシテ且其ノ中ノ特定ノ部隊ニ入ルルコトトナリ居リ全般的ノモノニ非ス
周、特定區域ノ特定軍隊トスルト實際ハ困難ナラン　例ヘハ孫連仲ノ軍隊ニ入ルレハ其ノ軍隊ハ必ス事件ヲ起スヘシ
影、故ニ「必要トスル場合」トカ或ハ「有利トスル場合」等適當ナル形容詞ヲ附ケテ此處ニ規定シテハ如何
周、條文ハ當方ニテ一案ヲ作ルヘシ　貴方ニテモ案ヲ作ラレ度シ
影、文書ノ往復ヲヤリ居レハ後ニハ判ラサル樣ニナルヲ以テ合作シテ一案ヲ作製セン
周、今日ハ之ニテ閉會致度

502

昭和14年11月5日　在上海三浦大使館參事官より野村外務大臣宛（電報）

日本側提案に汪側相当疑問のため青島巨頭会議等の開催は延期のほかなしとの状況につき報告

上　海　11月5日後発
本　省　11月5日後着

公使第四號（極祕、館長符號扱）

往電第二號ニ關シ
四日東京案別紙第四ノ日支關係調整ニ關スル原則竝ニ要綱ニ付汪側ト話合ヲ進メツツアル處相當疑問アリ此ノ分ニテハ別紙第二第三等ノ論議ニ入リタル際ハ一層手間取ルコト ト察セラレ八日頃ト豫定セル青島巨頭會議ハ暫ク延期スル外ナク從テ聯合委員會モ延期スル樣關係方面ニ通報セル次第ナルカ何時頃是等會議開催ノ段取ニ漕キ付ケ得ルヤ見透シ付カサル狀態ナリ
青島ヘハ別ニ聯絡濟
北京、南京、漢口、廣東、香港へ轉電セリ

503 昭和14年11月5日

内約交涉議事録(第三回)

日支國交調整原則ニ關スル協議會
第三回會議議事要錄(扇少佐記)

十一月五日 自1000至1230
出席者 前回通リ

周佛海(以下周ト略記ス)
昨日ハ共同防共原則ヲ討議セシカ今日ハ直ニ經濟提携ノ問題ニ入ルヤ或ハ防共原則ノ殘レル部分ヲ議スルヤ
影佐少將(以下影ト略記ス)
經濟提携ノ問題ニ入ルヲ可トセン
周、經濟提携ノ原則ニ關スル冒頭ノ原則ニ就テハ趣旨ハ贊成スルモ文字ノ修正ヲ希望ス卽「互助連環及共同防衞」ヲ「共存共榮」ニ換ヘ尙「共同互惠」トアルヲ「平等互惠」ニ變更セラレ度
影、「共存共榮」ノ意ハ「互助連環」ノ中ニ含ミアリ
經濟提携ハ何ヲ中心トシテ行フヤト言ヘハ互助連環及共同防衞ノ二者ヲ實現スルヲ目的トス 卽チ例ヲ擧クレハ第二項ハ共同防衞ヲ主タル目的トシ第三項、第五項ハ主トシテ「互助連環」ノ見地ニ基クモノナリ 又第六項ハ主トシテ共同防衞ヲ目的トスルカ如シ
陶希聖(以下陶ト略記ス)
趣旨ハ了解セリ東京以來ノ話ニ依レハ經濟合作ニ二種アリ
第一ハ國防的見地ニシテ第二ハ純經濟合作ニ屬スルモノナリ而シテ國防的見地ニ依ル提携ハ蒙疆北支ニ限ル

コトトナリ居リ中支南支ハ經濟合作ノ見地ニ基クモノナリ　從ツテ前文ニ明瞭ニセサレハ國防上ノ經濟提携カ全支ニ擴大セルカ如ク考ヘラレ今後各種方面ニ支障ヲ來ス虞アリテ具合惡キニ付前文ノ修正ヲ希望セル次第ニシテ若シ之カ出來サレハ以下ノ各項目中ニ夫々明記サレ度

影、前同中國側ノ意見アリシ如ク共同防衛ヲ共同防共ニ改ムレハ地域ヲ特ニ書カストモ北支蒙疆ハ共同防共ノ見地ニ基キ其他ハ經濟合作ノ趣旨ニ基クコト明ラカナラン

陶、「互助及防共ノ實ヲ擧クル爲」ニテハ如何

防共ニ國内的ト對外的トノ兩者ノ意アリ　明確ニナルモノト思フ

影、宜シカルヘシ

（周隆庠）、共同互惠ヲ平等互惠ト改メ度シ

影、宜シカラン

周、第一項ハ資源、關稅、交易、航空、通信等ノコトナルモ第二項以下ノ各項ニ夫々規定シアリ

第一項ハ前文ノ如キ觀アリ　見ル人ニ依リ全部日本ニ奪ハルル様ニ感スルナラン　第一項ハ削除シテハ如何

清水（以下清ト略記ス）

要ハ協定ヲ締結スルコトヲ必要トスルニアリト思フ

影、「平等互惠」ト言フ文句カアリ　其ノ次ニ「前記主旨」ノ字句モアリ何モ彼モ日本ヨリ奪ラルル様ニハ思ハレサルヘシ

第一項ハ最後ニ置クモ差支ヘナシ

梅思平（以下梅ト略記ス）

最後ニ「以上ノ各項ニ付所要ノ協定ヲ結フ」ト言フカ如キ形トセハ見ルモノノ感シモ良カラン

影、字句ハ別トシ最后ニ置クコトニ對シテハ異存ナシ

周、第二項ニ就テハ之ハ非常ニ複雜ナリ先ツ文字上ヨリ言フニ「共同防衛」ヲ「共同防共」ニ「經濟的結合」ハ誤解ヲ生スル字句ナリ「經濟的提携」ニ改メテハ如何

影、「結合」ノ方カ「提携」ヨリモ緊密ナル意味ナリ「平等互惠」ニテ「結合」スルコトニ誤解起ル理由ナカラン

周、「合作」ニテハ如何

影、良カラン

周、第二項ハ前段後段ニ分チ得ヘシ
前段ハ防共地域ニシテ後段ハ其他全般ノ地域ナルカ埋藏資源ノ意味ヲ具體的ニ知リ度又特別ノ便益ノ意味ハ如何　之ニ關シテハ第一ニ便宜供與ニハ十年、二十年等ノ期限ヲ附スルコト一般人ニ好感ヲ與フヘク第二ニハ資源ハ石炭、鐵等ニ就テハ支那側モ使用致シ度必スヤ將來使用ノ事トナルヘキニ付キ支那側ニモ其使用ニツキ留保スル樣セラレ度
梅、之ニ關シ一ツ申上ケ度キハ昨年八月香港ニ於テ松本氏ト話シタル時自分ヨリ松本氏ニ日本ノ北支ニ對スル資源ノ要求ハ如何ナルモノナルヤト問ヒタルニ松本ハ石炭及鐵ナルヘシト答ヘタリ香港作製案ニ於テハ北支ニ於ケル要求資源ハ石炭及鐵ニ限定セル意味ナリキ
又全部ヲ採ル意味ニモ非サリキ卽中國ニ於テ將來必要ヲ生シタル場合全部ヲ日本ニ渡シ殘ナキニ至ルコトアラハ甚タ困ル問題ナリ　石炭、鐵ハ全部北支ニ集中シアリ　之ヲ全部日本ニ渡セハ將來重工業ヲ必要トスル時困却スヘシ　勿論現在ハ其ノ時機ニ非ラサルモ矢張一部ヲ留保シ置キ度キ旨話シタル處松本ハ當然ノコトナリト答ヘタリ
斯ク言フ理由ハ中國ノ國防資源カ殆ト北支ニ集中シ、全部日本ニ渡セハ殘リハ無キニ付キ相談セシモノナリ
年限ノコトニ就テハ其ノ際ハ觸レサリキ　上海會議ニ於テモ話ハ出サリキ
影、松本ノ言ツタ事ハ間違ヒトハ思ハナイ　石炭、鐵ニ限ルヤ否ヤハ簡單ニ斷定シ兼ヌルカ之等ヲ主トスル國防上ノ埋藏資源ナリト理解セラレ度シ
小池（以下小ト略記ス）
埋藏資源ト書キアルモ廣ク解釋スルモノトハ思考シ居ラス唯國防資源トハ鐵、石炭ノ外最近輕金屬資源ハ國防上極メテ重要ナル地位ヲ占ムルニ至レリ　此處ニ於ケル國防資源トハ國防上必要ナル資源ノ意味ナリ又日本カ全部持チ行クト見ルハ誤解ニシテ採掘セル一部ハ勿論支那ニテモ使フモノナリ　現有熔鑛爐ヲ運營活用スルタメニ鐵、石炭カ必要ナルモノニシテ今後建設スル熔鑛爐ハ合同シテ建設シ其ノ製品亦日本ニ於テ使用セルモノノ殘ハ支那ニ於テモ使用セントスルモノナリ
影、日本側ニ奪ハルルトノ愆（杞カ）憂ヲ一掃スル爲メ互惠平等ノ

意味ニ文章ヲ書キ直スモ不可ナシ年限ノ問題ハ何年迄ハ合作シ其ノ以後ハ合作セスト言フカ如キ意味トナルハ思ハシカラス　協定ニ譲ルヲ適當トセスヤ

梅、一案ヲ擧レハ左ノ如シ

「埋藏國防資源ハ中國ノ必要量ヲ自用ニ供スルノ外○○年内ハ特別ニ日本ニ便宜ヲ供與ス」ノ如キ意味ノモノトセハ如何

清、原文ハ開發ニ關シ更ニ積極的意味ヲ有シアリ　梅氏案ハ國防資源ノ利用ニ關スル事項ヲ示スコトトナル

影、○○年内ノ如ク年限ヲ附スルハ協定ニ入ルヘキ問題ニシテ此處ニ書クハ同意シ難シ

小、「特別ノ便益」カ誤解ヲ招キ居ルニ非サルカ問題ハ日本カ何ヲ求メテ居ルカニ存スヘシ具體的ニ言ヘハ地下埋藏資源ヲ採ルニハ如何ナル便益ヲ必要トスヘキカ大量ノ採掘ニ當リテハ個人ニテハ不可能ナルヲ以テ日支大規模ニ提携合作スルヲ要ス　之カ爲ニハ現在何カ障碍トナルカト言ヘハ第一ニ當面スルハ中國ノ鑛業法ニシテ外國ノ資本カ參與シ得サル狀況ニ於テハ不可能ナルヲ以テ提携ノタメニハ之カ一部ノ修正ヲ必要トス例ヘハ某額ノ資本ヲ要スル場合中國カ全部ノ負擔ニ堪ヘ得ストセハ殘リハ外國ニ仰カサルヘカラサルモ現行法律ニ於テハ不可能ナリ故ニ之カ適宜ノ修正ヲ必要トスヘク玆ニ特別ナル便益供與ノ必要ヲ生スル次第ナリ

梅、斯ル話ヲ聞ケハ當方ノ心配モ相當輕クナリ安心シ得ヘシ

周、「便益」ハ權益ノ意味ヲ含ムヲ以テ修正セラレ度シ

影、近衞聲明ノ用語ニ照シ「便宜」ト變フルコトハ異存ナシ

谷萩(以下谷ト略記ス)

「協力シテ開發シ利用ニ關シテハ中國ノ需要ヲ考慮スルコトトシ日本側ニ特別ノ便宜ヲ供與スル」ノ意トスレハ可ナルヘシ

須、鑛業法ノ改正モ其ノ一ナルモ米國ニアルカ如キ大規模ノ鑛業用鐵道ノ敷設ヲ必要トスヘク之等鐵道敷設等ニハ年限ヲ附セラレテハ實施不可能ナリ

周、後段ノ方其他ノ地域ニ關シテハ影佐少將ノ言ヘル通リ全國的ニシテ其ノ次ニ在ル「國防資源」ノ意味ト認ム然ラハ「必要ナル便益」ト書カス　上海會議ニ於ルカ

如ク日本ニ優先權ヲ與フル樣ナ意味トスルヲ可トス然ラサレハ誤解ヲ招ク虞アリ卽日華協議記錄中ノ「其他ノ地域ノ國防資源ニ就テハ日本ニ開發利用ニ關シ優先權ヲ與フ」ノ如クスルニアリ

梅、日華協議記錄中第四條前段ト了解事項第二項トヲ全部此處ニ持チ來リ一緒ニシテ別ニ一項ヲ設クル事トシテハ如何

周、全部變フルハ妥當ナラサルヘシ「其他ノ地域ニ於テモ特定資源ノ開發利用ニ關シ優先權ヲ認ム」トシテ其レニ了解事項ノ第二項ヲ附スルヲ適當トスヘシ

影、優先權ノミトセハ消極的トナル鑛業法等ニテ外國ニハ許ササルコトトナレハ日本モ便宜ヲ受ケ得サルニ至ルヘシ更ニ積極的ニ日本ニ便宜ヲ與フルコトコソ經濟合作ナリ

清、協議記錄ノ優先權ハ全般的ノモノナルモ此處ニ言フ特定資源トハ國防資源ニシテ特別ノモノナリ

小、現在維新政府等ニ於テ如何ナル特別ノ便宜ヲ與ヘ居ルカヲ了解セハ此ノ間ノ情況ハ分明スルナラン　華中鑛業會社ハ資本及重役何レモ日支半々ニシテ維新政府ノ特殊會社トシテ鑛業權ヲ有シ所要ノ開發ヲナシアリ產品ハ日支ニ於テ共用シツツアリ　斯ル措置ハ特別ナル便益ト言フヘシ

右ノ一例ニテ解ルコトト思フモ誤解ヲ防クタメ更ニ附ケ加フレハ現在日本ノ手ニテ鐵鑛石ヲ出シ居ルモ之ハ輸出シアルモノニシテ適當ナル價ニテ買ヒアリ　無償ニテ持チ行クモノニ非ス北方ニ於テモ同樣ナリ

梅、當方ノ一般人ノ最モ恐ルルハ第三國ノ資本ノ驅逐セラルルコトニ非スシテ幼稚ナル中國ノ資本ヲ驅逐セラルルコトニアリ、言ヒ換フレハ獨占的ノモノニテハ不可ナリ、例ヘハ中國人カ鑛山ヲ發見シテモ華中鑛業會社ヲ通セサレハ採掘出來ス　斯ル狀況ハ中國ノ資本ヲ壓迫シテ租界ニ追込ミ米國爲替ノ買入其他經濟原則ニ合ハサル使途ニ當ツルカ如キ事態ヲ馴致ス　我々トシテハ極力之ヲ避ケ度考フルモノナリ

小、今ノ話ニハ大ナル誤解アリ會社ノ性質ヲ了解セラレアラサルモノト認ム　會社ハ鑛業權ノ「**ホールデイングコンパニー**」ニシテ採掘スルハ又別ノ適當ナル人ニ行ハシムルモノナリ　先願主義ニ依レハ第三國人ノ手ニ

権利カ移ル處アリ、依テ國防上重要資源ノ第三國人ヘノ逃避ヲ防キ又未開發ノモノヲ開發セントスルモノニシテ決シテ開發ヲ自分ノミニテ爲スモノニ非ス實際ノ採掘ハ中國人ニテモ誰ニテモ適當ナル人ヲシテ之ヲ行ハシムルナリ　本會社ハ斯ル機關タルトコロニ重要性アリ　非常ニ解リ難キ形ナルニ付後日更ニ詳シク說明シ了解ヲ深ムルコトトスヘキモ兎モ角資源ノ逃避及未採掘ノ儘埋藏セラルルヲ防キ經濟原則ニ合致スル如ク指導シ行カントスルモノニシテ獨占主義ニ非ス

周、本題ニカヘリ優先權ノ話出タルモ優先權ノミニテハ第三國ノ關係アルタメ不充分ト言ハレタルモ中日間タケノ關係ニシテ「必要ナル便宜」ノ外更ニ適當ナル字句アラハ研究シ度

小、第二項ハ重要ナル問題ナレハ意見アラハ御遠慮ナク申サレ度尙研究ノ上修文ヲモ考慮ノコトト致シ度

犬養（以下犬ト略記ス）

必要ナル權利ヲ確保シテ不要ナル恐ヲ與ヘサル如キ文字ヲ更ニ研究スルノ要アルヘシ

周、第三項ハ必要ナル援助ト云フカ趣旨ハ問題ナキモ誤解ヲ避クルタメ文字上ノ修正案ヲ考ヘテ見タシ　卽チ日本ヨリ權利的ニ援助ヲ押シ付クルノ感ヲ避クルタメ「一般產業ニ關シテハ日本ハ中國ノ要請ニ應シ資本及技術上ノ援助ヲ與フルコト」トセハ如何

影、宜シ其意味ナリ

周、農業ノ部ニ就テハ「中國ハ其改良及增產ヲ計ルタメ日本ハ中國ノ要請ニ依リ技術上ノ援助ヲナス」ノ意ト致度　此處ニ資本ヲ云ハサルハ殖民地的傾向ヲ避ケンカタメナリ　卽チ日本カ地主トナリ中國農民カ小作トナルカ如キ事態ヲ避ケンカタメナリ　棉ニ關シテハ日本カ金ヲ貸シ農民ハ棉ヲ日本ニ買上ケラルルコトトナラハ此ノ際不法買價トナル傾向アリ、中國政府ニ於テ日本ノ資本ヲ借リ、之ヲ農民ニ貸スコトトセハ圓滑ニシテ且實際上ハ日本ヨリ資本ヲ入ルルコトトナリ好都合ト考フ

影、中支ニ於テハ斯クノ如クナシアリ　棉花改進會ハ中國資本ニテ運營シ日本人ハ技術上ノ援助ヲ與フル爲ニ入リアリ　農業ノ部ハ主トシテ棉ト羊毛ノコトニシテ之ハ日本トシテハ國防重要資源トシテ貴方カ考フル以上

ニ切實ナル問題ナリ、特ニ重要視シ在ルコトヲ考慮セラルルヲ要ス

陶、羊毛、棉ニ關シテハ兩者其ノ趣ヲ異ニス羊毛ハ主トシテ山西、河北ノ北部ニ產シ未タ發達シアラス山西省ニ於テ閻錫山カ手ヲ付ケタルノミ牧場ト關係アルモ河北ノ居庸關以北及山西省ノ一部ノミナリ　羊毛ニ關スルモノト棉ニ對スルモノトハ其要求ニ於テ同シカラス棉ニ就テハ中國自體トシテモ重大ナリ　先ツ日本カ棉ヲ要求スル上ニ於ケル方法如何ノ問題ナルカ大體ニ於テ六十年來北支ノ小麥生產額ハ次第ニ衰ヘ來レリ　原因ハ麥粉ニスル工業的過程ニ近代化學的要素カ入リ製粉工業ハ米國ニ比シ極メテ幼稚ニシテ生產費騰リ製品ハ外國ニ仰クノ外ナキニ至レリ　之カ爲農民ハ大ナル不利ヲ受ケ小麥ノ作付ニ控目トナリ別ニ他ノ生產ヲ考フルニ至レリ　卽チ農民ノ棉作ニ轉向スルモノ漸增シ特ニ河北ニ於テハ之カ植付急增セリ　河南北部河北山東各省等亦小麥ヨリ棉ニ變リ重要性ヲ持チツツアリ之カ原因ハ棉カ輸出可能ナルコトニアリ之カタメ北支農民ノ收入ハ增シタルモ食量ハ不足シツツアリ斯ル趨勢ニ付日本カ自給ノ原則ニ依リ棉ヲ吸收セハ大ナル勢ヲ造成スルコト必然ナリ　然レ共最近何年カハ日本ノ棉吸收ノ方法カ自給ヨリモ獨占的トナリ棉ヲ植付ケテモ利益ヲ得ルコト不可能トナレリ　其責任カ全部日本ニ在リト云フニハ非ス地方ノ搾收ニモ依ル所モアルヘシ　小麥ヨリ他ノ生產ニ轉スルモ有福ナラス唯一ノ收入ナリシ棉カ有利ニナラサル爲農村破產ノ重大問題トナリツツアリ　日本ハ棉ニ對スル要求ニ付テハ誰ニテモ了解シ得ルカ如キ原則ヲ採用スルノ要アルヘク華北農民ヲ殺スカ如キ事ナキ樣注意ヲ願ヒ度棉ハ國防工業ノ原料タルト同時ニ輕工業ノ原料タリ日本ニ對シテハ國防資源トナリ中國ニ對シテハ輕工業資源タルヘク更ニ半成品トシテ中國中層下層ノ生活必須產業トシテ收入ノ源ヲナスモノニ付其ノ間ノ調節ヲモ考慮ヲ要ス　次ノ問題ハ北支ト滿洲トノ食料品ノ需給關係調節ニ關スルモノナルモ食料ハ現在北支ニ於テ不足シ滿洲ニ於テハ潤澤ナリ　最近滿洲ヨリノ供給減少シ平津ニ於テスラ缺乏シアリテ北支一般ノ重大問題ナリ　此等ノ調整合理化ニ就テモ考ヘラレ度

犬、陶氏ノ農村輕工業ニ關スル集約的說明ニ關シ日本ニ在リテモ農村ニ於ケル類似ノ現象ニ對シ適切ナル組合精神ノ適用ニ依リ有效ナル成果ヲ擧ケツツアリ　卽チ愛知縣ニ於テハ羊毛工業カ農家ノ副業トナリ新潟縣ニ於テハ自轉車等ノ部分品ヲ農家ニ作製セシムルコトトシ優秀ナル製品トシテ米國ニモ輸出セラルルニ至リ個々ノ農家ヲ有福ナラシムルト共ニ農村全般ノ發達ニ對シテモ寄與セル所大ナルモノアリ　中國ニアリテモ合作社ヲ發達セシメ日本ノ組合精神ヲ傳フルコトトセハ有效ナルヘシ

小、棉花ノ作付ニ依リ收入カ減ルコトニ關シテハ維新政府ニ於テモ具体的ニ研究中ニシテ合作社ヲ改造シテ組織ヲ發達セシムル如ク努メツツアリ　今年日本ヨリ良好ナル種子ヲ移シタル處八割乃至十割ノ增收ヲ見タリ之ヲ公定價額ニテ賣却シツツアリ　小麥粉ノ問題ハ關稅政策ニ由來シ世界ノ「ダンピング」ノ市場トナレルコトモ重大ナル原因ナリ

（十五分間休憩）

影、農業ノ問題ナルカ周氏提案ノ「支那側要請アラハ日本ハ技術的援助ヲ與フルコト」ニテハ日本側ノ國防資源ノ考慮ヨリセハ不充分ナリ　同時ニ陶氏ノ云ハレタル點ハ日本側トシテモ考慮ノコトトシ缺點ノ修正ヲ加ヘツツ日本側ノ要求ヲモ充足スル如ク明瞭ナラシムルコト必要ナリト認ム

周、影佐少將ノ言ハレシ第三項農業ノ件ヲ第五項後段「日滿支就中北支間ノ物資需給ヲ便宜且合理的ナラシムルコト」ノ所ニテ議スルコトトセハ如何

清、問題ハ需給ニ非スシテ改良增產ニアリ

周、農業ニ關シテハ中國ハ之カ改良及增產ヲ計ルタメ日本ハ中國ノ要請ニ應シ所要ノ援助ヲ與フルコトトシ需給ノ問題ハ第五項ニテ相談ノコトト致シ度シ

陶、增產ノコトハ三項ニ書キ棉花需給ノコトハ五項トシ滿洲北支間ノ食料其他交換關係ヲ併セテ議スルコトト致シ度シ

犬、國防上ノ問題トシテ棉羊毛ノ問題ヲ書キ其代リ滿洲北支間ノ食料品ノ問題ヲモ互惠的ニ書クコトトシテハ如何

谷、農產ニ關シテハ第三項ニ於テ增產ヲ圖ルコトヲ定メ第

五項ニ食料ノ問題ヲ定ムルヲ可トスヘシ

周、第四項ニ就テハ「中國ノ要請ニ依リ」トスルノ外「財政金融(特ニ新中央銀行ノ建設、新法幣ノ發行及爲替ノ統制ニ關シ)經濟政策ノ確立ニ關シ日本ハ所要ノ援助ヲ爲スコト」トセラレ度シ

小、財政金融ノ援助トハ今言ハレタル如キ意ナルモ之ヲ書クコトハ思惑カ起リ經濟上惡影響アルヘキニ付書カサルヲ可トスヘシ

周、本文ハ發表セサルモノナルニ付書キ入レ度シ我々ノ同志カ此ノ項ニ虞ヲ抱クハ華興銀行兌換券ヲ中央政府ニ充當スルノ危惧ヲ有スルモノニシテ今一ツハ爲替統制ノ問題ナリ　卽チ英米ヲ主トスル第三國ニ對シ大量ノ商品輸入ニ伴フ資金ノ逃出ヲ防ク爲統制ヲ加フルノ要アルヲ以テナリ

小、金融ノ問題ハ結局管理通貨ノ問題ニシテ國際收支ノ調整ハ當然ナルニ付經濟政策ニ對シ日本カ援助スルコトハ之等ニ關シ援助スルノ意ナルコトハ明白ナリ

周、「新中央銀行ノ設立新法幣發行等」トシテハ如何

影、一應同意ヲ表ス

周、經濟金融ニ次キ軍票ノコトニ就キ希望致シ度シ平和成立セハ軍票ノ增發ヲ停止シ且自發的ニ額面價格ニテ回收サレ度シ中國側ヨリ新法幣又ハ聯銀券ニテ回收スルモ可ナリ　之ヲ以テ額面價格ニ依リ爲替決濟ノ資金ニ充ツルモ一法ナリ　日露戰爭後日本ハ滿洲ニテ銀行券ヲ發行シ軍票ノ下落セル時之ヲ回收セリ　斯クスル時ハ現地一般民衆ハ損失ヲ受クルニ付額面ニテ輸入貨物ノ決濟等ニ充ツルコトト致度シ斯ク要望セル理由ハ今次事變ハ普通ノ戰爭ニ非ス　戰爭ナラハ軍票回收ハ問題ニ非ルヘキモ今次ノ戰ハ普通ニ非ルヲ以テ一般民衆ヲ敵トセサル趣旨モアリ無制限ニ金ヲ取ラルルコトノ危惧ヲ避クル爲速ニ軍票ヲ回收セラレンコトヲ希望スルモノナリ

小、軍票ノ價値ヲ維持スルコトハ國內ノ貨幣價値ヲ維持スルト同樣ノ必要性ヲ有スルモノナルニ付之ヲ回收スルコトハ勿論ナルモ其ノ際モ矢張リ國內貨幣ノ維持ヲ考慮セサルヘカラス　軍票ノ下落スルコトハ民衆ノ苦痛タルト同樣ニ日本貨幣ノ價値モ下ルニ付日本ノ民衆モ苦ムモノナリ　日露戰爭ノ際ノ例ハ誤解ナリ當時日本

ハ軍票一圓ハ銀一元ト交換セルモノニシテ安ク回収セリト云フハ支那人間ニ於テ投賣リセルモノニ過キス日本ノ銀行ニ請求セハ全額拂出ノ準備ハ爲シアリタルモノナリ　繰返シ云ハンモ軍票ヲ回收スルコトハ日本貨幣ノ價値維持上當然ノコトニシテ否ラサレハ日本自体カ困ルモノナリ　故ニ此處ニ書クノ要ナシト認ム

犬、石渡氏カ來レル後ニ非レハ決定ハ困難ナルヘシ　銀ニ依ル等價決濟ノ問題乃至ハ物資ニ依ル決濟等互ニ關連シテ機微ナル問題ナルニ付俄ニ決定シ難シ

影、軍票ノ問題ハ後日ニ讓リ度シ

周、唯今提案セル辨法ハ我方研究ノ結果現金ノ決濟不能ニ付斯クスルコトヲ必要ナリト結論セルモノナルヲ以テ何レノ條項ニ置クモ宜シク又過渡的辨法程度トスルモ差支ナキニ付書入レラレンコトヲ希望ス

影、過渡的辨法研究ノ際改メテ所見ヲ承ルヘシ

周、第五項ハ前段ニ付左ノ通文字上ノ修正ヲ行ヒ度シ

「交易ニ關シテハ平等互惠ノ關稅稅率ヲ採用シ以テ中日滿間一般的通商ヲ振興シ同時ニ中國ノ海關制度ハ獨立自主タルコト」

清、海關制度ハ日本カ侵害セントスルモノニ非ス此處ニ云ヘルハ海關手續程度ノモノニシテ根本的制度ニ非スト思考ス制度ノ中ニモ日本人ヲ入ルルコト等ノ問題モアルヘク海關其ノ物カ自主獨立タルコトハ問題ナシ

矢、貴方ノ云ハルル自主ノ意味ニ付伺ヒ度モ全然日本人外國人等ヲ斥ケ中國人ノミトスルノ意嚮ナリヤ　若ハ中國ノ法令ニ從ヒテ運營スルノ意ナリヤ

周、主權尊重ニ關スル最低條件ノ中ニ海關吏ノコトヲ記シアリ　此處テハ行政上ノ獨立自主ノ意味ナリ

矢、然ラハ玆ニ今更云ハストモ既ニ獨立自主ハ存在スルニ非スヤ

周、必要ナケレハ海關制度ニ觸レサル様ニ書クコトニ關シ尚研究スヘシ

影、海關制度ノ意義ニ就テハ尚研究スヘシ

周、後段ノ「物資ノ需給ヲ便宜且合理的ナラシム」ノ項ニテ「日滿支就中北支間云々」トアルモ之ノ意味ハ如何

多分「日滿ト中國殊ニ北支トノ間ニ云々」ノ意ナルヘキヲ以テ此處ニ「中國側ノ自給ヲ除キ」ノ字句ヲ入レラレ度

周、當方トシテハ「中日殊ニ北支間ノ物資需給ニ付テハ自給ヲ妨害セサル範圍ニ於テ相互ニ便宜且合理的ナラシムルコト」ト致シ度

右修正案ノ要點ハ自分テ用フルモノヲ除キタル外ハ便宜ヲ圖ルヘシト云フニアリ　換言セハ片面的ニ非スシテ兩面的相互的ナル意味ヲ持タシメタルモノニシテ殊ニ華北ノ食料問題ノ如キヲ重視シアリ　其他尚附加ヘテ卵、生糸及棉ノ問題アリ之等ハ全ク獨占セラレ爲ニ對外貿易資金ヲ失ヒタリ故ニ

「中國ノ對外貿易ハ中國政府ニ依リ自主的ニ之ヲ統制ス」ノ文句ヲ入レ度シ之モ第三國ニ對スル關係ナリ

小、現實ノ問題トシテ自主的ナラストスルヤ生糸ノ問題ニ付テ考フルニ華中蠶絲會社ハ中國ノ會社ナリ　生糸ニ關スル限リ日支協調セサレハ米國ニ左右セラルヘシ生糸ヲ賣レハ支那ノ外貨トナルコト勿論ニシテ單ニ輸出ヲ協調シテ第三國ニ利セラレサランコトヲ期シアルノミ

周、念ヲ押スヲ目的トスルモノナルニ付「自主的」ヲ書入レタシ

小、事實ヲ正解セハ書入ルルノ要ナシト思フ　此處ニ入ルレハ他ハ自主的ニ非ストノ意味トナルヘシ　卵、茶等ハ放ツテ置ケハ重慶ノ爲替受取トナルニ付維新政府ノモノトスル爲ニ處置ヲ執リタルモノナリ　誤解ヲ一掃サルレハ記入ノ要ナシ寧ロ日支間ノ恥ナルヘシ

犬、小池氏ノ言ハ正當ナリト認ム唯問題ハ維新政府ト中央政府トノ行政的引繼ニシテ云ヒ換フレハ外貨ヲ華興商業銀行ニ入ルルカ又ハ新中央銀行ニ入ルルカニシテ外貨ヲ何處ニ保管スルカカ新中央政府ノ信用ニ關係スヘキヲ以テ其ノ意味ニ於テ要望スルモノナラン

周、然リ

影、主權尊重ニ關スル最低限度ノ要望事項中ニ入ルルヲ可トセン

周、其レニテモ可ナリ

周、第六項ハ頗ル複雜ナリ　先ツ初ノ所ナルカ之モ前例ニ倣(傚カ)ヒ「中國ノ要請ニ依リ資本及技術上所要ノ援助」ト直シテ貰ヒ度シ

影、之ニハ「協力」ノ文字カ大切ニシテ積極的ノ意味ヲ有シ假令支那側ニ於テ好マストモ國防上是非共之ハ協力

スルコトヲ必要トスルモノアルヘシ

梅、共同防共ノ第五項ニアルニ非スヤ

周、(ママ)揚子江下流ノ水運、通信等ハ共同防共ト關係ナシ　支那沿岸ノ海運、日支間ノ海運等亦然リ

影、夫レ等ハ日支經濟提携ノ見地ヨリ說明カツクヘシ

須、沿岸、內河ノ測量ノ如キハ從來海關ニ於テ實施シ來リ纔ニ事變前支那海軍カ漸ク一部ノ測量ヲ行ヒタルニ過キス　現在日本カ作戰警備ノ必要ニ基キ所要地域ノ測量ヲ實施シ初メテ信賴スルニ足ル成果ヲ得ツツアルモノニシテ測量ノ如キハ緊密ニ協力シテ行フニ非サレハ到底發達ヲ期スルヲ得ス

扇、氣象ノ如キモ日本ノ氣象ヲ知ラスシテ支那氣象ノ完全ナル發達ヲ期待シ難ク同樣ニ支那大陸ノ氣象ハ日本近海氣象判定上不可缺ナリ　兩者ト有機的ニ結合統制サレテ初メテ完全ヲ期シ得ルモノナルヲ以テ最緊密ニ協力セラルヘキモノナリ

影、支那側カ押付ケラルルコトヲ恐ルルト同樣ニ日本側ハ支那カ「要請」スルカ否カニ疑問カ起リ得ヘキナリ萬一支那側ニシテ要請セサルニ於テハ其レ迄ニテ終リナリ　之ノ點モ亦充分考ヘサルヘカラス

周、日本側ニ於テ不安アリト云フモ其ノ內容ハ二通リアリ其ノ一ハ支那カ第三國ニ對シテノミ要請シ日本ニ對シ要請セサル場合ニシテ其ノ二ハ支那カ初ヨリ要請セサル場合ナリ　然レトモ第一ノ場合ハ有リ得ス　原則上優先權ヲ有シ日本ハ強硬ニ抗議シ得レハナリ第二ノ場合ニ於テハ要請スルヲ好マサルノ理由ニ依リ不發達ノ儘放置スルカ如キ現象トナリ何レニスルモ斯ルコトハ全面的國交調整ノ上ハ絕對ニアリ得サルコトナリ

影、絕對アリ得サルナラハ明記スルニ如カス

周、先ノ文句ノ下ニ「若シ要請スル時ハ先ツ日本ニ對シテ行フ」ノ意ヲ入レテハ如何カト思フ　尙次ノ問題ヲ檢討シタル上再ヒ此ノ問題ニ歸スルコトト致度

周、全支ニ於ケル航空ノ發達ニ就キテハ喜ンテ協力ヲ受ケ度其方法ハ歐亞航空會社中國航空會社ノ前例アリ　今後ハ日本ト協力シテ其實ヲ擧ケ度キ希望ヲ有ス　從ツテ之ニ關スル諸事項ハ前例ニ依リ度シ

須、前例ハ政府ニ於テ如何程ノ補助金ヲ支出セルヤ

中華航空會社ノ爲ニハ我方ハ既ニ五〇〇萬圓ヲ支出セリ　今後ハ更ニ一千萬圓モ要スルナラン　斯ル多額ノ資金ヲ要スルニ付該航空會社ハ最近五千萬圓ニ增資セリ

小、航空協力ノ爲準備中ノ方法アリ　現存中華航空公司之ナリ　之ハ臨時維新兩政府及蒙疆三政府カ日本ヨリ資力ヲ得テ航空事業ヲナシ居ルモ之ハ新政府ニ移管スル豫定ニテ待機中ナリ　中國ノ會社ニシテ中國ノ獨立ヲ保全スル會社ナリ

影、本席ニ於テハ重點トスル原則ノミヲ討議シ具體的辨法ハ別々ニ定ムルコトトシ方法論ニハ入ラサル如ク致シ度シ

周、中華航空公司ヲモ加ヘテ折衷案ヲ考ヘ度歐亞中國兩公司ヲ參照シテ別ニ辨法ヲ作ルノ意味ヲ加ヘ度シ

小、今ハ其要ナシト認ム

周、卒直ニ云ヘハ同志ニ說明スルニ際シ通過ヲ容易ナラシムル爲日本ニ全部ヲ握ラルルモノニ非ストノ意味ヲ加ヘントスルモノナリ

犬、支那側ヲ安心セシムル爲ニ何等カノ考慮ヲ加フルコトハ適當ナルヘシ

影、他ニ覺書ヲ作レハ可ナルヘシ

周、以上ノ討議ノミニテハ全般不明ニ付終マテ討議致シ度シ　最後ニ體裁ヲ研究ノコトトスヘシ

航空ハ資本及技術ヲ要請スルコトトシ其ノ具體的方法ハ歐亞、中國及中華三會社ノ例ヲモ參照シ別ニ定ムルコトト致度

鐵道ニ關シテハ一般的ノモノハ主權尊重ノ最低條件ニ關スル要望事項ノ回答中ニ記シアリ原則トシテハ返還ノコトトシ投資セルモノハ借款トナシ工務及會計ノ人員ハ日本側ヨリ入ルルコトトシ差支ナシ　北支ニ在リテハ防共トノ關係上別ニ便宜ヲ與フルコトト致シ度

次ノ海運、水運ニ關シテハ三種ニ區別シ得ヘシ卽チ

一、日支間海運

二、中國沿岸海運

三、揚子江水運

ニシテ其ノ中第一、ハ日支合辨ニテ可ナリ　第二、第三、ニ付テハ從來ハ中國國營、公營及民營ノモノアリキ招商

局ハ國營ニシテ三北會社ハ民營ナリ
是等ノ二種ハ從前通恢復致シ度シ　其他ハ日支合作ニ依リ恢復ヲ希望ス　北支及揚子江下流ノ通信ハ支那側ノ要請ニ依リ資本及技術者ノ援助ヲ仰キ度シ　鐵道、海運、水運ト分チ說明シアルニ付航空ニモ制限ヲ付シ度シ
又別ニ「以上各項目ノ行政權及管理權ニ關シテハ日本ハ中國ノ獨立完整ヲ尊重ス」ノ意ヲ加ヘラレ度シ
影、此處ニ行政權トカ管理權トカヲ出スハ奇異ノ觀アルヲ以テ主權尊重ノ項ニ加フルヲ適當ト思考ス
影、返還ト云フハ日本カ奪ツタ樣ニ思考シ得ヘキモ奪ツテ居ル筋合ノモノニ非ス
周、返還ハ用語ノ誤ナリ　前言ヲ取消スヘシ　社營ノモノヲ國營ニ移管スルノ意ナリ
梅、現狀ハ國有民營ナリ　只今日本ノ資本入リ居ラハ之ヲ借款ニ代フルノ意ナリ
影、海運ニ公營ノモノアリヤ
梅、省政府市政府ノ經營ノ如シ　公法人ノ經營ナリ
須、第六項中全支航空及北支鐵道ハ軍事上ノ關係ヨリシテ日本カ之ニ關與シ第三國ヲ斥クルモノトス
通信ノ如キハ日支協力セサレハ發達セサル可ク互ニ防(妨カ)害セサル爲統制カ必要ナルヲ以テ協力シテ經營セントスルモノナリ　主權ノ侵害ニ非ス
海運ノ如キモ支那ノミニテハ船少ク爲ニ日支合理的經營ニ依リ優良ナル成績ヲ擧ケントスルモノナリ　英國ノ大ナル勢力アルヲ以テ之ニ對抗センカ爲ニハ日支一丸トナルヲ要ス　統制經營ト軍事上ノ問題トハ別個ニ考フルコトヲ得ヘシ
影、結論的ニハ航空、海運及通信等ニ關シ貴國ノ要望及目標ハ之ヲ了解シ得タリ具體的問題ニ關シテハ日本政府ノ意圖モ尙不明ナルニ付篤ト研究スルコトト致シ度シ
周、本件ハ保留スルコトニ致シ度シ　前述ノ意見ニモ鑑ミ熟考セラレ度シ
周、第七項ノ新上海建設ノ件ハ同志ノ意見未タ不一致ナルヲ以テ之カ討議ハ次回トセラレ度シ
周、終ノ部分ニ上海會談中ニ記載セラレアル難民救濟ノ事項ヲ含メラレ度シ
影、異存ナシ

周、昨日迄ニ保留シタル事項ニ關シ少シク討議致シ度シ
影、宜シカラン
周、顧問ノ問題ニ入リ度シ
影、前回ノ會談ニ於テ留保セル顧問ノ條項處理ニ關シテハ當方研究ノ結果共同防衛原則中ノ分ト善隣友好原則中ノ分トヲ一緒ニ纏メテ最後ニ置クコトトシ備考ヲ止メテ第四「其他」トシテ入レテハ如何
一試案左ノ如シ
「日本ハ支那ノ要請ニ基キ顧問ヲ新中央政府ニ派遣シ新建設ニ協力スルコト　特ニ強度結合地帶ニ於テハ所要ノ機關ニ顧問職員ヲ派遣スルコトヲ得ルコト　但シ細項ニ關シテハ別ニ協定スル所ニ從フコト
支那軍隊及警察隊建設ノ爲別ニ協定スル所ニ從ヒ軍事顧問及教官ヲ招聘派遣シ又ハ武器ノ供給ニ應スルコト」
周、中國人民ノ懼ルル所ハ第一ハ軍備制限ナルモ本日ハ之ニ觸レサルコトトス
第二ニハ顧問ノ問題ナリ　卒直ニ云ヘハ一般人ハ華北ノ喜多中將、華中ノ原田中將ノ兩者ヲ見テ頭痛ノ種トナシ居レリ「別ニ規定ス」トスルハ又心配ノ懸ルトコロナリ　更ニ日本案ニ就キ研究ノ上回答スヘシ
影、日本側モ顧問問題ヲ重要視シアルコト貴國側ト同シ其レハ何國ノ顧問ヲ何ノ程度ニ入ルルカニ依リテ新中央政府カ何國ニ依存スルカヲ察シ得ヘク從ツテ日本トシテハ中國カ歐米依存ヲ如何程ニ淸算スルカヲ確然ト見分ケ得ヘシ　換言セハ中央政府カ何レノ方向ニ向クカヲ見分クル「**バロメーター**」トモ云フヘシ決シテ貴方ノ恐ルル顧問ヲ入レテ掻キ廻スノ意圖ニハ非ス
梅、具體的ニ協議シ其ノ內容ヨリ歸納シテ簡單ナル規定ヲ作製致シ度シ
須、防共駐兵ト治安駐兵トヲ分クルコトニナリアルカ故ニ第四ニ於テ治安維持ノ項ヲ設ケ又第五其他ノ項ヲ作リテ整理スルヲ可トセン

504

昭和14年11月6日　在上海三浦大使館參事官より野村外務大臣宛（電報）

日本側提案を原案通り汪側に認めさせることは到底不可能な情勢につき報告

上　海　11月6日後発
本　省　11月6日後着

公使第七號(極祕、館長符號扱)
一日ノ興亞院會議ニ於テ閣下ヨリ中央政治會議指導要領案別紙二乃至四ニ對シ支那側ヨリ合理的申出アラハ相當ニ之ヲ考慮スルノ要アル旨ノ意見ヲ開陳セラレ他ノ閣僚ハ之ニ異議無カリシ由ニ承知シ居ル處別方面ヨリ總理ハ右ヲ認メス要領案ハ確定的ノモノナル旨ヲ強調サレタリトノ聞込アリ眞相如何ヲ懸念シ居ル際更ニ日支新關係調整案(別紙第四)ヲ近ク閣議ニ於テ決定セラルル趣仄聞スル處目下現地ニ於テ陸、海、外係官協力シ影佐少將ヲ助ケ支那側ノ指導ニ努メツツアルモ相當ノ困難ニ逢着シツツアリテ(之カ爲別紙第二第三ニ未タ觸ルルニ至ラス)所要ノ修正ヲ行ハスシテ原案ヲ其ノ儘認メシムルコトハ到底不可能ナル情勢ニアリ若シ本案ヲ閣議ニ掛クルコト必要ナル場合ニ於テモ其ノ決定ニ當リ相當伸縮性ヲ殘シ置カルルニアラサレハ汪工作ハ斷念スル外ナカルヘシト觀察セラルルニ付テハ右ノ點明確ニ條件附決定ヲ見ル樣御高配相仰度シ

(欄外記入)
要領案ハ確定的ノモノナル旨ヲ強調サレタリトノ聞込アリ眞相如何ヲ懸念シ居ル際更ニ日支新關係調整案(別紙第四)ヲ近ク閣議ニ於テ決定セラルル趣仄聞スル處目下現地

(欄外記入)
東亞局長ヨリ外務大臣ニ經過ヲ伺フコトトナリ居レリ

505
昭和14年11月6日　在北京門脇(季光)大使館二等書記官より野村外務大臣宛(電報)

新中央政府への参加に否定的な臨時政府要人の見解について

北　京　11月6日後発
本　省　11月6日夜着

第一一五六號(極祕、館長符號扱)
往電第一一五〇號ニ關シ
一、連絡部係官ノ內報ニ依レハ五日喜多長官ハ行政委員會各委員ニ對シ東京案ニ基キ國交調整及北支ト新中央政府トノ關係ニ關シ概要ノ說明ヲ爲シタルカ其ノ際朱深、王揖唐、王蔭泰何レモ中央政府ニハ入ラサルヘキ旨述ヘ(王克敏ハ長官ニ對シ王揖唐ノ言フコトハ良ク判ラサレハ何處迄眞實ナルヤ不明ナリト語レル由)殊ニ湯爾和ハ中央政府ニ參加セサルハ勿論靑天白日旗採用トモナラハ北支

政權ノ教育青任(貴カ)者タルノ地位ヲモ退クヘク國交調整ハ汪精衞ノ遣ルコトニテ吾人ハ臨時政府ノ名稱ヲ取消サルル迄仕事ニ最善ヲ盡セハ足レリト語レル由ナリ

二、冒頭往電ノ五、中王揖唐ハ王蔭泰ノ誤ナリ

加藤公使、南京、廣東、香港ニ轉電セリ

506

昭和14年11月6日

内約交渉議事録（第四回）

第四回會議議事要錄

十一月六日於愚園路六十號

自午前九時至午後五時

列席者　日本側　影佐少將、犬養氏、須賀大佐、谷萩大佐、矢野書記官、清水書記官、扇少佐、片山少佐、小池囑託

中國側　前日ニ同シ

周　今日ハ日支新關係調整要綱別冊ノ臨時政府ノ項ヨリ討議セン

谷　舊黃河ノ舊ヲ削除ス

周　第一項ハ華北ニ關スル地域ノ問題ナルカ矢張之ハ省ノ行政區域ヲ基準トシテ區分セラルルヲ希望ス內蒙ハ察哈爾綏遠二省ニシテ華北ハ山東、山西、河北三省ノ行政區域ト致シ度シ

河南ノ北部ハ曾テ申上ケシ如ク華北ノ部ヨリ除外セラレ度シ

影　本問題ハ蒙疆、北支ノ二ツニ分カチ先ツ蒙疆ヨリ申上ケン蒙疆ハ現在御承知ノ如ク蒙疆自治政府ノ行政區劃ニシテ之ニハ晋北十三縣モ入リ居ル處單ニ行政區域トシテ山西省ニ屬スト云フ理由ノミヲ以テ之ヲ華北ニ歸屬セシメントスルハ論據薄弱ナリ既ニ晋北住民ノ熱望ニ基キ蒙疆ニ入リ聯合政府ヲ構成シ確固タル既成事實ヲ構成シアリ從ツテ山西省カ華北ニ入リ在ルヲ理由トシテ此ノ既成事實ヲ變更スルコトハ極メテ困難ナリ

從來ハ同士トシテ協議ニ際シテハナルヘク貴方ノ言ヲ容ルル樣同情ヲ以テ臨ミシモ本件ニ關スル限リ不可能ナルコトヲ斷言ス諸君モ此際不可能ナルコトニ執著スルコトナク晋北ヲ蒙疆ニ屬セシコトニ決心セラルルヲ

賢明トス此事ハ私ノ中國側同志ニ呈スル嚴肅ナル忠告ナリ

陶影佐少將ノ御忠言ノ程ハ重々諒トスルモ蒙疆ノ事ハ我等同志ノ考ヘトシテモ亦日本ノ爲ニ考フルモ內蒙ニ支障ナキ樣考慮シ今少シ說明致シ度シ

蘆溝橋事件以前ノ內蒙自治運動ニ關シテハ余ハ少々知ル處アリ先ツ蒙古人ノ感情ト中國人ノ心理上ノ衝突ニ關シ申上ケンニ察省ニハ之無キモ綏遠ニ於テハ屢々發生ヲ見タリ兩者ノ衝突ヨリ蒙古獨立運動カ起リタル次第ナルカ其ノ衝突ノ原因ニハ二個アリ

一ハ種族上ノ原因ニシテ二ハ財政上ノ原因ナリ種族ノ原因ハ漢蒙兩民族雜居地域ニ起リ殊ニ綏遠ニ於テ漢民族ノ勢力カ蒙古地帶ニ延ヒレハ衝突起リ同樣ニ蒙古人ノ勢力カ漢民族ノ地域ヘ延ヒル時ハ復衝突發生ス故ニ種族上ノ衝突ヲ除去センカ爲ニハ蒙古地帶ハ蒙古人ノ手ニ又漢民族ノ地帶ハ漢民族ノ手ニ卽チ北支ニ歸屬セシムヘキナリ雜居地帶ニ就キテハ別ニ詳ハシク解決方法ヲ協議スヘシ山西省ノ北部ハ漢民族地帶ナルニ付キ之ハ北支ニ歸セシムルヲ適當トス、第二ハ財政上ノ原因ニシテ之ハ嘗ツテ德王ト閻錫山トノ間ニ發生セル事アリ之ハ漢蒙雜居地域殊ニ漢人化セル蒙古地帶ニ於テ起リタルモノニシテ此ノ地方ハ財政上ノ收入カアリ閻ハ此ノ收入ヲ綏遠省政府ニ歸セシメントシ德王之ニ反對シ兩者ノ衝突起リタル事アリ依ツテ爭ヲ絕滅セントセハ漢人化セル蒙古地帶ハ北支ニ歸セシムルヲ要シ之ヲ蒙古ニ歸セシムルトセハ漢蒙ノ間ニ紛爭ヲ起サシメ永久ニ絕エサルヘシ次ニ申度キハ北支ト蒙疆トノ間ニ於テハ種族ノ問題カ主ニシテ財政上ノ問題カ從タルモノナルモ若シ兩者ノ境界ニ關シ華北ニ屬スルモノヲ蒙疆ニ中支ニ屬スルモノヲ華北ニ屬セシメル如ク之ヲ雜然トスル時ハ中國民ノ感情上又紛爭ヲ惹起スルニ至ルヘシ

省ノ區域ハ歷史上定マリ居リ之ヲ誤ラルトキハ紛爭ヲ生起スヘシ此ノ例ハ元朝ニ於テ成吉斯汗ヨリ忽必烈ニ到ル間黃河以北ヲ腹里ト云ヒ黃河ヨリ揚子江迄ヲ漢人區域トシ江南ノ地帶ヲ南人區域トセリ腹里區域ニテ漢人區域ヲ牽制セシメタリ今之ト同樣ノ事ヲ爲セハ人民ニ歷史上ノ事實ヲ思ヒ浮ヘシメ結局此ノ境界ハ日本ニ

對シテモ面白カラサルヘシ

今一ツノ理由ハ將來新政府成立ノ時之ヲ鞏固ナラシムル上ニ既成事實ノ變更カ望マシキ處之ハ中日國交調整上重要ナル事タルヘキニ付御參考トシテ歷史上ノ資料ヲ申上ケタルナリ

影

今ノ御話シハ漢蒙區域ヲ單ニ民族ノ集リカラ考フルノミナラハ陶氏ノ言ノ通リニシテ曾テ余モ同樣考ヘタル事アルモ今回ハ民族自治カラノミ蒙疆政府出來タルニ非ス防共ヲ最高道德トシテ蒙人漢人相カタマリタル地域ナリ陶氏ハ民族ノ衝突ノ事ヲ申サレタルカ今回ノ蒙古聯合自治政府ハ察哈爾ハ察哈爾、綏遠ハ綏遠、晋北ハ晋北ニテ自治體ヲ構成シ各「グループ」カ聯合シテ聯合政府ヲ作ルト云フヤリ方ニテ御心配ノ事ハナカラン、尙山西北部ノ人々ハ從來山西南部ノ半植民地ナリトノ不滿アリタルニ今回蒙古自治政府成立ニ際シ欣然自發的ニ之ニ參加セル次第ナリ無理ニ引付ケタルモノニ非ス尙谷萩大佐ハ永ラク山西ニ居リタルニ付キ何カ之ニ附言セラルルコトアラン

谷

余ハ山西省ニ一年半特務機關長トシテ勤務シタル事ア

リタリ當時蒙疆ノ防共地帶ヲ完成スル爲ニハ外蒙ヨリ內蒙ヘノ「ルート」及新疆省ヨリ青海甘肅省ヘノ「ルート」ヲ考フル時ハ晋北ニテハ足ラス山西省一圓ヲ蒙疆ニ入ルヘシトノ強キ要求カアリタル位ナリ影佐氏ノ言ノ如ク晋北十三縣ハ閻錫山カ之ヲ搾取シ爲ニ住民ノ反感ヲカヒ終ニ今回蒙疆ニ參加セル次第ナリ又日本方面ニ於テモ愼重研究ノ結果定メタルモノナレハ之ハ我方ノ言フ如クセラルル方妥當ト信ス

陶

双方ノ同志ヨリ種々意見ノ開陳アリタルカ之ニ基キヨリ良キ案ヲ考慮セラレ度ク北支ニ防共ノ意味ナキニ於テハ此ノ山西北部ヲ蒙疆ニ入ルル事ヲ考慮シテ宜敷キモ若シ北支ヲ防共ノ爲ノ共同地域ノ意味ヲ附セラルル日本側ノ考ナラハ晋北ヲ華北ヨリ除クコトハ考慮シ難シ

影

先刻申シタルハ蒙疆カ民族自決主義ニヨリ定メタモノニ非ス防共ノ見地ヨリ之ヲ定メタルニ付民族問題ヲ以テノミ律セラルルハ不可能ナリ要スルニ政治ハ勢ニシテ白紙ヲ以テ研究スルモ妥當ナル結論ニ達スヘキモノニ非ス日本側ノ案ハ過去複雜ナル經緯ニ鑑ミ苦キ色々

梅

ノ經驗ヲ經テ到達セル結論ナリ之ヲ考フル時カカル日本側ノ解決案ヲ以テ解決スルヨリ外方法斷シテナキコトヲ重ネテ言ヒ置キ度シ

周

双方同志ノ意見カ相當詳シク出テタルカ陶氏ノ意見ハ簡單ニ述フレハ理論ト現實トヲ顧慮シテ考ヘタルモノニシテ貴方ノ御苦心ハ我方同志ノ間ニ於テモ良ク諒解シ居レリ卽チ獨立セシムルヨリ寧ロ中國ニ屬セシメテ置ク方宜シ其處テ最後ニ妥協案ヲ提出シ度シ

卽第一項ノ內長城線（含マス）ヲ長城線ヲ（含ム）トシタラ如何、之ハ理由ハ將來蒙古カ獨立ヲ計ルヤモ如（知カ）レサルヲ以テ之ヲ備フル爲長城線ヲ北支ニ留保シ置カントスルモノニシテ、之ヲ蒙古ニ與レハ河北ハ開ケ放シトナルヲ以テ中國民衆ニ對シ申譯ナキ次第ナリ唯長城線ハ漢人ノモノトノ理由ニヨリ聊カ面子ヲ保タントスル苦心ノ表ハレナリ

第二ノ問題ハ次ノ黃河以北ノ河南ヲ華北ニ入ルルヤノ問題ナルカ之ハ妥協ノ名人タル小生モ認ムル事極メテ難ク理由ハ梅、陶兩氏ヨリ說明アルヘシ

理由ハ簡單ニシテ河南省ノ此ノ部分ヲ北支ニ入レルト

周

管轄カ如何ニナルヤノ問題ヲ生シ若シ河（華カ）北政務委員會ノ管轄ニ入レルト河南省ハ二分サレル事トナル

省境ヲ變更スル事ハ古來重大問題ニシテ之ヲ誤ラハ多大ノ紛糾ヲ生シ內政上ノ重大問題ヲ生ス故ニ省境ヲ變更セスシテ解決スルコト肝要ナリ

經濟上ヨリ云フモ河南ノ北部ハ大シタ價値ナク僅カニ焦作炭坑ノ石炭位ニシテ鐵道ハ道淸鐵道ノミニシテ大シタ得ナシ軍事上ヨリ云ヘハ防共ニ關シテハ先日申述ヘタ德洲、石家莊、太原ノ線ヲ讓リテモ叩カレタ位ニシテ河南ノ北部ヲ防共地域ニスレハ反對サルル事ハ必然ナリ然モ日本軍カ軍事上河南ニ進ム必要アル場合ハ防共線ニ於テハモハヤ事實上敗戰ト等シクカカル必要ハナカルヘシ

陶

山東省ニ於テモ黃河ヲ境トセサル以上ハ同樣河南省ニ於テモ黃河ヲ以テ境トセサルコトヲ希望ス省境線ハ歷史上慣ラサレ來リタルモノニシテスヘテ理由アリテ出來タルモノニシテ單ニ財政上ノ理由ニ基クノミナラス他省トノ長短相補ヘ之ヲ考慮シテ出來タルモノニシテ又風俗慣習ノ見地ヲモ加味シテ出來タルモノナレハ河

南モ山東モ黄河ヲ以テ境トスルハ妥當ナラス

梅　我方ハ忍フヘカラサルヲ忍ヒ晋北ヲ譲タルニ付貴方ニ於テハ此事タケハ是非譲ラレンコトヲ懇望ス此問題ハ汪先生ノ和平運動ニ重大ナル影響アリ

影　諒解セリ

周　次ニ第二項ノ問題ナルカ「――ニ鑑ミ――ノ爲華北政務委員會ヲ設置セシムルモノトス」ト規定シアルカ斯ク長キ理由ハ却ツテ誤解ヲ生シ易シ依ツテ理由ヲ除キ簡單ニ「中央政府ハ華北ニ於テ政務委員會ヲ設置スルモノトス」トシタク中央政府ヲ特ニ出シタルハ中央政府カ設置スルモノニシテ華北カ勝手ニ設置スルニ非サル事ヲ意味シ居レリ

影　日本側ハ如何

一同　事實上變化ナキヲ以テ異議ナシ

周　第三項モ内容ノ問題ナラスシテ字句ノ修正ナルカ「遅クモ――」以下ヲ削リ度シ

清　「協議セラルヘキモノトス」トスルヤ

周　「中央政治會議ニ於テ之ヲ決定スルモノトス」ハ如何

影　宜シカラン

周　第四項前段ナルカ之レモ少シ簡單ニ書キ度シ「華北政務委員會ノ權限、構成ハ左記諸項ヲ具現シ得ルヲ以テ限度トス」

後段ヲ

「臨時政府ノ名稱ヲ廢止シ其ノ政務ハ華北政務委員會ニ依リ接收ス但シ左記事項ヲ目標トシテ速カニ之ヲ整理ス」

ト原文ヲ修正致シ度シ

清　接收トハ如何ナル意味ナリヤ

周　繼承ト同一意義ナリ

影　然ラハ繼承ストセハ可ナラスヤ

周　接收ニテ宜シキニ非スヤ

矢　日本語ノ用語ニ隨ヘハ接收ト云ウ語ハ勝手ニ取ルト云ウ様ニヒヒキ印象惡シ

周　中國側ニ於テハ繼承トハ相續ノ意ナリ、尤モ中國用語ニ繼續ト云フ語アルモ之ハ如何意味ハ日本語ノ繼承ト同シ

一同　中國側ハ繼續ヲ使ヒ日本側ハ繼承トセハ良カラン

周　「既成事實」ハ中國側ニ印象頗ル惡キヲ以テ此用語ハ

省キ度シ「政務繼續」ノ内容中ニ既成事實ハ含マレ居レリ

矢　既成事實ノ代リニ現狀ト書ケハ如何

梅　其レハ既成事實ト同樣ニ印象惡カラン

影　何故既成事實ハ惡シキヤ

周　當方ニ於テハ中國カ承認セサルニ盛ニ既成事實ヲ作ルノ感ヲ與フ

矢　政務移行ノ過渡期ニ於テ人心ノ動搖スルヲ防ク爲一應現狀ヲ華北政務委員會ニ於テ引繼キ民心ヲ安定セシムル事ヲ要スルヲ以テ「既成事實ノ繼承」ヲ提案シタルナリ

梅　事實上ノ相違ニ非ス表現ノ相違ナルヲ以テ爭フ必要ナカルヘシ實際王克敏カ既成事實ヲ作リ汪自身カ之ヲ繼ク事トナルナリ

矢　例ヘハ中國聯合準備銀行ノ如キハ多數ノ紙幣ヲ發行シ居ル處此ノ銀行カ將來如何ニナルヤハ其ノ紙幣ヲ所持セル人民ハ多大ノ不安ヲ感シ民心動搖スルコトアルヘキニ付一應現狀ヲ政務委員會カ受繼クモノナル事ヲ示ス適當ナル字句ヲ挿入シ置ケハ之ヲ防止シ得ヘシ

周　聯銀ノ件ハ先テ言及シアリ又實際ニハ此處ニ繼續トナシアルニ付不安ナカルヘシ

影　宜シカラン

谷　要スルニ「……繼續ス但……」ナリヤ

周　然リ

谷　差當リ「政務ヲ繼續云々」ニハ既成事實ヲ當然含ム意味ノ諒解事項ヲ設ケ置キテハ如何

陶　之ハ記錄スルモセサルモ實際上ハ差異ナシト思考ス又斯クスルナラハ「既成事實ノ承認」ニ非サル意味ヲモ諒解事項ニ書キ置サルヘカラサルニ付諒解事項ハ設ケサルヲ可トス

影　字句ハ適當ニ考ヘタラ良カラン

周　左記ノ項ナルカ㈠共同防衞ハ共同防共ニ直シ「就中治安協力ニ就テ」ハ北支ニ於テハ防共重要ニ付共同防共トシテ治安協力ノ項ヲ削除致シ度シ(1)ニ就テハ異存ナシ(2)ハ治安協力ヲ止メ「共同防共ニ關スル情報宣傳等ノ事項ノ處理」トシ度シ(3)ハ範圍廣過ク軍事ハ元來中央ニ統一サルルヲ希望スルニ付本項ハ削除セラレ度シ軍事協力ニ關スル事項ハ北支政務委員會ニ非スシテ中

央ニ於テ統制ノ事ト致シ度別ニ左ノ一項ヲ設ケ度シ
「華北政務委員會カ前記各項ノ事務ヲ處理スル場合ニハ隨時之ヲ中央政府ニ報告ス」

影

治安駐兵ノ事ハ日本側ヨリ未タ申上ケテナキヲ以テ削除スルニ非スシテ保留スルコトト致シ度シ「其他日支軍事協力ニ關スル處理」ヲ廣範圍ナリトシテ削除セントセラルルカ之ハ(1)(2)タケニテハ不充分ニシテ治安駐兵ニ關シテ昨日申上ケタ交通其他ニ關スル軍事上ノ要求竝ニ監督權ノ事モアリ(3)カ廣過キルナラハ具體的ニ竝ヘ見ルモ一案ナラン

周

(3)ヲ削除セル理由ハ軍事協力ハ一切中央政府ニ於テ處理シ度シ從來ノ抗日政府ニ非スシテ親日中央政府カ成立セラルルコトヲ前提トシテ考ヘラレ度シ

清

協力ニハ地方政府ニ於テ協力スルモノモアラン

梅

日本側ニ於テハ華北ノ事ハ華北政務委員會ニ於テ處理シ得ルト思ハルル樣子ナルカ事實ニ於テソウハ行カサルヘク日支協力ノ事ハ華北ノミニテハ處理シ得サルモノ多カルヘシ例ヘハ(1)ハ華北ノミニテモ宜シカランモ(2)ハ出來サルヘシ又中日軍事協力ハ華北ノミニテハ不可能ニシテ中央政府ト協力セサルヘカラス

依ツテ華北政府(務カ)委員會ハ傳達機關ニ過キサル事カ實際的ナリ尤モ右委員會カ獨立スル意圖ナラハ別ナリ

清

自分ハ影佐氏ト同意見ニテ本項ハ別ニ明確ニ具體的ニ規定シテハ如何

周

實際軍事協力ニ關シテハ明確ニ規定スルヲ要スルニ付キ相談ノ上明確ニ致度シ

谷

曾テ黃孚カ北京政務委員會ニ於テ政治ヲ司リ何應欽カ軍事ヲ司リタル前例アリ又宋哲元ハ軍事ヲ司リ政治ハ各省主席ニ司ラシメタルカ往々迅速ヲ缺キ不便多カリキ卽チ華北ヨリ中央ニ報告シ中央カ之ヲ討議決定スルハ時日ヲ要シ遂ニハ時機ヲ失スル處大ナリ軍事協力事項ヲ現地ニテ處理セシムルカ圓滑ニ行クニ非スヤ

陶

谷萩氏ノ理由ニ對シテハ二個ノ點ヲ申上ケン第一ニハ當時ノ中央政府ハ抗日政府ナリシカ現在ハカカル政府ハ考慮ニ入レル必要ナシ第二ハ防共ニ關シテ他ニ規定アリテ種々便宜ヲ供スルコトニナリ居ルニ付キ谷萩氏ノ御心配ハナカラン殊ニ軍事協力ニ關シテハ「主權尊重ノ最低限度ノ要望」中ニモ「特定地域ノ特定事項」

トアリ範圍ヲ限定スル必要アリ
別ニ具体的ニ定メサルヘカラス
影　中央政府カ何事モ凡テナストイフハ事實ニ則ササルコトアルヘシ日本ノ如キ狹小ナル國ニ於テモ朝鮮臺灣總督ニハ相當廣範ナル權限ヲ與ヘラレ居ルニ中國ノ如ク廣大ナル國ニ於テハ遠ク離レタル地域ニハ更ニ其必要アルニ非スヤ
周　之ハ後ニ研究スルコトトシテ留保シ度シ
次ノ第二項ニ於テ
(1)ノ埋藏資源ノ開發ニハ問題ナシ
(2)モ異存ナシ
(3)モ異存ナシ
(4)項ハ取消シテ貰ヒ度シ理由ハ全國的性質ニシテ地方的ニ非サレハナリ鐵道ノ例ニ見ルニ津浦鐵路ハ統一的ニ管理セサルヲ得ス若シ之ヲ華北ノミニテ管理セハ鐵道ハ二分サル卽チ華北及中央政府管理ニ二ツニ分ルルヲ以テ鐵道管理上面白クナシ通信ニ於テモ同様華北ト中央ノ管轄部分ニ分レ統一的管理ハ不可能トナルナリ故ニ本項ハ削除シテ戴キ度ク其ノ代リニ別ニ一項目ヲ加ヘテ貰ヒ度シ
「華北政務委員會カ上記ノ事項ヲ處理スル場合ニハ中央ノ關係法令、政策及施設ニ抵觸セサルヲ以テ限度トス且事前ニ中央政府ニ報告シ之カ認可ヲ得ヘキモノトス」
政策法令ニ抵觸セサル意味ハ中央カ貿易統制ヲナストキ華北カ之ニ違反シタ政策ヲトルコトハ困ルシ、又中央カ新法幣ヲ發行スルニ北支カ之ニ反スル政策ヲトルト不可能トナルナリ
影　小池君之ニ對シ意見アリヤ
小池　航空ハ中央政府ニ於テ纏メル様ニ出來アリ
鐵道通信主要海運ハ理想ハ其處ニアルモ一應現狀ハ引繼カサルヘカラス
協力トイフカ故ニ此處ニ在リテモ差支ヘナキニ非スヤ
梅　協力セサルニ非スシテ重大ニシテ地方タケニテハ不可能ナルヲ以テ中央政府ニ於テ統一シテ管理スヘキ問題ナリ
影　技術問題ハヨク分ラサルモ何テモ中央ノ許可命令ナクンハ叶ハストイフニ於テハ協力ハ不可能ナリ地方的協

力ハ或範圍ニ於テ地方政府ト協力シテナスヲ要スルニ非スヤ

小池　之ハ地方的範圍ニ於テ協力セントスルモノニシテ國有國營トハ別個ニ考慮シ得ルモノナレハ此處ニ規定スルモ問題ナキニ非スヤ尤航空ハ一寸變ナルカ

周　吾人ノ主張ハ鐵道ニ對シテハ交通部ヨリ管理局ニ對シ命令スルコトヲ言フモノニシテ問題ハ中央對地方ノ問題ニシテ中日兩國關係ニ非ス

華北政務委員會カラ管理局ニ直接命令スルコトハ困ルコトニシテ協力セシメントスルトキハ交通部ノ命令ニ依リ之ヲナスヘキナリ

影　之ハ鐵道ノ國有非國有ノ根本問題ト關連アリ保留シ置キ度シ

周　前述ノ新ニ設ケタル項ハ卽チ「中央ニ對シ報告シ其ノ認可ヲ云々」トイフハ如何

影　特殊地域ト爲シ乍ラ何モカモ認可主義ハ一考ヲ要ス

梅　只今影佐少將ノ言ワレタルコトハ當方ノ說明ヲナセハ分ラン認可ニモ慣習上二ツノ場合アリ

一ハ具體的計畫ヲ上申シ認可ヲ要請スル場合

一ハ委任ヲ含ム認可ニシテ權能ヲ受クルコトノ二ツアリ

影　諒解セリ

周　㈢ノ顧問ノ件ハ異存ナキモ「中央ノ關係法令ニ基キ」ヲ附加サレ度シ

之ハ中央ニ於テ顧問ニ關スル關係法令ヲ作リ之ニ基キテ處理セラレ度シトイフコトナリ

影　好シ

周　㈣ハ聯銀ノ問題ナルカ之ハ文中ニモ永久ニ存在セシムルコトニナツテヰナイカラ之ヲ其ノ趣旨ニ基キ左記ノ修正案ヲ書イテ見タリ

「聯銀ハ中央銀行、華北支行ニ改メル但シ存續スルヲ必要トスル間ハ次ノ如キ處理方法ヲトル

⑴其ノ紙幣發行最高額ヲ規定ス其ノ發行額及準備銀高ハ隨時中央ニ之ヲ報告シ中央ハ隨時人ヲ派シ之ヲ檢査ス

⑵其ノ行使區域ハ華北ヲ以テ限度トスルコト但シ行使區域內ニ於テハ中央新法幣モ亦同時ニ流通ス

聯銀券ト新法幣トノ兌換率ヲ規定ス

(3)華北ノ爲替統制ハ中央ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス」
右ハ理論及實際ヲ見テ研究セル專門家ノ意見ナリ
影　貴國ノ政策ハ日本ノ金融政策ニモ多大ノ影響アルニ付我々素人ニハ不明ナルニ付篤ト研究スヘキヲ以テ保留シ度シ貴方ノ趣旨ハヨク分リタリ聯合準備銀行ヲ何時迄モ置クトイフ意ニハ非ス置クヲ必要トスル間ハ中央ハ之ヲ助ケルコトヲ書キアルモノニシテ要ハ過渡期ニ於テ民衆ノ經濟生活ニ不安ヲ抱カシメサルコトニアリ矢張リ華北政務委員會ノ中ニ入レテアルニ付誤解カ生シ易シ
周　現在ハ華北政務委員會ノ前身タル臨時政府ノ銀行ナルヲ以テ同政府ト政務委員會トノ關係ヲ論スル項目ニ入ルルハ當然ナリト言フヘキナリ
影　此處ニ置イテモ可ナルカ全體カ論議決定サレテカラ定ムヘキモノニシテ夫レ迄留保セン
　一三時十五分食事休憩一四、四〇分再開
周　(五)ノ部ノ前文ヲ全部取消シ「其ノ他」トセラレタシ
影　之ハ結論的ニ定メン
周　(1)ノ項ニテ財政方面ノコトハ中央ヨリ統一シテ給付致シ度シ仍テ左ノ如ク修正致シ度シ「華北政務委員會所要ノ經費ハ中央ニ於テ一括シ豫算ニ計上シテ處辨ス」
次ノ關稅鹽稅統稅ノ項ニ於テ
「關稅鹽稅統稅ハ中央稅トス但シ當分ノ間華北ノ關稅收入ノ百分ノ四〇、鹽稅收入ノ百分ノ四〇、統稅ノ百分ノ五〇ハ中央ヨリ華北政務委員會ヘ支給シ以テ行政費及建設費トナス」
關稅鹽稅統稅ノ徵收方法ハ監督其ノ他ノ方法ニ依リ中央ニ於テ徵收ス
「關稅及鹽稅ニ關シテハ中央ヨリ直接徵收人員ヲ派遣シ中央ニ於テ直接之ヲ監督ス」
「統稅ハ華北政務委員會ヨリ徵收人員ヲ推薦シ中央ニ於テ之ヲ委任ス華北政務委員會ト中央派遣ノ人員ト會同シテ之ヲ監督ス」
小池　從來ノ收入ニテモ華北ハ賄ヒ得サリシニ貴方ノ如キ案ニテハ益々財政難ヲ來タスナラン
周　之ハ專門家ニ於テ研究シタル結果當方結論ヲ得タルモノニシテ從來華北ハ統稅ノミニテ賄ヒ居リタリ而ルニ今度ハ關餘鹽餘中ヨリ各々百分ノ四〇ヲ支給スルヲ以

テ賄ヘサルコトハアルマイ之ハ専門家ノ意見ナリ

小　先ツ事業豫算ヲ考ヘテ而ル後支給額ヲ決定スヘキニ非スヤ

清　冀察政務委員會時代ニハ關餘ヨリ百萬圓鹽稅統稅全部ヲ貰ヒタルニ何等建設出來サリシニ今日ハ山西山東河北ヲ賄フノ要アリ到底經費不足ハ免レ得サルヘシ

梅　軍事費ニ大部分ヲ使用シタル爲ナラン

小　何レニシテモ初ヨリ財源ヲ抑ヘテカカルノハ宜シカラサルヘク事業計劃ヲ見タル上幾何ノ補助ヲヤルカヲ定ムヘキモノニテ之ヲ押シツクレハ却ツテ華北ハ聞カサルヘク又之ニテハ中央カ華北ヲ搾取シタコトトナリ、ヨカラス

周　之ハ原文ノ通リニスルト鹽稅統稅共ニ全部華北政務委員會ニ歸スルコトニナルカ之ニテハ國防軍ノ費用ハ中央ノ負擔トナルニ非スヤ

小　豫算査定權ヲ中央カ持チアラハヨカラスヤ例ヘハ中央ニテ豫算ヲ査定シテ華北ニ支給ストイフナラハ可ナルカ豫算額ハ費消シ其ノ上ニ中央カラ支給ヲ受クトイフニアリテハ矛盾スト思考ス

小　差當リトイフ字句アリテ永久ノ意ニ非サルコトハ明白ニ非スヤ

周　此ノ問題ハ金額ノ問題ニ非スシテ財政統一ノ破壞ニナリ贊成シ難シ

斯ク明確ニスルカ惡ケレバ左ノ如クシテハ如何

「華北ノ關稅鹽稅統稅ハ中央ニ於テ徵收シ之ガ一定割合ヲ華北ニ支給ス」

梅　要スルニ財政權ノ確保ノ問題ナリ

小　關稅鹽稅統稅ハ中央稅トナシ金額ハ關稅ノ一定割合他ハ收入全部ヲ支給スルトシタラ如何

影　財政統一ノ事項ハ同感ナルカ金額ノ問題ニ關シテハ事變前ノ比率ヲ標準トスルハ不可ナランソハ經濟上國防上强度結合地帶ナレバナリ又貴方提出ノ割合ニテ足ルトモ思考サレズ實際ノ割合ヲ如何ニスルヤハ別ニ專門的見地ヨリ見テ定メタラ如何

犬　双方研究ノ時間ヲ貰ヒ金額ハ研究スルコトトセン實際ニ華北ニハ幾何ノ收入アリヤ又幾何ノ經費ヲ要スルヤ不明ナリ金額ヲ表示スルハ少ケレハ浙江財閥ヲ引キツクルコトニナルカ逆ニ百分ノ九十ノ如ク大ニナレハ寧

ロ數目ハ書カサルヲ可トス等ノ方法アラン

梅　先刻來申上ケタノハ文字ノ使ヒ様ニシテ財政統一ノコトヲ中心トスルモノニシテ金額ノ問題ナラ別ニ研究スルコトトスルモ財政統一ノ問題ナラハ之ヲ是非通過サレ度シ實ハ專門家トシテハ一歩讓リタル次第ナリ

影　財政統一ノコトハ貴方ノ意見異存ナシ其ノ他ノコト卽チ金額ノ問題ハ保留シ後日研究シテヨカルヘシ要ハ所要ノ金額カ北支ニ於テ使用サルルコトカ重點ト思考ス

周　貴下ノ言ノ通リ割合ヲ定ムルコトカ保留サレタリ

周　(2)ノ起債權ハ問題ニシテ之ハ外債內債兩者ヲ含ムモノト思ハルル處地方行政機關カ外債ヲ起スコトハ許ササルコトトナリ居ルニ付若外債起債權ヲモ含ムナラハ次ノ如ク修正シ度シ「華北政務委員會ハ地方行政機關ニシテ外債ヲ募集スルコトヲ得ス但シ其ノ管轄區域內ニ於テ地方債募集ノ法令ニ基キ中央政府ノ認可ヲ得テ內債ヲ募集スルコトヲ得」

梅　書クナラハ「華北政務委員會ハ中央政府ノ認可ヲ得テ內債ニ限リ募集スルコトヲ得」トシタラ如何

影　大體ヨカラウ

周　(3)ノ項ハ抽象的ナルニ付今少シ具體的ニ場合ヲ分ケテ規定致シ度シ左ノ案ハ如何「官有財產中國家ニ屬スルモノハ中央政府成立ノ時之ヲ中央ニ返還ス

華北各省市政府ニ屬スルモノハ各省市政府ニ於テ依然管理シ華北政務委員會ハ之ヲ監督ス」

小　華北ノ省有財產ニシテ華北ノミニ屬スル事實アリヤ

梅　官有財產トハ中國ニ於テハ廣狹二義アリ廣義ニ於テハ國家ニ屬スルモノハ總テ官有ト謂ヒ狹義ニ於テハ國家ニ屬スル不動產ナリ

小　前ニ周氏ノ言ハレタル官有財產ハ何レヲ指スヤ

周　國家ニ屬スル官有財產トハ狹義ノモノナリ何トナレハ鐵道等ハ當然國家ニ屬ス

梅　官有財產ニ三種類アリ

一、公共事業ニ屬スルモノ卽鐵道、運河、國道

二、行政上使用物、建物其ノ他

三、國家ノ營利事業、農場、牧場等

影　大體分リタルニ付次ニ進マン

周　(4)ノ「逐次」ヲ「速カニ」ト修正サレ度シ「海關、郵政、航空ハ中央政府成立ノ時中央ニ返還シ

統一シテ管理ス」郵政、航空ハ今返還スルモ實際ハ支障ナシ

小

「海關及航空ハ中央政府成立後速カニ其ノ統一管理下ニ入ラシムヘシ」トイフニテ可ナラン

矢

海關郵政等ハ建前トシテ中央政府ノ管理下ニ入ルヲ要スルハ必要ナルカ注意ヲ要スルハ彼等ハ現在重慶政府ノ任命ニ基キ執務シ居リ中央政府ニ於テ任命換ヲナストキハ總稅務司「メーズ」ハ恐ラク新政府ノ任命ヲ肯ンセサルヘク此ノ外ニモ斯カル者アルヘキニ付此點ヲ準備シ置クヲ要スヘク又之ト關聯シ考慮スヘキハ海關ニ關シテハ日英協定アリ日本側ト密ニ連絡シテ處理セラルルコト絕對ニ肝要ナルコトヲ留意アリ度シ

梅

矢野先生ノ助言ハヨク分リタルニ付特ニ當方ニ於テハ留意スルコトトシ記錄ニ留メ置クヘシ

周

(5)ノ隴海線ハ河南(黃河以北)ニ於テ讓ラレタルト同趣旨ニテ撤回アリ度シト思フカ如何

影

ヨカラン

周

(6)ノ任免ノ件ニ關シ

「特任官及簡任官ハ中央ニ於テ直接之ヲ任免ス薦任官ハ華北政務委員會ニ於テ先ツ之ヲ任免シ之ヲ中央ニ報告ス委任官以下ハ華北政務委員會ニ於テ之ヲ任免ス」省長ニハ簡任ノモノモ特任ノモノモアリ之ハ是非中央ニ留保シ置カレ度シ

矢

從來ノ臨時政府ヲ新中央政府ノ配下ニ入レテ早急ニ中央政府ヲ樹立スヘキ重大ナル時期ニ於テ貴方ニハ左程重要ニ非サル人事問題ヲ細々ト斯クノ如キ規定ヲ設ケツツキマワスハ得策ニ非ス而モ人事問題ハ既成政權ノ人々ニトリテハ重大問題ニシテ之ニ不安ヲ與フルハ人心ノ動搖ヲ來シ延テハ纏マルモノモ纏ラサルコトアリ賢明ニ非ス同志トシテ切ニ忠告スル次第ニシテ特任官ノ任命ニテ面子ヲ得後ハ華北ニ任セタ方ヨカルヘシ

周

然ラハ矢野氏ノ言ヲ參考トシテ次ノ妥協案ヲ作リタリ「特任官及簡任官ハ中央ニ於テ任免ス」省主席省廳長等ハ簡任ナルカ之ハ中央ニ於テ處理セサレハ面目上面白カラス

谷

北方ノ人々ハ反國民黨ノ人々カ臨時政府ニ入リ居レリ之等ハ新中央政府カ樹立サルルト自分等ハ整理サルヘシトテ人心ノ動搖現ニ甚シク延テハ治安維持ニモ多大

ノ影響アルニ付日本軍トシテハ治安維持ノ見地ヨリ強ク反對スルコトアルヘキヲ豫想スルヲ要ス特任官位ニテヨカラスヤ

陶　不平トナルハ薦任官以下ニテ簡任官以上ハナカルヘク之ハ中央ニテ任免シ度シ

影　寧ロ下級ノ者ハ可ナルモ上ノモノハ子分ヲ有スルニ付問題ナリトモ云ヒ得ヘシ貴方ノ提案ハ餘リニ中央統一ニ急ニシテ人心ノ機微ヲツカムニ足ラス立前ハ中央ニ於テ簡任官迄任免權アリトシ置キ當分ノ間簡任官（華北ノ）ハ華北政務委員會ニ於テ之ヲ任免ストイフ樣ナ妥協案ハ無キヤ

周　然ラハ更ニ妥協案ヲ作リ條文ニハ特任簡任官ノ任免權ヲ中央ニアリトシ諒解事項中ニ貴言ノ如キヲ入レ置キテハ如何

影　日本側トノ諒解事項ニテハ意味ナシ

周　政府更迭ノ際ハ特任及簡任ハ中央政府ニ協議ノコトトシタラ如何

谷　却テ不良、人心動搖スヘシ

影　「特任及簡任官ハ中央政府ニ於テ之ヲ任免ス但シ當分ノ間簡任官ニ關シテハ華北政務委員會ニ於テ任免ス」トシタラ如何

周　「――但シ當分ノ間簡任官ハ華北政務委員會ニ於テ推薦ニ依ルトス」トシタシ

影　可ナリ

周　(7)ハ外交交涉ノ部ニシテ大体異議ナキモ多少字句ノ問題ニ修正ヲ希望ス

「華北政務委員會ハ外交事件ヲ處理スルヲ得ス但シ日滿間トノ純粹交涉事件ハ華北政務委員會ニ於テ處理スルコトヲ得」トシタシ

清　「華北政務委員會ハ日滿トノ純粹ナル地方的處理ニ伴フ交涉ヲ行フコトヲ得但シ隨時中央ニ報告スルモノトス」トアツサリ規定スル方ヨカラン

周　第二維新政府ニ關スルモノナルカ

一ハ前半ハ言ハスモカナナルニ付左ノ通リ修正シテハ如何

「中央政府成立前ニ在リテハ維新政府ハ平常通リ政務ヲ處理ス云々」

一同　維新政府職員及一般民衆ノ人心動搖ヲ防止スルコト

ヲ目的トシテ㈠ヲ掲ケ其ノ措置ヲトルコトヲイフナリ字句ハ適宜修正スルトシテ研究スヘシ

周　㈡ノ趣旨ハ了解出來ルモ「汪側」ハオカシカラスヤ

影　「汪側」ハトリ「之ヲ考慮ス」トシヨウ

周　ヨカラン

㈢ノ所ハ複雑ニシテ既成事實ヲ繼承シトスルト人事行政ニ關シ中央カ權威ヲ失フニ至ルコトヲ惧ル又既成事實ヲドシドシ作ラル之ヲ繼承セサルヲ得サルニ至ルヘシ仍テ次ノ如ク改メ度シ

「中央政府成立シ維新政府解消ノ際ハ中央政府ノ人事行政、職權ノ行使ヲ妨ケサル範圍及中日間互惠平等ニ違反セサル範圍ニ於テ維新政府ニ對シテハ其ノ既ニ處理セル人事及事務ニ關シテハ適宜ニ之ヲ考慮シ速カニ之ヲ考慮スルモノトス」

影　互惠平等ノ原則ニ依リ整理ストイフカ之ハ一應維新政府ノ處理セルコトハ鵜呑ニシテ後ニ調整スヘキニシテ繼承セスシテ右原則ニ反シテヰルカラ速カニ止メルトスルト法律的ニ中斷サレ混亂スルナラン又人事問題ハ維新政府職員カ動搖スルニ付汪先生ニ於テ之ハ職員ノ身分保障ヲナスコトトナツテヰルノテ之ヲ考慮ニ入レ置クコトヲ希望ス

小池　人事問題ハ日本式ノ考ヘ方ナラハ一應引取ツタ後整理スルコトヲ必要トシ永久ニ整理スヘカラストイフニ非ス

周　然ラハ妥協案ヲ出サン

「……解消スル場合差當リ重要事實ニ對シ現狀ヲ維持シ速カニ之ヲ調整ス」

清　重要トハ如何ナル意ナリヤ

周　役ニ立タヌ人員ハ使用シ度クナシ

小　法律用語トシテ「司法行政立法上ノ行爲ヲ有效ト認メ差當リ之ヲ繼承スルモ速カニ之ヲ調整スルモノトス」ハ如何

周　詳シク書クモ如何ト思フカ「重要政務」ハ如何

矢　法律的ニ論スル者アルトキノ用意モ必要ナルカ現今何レノ國ニ於テモ一政府カ他ノ政府ニ吸收合併セラルルトキハ合併セル政府ハ從前ノ政府ノ權利義務ヲ抱括（包カ）的ニ繼承スルコトヲ要スルハ不動ノ原則ナリ今維新政府解消シ新中央政府之ヲ吸收スルニ際シテハ一應現狀ノ

儘繼承シ其後合法的手續ニテ整理スルコトヲ要スルハ當然ナリ仍テ貴方ノ如ク重要事項ノミヲ引續クトスルハ維新政府ト取引セル凡テノ人々ニ多大ノ不安ヲ與ヘ人心動搖セシム貴方ヨリ今妥協案ノ出サレタ中「重要事項」ヲ削除シ「差當リ現狀ノ儘繼承シタル後速カニ之ヲ整理ス」トスレハ可ナラスヤ

「中央政府ハ維新政府ノ爲シタル事項ニ對シ差當リ現狀ヲ維持シ速カニ之ヲ調整スルモノトス」ハ如何

一同好シ

周　揚子江下流以下新上海ノ項全部目下研究中ニシテ之ハ後日論議シ度シ其ノ代リ華興商業銀行ノ件ヲ附加スルコトトシ度シ勿論同銀行ノ存在ハ暫ク差支ヘナキモ發行權ハ停止シ度シ其ノ理由ハ國立銀行ニテナスヘキモノニシテ日支合辦ノ如キ華興商業銀行ノナスヘキモノニ非ス仍テ次ノ通リトシ度シ「華興商業銀行ハ勿論暫ク繼續シテ存在スルコトトス但シ中央政府成立ノ時ニ於テハ卽時紙幣ノ增發ヲ停止ス中央銀行成立シテ新法幣發行ノ時ニ於テハ其ノ發行權ヲ卽時取消スモノトス其ノ既ニ發行シタルモノハ一定期限內ニ同銀行自ラ回收スルモノトス」

小　紙幣發行ヲ停止シ乍ラ其回收ヲナスヘシトイフハ金融常識ヨリ見ル時ハ仲々ムツカシ而モ貴方御提案ハ大分詳シク書イテアルカ之ハ維新政府ノ現狀維持ノ中ニ含マレ居リ速カニ整理スルヲ要スルモノ中ニ入ルヘキ問題ナルヲ以テ其ノ時研究スヘキナラン

周　コノ事ハ輕卒ニ出シタルモノニ非ス金融方面ニ對シテモサシタル影響ハナシトノ結論ナリ（華興券ハ三百萬位タカラ）之ハ聯銀ヨリ大シタ重大意味アリ

同志トシテ此ノ案ハ堅キ決意ヲ有スルモノニシテ之ハ讓步シ難キモノナルコトヲ御記憶願ヒ度シ

陶　法幣問題ニ關シ意見ヲ申上クルト今度ノ戰爭ノ重要問題ハ法幣ニシテ蔣ノ作戰ヲ維持シ得タルハ法幣ニシテ之ハ世界ノ二大金融國カ之ヲ支持シタル次第ナリ之カ爲メ日本モ多大ノ犧牲ヲ受ケタトイヒ得ヘキ處一切ノ中國抗戰力ハ之ニ吸收サレ日本側ヨリイフ時ハ全力ヲ擧ケテ法幣ヲ打倒スヘキナリキ故ニ本問題ハ國際的ナレハ大規模ニ且國際的見地ヨリ策ヲ樹テ實施スルヲ要ス將來新法幣カ出來ルトキハ日本ハ舊法幣ニ對スル戰

ニ於テ統一アル戰線ヲ布キ之ニ臨ミ新法幣ニ對スル價値ノ下落ヲ防止スヘキニシテ從來ノ如ク個々「バラバラ」ニ聯銀、華興、蒙疆等ニテ不統制ノ方策ヲナスハ如何ト思考ス

小　貴說ハ諒トス近ク專門家モ見ユルコトナレハ貴說等ヲモ併セ研究セン貴案ヲ篤ト拜見サセテ戴キ度シ

一同ヨカラン

周　明日ハ休會トセラレ度シ今後會議ノ場所、時間等ハ電話ヲ以テ打合セ度シ

507　昭和14年11月8日　野村外務大臣より在英国重光大使、在米国堀内大使他宛（電報）

新中央政権樹立工作の現状について

本省　11月8日後7時発

合第二六〇一號（極祕、館長符號扱）

一、支那新中央政權樹立工作ニ關シテハ八月十一日附亞一機密合第九六四號往信ヲ以テ申進置キタル處其ノ後汪精衞側ニ於テハ「時局收拾ニ關スル具体的辨法」（七月十二日附亞一機密合第八二四號別紙第三參照）ニ從ヒ八月下旬上海ニ於テ第六次國民黨全國代表大會ヲ開催シタルカ近ク各既成政權等ト共ニ中央政治會議ヲ招集シ新中央政府樹立ニ關スル諸問題ヲ議スルコトトナレリ

二、一方我方ニ於テハ右ニ對處スル諸般ノ方策ヲ決定スル爲外務、陸海軍、大藏及興亞院協議ノ結果「中央政治會議指導要領」案ヲ作成十一月一日興亞院會議決定ヲ經ルニ至レル處右決定ノ要點ハ「現下內外ノ情勢推移ニ鑑ミ新中央政府ノ樹立ハ支那側內部ノ基礎的條件ノ充足ヲ中核トシ對第三國及重慶工作ニ關スル措置ヲ外廓トシテ之ヲ施策シ且我政府ノ事變ニ對スル全局ノ態勢整備ニ卽應シ帝國ノ自主的見地ニ基キ之カ構成竝ニ樹立ノ時期ヲ決定スヘク中央政治會議ニ於テハ右ノ考慮ニ主眼ヲ置キ主トシテ內政問題ニ重點ヲ置カシムル如ク指導スルコト」ヲ方針トシ而シテ

(一)先ツ中央政治會議ニ於テ新中央政府ハ國民黨、既成政權、其ノ他ノ黨派及爲シ得レハ飜意改替ノ重慶政府等ヲ以テ其ノ構成分子トシ其ノ適宜協力ニ依リ之ヲ樹立スヘク（重慶側ノ重要分子獲得ニ關シテハ汪精衞ヲ中

心トシ既成政權、各黨各派等協力シ遺憾無キヲ期セシム）日支ノ正式國交調整ノ基準タルヘキ原則及要綱ニ關シテハ新中央政府構成分子代表者ヲシテ新中央政府樹立前日本側ト協議決定スルモノナルコトヲ決定セシメ之ニ基キ

㈡汪精衛ヲシテ「日支新關係調整ニ關スル原則」（客年十一月三十日御前會議決定ト殆ト相違セサルモノ）ヲ受諾セシムルコトヲ豫定スルト共ニ

㈢右原則實現ノ爲必要ナルヘキ新中央政府既成政權間ノ關係調整ニ關スル我方要請及新支那ノ地方政治形体ニ關スル我方內面指導ノ腹案ヲ定メタルモノナリ

三、右ニ基キ現地機關ニ於テハ汪精衛、王克敏及梁鴻志ニ對シ夫々所要ノ事前工作ヲ既ニ開始シタルカ順調ニ進行スル場合ニハ近ク青島ニ於テ汪精衛德王間ニ蒙疆ノ地位ニ關シ一般的了解ヲ遂クルト共ニ汪精衛王克敏梁鴻志三巨頭會合シ中央政治會議開催ニ關スル大綱ヲ協議シタル上大体十一月下旬同會議ヲ開催シ（南京ト豫定ス）續イテ本年末新中央政府樹立ニ進ムヘキ計畫トナリ居レリ

關係文書追テ送附ス

本電宛先　英、米、蘇

英ヨリ佛、伊、白ヘ伊ヨリ獨ヘ轉電アリ度

508

昭和14年11月8日　野村外務大臣より在上海加藤公使宛（電報）

汪側に対する内約事項の閣議での取扱いに関する政府対応振りにつき説明について

本　省　11月8日後8時発

第一號（極祕、館長符號扱）

貴電第七號ニ關シ

東亞局長ヨリ

一日ノ興亞院會議ニ於テ總理ヨリ貴電ニアルカ如キ意見ヲ述ヘラレタルコトハ事實ニ非ス一方興亞院側ニ於テハ確約事項（別紙第四）ノミヲ切離シ閣議決定ノ形式トセンカ爲「本案ハ一應閣議決定ノ上之ヲ以テ支那側責任者ニ對スル工作ノ基礎トナスモ情勢ノ如何ニ依リテハ更ニ考慮スルコトアルヘキヲ豫期ス」トノ諒解事項（此ノ趣旨ハ興亞院會議ニ於テ外相ヨリ意見提出スル所アリタリ）ヲ附シ七日ノ閣議ニ附議スル手續ヲ進メ居タル處陸軍側ヨリ斯ノ如キ條

件附ノ決定トスルコトハ閣議ノ權威ニモ鑑ミ面白カラサルニ付汪精衛ニ對スル最近ノ工作進展振ヲ確カメタル上何分ノ手續ヲ進メ度シトノ意見出テ(此ノ爲參謀本部ヨリ現ニ係官ヲ上海ニ派遣シ居ル旨竝ニ汪側ノ反對ハ些シタルモノニ非サルヘシト見込ミ居ル旨陸軍係官ヨリ内話アリタリ)差當リ其ノ儘トナリ居ル現狀ナリ

貴電末段ノ御意見ハ能ク諒承セリ

右不取敢

冒頭貴電ト共ニ北京へ轉電セリ

509 昭和14年11月9日 在北京門脇大使館二等書記官より野村外務大臣宛(電報)

新中央政府の樹立に異存はないが政府入りには難色を示す臨時政府要路の見解について

北京 11月9日後発
本省 11月9日夜着

第一一七四號(極祕、館長符號扱)

往電第一一五〇號及第一一五六號ニ關シ

喜多長官說示後ニ於ケル臨時政府內部ノ動向ニ關シ確實ナル筋ヨリノ內報左ノ通リ

一、六日湯爾和ハ喜多長官ニ對シ書面ヲ以テ中央政府ノ樹立ニハ滿腔ノ贊意ヲ表スルモ其ノ政體ハ憲。政。ニアラスシテ訓。政。ニ付自分(湯)トシテハ此ノ時期ニ出ツルヲ欲セサル旨其ノ態度ヲ闡明ニセル處齊燮元ハ當初竹內及王克敏ニ對シ極メテ不滿ノ意ヲ表セルモ其ノ後喜多長官ノ慰撫效ヲ奏シ陸軍旗。及聯隊旗ヲ從來通リトスルコトヲ條件トシテ納得シ又中央入ヲ慫慂セラレ居ル王揖唐、朱深、王蔭泰ハ湯トノ關係モアリ表面之ヲ固辭シツツアルカ內王揖唐ノミハ喜多長官ノ立場ヲ困難ナラシムル惧アル場合ニハ敢テ自說ヲ固執セサルヘキ意思ヲ表示シツツアル模樣ナリ

二、右ノ如ク中央政府ノ樹立ニハ何人モ異存ナキモ其ノ政府入ニハ何レモ難色ヲ示シツツアル處右ハ㈠兩三日來竹內カ佛租界ニ引移レル消息特ニ宣傳セラレタル結果(事實ハ竹內ハ既ニ相當以前ニ引移リ居ル筈ナリ)右ハ竹內カ身邊ノ危險ヲ感シタル爲ナリトノ想像ヲ懷クニ至リタルコト㈡梁鴻志ノ祕書某來京シ竹內工作ノ前途ニ付悲觀說ヲ流布セルコト㈢中支ノ「テロ」行爲ニ怯エ居ルコト等

ニ基因スヘキ處一方第七次聯合委員會開催地ヲ竹内カ吳佩孚トノ關係ヲ慮リ青島ヲ主張セルニ對シ梁鴻志ヨリハ北京ヲ主張セル電報ヲ寄セ來ル等竹内對梁ノ不一致ヲ過敏ニ看取シ前記消極的態度ヲ持シツツ事態ノ推移ヲ見極メントシツツアルカ如シ

加藤公使、南京、廣東、香港へ轉電セリ

510

昭和14年11月9日

内約交渉議事録（第五回）

第五次會談（矢野書記官記）

（十一月九日午前九時半ヨリ午後四時ニ至ル）

（列席者前回ニ林柏生ヲ加フ）

周　前回ハ維新政府ノ項迄討議シタルカ新上海ノ項ハ保留セリ　新上海ニ關シテハ我方同志ノ間ニ幾度カ協議セルモ種々異論アリテ結論ニ達セス仍テ之ハ貴方御提案ヲ一應御撤回アリ度シ　故ニ今日ハ次ニ移リ蒙疆、厦門、海南島、顧問ノ項ヲ討論スルコトト致シ度シ

顧問問題ハ當方ヨリ一個ノ私案ヲ書キタリ仍テ治安駐兵ニ關シテハ貴方ヨリ提案アリ度シ

影　揚子江下流問題竝ニ新上海ノ問題ハ貴方ニ於テ御撤回アリタシトノミニテハ問題ノ解決トナラス仍テ今會議ニ上程スルコトハ見合ハストスルモ政治的ニ解決スルコトトシ後刻周氏ト小生トノ間ニ於テ懇談シ度シト思フカ如何ニヤ

陶　新上海問題ニ關シテ當方カ撤回セシ理由ハ消極的ノ考ヘヨリニ非ス寧ロ積極的ニ合作ヲナサントノ見地ヨリ希望セシ次第ニシテ撤回ハ決シテ合作セストイフニ非ス眞ニ合作シ得ル樣ニ今少シ積極的ナル良キ方法ニ於テナシタク　揚子江下流地域ハ防共卽チ對「ソ」問題タル内蒙北支ト異リ此ノ地方ハ歐米ニ對スル經濟地域タルヲ以テ經濟合作モ自ラ歐米ノ經濟侵略主義ニ對抗スルノ意ニ於テ意義重大ニシテ中日カ共同シテ歐米經濟侵略ニ對抗スルノ案ナラハ容易ニ解決ヲ見ルモノト思考ス

中日兩國カ共同目標ノ下ニ歐米侵略主義ニ對抗スルコトカ認メラルレハ事變前ノ狀態トハ異ナル必要アルコトハ認メ得ヘシ事變前ハ歐米ノ侵略主義ト結托シ居リ

タルヲ以テ中國民族資本ハ未タ幼稚ニシテ歐米ノ買辨ノ下ニアリタルカ之ハ中日兩國合作ニテ是正シ得ルヲ以テ其ノ原則ハ中國民族資本ヲ發達セシメテ歐米資本主義ヨリ解放セシムルコトニシテ之カ爲ニハ中日兩國ハ其資本ノ合作ヲナササルヲ得ス、此ノ意味ヨリ事變前ヨリ方向目的ヲ變更セサルヲ得ス　之ニテ始メテ歐米資本主義ニ對抗シ得ルナリ　中國東南地區ハ商工業地域ニテ歐米トノ交通ヲ開始シテ以來百年經濟ノ中心地ニシテ農業地域ニ非ス　此ノ地域ハ中國ノ經濟ノ精華ノ集マル地域ニシテ之ニヨリ中日合作スル次第ナルカ合作ニハ次ノ五要素アリ卽㈠日本資本㈡中國土着資本㈢歐米資本吸收㈣日本ノ技術㈤中國ノ技術ノ五要素ナリ

現狀ニ於テハ日本ハ東南地區ニテ經濟上ノ努力ヲナシツツアル處日本ハ此ノ地方ニ於テ經濟上ノ獨占ヲ企圖シ居リ之ハ中國人モ歐米人モ共ニ認識シ居ルニ付中國資本ハ一ハ西南ニ逃避シ二ハ逃避ノ途中ニ於テ消費サレ三ハ上海ニ於テ租界方面ニ逃ケ以テ歐米資本ト結托シ其ノ侵略ヲ强化シ爲メニ歐米資本主義ニ對抗スルトコロカ反對ニ之ヲ助長スル結果ヲ生スル奇現象ヲ呈シ居レリ　今貴案ヲ見ルニ揚子江下流地域ニ於テ積極的ニ中日合作シテ歐米資本主義ヲ排斥スルコトハ出來スニ精神トハ却テ反對ノ結果ヲ生スルニ非スヤトノ結論ニ同志ハ達セリ　之ハ只ニ目的ヲ達セサルノミナラス上海ヲ特殊化セントスルニ在リ　故ニ之ニ依リテハ中日共同シテ歐米ニ對抗シ得サルノミナラス上海ヲ中央政府ヨリ放シテ獨立狀態ニ置カントスルモノニシテ却テ離レ兩國合作ハ不可能トナリ又新上海ハ中央政府ヨリ絕緣スルニ至ルナリ　仍テ同志協議ノ結果中日兩國ハ共同シテ歐米ニ對抗シ得ストノ結論ニ達シ若シ中日兩國共同シテ歐米ニ對抗センカ爲メニハ今少シ積極的ニ合作シ目的ヲ達成セサルヘカラストノ意見一致シ一應貴方提案ハ撤回セラレンコトヲ要求セル次第ナリ決シテ合作セストイフニ非ス目的達成ニハ今少シ積極的ニ合作スルヲ要ストイフニ在リ吾人ノ未定稿ノ相談ニハ汪先生ハ從來參加シ在ラサリシモ經濟合作ノ問題ニハ汪氏モ參加シ居リ右樣ノ結論モ汪氏ノ意見ナルコトヲ重ネテ申上クルト共ニ、我方ハ決シテ合作セストイ

フニ非ス寧ロ積極的合作ヲナシ歐米ニ對抗セントスルモノニシテソノ爲メヨリ良キ方法ニヨリ目的ヲ達成セントスルモノナリ　數量ノ問題ナラハ如何様ニモ考ヘ得ルモ性質上ノ問題ハ別ナリ

影

之ハ別途ニ考慮セン

只貴方ノ言ハ多少日本ヲ誤解シ居ラルルニ非スヤト思フ　上海カ中央ヨリ離ルルト申サレタルカ之ハ誤解ニ非スヤト思考ス　何故斯ク解セラルルヤ例示セラレンコトヲ望ム

陶

大體上海ノ部ニ關スル部分ハ維新政府トノ關係調整ノ部ニ在ルカソノ中「……所要ノ措置及經濟協議機關」トアルカ之ニテハ華北政務委員會ト同一形式ニ見エ居レリ

影

多分ソレナラント思ヒ居リタルカ「行政機構上所要ノ措置」トハ日支經濟合作ヲ容易ナラシムル爲メ上海市政府ニ必要ナル技術顧問及職員ヲ入レソノ他上海ニ於ケル參政權ニ發言權ヲ留保シ置クコト等ヲ意味スルノミ

次ハ經濟協議機關ニシテ政務機關ニモ非ス之ハ六月汪氏來京ノ時日本側ハ政務委員會及經濟委員會等政務機構ヲ提案セルカ之ハ汪氏ノ熱望ニ依リ之ヲ撤回セリ經濟協議機關トハ右意味ノ政務機關ニ非ス日支經濟專門家（カ）カ相談スル會ニシテ日支合作ヲ相談スルモノナリ決シテ執行機關ヤ又政治機關ニ非ス之ヲ諒解セラレ度シ

陶

先日廣東ニ於テ汪先生カ日支ノ關係ヲ合作ニ導クコトヲ容易ナラシムル爲何カ協議會ヲ作ツタラ宜シカラスヤトノ話アリタルカ經濟協議機關トハ之ニ類スルモノナリ

周

以上綜合スルトキ上海カ中央政府ヨリ離ルルカ如ク見ユルハ誤解ニ基クモノト思考サル

陶

内容ハ討議スル用意ナキモ先刻申上ケタノハ日支合作シテ積極的ニ合作シテ歐米ニ對抗スルコトヲ實現シ得ル如クスヘキニシテ既成事實繼承ノ問題ニ非ス

周

影佐氏ハ小生ト懇談的ニ相談スルト申サレタルカ之ハ汪氏ヨリ我々同志ト貴方トノ間ニ會議スルコトヲ命セラレ居ルニ付貴方御提案ハ一應汪先生ト相談スルコトカ手續上ノ問題トシテ必要ナレハ此席ニテハ御答ヘ出

來ス

谷　撤回サレタノミニテハ今後ノ進行上困ルニ付貴方ニ於テ斯クスルトイフ御對案アラハ吾人モ之ヲ研究シテ見度シト思考ス

影　進行セン

周　蒙疆ノ件ナルカ

一ノ蒙疆ノ境界ノ件ハ先日北支ニ關シ相談ノ結果ハ長城ハ華北ニ入ルルコトニセルヲ以テ此處ニテハ「含マス」トセン

影　ヨカラン

周　二ノ點ハ「國防上經濟上……ニ對シテハ竝ニ對外蒙交涉……云々」ハ趣旨ハ結構ナルモ文句ハ左ノ樣ニ修正シ度シト思フ處如何

「蒙疆ハ……ニ鑑ミ中央政府ハ高度ノ防共自治區域ナルコトヲ承認ス」

又職權ニ付具體的ニ書イテアルカ之ハ

「職權ハ中央ニ於テ內蒙ノ自治法ヲ發布シテ之ヲ規定ス」ト致シ度シ

中央カ蒙疆カ高度ノ自治區域タルコトヲ認メタル以上將來蒙疆ノ自治權ヲ認メタルモノナレハ之ハ自治法ヲ要スヘク又中央カ認メタ上ハ內政的ニ解決シ得ルナリ貴方案ノ如ク竝ヘルト恰モ中央ト日本トノ關係ノ如ク見ヘテ不可ナリ

梅　實ハ行政、立法、司法、軍事トイフハ大キクシテ分ラス仍テ內蒙自治法ニ於テ詳細ニ規定スルヲ可ナリト考フ而シテ之ハ內蒙ノ人々ト協議シテ規定ヲ作ラントスルモノニシテ具體的ニ其ノ中ニ規定ス

周　外蒙交涉ノ件ナルカ之ハ中央ノ外交交涉ト喰ヒ違フコトアリ殊ニ「ソ」聯ノ出方如何ニ依リテハ之ニ誘ハルルコトアリ得ヘク不侵略協定等ヲ結フトキハ「ソ」聯ニ乘セラルルコトモ有リ得ヘク斯ク簡單ニ書クハ危險性アリ將來自治法中ニ華北ノ場合ト同樣ノ規定ヲ要スヘク又注意スヘキハ中國ハ外蒙ノ獨立ヲ承認シ居ラサルニ之ト內蒙ノ外交交涉ヲ認ムルハ外蒙ノ獨立ヲ承認セルコトトナル不都合ナリ　中國ハ將來日本ト共同シテ外蒙ヲ回復セントスル意圖アリ

又「既成事實云々」ハ次ノ「左記」ノ所ニ書キ入ルルコトト致シ度シ

三ハ問題ナシ

左記ノ㈠ノ既成事實ヲ嫌フ

「中央政府ハ蒙疆自治政府ノ高度防共自治權ヲ認ム」ハ如何

若シ之ニテ不可ナラハ

「中央政府ハ現狀ニ基キ蒙古聯合自治政府ノ高度防共自治權ヲ認ム」

影　最後ノ貴案ニ同意ス

周　左記ノ㈡ノ兩政權ハトウカト思ハル

「中央政府ト蒙古聯合自治政府トノ關係……」ト修正シテハ如何

影　其ノ通リニテ可ナリ

周　四モ問題ナシ

谷　具体的問題ハ諒解事項ニ書キテハ如何

「……ニ鑑ミ現狀ニ基キ廣汎ナル自治權ヲ認メラレタル高度防共自治區域トス　其ノ權限ハ中央政府ノ發布スル內蒙自治法ニ規定スルモノトス」

周　ヨカラン　第四厦門ニ關スルモノナルカ發熱シアルヲ以テ梅氏ニ說明ヲ依賴ス

梅　厦門ニ關スル規定ハ簡單ナリ　趣旨ハ異存ナシ　文字上左ノ如ク修文シ度シ

「中國側ハ厦門ヲ特別市ニスルコトヲ承認シ日本側ハ厦門特別市政權ノ完整及其ノ獨立行使ヲ保證ス」

當方ニテ思フニ貴國海軍側ノ希望ナリト思考スル處惧ルルコトハ海軍側ハ軍事上ノ要求ノ結果行政權ノ獨立完整ヲコハサルルコトヲ惧ル

須　行政權ニ干涉シテ欲シカラサルナリ

決シテ行政權ノ獨立又ハ保全ヲ損フ意圖ナキ處厦門ハ共產黨モアリ又臺灣籍民モ多ク複雜ナル地域ナルニ付市政ニ參事會ノ如キモノニ日本側ヲ參加サセテ貰ヒ度イトイフ意ニテ實ハ現狀モカクナリ居レリ

梅　如何ナル協定ニナリ居ルヤ

須　厦門連絡部ト市政府トノ間ノ協定ニナリ居レリ　之ハ作戰上ノ必要アリ

梅　厦門ニ關シテハ日本海軍トノ關係ハヨク分ルカ須賀大佐ハ保證サレ居ルモ吾人同志ハ現狀ヲ詳ニセス　又須賀大佐モヨク分リ居ラレサル樣ナリ　又融通ノ利ク樣ニシ置カスシテ此處ニ束縛サレ居ルニ於テハ中央政府

ニ於テ行政運用上困難ヲ感スルニ付中央ニ於テ厦門ヲ
特別市政府ニナシ日本側トノ協定ニヨリ圓滑ナル關係
ヲ保チタキナリ

扇　現在軍事上ニ使用中ノ場所アリ　又政治顧問ヲ入レ居
ルニ付之等ハ認メラレ度キナリ

須　本問題ハ遠方ニアリ貴方ニ於テ事情審カナラスト思考
スルヲ以テ貴方ヨリ人ヲ派遣シ現狀ヲ視察シテ戴キ度
シ　厦門ハ極メテ複雜ニシテ「コロンス」ナル租界ア
リ　又共產黨ハ租界ニ巢ヲ構エテ之ヲ策動ノ中心トナ
シ又臺灣籍民モ多ク之カ統制ハ相當難事ニシテ加フル
ニ厦門ハ華僑ノ故鄉ニシテ之カ共產黨ノ活動ニヨリ攪
亂サルルニ於テハ華僑工作上モ多大ノ支障アリ　仍テ
華僑ヲシテ安心セシムルヲ要ス　決シテ政治上乃至ハ
經濟上ノ關心ヲ有スルニ非ス　右樣ノ目的ノ爲厦門ノ
特別行政區域タル事實ヲ認メラレ度キナリ

梅　之ハ保留シ置キ度シ

扇　貴方案ニアル行政上ノ保全云々ハ如何ニモ我方カ政治
的ニ干涉シテ來ルナラントノ誤解アルカ如キモ我方ニ
於テハ決シテ政治上ノ野心アルニ非ス　只海軍ニ於テ
ハ軍事上ノ重要ナル要求ヲ充足シ得レハ足ルノミ

梅　海軍方面ト中央政府トノ間ニ於テ協定ヲ作リテハ如何

陶　「中央政府ハ厦門ヲ特別市トナス　其ノ區域ハ日本側
ト協定ス」ハ如何

須　ソレモヨカラン　先日厦門ヨリ人ヲ派シ同地ニ國民黨
支部設置ノ件ニ關シ汪先生ト協議ストノ電報アリタル
ヤニ記憶スル處彼ノ人物ハ未タ來ラサルヤ　之ニ詳細
聞カレタルナラハ分ルナラン

矢　海軍側ハ之ニテヨロシキヤ　異議ナキヤ

扇　現在ノ厦門特別市ハ厦門島ハ勿論金門島其ノ他附近ノ
小島嶼ヲフクミ居レリ仍テ只厦門ヲ特別市ニスルタケ
ニテハ意味ヲナサス　海軍ノ必要トスルハ單ナル厦門
市ノミニハ非ス　附近一帶ノ水域島嶼ヲ包含スル軍事
要域ヲ得ルニ非レハ軍事上ノ要求ヲ充足シ得サルナリ

矢　然ラハ左ノ文章ハ如何

「中國側ハ現在ノ厦門特別市域ヲ軍事ノ要地ナルニ鑑
ミ之ヲ特別市トナスコトヲ認ム　日本側ハ同政府ノ行
政權ノ保全ヲ保證ス」

梅　之ハ認ムトイフコトカ具合惡シ

扇　「中央政府ハ厦門ヲ特別市トナス　但シ其ノ區域ハ別ニ協定ス」更ニ念ノ爲申上クルカ特別行政區域トイフハ軍事上ノ要地ナルコトカ意味サレ居ルヲ以テ之ヲ考慮ニ入レラルルコトヲ要ス

矢　之ニテハ特別市トナスコトハ分ルカ其ノ性質ニハ言及サレ居ラス　卽チ軍事上ノ問題カ拔ケ居ルカ可ナルヤ

梅　然ラハ之ハ如何

「中央政府ハ厦門ヲ特別市トナスソノ行政區域ハ別ニ之ヲ協定ス　又ソノ軍事協力事項ニ關シテハ中央政府ニ於テ日本側ト協定ス」

須　ヨカラン

梅　「次ハ南支沿岸」ノ問題ナルカ之ハ意味稍々明瞭ヲ缺キ居ルニ付提案ヲ出サン

次ノ三項ニ分チタリ

「海南島及其ノ附近ノ各島嶼ヲ改メテ特殊行政區域トナス」

周　之ハ違フ

梅　之ハ自分ノ間違ナルニ付變更シタシ

影　暫時休憩　此間支那側ハ研究アリ度シ

十一時四〇分休憩　十一時五〇分再開

梅　經過狀況ヲ申上ク

昨日周、陶兩氏トノ會談ニ於テ決定サレタル結果ヲ自分ハ誤解シテ先刻ノ如キ間違ヲナセリ　失禮、次ノ二項ヲ提案ス

㈠「海南島及其ノ附近ノ諸島嶼ノ中日海軍協力事項ニ關シテハ中央政府ニ於テ日本ト別ニ協定ス」

㈡「海南島ノ資源開發利用ニ關シテハ中日經濟合作ノ一般原則ヲ適用シ日本ニ優先權ヲ供與ス」

簡單ニ說明申上ケン　海南島ニ關シテハ本來中佛協定アリ　第三國ニ利權ヲ讓渡セストノ約定アルニ拘ラス海南島ニ關スル佛國トノ協定ヲ違反シテ迄モ日本ニ供與ストイフ次第ナルヲ諒トセラレ度シ　㈠ニテ海軍ノ軍事上ノ要求ヲ充タシ㈡ニテ資源開發ヲ國際問題惹起シテ迄モ日本ニ讓渡スル次第ナレハ多大ノ讓步ナリ何故海南島ノ特殊行政區域ニセストイフハ現在海軍トノ協力及資源開發供與ニテ充分ナリト思考ス　又行政區域迄特別行政區域ニ變更シテ爲サスンハ協力不可能トハ思考サレス

今一ツノ理由ハ第三國ニ對スル刺戟ヲ與ヘサルコトヲ
考慮ニ入レタリ　第三國ニ海南島不割讓ノ約定アリ
仍テ特殊行政區域ニスルト假令領土ノ割讓ニハ非スト
モ第三國ニ刺戟ヲ與ヘルコトトナル
須
中國側ノ意見ノ意ノアル處ハ諒解シ得ルモ別ノ立場ヨ
リ事態ヲ見直シテ戴キ度シ
只今梅氏ノ言ハ第三國ニ對スル刺戟ヲ避クルコトハ同
感ナルカ現在ハ軍事占領ヲナシ居リ此ノ事實ハ既ニ第
三國ニモ示サレ居ルニ付刺戟ハ與ヘ居レリ　其ノ後歐
洲ニ戰亂起リ從來ノ日獨伊防共樞軸ト自由主義國家群
トノ間ニハ既ニ戰爭狀態ニ入リ居レリ　此ノ狀勢ノ結
果ハ何時不祥時(爭カ)發生スルカハ計ラレサル時ニ當レリ
此ノ有時ノ際ニハ戰略上當然海南島ハ特殊軍事上ノ必
要性ヲ生シタリ　例ヘハ英米艦隊ト日本艦隊トノ對抗
上地理的ニ必要ニシテ之ハ單ニ日本ノミナラス中日兩
國ニ對シテ死活的大問題タリ
次ニハ資源ノ問題ナルカ梅氏ノ言ナルカ第三國トノ約
定ノ問題モアルモ中日經濟合作上ノ一般原則ニ基キ資
源開發ヲナスニハ最早何國モ異議ヲ挾ムルヲ得ル國モ

ナカラン
之ハ當初海南島作戰ヲナシタル時ハ資源ヲ豫期セルニ
非ス　軍事上ノ必要ヨリ敢行セルカ島南部ノ三亞港ニ
基地ヲ置キタルニ附近ニ鐵鑛ヲ發見シタリ
歐洲各國ハ目下火カツキ居ルヲ以テ自然資源ハ各自ノ
領土(印度濠洲)ヨリ之ヲ仰カサルヲ得サルニ至レルヲ
以テ從來其ノ方面ヨリ鐵ノ供給ヲ仰キタル日本ハ自然
鐵ノ供給ヲ絕タルルコトアルヘキニ付之ハ何處カニ發
見セサルヲ得ス　而ルニ三亞附近ニ見ツケタルヲ以テ
之ハ採算上ノ損ハナストモ採掘セサルヲ得ス
一ハ對歐洲戰爭ニ對シ常ニ不敗ノ態勢ヲトラサルヲ得
ス　又歐洲戰爭ニヨリ鐵資源ノ供給ヲ絕タレサル樣之
ニ備ヘ置カサルヲ得ス
中日兩國ハ共ニ對歐洲問題ニ於テ同一ナル運命ニ直面
スヘキナレハ之ヲ考ヘラレ度シ　從ツテ權利義務關係
ヲ離レテ成程蒙疆北支ニ於テ資源開發ヲ認メアルニ付
之ニテ充分ニ非スヤト思ハルルナランモ之ハ未タ開發
迄時日モ要スルニ付焦眉ノ急ノ間ニ合ハス
之カ爲ニハ海南島ヲ不安ナル狀態ニ置カレテハ迷惑ナ

リ　幸ヒ同島ノ軍隊ハ凡テ汪先生ノ關係深キ軍隊ニシテ之カ招撫ハ左程困難ニ非サルニ付汪先生ノ最モ信頼セラルル人ヲ迎ヘ海南島ヲ汪先生卽チ中央政府ノ直轄地域トナシ地方紛爭ノ外ニ置キ安定地域トナシ置キ度ト思フ

仍テ斯カル事實ヲ考慮ニ入レテ事態ヲ根本的ニ考ヘ直シテ戴キ度シ　今一ツ附加シテ申上ケ度キハ「局地的行政組織(軍事機關)」云々カ誤解ノ種トナルヤモ計ラレサルカ之ハ他意ナク地方政府ノ役人ノ如ク宇内ノ大勢ニ暗キモノニヨリ處理サレテハ協力カ圓滑ニ行カス寧ロ中央ニ屬スル地域トシテ中央ト接衝スレハ直チニ分ル樣ニシテ戴キ度シ

梅

須賀大佐ノ申サレタルコトハ軍事上經濟上ノ二點ノ如ク見ユルカ之ハ先刻ノ㈠㈡ニテ充分ナリト思考ス㈠ハ海軍軍事協力㈡ハ資源開發ニテ可能ナルカ故ニ之ニテヨロシカラント思考ス只違フハ特殊地域ノ問題ニシテ中國トシテハ贊成出來ス　戰前海南島ヲ獨立ノ省トセントイフ計劃ハアリタルモ之ハ自然沙汰止ミトナレルカ將來海南島ヲ省又ハ特別行政區域ニスルコトハ有リ得ルヤモ知レサルモ現在直チニ之ヲ實行セハ民衆ヲシテ之ヲ蒙疆化スニ非スヤトノ誤解ヲ與ヘ又第三國カラモ誤解ヲ招キ殊ニ同島民ハ古來愛國心ニ富ムモノニシテ現在之ヲ特殊行政區域ニスルコトハ島民ハ事情ヲ知ラサルヲ以テ之カ誤解ヲ不必要ニ起スコトトナルニ依テ島治ニ多大ノ不安ヲ起シ延テハ日本ト軍事上及經濟上ノ協定ヲナスニ障害トナルヲ懼ル　從テ將來適當ナル時期ニ於テ省トシテモ差支ヘナシ

又特別行政組織ヲ設ケテモ可ナリ

須

貴方ノ言ハヨク分リタルモ之ハ單ニ海軍ノ問題ニ非ス陸軍モ關係アリ

扇

梅氏ノ言ハ未タ認識カ充分ニナキヤニ思ハル地方政府所屬トシテ置クハ斯カル大事ヲ議スルコト不可能ニシテ廣東省所屬ニテハ手續上ノ問題ヨリ而モ極メテ煩雜ニシテ又不安アリ　仍テ中央所屬ニシテ中日兩國ニテ中央カカツチリ協力シテ處理スルニアラスンハ到底目的ヲ達スルコト能ハス　第二ノ第三國ニ關係アル點ハ吾人モヨク討議研究シタ上ニテノ話ニテ割讓ニモ非ス東亞ノ新事態ノ發生ニ卽應シテ行ク必要アリ細目ハコ

ノ大原則ヨリ發足スルモノニシテ此ノ原則ヲ認識セスンハ細目ヲ討議スルモ解決不可能ニ非スヤト思考ス

梅

扇氏ノ第三國關係ハ貴國ノ爲無視シテマテ定メタリ次ハ行政組織カ協力ニ對シテ如何ナル關係ニ立ツヤハ別ノ問題ニシテ將來ハ特別組織ニスルカモ知レヌモ現在ハ暫ク之ハ見合セテ貰ヒ度シ　又貴方案ノ㈠㈡ノ問題ハ臨時的卽チ一時的駐兵ニテ將來ハ陸上兵力ハ撤兵サルルモノト思フ只海軍ノ問題ハ殘リ居ルヲ以テ之ハ特別ニ海軍問題ハ特ニ海軍ト協定ヲ相談スヘシ海軍ノ問題ハ領土主權ノ問題ニ觸レスシテ定メ得ルナリ

又㈠㈡ハ却テ不明確ナリ

周

晝食後午後ハ早ク切リ上ケン　明日ハ顧問其他ノ問題ヲ討議セン　午後一時食事一時四十分開始

周

海南島問題ハ大分明白ニナリ居ルモ之ハ結局保留スルコトトセン

扇

「局地行政區域」ハ特殊地位トイフコトヲ意味シ吾人ハ之ヲ重視シ居ルモ之ハ表面ニ出スコトハ面白クナキヲ以テ「局地的行政區域」トシアルモ之ハ其ノ含ミニテ可然解決シテ戴キ度シ

影

小生ヨリ申上ケテ置キ度キハ陸軍ノ駐屯ノコトカ問題トナリ居ル處之ハ海軍ノ施設ヲ保護スル爲メノ駐屯ヲ主トス　海軍ヲ離レテ駐屯ニ非ス

海南島ノ問題ハ之ニテ留メ置キ要綱別冊第一項ニ戻リ一言シ度シ前回ハ二、ノ二行目「對日滿ノ地方的處理」ハ削除シタルカ之ヲ消シタルカ爲後ニ誤解カ生シタル樣ナルモ我方中央ノ解釋スル處ニ據レハ「日支協力事項ニ關シ中央政府ノ決定ノ範圍內ニ於テ地方的處理トシテ處理スヘキ事項」ナル意味ナリ　前記「對日滿――」ヲ消シタルカ爲メ左記以下ヲ解釋スルニ際シ如何ニモ中央政府ト離レテ華北カ勝手ニヤル樣ニ見ユル誤解ヲ生スル次第ナリ故ニ右解釋ヲ正シクシ誤解ヲ解ク爲メ「左記」ノ次ニ前記文句ヲ搜(挿カ)入スル方ヨカラント思考ス之ハ研究シ置カン

梅

影

而シテ其ノ中ニ入ルモノカ

㈠共同防共

㈡經濟提携

㈢日本人顧問

㈣㈤ハ中國ノ內政問題ナリ
「經濟提携就中……」ハ右前文ノ趣旨モアリ事前認可ヲヤメテ事後報告ニ直シテ欲シイ中央政府ノ決定ノ範圍內ニテ處理スル次第ナルヲ以テ一々事前ニ中央ノ認可ヲ求ムルハ煩ニ堪エス仍テ事後報告ニ修正ヲ望ム
御研究願ヒ度シ
周
本問題ハ今日ハ影佐氏ノ意見ヲ伺フ迄ニシ研究シテ置クヘク又一應濟ミタル上ハ初メカラ勿論ヤリ直シテ研究スヘシ
影
ソレニテ可ナリ
前回ニ㈠カ內容不明ナリトノコトニテ研究ヲ約セルトイワレタルカ之ヲ以テ今說明ヲ加ヘ置カン
⑴「日本駐屯ニ伴フ事項ニ關スル處理」ハ防共治安駐屯ニ關連シ兵營、演習場、訓練、軍隊ノ移動、給養ニ關スルモノ
⑵ハ警備、軍隊配置、相互救援、軍隊相互ノ連絡、情報交換
⑶軍事顧問、教官、武器供給、交通、通信ニ關スル軍事上ノ要求監督
之ハ中央政府ノ決定ノ範圍內ニ於テ處理スルナリ
小生ヨリ申上クルコトハ終リ
周
之ハ研究シ置クヘシ
明日ハ午前九時ヨリ開會スヘシ

511

昭和14年11月10日

内約交渉議事録（第六回）

日支國交調整原則ニ關スル協議會
第六回會議議事要錄
十一月十日於愚園路六〇號
自午前十一時半至午後四時半
列席者　前回ニ同シ
周佛海（以下周ト略記ス）
顧問ノ問題ヲ審議致度（支那側起案ノ原案ニ付）逐條行フヤ又ハ全般的ニ討議スルヤ
影佐少將（以下影ト略記ス）
逐條審議ヲ進ムルコトトセン
周
逐條審議スヘシ

第一項中政治的顧問ヲ置カサルハ說明スル迄モナシ東京會談ノ際ハ財政及經濟顧問ハ入リ居ラサリシカ其ノ後ニ於ケル貴方ノ希望ニ依リ入ルルコトトセリ

第二項ハ地方行政機關ニハ軍事財政經濟ノ顧問ヲ招聘セス技術顧問ノミヲ入ルルノ意味ナリ卽軍事ハ中央ニ於テ統一スルノ要アルヲ以テ地方行政機關ニハ入レス、又財政經濟ニ關シテハ敢テ顧問ヲ必要トスル程ノコト無キニ付之ヲ加ヘアラサルナリ

縣政府ヲ除外セルハ、縣ハ地方行政機關中最人民ニ接スルモノナルニ付之ニハ顧問ヲ入レサル方、惡影響ヲ避クル所以ナルヘシトノ趣意ニ基クモノナリ

蒙疆ハ特別ニ除外例ヲ置キタル次第ナリ最後ノ項ハ當然ノ事項ヲ入レタルモノナリ之ハ「必要ノ場合」ト云フ字句アル以上本項ハ敢テ必要ナキカ如キモ當方幹部同志ノ感シヲ良好ナラシメントセルノミ

影　日本側ハ第一項ハ如何

谷萩（以下谷ト略記ス）

「政治的性質ノ日本人顧問ヲ招聘セス」ノ文句ハ書カナクトモ可ナラスヤ之ハ必要ノ場合ノミ招聘スルモノナルニ付不要ノ辭句ナリ

影　之ハ主權尊重原則中ニアルヲ以テ今更書ク要ナカラン第一項中ノ第二項ニ關シテハ一般的ニ政治顧問ヲ置クノ意志ハ有セサルモ強度結合地帶卽北支蒙疆上海特別市政府等ニハ必要ナル顧問ヲ入ルルコトカ必要且有利ナリト思考スルコトハ主權尊重原則ニ關スル我方回答中ニアル所ノ如シ故ニ特別ナル處ニ在リテハ顧問ノ範圍ヲ廣ムルコト必要ナリ

周　日本側ノ云ハルルコトハ我方ニ於テモ充分考慮シ盡セル所ナリ從テ蒙疆ハ除外例ヲ設ケタリ

然レトモ強度結合地帶ト云ヒ特定地域ト云フモ何レモ漠然トシテ明確ナラス華北ニ政治顧問等ト書クハ宜シカラス

北支ニハ經濟顧問財政顧問迄ハ可ナルモ現情ノ如キ政治顧問ハ不可ナリ若シ北支ニ置クトセハ經濟上強度結合地帶ナルカ故ニ經濟顧問迄カ限度ナリト認ム

影　北支ハ國防上經濟上強度結合地帶ナリ北支ノ現在ノ情態ヲ兎角批判セラルルモ今ノ臨時政府ハ戰爭遂行中ナルカ故ニ強ク之ヲ把握スルハ當然ナリ今後ノ華北政務

委員會ノ性質ハ臨時政府トハ大ニ異ル所アルヘク政治
顧問ヲ入レタレハトテ現在ノ臨時政府ニ對スルカ如キ
モノニアラス安心サレテ然ルヘキモノト認ム
梅思平（以下梅ト略記ス）
影佐少將ノ云ハレタル北支ハ國防上經濟上ノ強度結合
地帶ナレハ之ハ軍事顧問ニ依リ解決サルヘク又經濟上
ノ理由ニテハ經濟顧問ニテ解決ツクヘシ若シ此ノ外ノ
理由ニテ政治顧問ノ必要ト云ハレテモ何ノ爲ナルカ諒
解ニ苦ムモノナリ華北政務委員會ノ職權カ定マリ居ル
以上一層政治顧問ノ必要性ハ無クナルモノト考フ
陶希聖（以下陶ト略記ス）
政治顧問ヲ置クカ否カハ行政權ノ自主ナルカ否カニ大
ナル關係アリ華北ニ政治顧問ヲ置クカ否カハ華北政務
委員會ノ職權ノ大小ニ拘ラサル問題ナリ
梅
政治顧問ノ問題ニ關シテハ影佐少將ノ立場モ困難ナル
モノト諒解シ得ルモ我々ノ內部モ反對ノ態度カ強ク同
志ニ大ナル反對アリ之ハ東京ニ傳ヘラレ度
犬養（以下犬ト略記ス）
此ノ位ニシテ置キ別途ニ練ルコトトセハ如何

影
財政經濟顧問ハ可ナルヤ
梅
經濟ハ宜シキモ財政顧問ハ困ル
周
「但シ華北政務委員會ハ經濟技術顧問ヲ招聘スルコト
ヲ得」ト入ルヘシ
影
尙ヨク研究セン
念ノ爲附言センニ中央政府ニハ政治顧問ヲ置カス大使
カ之ヲ行フコトトナルモ北支ニ政治顧問ナキ時ハ連絡
惡クナルヘシ
矢野（以下矢ト略記ス）
顧問ヲ入ルルハ日本側トシテ何等ノ益ハナシ然レトモ
支那側ハ連絡上利スル所極メテ大ナルハ自分カ嘗テ其
ノ掌ニ當リ痛感シアル所ナリ
卽顧問ニ依リ相互ノ意向カ明瞭ニ判リ連絡ハ極メテ容
易トナル
影
今ノ顧問ハ軍政ヲ代行スル政府ニ對スルモノナルヲ以
テ政府ヲ監督スルノ要アリ之ヲ以テ事變後ノ狀態トス
ルハ誤ナリ
周
補足的ニ述ヘ度ハ影佐少將ハ中央ハ大使カ政治顧問ト
ナルニ付北支ニ於テ政治顧問カ居ラサレハ連絡惡シト

云ハレタルモ北支ニハ外交機關アリ斯ノ如キコトハ無カルヘシ大使館ハ別トスルモ連絡ヲ取ルニハ喜多中將ナリトモ連絡部長官ノ資格ニテモ可ナリ

陶　先ニ双方ノ意志ノ一貫セル主張ハ内政干渉ノ形式ニ依ル連絡ヲ無クシ外交的形式ニ依ル疎通連絡ニ依ラントスルニ在リ勿論外交的形式ニ依ル場合ト雖モ側面的連絡ハ之ヲ行フモ要スルニ飽迄モ獨立國家ノ要素ヲ具備セシメントスルモノナリ

北支ニ於テハ特殊事情アルハ勿論ナルモ外交的ノモノハ無クシテ全ク内政干渉的ノモノ多ク日支双方ノ爲人心ヲ收攬スル所以ニ非ス

影　是非共外交的形式ト致度

更ニ相互研究スルコトトシ度シ

蒙疆ハ高度自治ノ形ナルカ顧問ノ招聘迄中央政府ノ許可ヲ得ルノ要ナシ報告ノ程度ニテ可ナラスヤ

梅　蒙疆ハ貴見ヲ容レテモ可ナルニ付北支ハ我方ノ主張ヲ通サレ度

周　例ヘハ今我々ト日本側トノ連絡ハ影佐少將カ之ニ當ラレ極メテウマク行キ居ルモ影佐少將ハ汪先生ノ政治顧問ニハアラス

影　一項ハ保管シテ先ニ進マン蒙疆ノ項ハ結局如何ニスルヤ

「「蒙疆」ニ於テハ政治顧問ヲ招聘スルコトヲ得但シ之ヲ中央政府ニ報告スルモノトス」トセハ可ナルヘシ最後ノ項ハ省クヲ可トス

之等ノコトハ言ハスモカナノ事項ニシテ當然ノコトナリ貴方ニ於テハ念ノ爲加ヘラレタルモノナランモ我方ヨリ見レハ何等カ支那側カ顧問ヲ毛嫌スルカ如キ感シヲ現ハシ面白カラサルニ付原則中ニハ書カサルヲ可トス

周　最後ノ項ハ殘スヲ可トス若シ其ノ位置ニテ惡ケレハ主權尊重ニ關スル要望事項中ニ入ルヘシ其處ニテ其ノ項ヲ取除クナラハ前ノ方ノ第一、二、三項何レモ「必要ノ場合」ヲ記入スルヲ要ス

影　「招聘スルコトヲ得」トセハ同意義ニ非スヤ「得」トセハ義務的トハナラス

最後ノ項ハ主權尊重ノ部ニ入ルコトハ敢テシテ差支ナ

シ

犬　「得」ノ意味ニテ適當ナル語ハナキヤ

矢　法律的ニ讀メハ「得」丈ニテ可ナリ

周　ソレニテ可ナルヘシ最後ノ項ハ主權尊重原則中ニ入レ其處テハ削除スヘシ

第二項ノ方ハ嚴重ナル書振リナル爲不愉快ナル感シヲ與フルナランモ斯ク爲ササルヲ得サル所以ノモノハ臨時維新兩政府ニ在リテ顧問カ上官タルカ如キ態度ヲ執リ顧問ノ署名ナクンハ令達ノ發布出來ス上海市政府ニ於テモ警察ノ命令ニ副署スル等甚タシキ權力ヲ振廻シアリ現在ハ特別ノ事態ナルヘケンモ惰性ハ殘ルヘク一般ニ對スル印象ハ不良ナリ

谷　私ハ山西省ニ在リテ政治顧問ヲ兼ネ居リシモ一回モ省政府ノ令達ニ署名シタルコトナシ

周　副書ノ書類ハ自分カ親シク見タリ間違ナシ

谷　「前項ノ服務ニ關シテハ中央政府ノ定ムル所ニ依ル」トセハ如何

梅　此處ニ書キ置ケハ約束トナリ將來誤解モ一掃スヘシ服務規定ニセハ片面的ナリ顧問ニ雇ハルル前ニハツキリナシ置クヲ可トス事實上最恐ルルハ經濟部長ノ上ニ顧問カ居リテ更ニ一人ノ經濟部長ヲ置キタルカ如キ形トナルコトナリ

矢　顧問ニ關スル貴方御懸念ハ尤モナリ之ハ顧問職權行使ニ關シテハ別ニ中日協定ノ定ムル所ニ依ルトセハ如何

影　顧問ニ關シ兎角ノ批難アルカ誤解モ少ナカラス

例ヲ擧クルニ八月一日臨時政府ハ突如トシテ國旗條例ヲ發布セルニ付喜多中將ニ對シ之ヲ問合セタル處同中將ハ其事實ヲ知ラサリキ卽同中將カ一カラ十迄政務ニ關與シ居ルモノニ非ストノ有力ナル一例ト見得ヘキナリ

惡例ノミヲ促（與カ）ヘテ一般ノ感情ヲ惡クスルカ如キ書キ振リハ避クルヲ可ト認ム

陶　自分ノ感想ヲ述ヘ度同志ノ資格ニテ一應聞カレ度自分ハ偶然ノコトニテ今度ノ會議ニ參加スルコトトナリシカ每日ノ討議ノ模樣ヲ見ルニ日本側ハ簡單ヲ希望シ中國側ハ詳シキヲ希望ス又日本側ハ將來ニ於テ決定セントシ中國側ハ唯今決定セントス簡單ニト云フハ將來動カシ得ル余地ヲ殘サントスルモノナルヘク詳細ニセハ

將來變更スルコト困難ナリ中國側ハ將來變更サレサル様詳シク定メントスルモ日本側ハ將來變ヘ易イ様ニ簡單ヲ希望スルカノ如ク察セラル之ハ單ナル私一個ノ臆測ニ過キサルモ若シ之カ正シキモノトセハ將來支障ヲ來スコトアルヘシ

犬

此ノ場合ハ此處ニ出スコトカ感シヲ惡クスルモノナルニ付二段構ヘトスルヲ適當トセスヤ卽本項ノ內容ハ顧問招聘規程ニ讓ルコトトシ此處ニハ簡單ニ書キテ其ノ內容ハ必ス規程ニ盛ルコトヲ諒解事項ニテ定ムルハ可ナリ一案トシテハ顧問ノ服務規程ハ中央政府ノ定ムル所ニ依ルノ意味ヲ加フルコトナリ

陶

全部ノ內容ヲ別ノ所ニ置ク犬養案カ出タルモ自分トシテハ其レニテモ可ナリト認ム唯法律上ノ問題トシテ將來服務規程ハ中央政府カ定ムルモノナルニ付其ノ際全部ヲ織リ込メハ可ナリ

梅

「顧問ノ職權及服務規程ハ中央政府之ヲ定ム」トセハ如何

影

支那側ハ日本ノ內政干涉ヲ惧レ斯ル嚴密ナル要求ヲ書カントスルト同樣日本側ハ支那カ顧問招聘ヲ忌避スルコトアルヤモ知レストノ疑念ヲ抱ク換言セハ「必要トスル場合」ト書キテ逃ケヲ張ルモノトノ疑ナキニ非ス故ニ玆ニ顧問ハ必要トスル旨ヲ諒解事項トシテ書キ置カレ度

梅

影佐少將ノ意見ハ了解セリ

了解事項ハ公表セラレサルモノナルニ付如何ナルモノヲ發表スルカハ今後ノ問題ナリ今ノ處如何ナル顧問カ要ルカハ不明ナルモ今後研究スヘシ

影

發表ノ意ニ非ス諒解事項トシテ約スルニアリ之ハ中國ノ自主的立場ヲ滅却セス自主的立場ヨリ日本ニ要求スル形トセハ可ナリト認ム

周

諒解事項ノ次ニ

「中國側ハ「必要ニ依リ」ノ辭句アレハトテ決シテ顧問招聘ヲ拒絕スルノ意ニ非ス」ノ意味ヲ加ヘルハ如何

影

「拒絕セス」トハ態度消極的ナリ我々ノ云フハ積極的ナリ必要トスルカ否カニ在リ例ヘハ第一項ノ如キ顧問ハ必要ト思フノ意ヲ加フルナリ

周

其レニテハ支那側ノ自主的ナル意味ヲ消スコトトナラスヤ

影　然ラス「得」ノ文字ニ對シ支那側ノ意向カ積極的カ消極的カヲ表ハセハ足ル

清水　「中國ハ現狀ニ鑑ミ前條各項ノ顧問ハ何レモ之ヲ必要ト認メ之カ招聘ヲ要望スルモノナリ」トセハ如何

影　清水君ノ意見ノ通ナリ

周　之ハ義務的ニ見エテドウカト思フ

犬　「中國ハ現狀ニ鑑ミ新中央政府成立後速ニ所要ノ顧問ヲ派遣セラレンコトヲ希望ス」ノ程度ニテ如何

陶　文字上ノ使用法カ惡イ時ハ顧問問題ハブチ毀シトナルヘシ

影　同樣ナルコトハ日本側ヨリモ云ヒ得ヘシ文字ノ使ヒ方ヲ充分研究シ日本側ノ要望ヲ容レラルヘシ

周　各位ノ心配サルル所ハ支那カ「必要ナル場合」ノ辭句ニ藉口シテ招聘セサルカ如キコトハ無キカトノ心持ナルヘキニ依リ中國トシテ將來不必要ナルノ故ヲ以テ招聘セストフコトナシト云ヘハ可ナルヤ

影　其レハ違フ必要カ不必要カヲ判キリセヨト云フ意ナリ招聘ヲ日本側ヨリ要求セハ自主權ヲ毀シタルコトトナルヲ以テ自主的ニ中國カ招聘スルノ形式ニサレ度旨ノ貴方ノ希望ニ依ルモノナルヲ以テ顧問カ必要ナルカ否カヲ明示セハ足ルモノナリ

周　必要ノ時招聘スト云フハ不必要ナル場合ニハ招聘セスト云フニ非ストノ意味ヲ表ハセハ可ナルヘシ

犬　陶氏トノ合作ニテ一案ヲ得タルニ付尙研究スヘシ

（晝食）

周　第三項軍事顧問ノ問題ナルカ之ハ主權尊重原則ノ最低條件中ニモ在リ其ノ職權ヲ「中國一般國防軍事ノ施設及中日防共的軍事協力事項ノ立案輔佐」ト爲セリ第二項ハ顧問ハ中央ニテ招聘シテ必要地點ニ送ルノ形式トセリ第三項ハ第三國軍事顧問ノ件ニシテ貴方案ニ依レリ

影　之ハ大体異議ナキカ如キモ綏靖軍ニ付テハ如何

周　之ハ後第五項ニ於テ討議セン

影　先刻陶氏ノ語リタル感想即日本側ハ初ヲ簡單曖昧ナル形トシテ置キ後之カ擴大解釋ヲ行ハントスル傾向アリトノ件ハ余リニ穿チ過キタル解釋ニシテ何等斯ノ如キ意圖ヲ有セス責任ヲ以テ申述ヘ置クヘシ日本側ヨリ見レハ日本ハ大綱ヲ決定シ餘ハ定メ得ル時ニ定メントシ

支那側ハ定メ得サル現在ニ於テ定メントスルモノトノ感想ヲ予ハ抱キアリ次ニ進マン

周　第四項ハ如何

影　之ニテ宜シカラン

周　第五項ハ主權尊重ニ關スル最低條件中ニモアルカ如ク軍隊ニ入ルルハ目立ツニ付斯クセリ但蒙疆ノ部ハ其ノ特殊ノ事情ニ依リ適宜ノ措置トナセリ軍隊ノ中ニ顧問ヲ入ルル問題ハ先刻申上ケタルカ如キモ華北ノ綏靖部隊ニ顧問ヲ入ルルカ如キハ決シテ宜シカラス訓練ノ爲ナラハ其ノ必要ナシ又監視ノ役目ナラハ通州事件ノ如ク何ニモナラス若シ危險ナルカ故ニ監視スト云フナラハ中國人ハ獨立自主ヲ好ムカ故ニ之ハ反感ヲソソルノミニテ却テ反亂ヲ起スヘシ從テ從來ノ經驗ヨリ云フモ監視的顧問ヲ置クコトハ無意味ナリ臨時政府ハ二ケ年軍隊ヲ募集セシモ出來ス出來サル理由ハ監視サレ獨立自由ヲ奪ハルル爲反感ヲ起シテ謀叛トナルナリ因果ハ廻リテ循環論トナルヘシ監視ニ依リ事件ヲ防カントスルハ無駄ナルヘシ

谷　通州ハ特異ノ例ニシテ通州事件ヲ引例スルハ適當ナラス

周　通州ハ徒ラニ監視ノミヲヤツテモ用ヲ爲ササル例トシテ申シタルナリ

影　日本側希望トシテハ特ニ軍事協力ヲ必要トスル部隊ニハ顧問ヲ入ルルコトト致度

國防軍ニ顧問ヲ入ルルコトハ私個人トシテハ撤回スルモ可ナリ但シ綏靖部隊等ニ入ルルコトハ撤回シ得ス要ハ既成事實ナルカ故ニ之ヲ無理ニ認ムヘシト云フニハ非ス成育ノ初期ニアル赤ン坊ヲ未成ニテ乳ヲ離スナト云フノミ

周　第五項ニ左ノ辭句ヲ加ヘン

「北支現在ノ綏靖部隊及警察以外ノ」ヲ冒頭ニ置ク

影　「外國人顧問教官及其ノ他名義ノ如何ヲ問ハス――」以下ヲ「外國人顧問教官及職員ヲ招聘セス」トスルヲ可トス

周　將來ノ軍事機構ヲ如何ニスルカハ未定ニシテ軍事委員會又ハ國防委員會等ノ案アリ執行機關ハ軍政部、及參謀本部トシ其ノ上ニ軍事委員會又ハ國防委員會ヲ置クコトトナルヘシ但シ之ハ個人ノ考タルノミ

影　綏靖部ハ軍靖(政カ)部ニ屬スルモノト考フルカ如何
周　過去ノ例ヲ云ヘハ綏靖部ヲ保安隊ト云ヒ省主席カ保安司令トシテ指揮シ司令トシテハ軍事委員會ニ屬シ居タリ
影　何故本問題ヲ尋ネタルヤト云ヘハ北支政務委員會ノ問題ニシテ國防軍ハ勿論中央統一トナルヘケレハ現在ノ綏靖部隊ハ是非共政務委員會ニ持ツヲ當然ト考フルヲ以テナリ
周　然リ綏靖部隊ハ當然北支政務委員會ニ歸屬ス唯間接ニ中央政府ノ指揮ヲ受クルノミ第六項ハ初ノ項ハ各位ノ意見ヲ基礎トシテ加ヘタリ第二項ハ北支ノ各種狀況ニ鑑ミ特ニ附シタルモノナリ卽日本人職員ハ上級者ニ從ハス例ヘハ中華民國何年ト書カス昭和何年ト書キアルカ如シ
次ノ項ニ於ケルモノハ顧問ニ比シ低キ地位ノ人員ナリ此程度ノ人物ハ支那ニテモ余リテ困リアル位ナリ尙最後ニ經濟技術官及蒙疆ニ於ケル適宜ノ措置ニ觸レアリ
影　「法律上ノ地位ハ中國職員ニ同シ」ノ意味如何

梅　法律上ノ權利義務待遇等同樣ナリトノ意ナリ
影　矢野君意見ナキヤ
矢　俸給ハ如何
周　俸給ハ上クルモ差支ナシ
矢　法律上ノ地位ハ海關等ニ於テ外國人ハ全部同樣ナルヤ
周　外國人ハ郵政、鹽務、檢査所等ニアルモ俸給ノ外ハ全部同シ
矢　治外法權ノコトハ如何例ヘハ行政上ノ罰則ノ如キハ如何
梅　行政法上ノ問題ニシテ刑法上ノ問題ニハ觸レ居ラス官吏ノ服務ノ問題ナリ
矢　官吏服務規律ナリヤ
梅　然リ
影　然ラハ二項ハ少シ修文シ「中國行政法規ノ支配ヲ受ク」ニテハ如何
谷　第六項ノ第一ノ重要機關トアルハ所要トセハ如何
梅　「直屬ノ機關ハ……」ト直スハ如何
周　六ノ三項ハ「日本人職員ヲ任用スルヲ得ス」トアルヲ「外國人職員ヲ任用セス」ト書直スヘシ

尙後ノ蒙疆ノ部ハ「蒙疆ニ於テハ適宜ノ措置ヲ爲スコトヲ得」トスヘシ

前ノ第二項ヲ諒解事項トシテ簡單ニスル問題ハ陶氏起案ノ英文案モアリ文ヲ考フルコトトスヘシ

影　本項ハ壓縮セントセルモ之以上ハ困難ト認メラルルニ付其ノ儘「第五、其ノ他」ノ部ニ記入スヘシ尙了解事項ヲモ附スルコトト致度

周　明日ハ休トシ明後日上海時間十時（孫文先生誕生日ニ付朝ハ儀式アリ）ヨリ開會ノコトト致度

512

昭和14年11月12日

内約交渉議事録（第七回）

日支國交調整原則ニ關スル協議會

第七回議事要錄

十一月十二日自午前十一時至午後一時十五分

列席者　日本側　影佐少將　須賀大佐　谷萩大佐
扇少佐　矢野書記官　清水書記官
片山少佐　犬養健氏
中國側　周佛海　梅思平　陶希聖　周隆庠
林柏生

周　治安駐兵ニ關スル件ヲ協議スヘシ　本件日本側提案ナルニ付御說明事項アラハ承リ度

影　特ニ說明スヘキ事項ナシ

周　然ラハ直ニ協議ニ移ルヘシ

梅　第一ハ「日本ハ日支和平克復後防共駐兵地域以外ニアル軍隊ノ撤去ヲ開始シ速ニ之ヲ完了スルコト」トアルモ昨年ノ日華協議記錄中ニハ「二年以內」トアルニ付之ヲ挿入サレ度

影　宜シカルヘシ「速ニ」以下ヲ「二年以內ニ之ヲ完了スルコト」ニ直サン但シ昨年上海會議ニ於テ決定セシ如ク支那側ハ此ノ二年以內ニ治安ノ確立ヲ爲ス義務アルニ付其レヲ挿入サレ度

陶　第二項ノ「治安確立ノ保證」ト云フノカ其レニ非スヤ

影　二年ヲ記載スルナラハ此間ニ於ケル貴方ノ義務タルヘキ貴方ノ「治安確立ノ保障」ヲ併セ明瞭ニ記載サレ度

梅　「……完了スルコト」ノ次ニ「中國ハ本期間ニ治安ノ確立ヲ保證ス」ト入ルレハ如何

扇　「本期間ニ治安ノ確立ヲ保證ス」ハ可笑シカラスヤ
「本期間ニ……實現ス」ヲ適當トセスヤ

梅　「本期間ニ治安ノ確立ヲ保證ス」トイフハ密約ノ文句ヲ其ノ儘ナリ

清　日本語トシテハ少々可笑シ
「支那ハ本期間ニ完全ナル治安ノ確立ヲ實證スルコト」ノ意味トスルヲ要ス

梅　「保證」ハ責任ヲ以テ行フモノニシテ強シ　實證ハ事實ヲ以テ示スモノナルモ保證ト雖モ法律的ニハ強キ意味ヲ有ス

影　從來モ我方トシテハ貴方ノ同志說得ニ成ルヘク都合ヨキ字句ヲ使用スルコトニ讓歩シ來レルニ付本件ニ付テハ同樣ノ意味ニ於テ我方ノ對內的關係上好都合ナル字句ヲ用ヒラレ度

陶　「完全」ノ二字ヲ加フレハ一ツノ煩累ヲ增スヘシ　卽チ將來討論ノ際一ツノ面倒ナル段梯ヲ與フルモノニシテ治安確立カ完全ナリヤ否ヤカ論爭點トナリ未タ完全ナラサルニ付兵力ヲ駐留セシムト云ヒ得ル次第ナリ

影　完全ヲ入ルヽハ二年以內ト云フ期間カ大切ナルカ又ハ治安ノ確立カ大切ナルカヲ明確ナラシメンカ爲ニシテ年限ヨリハ治安ノ確立サルルコトカ大切ナリト思フ之ヲ逆ニ云ヘハ二年經チタルヲ以テ撤兵シテ貰ヒ度シトテ治安未タ確立シ居ラサルニ拘ラス撤退ヲ要求スルカ如キ論議ヲ起ス事態トナラハ甚タ困ル問題ナリ　故ニ「完全」ナル字句ノ搜(挿カ)入ヲ固執スルモノナリ

梅　重光堂ノ相談ノ際治安確立ノ意味ニ付協議セシカ當時ハ「治安ノ一般的確立」卽チ中國カ一般ニ自分ニテ治安ヲ確立シ得ル能力アルコトヲ意味スルモノトシ治安ヲ紊スモノカ一件モナシト云フノ意ニ非スト爲セリ例ヘハ偶々南京附近等ニテ或田舍者カ日本人ヲ殺シタルコトアリトスルモ之ノミヲ以テ治安確立セスト云ハレテハ何時迄經ツモ駄目ナリ　上海附近ニ便衣隊カ少々居ルトテ治安確立未タシトスルハ困ル問題ナリ「完全」ナル字句ヲ附セハ解釋上ノ論爭ヲ生スヘキヲ以テ昨年上海會議ノ解釋ニ依リ一般的治安維持ニ關スルモノト致シ度

保證ト云フ字句ノミニテハ日本人ニハ輕キ意味ニ解サレ貴方トシテ御困リカトモ察セラレサルニ非ルモ法律

上ハ責任ヲ以テ保證スルノ意味ナルヲ以テ一應諒承可能ナリト思考ス

影

上海會談ノ時ハ今ノ話ノ通リナリシカ其ノ後國內情勢ハ大ニ變化シ日本ノ輿論ハ到底輕々ニ撤兵スルコト不可能ナリトノ聲强ク自分ハ唯今上海會議ノ通リ自分ノ責任ニ於テ「二年」ト入レタルモ之ハ大ナル冒險ニシテ日本ノ輿論ハ恐ラクハ反對スヘシ之カ爲ニモ「完全ナル」ノ字句ヲ入ルルノ要アルナリ　之ヲ入レタレハトテ日本ハ決シテ之ニ云ヒ懸リヲ附ケテ撤兵ヲ澁リ居直ルト謂フニ非ス　安心セラレテ然ルヘキモノト思フ

扇

二年以內ノ撤兵ハ現在ノ客觀的情勢ヨリ見テ仲々容易ニ非ス　特ニ此ノ文句ヲ讀メハ艦船部隊等ニ至ル迄遠カラス撤退スルカノ如キ印象ヲモ與ヘ日本人內部ニ大ナル反對アルヘキハ必然ニシテ我々同志トシテモ之ヲ國民ニ示スノ自信ハ之ヲ有セス　故ニ二年ト云フ字句ヲ必ス入レントスルナラハ之ニ「バランス」スル丈ノ「完全ナル」トカ實證トカノ强ク響キ信賴シ得ル丈ノ字句ヲ添フルニ非スンハ日本側說得ニハ困難ナルヘシト思考ス

梅

「二年」ノ問題ナルカ我々ノ考ハ御國ノ御前會議通過ノモノト考ヘアリ　我方ニ於テハ上海會談ニ於テ通過セシ後重慶ニ持行キタル處汪先生ハ之ヲ諒トシ御前會議ノ決定ヲ見次テ近衞聲明カ出タルモノト思考シ居レリ　先ニ影佐氏ハ個人ノ意見トシテ挿入セシ由云ハレタルモ之ハ國家ト國家トノ協定ニシテ影佐少將個人ノ責任トスルハ當ラスト思考ス

周

此ノ問題ハ日本ト中國トノ問題ト云ハンヨリモ寧ロ兩國各々ノ對內的問題ナルヲ以テ解決方法アルヘシ

中國側トシテハ「二年以內」ヲ入レサレハ通過セサルト同樣ニ日本側ニ在リテハ二年以內ヲ入ルル時ハ輿論ヲ抑ヘサレハ影佐少將ハ東京飛行場到着ノ際暗殺セラルルコトモアリ得ヘシ　故ニ「完全」ヲ入ルルト共ニ左ノ如ク修文スルハ如何「中國ハ本期間內ニ於テ自己ノ力ヲ以テ完全ナル治安ノ確立ヲ保證ス」

影

今梅先生ノ云ヘル責任問題ニ付蛇足ヲ加ヘタシ　上海會談ノ結果ハ政府モ之ヲ承認セルモノナルコトハ梅君ノ御考ヘノ通リナリ　但シ「二年以內ニ」カ御前會議ニ懸リシカ否カハ言フヘキ限リニアラサルモ近衞聲明

ニハ書カレアラサリシコトハ御承知ノ通リナリ
今度ノ東京案ニハ又其ノ後ノ情勢ヲ參照シ上海會談當時ノ二年以内ト云フ問題ハ入リ居ラス　仍テ小生カ自己ノ責任ヲ以テ行フトノ意味ハ上海會議ニ於テ約束シタルヲ以テ現在政府案ニ入リ居ラサル事項ヲ今日私ノ獨斷ニテ入レタルモノナルニ付私個人ノ責任ト云フナリ
今ノ周氏案ニ付テハ今少シ研究シ度キニ付十分間餘裕ヲ與ヘラレ度日本側ニ於テ相談シ度
（支那側退場、日本側ノミ約十分間協議ス）
影　日本側トシテ協議セル處同志ノ意見ハ左ノ通
「完全ナル」ノ文字ヲ入ルレハ日本側ハ文字ノ影ニ匿レテズルズルト居据ルカ如キ魂膽ニ非スヤトノ中國側ノ申分ハ克ク之ヲ諒解シ得、然レトモ反面日本側ノ方ヨリ考フル時ハ支那側ノ主觀的立場ヨリ保證スト云フノミニテハ安心シ得ス殊ニ日本人商人ノ如キモ二年後日本軍ハ撤退スト云フコトニナレハ支那ハ口テハ保證スト云フモ如何ナル事態トナルヤモ圖ラレストテ歸國ノ仕度ヲ始ムルノ要モアルヘク斯ル考慮ヨリ見ルモ此ノ言葉ニハ大ナル反對アルヘシ
但シ周氏妥協案モ餘リ感心セス我々同志ノ意見ハ貴方ノ申分モサルコトナカラ我方モ嚴肅ナル言ヒ分カアルニ付今少シ研究ノコトニ致度ト云フニ在リ了承サレ度
梅　實際ハ當方トシテハ何等不安ハナシ實際ノ不安ハ却テ日本軍カ直ク退カルルコトナリ
周　次ノ但書ハ問題ナシ
影　次ノ軍事上ノ要求ハ範圍カ廣過キル今少シ限定セラレ度
之ハ軍事上ノ要求ノ範圍ハ將來軍事協定ニ讓ルモノニテ細部ハ其ノ際定ムル性質ノモノナリ　今此處ニハ大略ノミヲ記述セルモノニシテ何テモ要求セントスルモノニハ非ス　故ニ之ノ後ニ別ニ協定スルノ意味ヲ入レテモ可ナリ
周　詳細ナル細部ヲ定ムルコトハ困難ナランモ此度ノ範圍ヲ比較的ニ限定スル樣字句ヲ入ルルコトトセハ如何
卽「日本側ハ之ニ對シ要求シ中國側ハ之ニ應シ便宜ヲ與フ」ノ意ヲ加ヘタラ如何
影　便宜ニテハ不充分ト思フ　協定ニ依リ權利義務ノ關係

ヲ生セシムルヲ要ス　軍事上不可決（欲カ）ノ要求ニ對シ支那
側カ自由裁量ニ依ル便宜ノ供與ニ止メントスルハ不可
ナリ　何レ軍事協定ニ於テ別ニ細部ヲ協定スルコトト
セハ範圍ハ其ノ際定マルニ非スヤ

周

若シ不充分ナラハ今一ツ他ノ文句ヲ加ヘテ之ヲ補フコ
トト致度　卽無制限ニ要求サルルト困ルニ付「便宜供
與」ノ外ニ其ノ細則ハ別ノ協定ニテ規定スルコトトシ
其ノ文句ハ
「要求ニ應シ中國側ハ便宜ヲ供與ス　其ノ細目ハ別ニ
協定ス」トセハ如何

清

鐵道ヲ皆取ラルルニ非スヤトノ心配ハ軈テ軍事上ノ要
求ニ制限ヲ加フルノ意トナラスヤ

影

貴案ノ精神ハ同意ナリ　然レトモ我方カ要求ヲ出スニ
對シ支那側ハ應スルコトトナリテ定マルモノニシテ當
方ノ要求ニ對シ便宜供與ニテハ不可ナリ　範圍ハ別ニ
定ムルトスルモ權利義務ノ關係ニ於テ律スルヲ要ス

陶

權利義務ノ觀念ハ軍事協定ニ依ルモノニシテ主體ハ二
ツトナル日本ノ要求ニ對シ支那ハ夫レニ對シ便宜ヲ供
與スルコトニテ主體カ明瞭トナル　若シ日本側ノ要求
ニ對シ中國側ノ主體カ無ケレハ日本ノ要求ノミノ片面
トナリ鐵道ノ行政權モ管理權モ無クナツタカノ印象ヲ
與フヘシ同志ノ間ニテハ問題ハナキモ將來論爭起リシ
時困ルヘシ　故ニ日本ハ要求ス　之ニ對シ支那ハ便宜
ヲ供與スルコトトセハ可ナラスヤ

影

原案ハ「要求ス」「應スル」コレテ日支ノ二主體定マ
ル卽日本ハ十ヲ要求シ支那ハ十丈ケ應スル　貴方案ニ
依レハ日本カ十ヲ要求スルニ對シ支那ハ八應スルカ又
ハ七應スルカ勝手トナルヘシ　其レニテハ軍事上ノ要
求ヲ充足シ得サルヘシ　故ニ主體カ二ツアルコトハ同
シナリ

陶

他ノ經濟上ノ問題ナラハ我慢シ得ルモ事軍事ニ關スル
限リハ明確ニセサレハ間違ヲ起スヘシ

影

佐少將ノ言ハルル所ニ依レハ我意ヲ明確ニ諒解セラ
レタリト思ハル　但シ十ヲ七トセシニ非スシテ九トセ
リ　鐵道ノ管理權ト行政權ハ讓ルコトヲ得ス　之レ九
ト爲セル所以ナリ

之ハ軍事協定ニテ定ムルモノナリ　如何ナルコトヲ要
求シ如何ナルコトヲ支那カ應ヘルカハ明確ニ軍事協定

ニテ定ムヘキナリ　我方ノ要求ニ對シ一々限定スルトキハ作戰ノ用ヲ辨セス　例ヘハ作戰上所要ノ兵力ヲ急遽輸送セントスル要求ニ對シ便宜供與程度ノ氣持ニテ輸送量ヲ値切ラレテハ困ル問題ナリ

周　小生ハ妥協案ヲ多ク出シタルモ今日ハ何レモ失敗セシカ更ニ一ツヲ示サンニ原文ノママトシ「軍事上ノ要求ニ應スルコト但シ日本側ハ前記各項ノ行政權及管理權ヲ尊重スルコト」トセハ如何

影　戰時ハ如何、平時ハ之ニテ異存ナシ

周　戰時ハ別ナリ「平時」ト加ヘテモ可ナリ

影　平時ヲ加ヘテ同意ス

周　今後ノ問題ヲ相談シタシ

今日迄ニテ一通リ話シタルモ留保セル部分多シ　殊ニ皆様ノ方ニ多シ　故ニ今一度初ヨリ見テ討議セハ如何

主權尊重ニ關スル最低限度要望事項ニ對シ貴方ノ回答及我方ノ再回答アリ　之ヲ決定セン

次ニハ今後大體問題決定セハ兩者ヨリ代表ヲ出シテ「**サイン**」シ度シ勿論「**サイン**」ノ有無ハ問題ニハ非ルヘキモ國家百年ノ大計ナルヲ以テ「**サイン**」ヲ交シ置クヲ適當ト認ム

影　三件共異存ナシ

周　形式、文字上ノ整理及手段等ノ問題ハ如何

影　我方ハ判ヲ押ス時ノ日本側ノ代表ハ私共ニ非スト考ヘアリ誰ト誰トカ行フカハ未定ナリ　同志トシテノ話合ノ署名ナラハ別ナルモ正式ニ約定スルモノトセハ別ニ考慮ヲ要スヘシ

故ニ細イ交涉ハ其時ニ委スコトトシ我々ハ大ナル「**ライン**」カ一致シ居レハ其レニテ可ナリト考ヘ居レリ

私ノ考ニ依レハ今後貴我話合ヲ續行スルモ細イ所迄ピツタリ一致スルカ否カハ不明ニ付大體ノ方向タニ一致シ居ラハ離レタル儘ニテ進ムモ可ナリト認ム

調整要領ト方針トハ成ルヘク合ハスヲ可トスルモ其ノ他ノ別冊ノ方ハ大體ノ處ニテ諒解カ出來レハ可ナリト考ヘ居ルモノナルモ貴方ノ考ハ如何

周　自分ノ不充分ナル處ハ他ノ人ニテ補足シテ貰ハンモ自分ノ考トシテハ同志トシテ「**サイン**」スル方可ナリト認ム　勿論未定稿トシテナリ　矢張リ相談セル以上ハ會談記錄等ニ纏メテ主文、諒解事項等議事錄ヲ作リ置

キ将來條約ノ資料トスルヲ可トス　而シテ之ニ署名シ置ケハ可ナルヘシ　尚留保シアルモノヲ如何ニスルヤ

主權尊重原則ノ問題ヲ如何ニ處理スヘキヤ先程影佐少將ノ云ハレシ兩者完全ニ一致セストモ可ナリトノ件ハ自分トシテハ如何カト思ハル

我々ハ中央政治會議ニ依リテ今後ノ問題ヲ進メ行カントス　故ニ今諸問題カ決定シアルニ非レハ中央政治會議ヲ進行セシメ得ス　例ヘハ聯銀ノ問題華興商業銀行乃至ハ軍票ノ問題等ノ如キモ一應決定シ置クヲ必要トス　故ニ一應試案トシテ書面ヲ作製シ同志ノ資格トシテ署名スルヲ可トス

影　意味ハ了解セリ　成ルヘク問題ハ定マル樣努力スルモ何トシテモ定マラサル問題ハ如何トモ爲シ得ス　政府樹立ハ之ヲ急クノ要アルヲ以テ細イコト迄定マラサレハ中央政治會議開カレストスレハ政府樹立工作ニ障碍ヲ生シ子供ヲ活カサンカ爲ニ親カ死スルノ結果トナルヘシ

定マリタル所ハ兩方ニテ印判ヲ押シテ可ナリ　我々モ尚留保セル案件十七件アリ

周　保留案件十七件アリト云ハレシモ貴方ニテ整理シ戴ケサルヤ

谷　整理印刷スヘシ

周　我々モ整理スヘシ

影　日支關係ヲ調整スヘキ事項ハ纏リタル所ニテ捺印スヘシ　支那ノ內政問題ニ關スルモノヲ兩者ニテ捺印スルハ可笑シカラスヤ

周　整理ノ際ノ御參考トシテ原則、諒解事項、其ノ他ノ事項等ニ分チ漏レナク入レラレ度

谷　今迄ノ話合ニ依リ整理スヘシ

周　其ノ次ハ何日ニ開クヤ

影　明日休ミテ整理スルコトトシ明後日再開スヘシ

場所ハ六三花園　上海時間九時ヨリ開會トスヘシ

513

昭和14年11月12日　在上海加藤公使より
野村外務大臣宛（電報）

内約交渉における日本側提案中汪側と意見不一致の点につき報告

付　記　昭和十四年十一月十三日、東亜局第一課作成

今後の交渉の進め方に関する陸軍側意向

上　海　11月12日後発
本　省　11月12日夜着

第一〇號（極祕、館長符號扱）
上海宛貴電第一四八八號ニ關シ
十一日迄ニ別紙第二、三、四ノ全部ニ亘リ一通リ說明及意見ノ交換ヲ終リ更ニ別紙第四第二第三ノ順序ニ依リ逐條討議シタルカ今日迄ノ處意見纏ラサル點主ナルモノ左ノ通リ
一、別紙第四別紙
㈠顧問
先方ハ蒙疆以外ノ政治顧問ヲ認メス又地方行政機關ニ日本人職員ヲ任用セサルコトヲ主張ス尙經濟顧問以下ノ技術顧問ノ職權ニ付嚴重ナル規定ヲ設クルコトヲ主張ス
㈡共同防衞ノ原則
先方ハ共同防衞ノ字ヲ使用セス之ヲ共同防共ト治安維持トノ二項ニ分ツコトヲ主張ス
㈢經濟提携ノ原則
先方ハ一般產業農業及財政經濟政策等ニ對スル日本ノ援助ハ支那ノ要請ニ於テ爲スコトヲ主張シ尙交通通信氣象竝ニ測量ノ發達ニ對スル日本ノ援助及協力ノ內容漠然タルヲ以テ詳細ニ規定スヘキコト特ニ鐵道通信ハ國營トナスコトヲ主張シ本項全部審議未了ナリ
又新上海建設協力ニ關スル項ニ付テハ二ノ㈡參照
二、別紙第二及第三
㈠臨時政府トノ關係
華北ノ範圍ヲ河北山西山東ノ三省ニ限リ河南省ノ一部ヲ含ムコトヲ認メス
華北政務委員會經費支辨ノ爲ノ收入確保ノ點ハ未決定ニシテ起債權ハ之ヲ認メス特ニ鐵道海關郵政ハ中央直轄トスヘキコトヲ主張ス
㈡維新政府トノ關係
中支特ニ新上海建設ニ關スル協力事項ハ先方ニテハ最重大視シ先方ハ幹部ヲ集メ連日協議中ニシテ今尙成案ヲ得ルニ至ラス
㈢蒙疆聯合自治政府トノ關係
大體問題無シ
㈣厦門大體問題無シ

㈤海南島

先方ハ所要ノ日支海軍現地協定ヲ締結シ資源開發ニ付日本側ニ優先權ヲ與フルコトヲ認ムルモ特別行政組織ハ之ヲ認ムルコト能ハサルコトヲ強ク主張ス

要スルニ先方ハ出來得ル限リ實質的ニ日本ノ要望ニ副フ樣努力シツツアルモ表面上成ルヘク自主獨立ノ形式ヲ取ルニアラサレハ困難ナル支那ノ環境ニ處シ一般國民ノ人心ヲ收攬シ速ニ平和ヲ克服(復カ)スルコト至難ナリトノ意見ニ基キ此ノ點最モ注意ヲ拂ヒ居リ連日極メテ熱心ニ協議ヲ重ネツツアリ

尙詳細ハ田尻書記官携行ノ會議錄ニ依リ同書記官ヨリ御聽取アリタク本件內容極メテ機微ナル點アルニ付取扱方特ニ御注意相煩度シ

（付　記）

日支新關係調整要項ニ關スル件

（昭和一四、一一、一三、亞、一）

十一月十三日田尻書記官參謀本部ニ臼井大佐ヲ往訪上海ニ於ケル日支下打合ノ件ニ關シ差當リ如何ナル措置ニ出ツルヤヲ探リタル處大体本日中ニ左記要旨ノ電報ヲ影佐少將ニ對シ打電ノコトトナルヘキ旨述ヘタリ

記

會談ハ未タ途中ノコトニモアリ又貴方ニテ引受ケタルヲ以テ興亞院會議ノ決定迄ナシタルモノナレハ今ハ對案ヲ作ル時期ニ非ス仍テ此ノ上トモ原案ニ成ヘク近クナル樣努力アリ度ク尤モ最後的對案ニ付テハ內部的ニ決定ヲ急クコトトスヘシ

巨頭會議カ遲レルコトハ面白カラス之ハ貴見ノ通ニ付決定セル他ノ事項(確約ノ件等現ニ話合中ノモノヲ除ク)ニ付一應開會スルコト可然中央政治會議カ遲レルハ已ムヲ得サルヘシ

何レ連絡者ヲ出ス筈

尙臼井大佐ハ上海會談進行シ愈我方ノ最後的態度決定ニ至ル場合ハ板垣總參謀長ヲ中央ニ招致シ之ヲ切カケニシテ適當ニ物事ヲ決定スルコトトナルヘキ旨竝ニ澤田參謀次長ハ參謀本部々內ノ少壯派ノ强硬空氣ニ對シ相當憂慮シ居リ支那側ニ對シ結局㈠日支間ノ國交ノ根本的調整事項關係㈡右ニ至ル迄ノ過渡的關係ノ二段ニ分チ何トカ話合纏ルヤウ致

シ度シトノ希望ナル旨述ヘ居タリ

514

昭和14年11月13日　在北京門脇大使館二等書記官より野村外務大臣宛（電報）

汪側との協議状況に関する華北連絡部よりの情報について

別　電　昭和十四年十一月十三日発在北京門脇大使館二等書記官より野村外務大臣宛第一一八四号
新中央政府樹立に関する中央および現地の申合せ案

北　京　11月13日後発
本　省　11月13日夜着

第一一八三號（部外極祕、館長符號扱）
往電第一一五〇號ニ關シ
影佐機關ト汪兆銘側トノ折衝ニ關聯シ河(華カ)北ノ特殊性說明ノ爲影佐ノ希望ニ依リ上海ニ赴ケル河村大佐ノ歸來談トシテ連絡部係官ノ內報セル所大要左ノ通リ
中央政治會議指導要領ニ關聯スル書類ハ十一月一日影佐ヨリ汪兆銘ニ對シ一括提出セラレタルカ汪側ニ於テハ日本側ノ要求ハ大體近衞聲明、東京ニ於ケル汪ト五相トノ會談竝ニ上海及南京ニ於ケル日本側トノ會談等ヲ基礎トシタル簡單ナモノト思ヒ込ミ居タルニ今回提出ノ關係書類ハ內容極メテ複雜且具體的ナル爲汪ニ於テハ非常ニ驚キ折衝ニ手間取リ居ル譯ナルカ一方汪側トシテハ此ノ案ニテ話カ纏レハ是以上ニハ日本側ノ要求無キモノト一安心シ居ル實情ナリト認メラル目下問題トナリ居ル主ナルモノヲ列記スレハ左ノ通リ

A、日支新關係調整問題

別紙第四ノ內最モ問題トナリ居ルハ共同防衞ノ點ニシテ汪側ニ於テハ共同防共ナラハ可ナルモ防衞ハ支那ノ主權ヲ害ス尙防共駐兵地區ハ蒙疆ノミトシ後方聯絡線トシテ已ムヲ得サルニ於テモ北支トセス京津地方ニ限ラレ度ク尙鐵道航空通信等ニ對スル軍事上ノ要求權及監督權ハ中國ノ主權ニ關スルヲ以テ反對ナリト主張シ居ルモ現地日本側機關トシテハ本調整問題ハ日本側ノ最モ重要點ヲ置ク所ナルヲ以テ飽迄之カ達成ニ努力スル方針ニシテ（後記C參照）支那側トシテモ結局字句ノ修正位ノ程度ニテ納得スルモノト觀測シ居レリ

B、中央ト地方トノ關係(以下番號ニ對シテハ太田書記官ヨリ土田書記官宛托送ノ「三巨頭ニ對スル工作要領」ノ別紙第五參照ノコト)

第[2]一、臨時政府トノ關係調整要領

一、汪側ニ於テハ晋北ヲ蒙疆ヨリ引離シ北支ニ入レンコトヲ強硬ニ主張シタル結果華北ノ範圍ヲ內長城線(含ム。)以南ノ河北、山西、山東トシ河南省ハ全部除外スルコトニテ妥結

二、華北ノ特殊性ニ關スル說明ヲ削除シ「中央政府ハ華北ニ於テ政務委員會ヲ設置ス」トシテ妥結

三、「……具體的事項ハ中央政治會議ニ於テ決定スルモノトス」トシ以下削除

四、第一項ノ「日支新關係正常化セル場合ニハ」及但書ヲ削除ス

第二項ハ「……華北政務委員會ニ依リ繼承ス但シ左記事項ヲ目標トシテ速ニ之ヲ整理ス」ト訂正

五、「左記」ノ㈠ニ關シテハ日本軍ノ駐屯ニ關聯スル事項ノ處理ハ中央ノ權限ナルコトヲ主張シ居ル外

㈡ノ四ヲ削除シ末尾ニ「上記各事項ヲ處理スル場合ハ中央ノ關係法令制(ママ)作施設ニ牴觸セサルヲ以テ限度トシ且事前ニ之ヲ中央政府ニ報告ス」ヲ附加センコトヲ主張シ妥結ニ至ラス

㈢ノ日本人顧問ノ冒頭ニ「中央ノ關係法令ニ基キ」ノ一句ヲ挿入スルコトトシ妥結

㈣聯銀ニ關シテハ新中央銀行ノ北支分行トスル建前ノ下ニ暫行的處理權限ヲ記載セル修正案ヲ提出シ來レルモ意見纏ラス

㈤ノ一、關稅及鹽稅ハ四割統稅ハ五割ヲ限リ北支ニ交付セントシ且關稅及鹽稅ニ關シテハ中央ヨリ直接徵稅人員ヲ派遣シ中央ニ於テ直接之ヲ監督センコト等ヲ主張シ居ルニ對シ影佐ニ於テハ中央側ノ財政統一ノ原則丈ケハ承認シタル模樣ナリ

㈤ノ二、「中央政府ノ認可ヲ經テ內債ニ限リ募集スルコトヲ得」ニテ一應妥結

三ノ官有財產ニ關シテハ全面的ニ修正意見ヲ提出シ居レリ

四ニ關シテハ「……中央政府ノ成立後直ニ統一管理下ニ入ラシムルモノトス」トシタキ支那側ノ意見ナリ

六、[3]「特任官、簡任官ハ中央ニ於テ直接之ヲ任免ス但シ當分ノ間簡任官ハ華北政務委員會ノ推薦ニ依ルモノトス」トノ案ニテ妥結

七、「華北政務委員會ハ日滿トノ純粹ナル地方的處理ニ伴フ交渉ヲ行フコトヲ得但シ隨時中央ニ報告スルモノトス」トノ案ニテ一應妥結

第二、維新政府トノ關係

新上海ノ建設ニ關シテハ右ハ第三國人ヲ排撃スルモノナルノミナラス斯ノ如キ案ニテハ華僑ノ投資スラ誘致スルヲ得ス上海ノ衰微ヲ來スモノトシテ全面的ニ反對シ居レリ

第三、蒙疆ニ關シテハ二、ヲ「……特殊性ニ鑑ミ現狀ニ基キ廣汎ナル自治權ヲ認メタル高度ノ防共自治區域トス其ノ權限ハ中央政府ノ規定セル內蒙自治法ニ依ルモノトス」トノ修正意見ヲ申出テ居ルモ蒙疆ノ事ハ大體諦メ居レリ

第四、及第五、厦門ハ特別市トスルコト其ノ軍事協力事項ニ關シテハ海南島等ト共ニ中央政府ニ於テ日本側ト別ニ協定スルコト海南島ノ資源開發等ニ關シテハ中日合作ノ一般原則ヲ適用シ日本ニ優先權ヲ供與ス等ノ妥協案ヲ作成セリ

C、今日迄ノ情勢大體以上ノ通リニテ十日現在ノ未解決問題ハ十七件ヲ數フル次第ナルカ影佐機關ニ於テハ速ニ中央政府ヲ樹立スルノ見地ヨリ九日板垣總參謀長參謀本部代表等トモ打合セノ上別電第一一八四號ノ如キ申合案ヲ作成シ一兩日中ニ影佐少將上京ノ趣ニテ右案ニ依リテモ窺ハルル通リ東京案別紙第二及第三ハ汪側トノ關係ヲ考慮シ今後相當調整ヲ加ヘラルルニアラスヤト懸念セラル以上ハ矢野書記官等ヨリ報告濟ナルヤモ知レサルモ爲念要領ノミ電報ス

（別　電）

北　京　11月13日後発
本　省　11月13日夜着

第一一八四號（館長符號扱、部外極祕）

新中央政府樹立ニ對スル中央及現地ノ申合

（欄外記入）第一、前半ニ關シ

一、現段階ニ於テハ一般方針ニ關スル意見ノ一致ヲ目的トシ

テ諸般ノ施策ヲ律シ細部事項ニ亘ル固定深入ヲ避クル如ク努ム

二、調整原則(別紙第四)ハ戦争目的タルノ關係上之カ達成ニ努力シ之カ具現ヲ期ス

三、內政問題(別紙第二及第三)ハ支那側ニ委ヌルヲ本旨トシテ內面指導ス

特ニ內政干渉ノ印象ヲ與フルコトヲ避ク

四、事變ニ伴フ必然ノ特殊事態ヲ容認セシメ事態ノ平常化ヲ基礎トスル前二項ノ問題ト區別シテ取扱フ

第二、別紙第四ニ關シ

一、別紙第四ハ梅機關ニ於テ今後成ルヘク(一字ニテモ)原案ニ近付カシムル様努力ス

二、究極迄一致セサルモノアルトキハ日支ノ意見ヲ並別(列カ)ノ儘存置ス

三、確約實行ノ直前ニ上記ノ竝列部分ノ處理方ニ付現地ヨリ上京又ハ東京ヨリ渡支ノ上決定ス

第三、別紙第二、第三ニ關シ

一、成ルヘク原案ニ近付カシムル様努力ス

二、但シ兩者意見ノ一致ヲ求ムルコトニ焦慮シ爲ニ支那側ノ希望ヲ失ハシメサル様注意ス(中央政治會議ノ開催ヲ著シク遲延セシメサル爲ニモ)

三、意見不一致ノ點ニ關スル處理ハ中央政治會議後特ニ中央政府樹立後ニ讓ラサルヘカラサルモノアリ

(欄外記入)

十一月十四日興亞院ヨリ接到ノ前迄ニ梅機關ノ意見ナルコトヲ銘記スルノ要アリ

之ヲ梅機關ノ部內更ニヨキ様ニ對應シヤル要アリ

515

昭和14年11月15日　在北京門脇大使館二等書記官より野村外務大臣宛(電報)

汪側と協議中の「臨時政府トノ關係調整要領」に対する華北連絡部意見について

別　電　昭和十四年十一月十五日発在北京門脇大使館二等書記官より野村外務大臣宛第一一八九号

右意見

北　京　11月15日後発

本　省　11月15日夜着

第一一八八號（館長符號扱）
往電第一一八三號ニ關シ
十四日當地連絡部ニ於テ軍側トモ打合セノ上「臨時政府トノ關係調整要領」ニ關スル意見別電第一一八九號ノ通リ具申セル趣ナリ
御見込ニ依リ冒頭往電ト共ニ本電及別電加藤公使ニ轉電アリタシ

（別　電）

北　京　11月15日後発
本　省　11月15日夜着

第一一八九號（館長符號扱）
「臨時政府トノ關係調整要領」ニ關スル意見
梅機關ト汪兆銘側トノ間ニ折衝中ノ「臨時政府トノ關係調整要領」ニ對スル當部ノ意見左ノ通リ具申ス右ハ十一月九日附「新中央政府樹立指導ニ關スル中央及現地ノ申合セ」ノ趣旨ニモ鑑ミ現地側トシテハ最少限度ノ意見ナルニ付テハ右達成方此ノ上トモ御盡力相成度シ
一、當分ノ間現狀ヲ維持シツツ而モ日支新關係ノ正當化ヲ目途トシテ華北政務委員會ノ構成權限等ヲ逐次調整シ行ク根本原則ヲ汪側ヲシテ充分納得セシムル樣工作セラレ度シ
二、「左記」ニ對スル意見
㈠新中央政府ニ依リ新ニ組織セラルヘキ國防軍ニ對スル事項ハ中央ノ軍事處理機關ニ依リ處理スルコト已ムナシト認ムルモ從來ヨリ北支ニ於テ保有スル軍隊ハ政務委員會ノ直轄トスルコト
㈡ノ四、ヨリ鐵道及通信（放送ヲ含ム）ヲ削除スルコトハ反對ナリ㈡ノ末尾ニ附加セラルヘキ但書ハ委任ヲ含ム認可ト解シ同意スルモ從來國民政府ニ依リ實行セラレタル法令、施設等ノ中ニハ日支新國交調整ノ根本方針ニ鑑ミ相當調整ヲ要スルモノアルヲ了解セシメラレ度シ）具體案ニ關シテハ鐵道及通信ノ全國的性質ヲ主張スル支那側ノ言分ヲモ斟酌ノ上追テ通報ス
㈢顧問ニ關スル修正ニハ異存ナキモ本件ニ關シテハ支那側提案等細部ノ論議ニ深入スルコトナク十一月一日決定ノ「日本側回答要旨」ニ依リ北支ノ特殊性ヲ充分認識セシメラレ度シ

(四)[2] 聯銀ニ關シ

(一)名稱ノ變更ハ反對、發行額準備額等ヲ中央ニ報告スルコトハ異議ナシ、最高發行額ハ限定ハ主義トシテ反對ナルモ已ムヲ得サレハ讓歩可能但シ其ノ場合ハ最高限度ハ少クトモ十五億圓以上ナルヲ要ス

(二)聯銀券ノ流通地域ハ華北ノ地域內ニ限リ新中央銀行設立セラレタル場合ハ其ノ際ノ事情ニ則シ充分考究ノ上彼我ノ爲替相場ヲ決定スルコト但シ新法幣ト聯銀券トヲ華北地域內ニ併存流通セシムルコトハ反對(現ニ華北ニ於テハ日本金圓ノ流通ヲモ禁止的ニ抑止シツツアリ)

(三)華北ノ爲替統制其ノ他聯銀工作ニ關聯スル所要ノ措置ハ華北ニ於ケル埋藏資源ノ開發及日滿蒙疆北支間ノ物資交流ノ圓滑化ニ付絕對的關聯性アルヲ以テ華北政務委員會ノ下ニ實施シ得ル如ク爲シ置キ事後ニ中央ニ報告スルコト、但シ事前ニ事實上充分聯絡スルコト

(五)(一)北支ノ財政及建設計畫ノ實情ヲ特ト(篤カ)說明ノ上當分ノ間關稅ノ大部分、鹽稅及統稅ハ全額ヲ支給セシメラレタク尙徵稅機關ニ對スル監督ニ關シ北支六海關ニ對スル分ハ通貨工作トノ關聯アルヲ以テ華北政務委員會ニ留保スルト共ニ鹽稅ニ付テハ統稅ト同樣トセラレタシ

(二)ノ項脫?)

(三)官有財產ニ關シテハ支那側ヨリ其ノ種類等ニ關シ議論ヲ持チ出シ居ル處特殊會社ニ對スル臨時政府ノ株等中央ニ於テ本項ヲ特ニ設ケラレタル理由ヲ徹底セシメラレタシ

以上軍側トモ打合濟

本電宛先東京及華中(華中ヨリ總軍原田顧問及梅機關ニ聯絡アリタシ)

516

昭和14年11月15日　在上海加藤公使より
野村外務大臣宛(電報)

「日支新關係調整要項」に関する汪側との協議状況について

上　海　11月15日後発
本　省　11月15日夜着

第一五號（部外極祕、館長符號扱）
往電第一〇號ニ關シ
竹内側トハ茲數日間專ラ日支新關係調整要項ニ付話合ヲ爲シ十四日修正案（十四日附公使機關往信機密第一號添附別紙丙號ノ(ロ)ニ付更ニ全部ノ協議ヲ爲シタルカ
第一、善隣友好ニ關スル事項ハ意見一致
第二、共同防共ノ原則ニ關スル事項中北支及蒙疆ノ駐兵地點ノミハ未決定
第三、經濟提携ノ原則ニ關スル事項ノ中一、二、三ハ意見一致但シ軍票ノ後始末ニ關スル事項ヲ諒解事項ニ記載スルコトトシ四ハ意見一致五ノ後段日支交通協力ノ重點ノ一項ニ諒解事項トシテ協力ニ關スル具體事項ヲ記載スルコトトナリ六ハ未決定七ハ意見一致
第四、治安維持ニ關スル協力事項ハ標題ヲ支那側ニ於テ撤兵竝ニ治安維持ニ關スル協力事項ト更メタキ旨申出アリ一ノ第二項ニ「支那ハ右期間後ト雖モ必要アリト認ムル場合ハ日本軍ノ協力ヲ求ムルコトヲ得」ト附ケ加ヘ意見一致
第五、日本人顧問職員招聘ニ關スル事項中一ノ顧問中ニ華北政務委員會ニ政治顧問ヲ置クコトハ支那側承知セス聯絡專員ナル名義ニテ聯絡員ヲ置クコトヲ承知シ以下意見一致六ノ地方行政機關ノ職員中青島、厦門、上海等ニ除外例ヲ設クルコトニ付テハ話合未タ纏ラス
第六、其ノ他ノ事項ハ其ノ儘トシ支那ノ軍隊及警察ニ對シ日本側ヨリ武器ヲ供給スルコトノ一項ヲ附加スルコトトナリタルカ數日來ノ協議模様ニテハ此ノ邊カ恐ラク支那側最後ノ肚ニテ之以上押スコトハ極メテ困難ナル模様ナリ

517
昭和14年11月16日　在張家口望月総領事代理より野村外務大臣宛（電報）

新中央政府樹立問題に関する酒井蒙疆連絡部長官の見解について

張家口　11月16日前発
本省　11月16日前着

第三二四號（極祕）
汪精衛ト協議ノ爲李守信ト共ニ青島ニ赴クヘク目下待機中ナル酒井連絡部長官ハ十四日本官ニ中央政權樹立問題ニ關シ中、北支ノ處理事項取扱ニ於テ箇々ノ具體的問題カ彼我

ノ間ニ餘リニ論議セラルルヲ策ヲ得タルモノニ非スト爲シ又進行中ノ既成事實ニ關スル彼等ノ質疑ヲ封シ込マサルハ拙シト洩シ居レルカ右言ニ徴スルモ青島會議ニ於テハ蒙疆側ノ既定方針タル既成事實ノ一々ニ付説明セス高度自治ノ一本槍ニテ全事態ヲ鵜呑ミニセシムルコトニ蒙疆側委員ハ邁進スルモノト推測セラル

上海大使館へ轉電セリ

518 昭和14年11月17日 在上海加藤公使より 野村外務大臣宛（電報）

国共関係の現状など重慶情勢に関する汪兆銘の観察について

上　海　11月17日後発
本　省　11月17日夜着

第二〇號（極祕）

十六日本使汪精衛ト會見ノ際汪ノ談話中參考トナルヘキ點左ノ通リ

一、最近重慶方面ノ和平運動ニ付巷間種々取沙汰アルモ蔣ハ依然反省ノ色無キカ如シ

二、重慶側ハ最近英佛側ノ援助減退シタル爲米國蘇聯方面ニ特ニ接近セント色目ヲ使ヒ居ル模様ナリ

三、國共兩黨ノ衝突ニ付世上種々ノ噂アル處最近ノ情報ヲ綜合スルニ兩黨關係日ニ悪化シツツアルハ事實ナルモ重慶政府カ抗戰ヲ繼續スル限リ兩黨ノ分立ハ表面化スルコトナカルヘク之ニ反シ一度蔣カ和平ノ態度ノ表明ヲセンカ忽チ兩黨分立ノ危機ニ瀕スヘシ

四、現在蔣ト共產黨ノ關係ハ全ク相互利用ノ立場ニ在リ卽チ共產黨ハ蔣ヲ利用シテ其ノ勢力ノ扶植ニ努メ蔣ハ共產黨ヲ利用シテ和平派ヲ彈壓シ居ル狀態ニシテ此ノ間ニ挾マレタル政府要人連ハ極度ニ煩悶シ居ル狀態ナリ

五、從來蘇聯ハ直接蔣ヲ援助シ居タルカ歐洲戰後ハ中國共產黨ヲ通シテ重慶側ノ抗戰ヲ援助スルコトニ改メタルハ極メテ注目スヘキ現象ナルカ一方共產黨ハ目下西北「ルート」强化ノ爲頻リニ其ノ準備ヲ進メツツアルモノノ如ク現ニ雲南、貴州、四川方面ニ於テハ共產黨ハ勢力擴張工作ヲ止メ全力ヲ西北「ルート」ノ構築ニ向ケ居レリ

六、四川軍ハ表面上團結シテ蔣ノ指揮ノ下ニアルモ內心ハ凡テ反蔣ノ念强ク機會アラハ四川軍擧ケテ反蔣ノ態度ニ出

ツル形勢ニアリ蔣モ四川省主席トシテ時々成都ニ赴キ之カ對策ニ苦心シ居ル模様ナリ

七、雲南、四川、貴州、廣西等重慶政府ノ地盤ニ於テハ中央軍ト地方軍ト交錯セシメテ配置シ居ル爲和平運動ニ參加セントスル軍隊ハ箇々ニ態度ヲ表明シ得サル狀況ニアリ右ハ密ニ當方ト聯絡ノ爲來レル軍關係者ノ報告ニ依ルモノナルカ新中央政權確立後ハ是等和平ニ贊成ノ軍隊牽付ノ爲日本軍側ト協力ノ上其ノ通路ヲ與フル必要生スヘク又最モ有效ナル方法ハ相當範圍內ニ於ケル軍隊カ共同動作ヲ執リ一擧ニ旗擧スルコトヲ監視シ居ル中央軍ヲ封スル方法ヲ採ルコトナリ

八、現在新政權樹立ノ爲日支兩方面ノ同士相集リ每日ノ如ク極メテ熱心ニ協議中ナルカ若シ幸ニシテ新政權ノ和平方策カ國民大衆ヲ率ユルニ足ルモノナラハ重慶ニ大打擊ヲ與フヘキモ若シ之ニ反シ新政權ノ和平方策カ大衆ノ失望スルカ如キモノナルトキハ却ツテ重慶ノ抗戰體制ヲ强化スル惧アルヲ以テ自分ハ此ノ點ヲ最モ重視シ新政權ノ樹立ニ當リ居ル次第ナリ

北京、天津、南京、漢口、廣東、香港へ轉電セリ

519

昭和14年11月21日　在上海加藤公使より
野村外務大臣宛（電報）

新中央政府樹立後の第三国との関係等に関する田尻書記官と周仏海との会談報告

上　海　11月21日後発
本　省　11月21日夜着

第二七號（極祕、館長符號扱）

往電第二四號ニ關シ(1)

二十日田尻ヨリ周佛海ニ對シ最近ノ日支會談ニ付同志トシテ忌憚ナキ意見ヲ述ヘンニ貴方ハ日支協同ノ大目標ヲ忘レ和平ヲ最終ノ目的ト考ヘ居ルカ如キ感アリ又徒ニ自ラヲ（脫？）急ナルノミナラス表面ハ兎ニ角內心ニ於テ日本ヲ英米ト同地位ニ置キテ取扱ヒ相變ラス所謂歐米依存外交ニ期待シ居ルニアラスヤトノ疑スラアリトテ一々事例ヲ擧ケ反省ヲ求メ今後虛心坦懷ニ會談ヲ進ムルト共ニ「日支提携ヲ基調トスル大綱？」ノ眞意義ヲ把握シ第三國關係ヲ如何ニスルヤニ付眞面目ニ態度決定スルコト肝要ナル旨說キ種々話合ヒタル結果周ハ

一、九國條約ハ政治的ニ觀レハ集團的ニ支那ノ獨立尊重ヲ約

束スルモノニシテ支那ニ取リテハ屈辱ナリ又門戸開放ニ付テハ經濟上ノ事ニ限定シ第三國ノ政治的把握ヨリ脫却シタク同士ノ間ニハ適當ノ時機來ラハ同條約廢棄ノ方針ニ決定シ居レリ

二、國際聯盟ハ支那ニ取リテ無用ニ付之亦脫退ノ意嚮ナリ尚東亞協同體、東亞ノ新秩序等ハ內容判明セス內外ヨリ誤解ヲサレ易キニ付端的ニ東亞ノミノ國際聯盟ヲ創ルコトヲ共同ノ目標トシテ提唱シタシ

三、第三國關係ヲ現實ニ如何樣ニ處理スルヤハ未タ研究中ナルカ日本ノ立場ヲ窮地ニ陷レ又ハ歐米ニ對シ支那ノミカ顏ヲ立ツルカ如キ仕打ハ考ヘ居ラストノ趣旨ヲ明ニセリ

四、鐵道關係就中京滬線ニ付現在ノ借款契約ヲ其ノ儘トシテ邦人職員ヲ入ルル案ハ無意味ナルコト英國ニ對シ政治的約款ノ廢棄ヲ要求シ聽容レサレハ借款自體ヲ否定スヘシト云フカ如キ考ハ實際的ニ一顧ノ價値モナキ案ナルコト等ヲ指摘シ關餘ヲ以テ絕對必要ナル鐵道ノ擔保肩替ヲ爲ス案(過日田尻ノ携行セル日支經濟處理要項案及新政府外交關係處理案參照アリタシ)ニ付示唆シタルニ對シ周ハ右カ關餘ニ對シ非常ナル喰込トナルコトナシトセハ研究スヘキ旨ヲ約シ

五、[2]通貨問題ニ付新政府ハ約五十億ノ法幣ヲ整理スル大事業アル譯ナルカ若シ日本カ新政府ノ立場ヲ理解シ貴方提案ノ將來ノ金融政策ニ眞ニ協力スルモノトセハ聯銀華興券ノ將來ニ付殊更嚴格ナル條件ヲ今日決定シ置カストモ宜シカルヘク殊ニ軍票カ日本內地ノ金票トハ全ク遊離シ居ル現狀ヲ無視シ其ノ額面價値ヲ以テ將來ノ對日決濟方ヲ求ムルカ如キハ餘リニ利己的ナリト批評シタルニ對シ周ハ多少理解ヲ深メタルカ如シ

六、最後ニ周ハ此ノ場限リノ極祕ノ話ナルカト斷リ日本カ中支ニ關スル吾人同志ノ立場ヲ認メラレ現會談カ纏マラハ新政府成立ノ上爲スヘキ重慶ニ對スル工作ハ相當自信アル旨但シ汪ハ蔣トノ合作ヲ極端ニ忌避シ過日須磨部長ニ對シテモ相當興奮シテ右樣ノ話ヲ爲シタル程ナルニ付本件ニ關シ同志間ニモ未タ具體的ニハ話ヲ爲シ居ラス又爲シ得サル旨ヲ述ヘタルカ(絕對極祕ノコト)周ト雖蔣ノ南京入リヲ考慮シ居ル譯ニアラス從テ右ハ同人ト重慶トノ關係カ臭シト云フカ如キ色眼鏡ヲ以テ見ルヨリハ寧ロ事件終結ノ見透上ノ問題トシテ重大視スルヲ要スルコトト

考ヘ田尻ヨリ其ノ場合ノ中央軍ノ措置ヲ如何ニスルヤ日本ノ要求ヲ待タス自發的ニ裁兵及軍ノ配置ニ關スル愼重ナル考慮ノ望マシキ旨ヲ指摘シ置ケル由

（本懇談ハ日支會談ノ側面援助ノ爲先方ノ理解ヲ助クル目的ニテ爲シタルニ付話ハ何レモ最後ノ點迄突進メサリシ次第ナリ）

520　昭和14年11月22日　野村外務大臣より在上海加藤公使宛（電報）

金融・財政・経済問題に関する汪側との協議支援のため石渡前蔵相を中国へ派遣について

付　記　昭和十四年十一月二十二日発野村外務大臣より在上海加藤公使宛電報第八号

新中央政府の通貨問題に関するわが方処理方針を石渡前蔵相へ説明について

本　省　11月22日後8時0分発

第七號（館長符號扱）

梅機關ノ竹內側トノ下打合事項中金融財政經濟ニ關スルモノニ付寺川（彭佐）ヲ援助スルト共ニ必要ニ應シ自ラ竹內（汪）ト談合ノ目的ヲ以テ石渡前藏相興亞院久保課長同伴二十五日長崎發連絡船ニテ大体約一ヶ月滯在ノ豫定ヲ以テ貴地ニ向フ豫定ナリ同氏ハ大藏省顧問ノ資格ナルモ關係大臣ノ依賴ヲ受ケ居ルモノニシテ現下最モ重要ナル時期ニ當リ其ノ使命ノ極メテ重大ナルニ鑑ミ貴機關トノ連絡ニ付テハ特ニ配慮アリ度キ旨申入レ置キタリ

就テハ貴機關ニ於テモ同氏トノ間ニ緊密ナル連絡ヲ保持セラレ又梅機關トモ連絡シ所要ノ便宜供與相成ル樣致度シ特ニ竹內トノ會見ニ當リテハ寺川トモ相談ノ上淸水書記官ヲシテ通譯ニ當ラシメラレ度

（付　記）

本　省　11月24日後9時發

第八號（極祕、館長符號扱）

貴電第二七號ノ五ニ關シ

通貨問題處理方針ニ關シ石渡前藏相ニ對シ東亞局長ヨリ當面ノ方策トシテ單ニ聯銀券ノ强化、華興券ニ對スル從來ノ諸施策ノ繼續、軍票制度ノ存續等ノミヲ考慮シ法幣ヲ其ノ儘ニ放置スルコトハ新政權樹立竝之ヲシテ支那民生ノ救濟

ヲ實行セシムルノ根本ニ觸レサルカ故ニ寧ロ英米等主要第三國ニ對スル工作ヲナシ重慶ノ發券權ヲ制壓スル前提ノ下ニ法幣ノ安定ヲ圖ルコトヲ中心トシ前記圓系通貨ノ處理ヲ併セテ行フコトカ適切且必要ナリト思考スル旨(右ハ先日田尻書記官トモ話合濟)詳述セル處石渡氏ハ能ク諒解セリト答ヘ居タル趣ナリ同氏ト御協議ノ際ノ御參考迄

521 昭和14年11月22日 在上海加藤公使より 野村外務大臣宛(電報)

華北鉄道問題に関するわが方態度が汪工作全般に及ぼす悪影響に鑑み交渉方針の再検討方田尻書記官より意見具申

付記一 昭和十四年十一月二十六日付在上海加藤公使より野村外務大臣宛電報写
事変処理促進の観点より速やかな内約交渉妥結の必要性につき田尻書記官より意見具申

二 昭和十四年十一月二十七日起草野村外務大臣より在上海加藤公使宛電報第一〇号
汪側との対立点に対するわが方方針を検討した関係省庁局長級会議の結果について

上海 11月22日前発
本省 11月22日夜着

第三一號(極祕、館長符號扱)
東亞局長ヘ田尻ヨリ
一、梅機關ヘノ入電ニ依レハ中央ニ於テハ北支鐵道ノ國營ヲ絕對容認セサル考アルカ如ク電文簡單ニテ貴方ノ眞意捕捉シ難キモ右ハ中支ニ於テ先方ノ顏ヲ立テ讓歩ヲ爲ス代償トシテ相當强硬ニ主張セントスル方針カト察セラルル處本件永引クモ容易ニ纏マラサルニ加ヘ梅機關長ノ汪會談ノ點(停頓)等ヨリ觀テ竹內ニ於テ日本ニ熱意ナシト觀察シ痛ク氣ヲ腐ラシ內密政府ノ樹立延期ヲ云々スルノミナラス寧ロ本工作自體ヲ打切ラントスル口吻スラ洩シ居ル由傳ヘラレ之ハ必スシモ我方ニ對スル牽制的示威ニアラスト認メラルル節アリ大イニ考慮ヲ要スル事態ナル一方元來新政府ノ樹立ハ時局終結上對重慶工作(及對第三國關係外交工作)ノ足場タラシムル點ニ於テ重大意義アリ依テ重慶カ到底承認スマシキモノヲ今日承認セシメテモ日本ノ自己滿足ニ止マリ今後ノ工作上ハ却テ害トナル

ヘク又將來重慶ニ對シ之ヲ讓歩スルカ如キコトアラハ重慶乃至蔣介石ノ言分カ正シカツタト云フコトトナリ日本及汪側ノ完全ナル敗北トナルヘキニ付テハ北支鐵道問題ノ如キモ右觀點ヨリ再檢討ヲ必要トスト存ス

二、依テ問題ノ焦點ハ支那側ニ於テ最モ重要視シ居ル鐵道ノ國營カ絕對ニ容認シ得サルモノナリヤニ懸ルヘキ處國營ヲ否定スル大ピラナ理論ハ先ツナシト認メラレ果シテ然ラハ原則的ニ之ヲ認メ置キ乍ラ暫行辦法トシテ一應現在ノ事態ヲ其ノ儘引繼カシメ遲クトモ治安駐屯期間滿了前ニ情勢ヲ看乍ラ民營ヨリ國營ニ移動セシムルコトトシ其ノ際ハ鐵路局副局長以下幹部ノミナラス相當大多數ノ現業員ヲモ職員トシ採用セシメ又右ニ先チ軍事及經濟提携上ノ要求ニ卽シタル企劃ヲ確定シ且實行ニ着手セシメ運輸問題ニ付テハ隴海線ヲ含メテ軍事協定ヲ締結セハ實際問題トシテ我方ノ要求ハ達成セラルルニアラスヤト考ヘラル（交涉ノ段階トシテハ京山京包山東及濟南以北ノ津浦線ヲ限リ委任經營ヲ爲ス案モ考慮シ得ヘシ）

尙右案ニ依ル際ノ現交通會社ハ投資會社トシテ存續セシムル方法モアルヘク我方從來ノ投資ハ借款トシテ北支ニ關スル限リ鐵道ヲ擔保トセシムヘキハ勿論ナルカ本件ハ鐵道ニ關スル借款ノ整理トモ重大ナル關係アリ殊ニ民營案カ果シテ第三國借款ト兩立スルヤニ付テハ自信ナク（我方ナケナシノ金ヲ以テ對英債務ヲ皆濟スル案ノ如キハ果シテ賢明ナル方策ナリヤ疑アリ）凡ユル角度ヨリ觀テ北支鐵道問題ハ再檢討セラルルコトヲ切望ス

（付記一）

十一月二十六日附加藤公使發外務大臣宛電報寫

東亞局長ヘ田尻ヨリ

一、梅機關長二十四日歸任ス中央ニテハ會談ノ決裂ヲ賭シテモ北支鐵道ノ民營ヲ主張スル一面中支ノ問題全部ヲ將來ノ討議ニ殘シ度キ意向ナル由ノ處右ハ外務省モ承知ノ上ナリヤ

二、中支就中上海ニ關スル先方ノ提案ハ往電第二四號ノ通リナルカ右ニ對シ(イ)上海等ニ於ケル日支合弁及產業協定等經濟協調ノ促進(ロ)上海恆產會社ノ承認等建設ニ對スル一般的協力(ハ)日本駐屯軍ニ關聯スル地方的事項ノ處理(ニ)所要ノ顧問及職員ノ派遣等ヲ追加セハ大体現狀ニ基礎ヲ置

ク解決案トシテハ我方ニテ呑ミ込ミ得ルモノナルヘク（市參事會員ハ既成事實モナキ今日主張スルカ無理ナリ）而モ右ハ固定的ノモノトセス先方同志一應ノ試案トシテ聞キ置クコトトセハ將來ニ對シ左シテ不都合モ起ラサルヘキ反面支那側ハ相當ノ安心ト自信ヲ得テ政府樹立ニ邁進スルモノト存セラル就テハ中支問題ヲ後日ニ留保セントスル中央ノ新對策ハ我方ノ關スル限リハ妙案ナルヘキモ我方原案ハ既ニ机上ニサラサレ先方ハ極端ナル懷疑心ヲ有スル今日到底此ノ新對策ヲ受入ルル筈ナキハ勿論ナルモ更ニ疑ヲ增スニ到ルヘキヲ以テ汪政府ヲ樹立スル根本方針ニ變更ナキ限リ過般歸朝ノ際申述ヘタル通リ中央ハ大悟一番中支ノ問題ハ先方ノ主張ニ前記追加事項ヲ加味シタル程度ニテ折合ヒ新政權ノ基礎强化ヲ計ルコト肝要ト存ス

三、北支鐵道ニ付テハ國營ノ原則ヲ認メタル上暫行的ニ膠濟線以北ノ民營ヲ或ハ承諾セシムル可能性ナシトセサルヘキモ駐屯期間ハ民營ナラストモ我方ノ意ノ儘ニ鐵道ヲ動シ得ヘク又其ノ以後日支ノ實力ノ差少ナクナリ國權回復運動ノ起ルコトモナラハ民營ハ却テ不得策ナルヘク鐵道ニ對スル把握カ畢竟形式ニ非ス日本ノ實力如何ニカカルトセハ國營トシテモ資本技術職員ヲ思フ通リ入レテ置カハ充分ナルヘキコト冒頭往電ノ通ナリ斯ル見透シノ下ニアリテ民營ヲ主張スル理由ハ直接間接鐵道會社關係ノ向ノ利益擁護以外ニ之ヲ發見シ得ス若シ理由アリトセハ汪政權成立ヲ阻止センスル口實ノミナルヘキカ政府カ斯ル大轉換ヲナスヘシトハ眞面目ニハ考ヘ得サル所ナリ

四、假リニ現會談ヲ取リ止メ汪政權ノ樹立ヲ打切ル場合（延期ハ打切リト同樣ノ結果ヲ招クヘシ）ノ對策トシテハ我方ノ手ニ依リ重慶ヲ相手トスル直接交涉ニ入ルカ第三國殊ニ英國ノ橋渡シヲ賴ミ英ヲ後楯トスル重慶ト和平スルカ又ハ飽迄重慶政權倒壞ノ爲戰爭ヲ續クルカ（日本ノ國內狀勢ハ斯カル事ヲ許ササルヘキモ）ノ三途アルヘキカ前二者ハ果シテ汪政權ヲ踏ミ臺トスル現方針ヨリ優レル方法ナルヘキヤ汪政權カ決シテ强力ナル政府タリ得サルヘシトノ觀察ハ正ニ其ノ通リナルカ現在ノ汪派ヲ相手トスル會談ハ決シテ汪相手ニ止マラス實ハ重慶相手ナルト共ニ支那全体ヲ相手ノ交涉ニシテ汪派カ承諾セサルコトハ卽チ重慶ハ勿論一般中國人士モ亦聞キ入レサルコト從

テ日本ノ要求ハ國策上最低限度ノ必要事項ニ止マルヘキコトニ想到セハ既ニ會談ヲ開始シ重慶及外國（當地記者團スラ然リ）カ其ノ内容及經過ヲ知悉シ其ノ落着ヲ注目シ居ル丈ニ之ヲ打切リタル際ハ重慶及英國ハ以テ乘スヘシトシテ今日汪カ與フルモノモ決シテ之ヲ與ヘサルヘキコト火ヲ見ルヨリ明カナリ卽チ汪トハ六月來朝ノ際現在ノ如キ會談ヲ試ミ見込ナクハ袂ヲ分ツヘカリシモノナルト共ニ重慶及英ヲ相手トスル交渉ハ本會談カ成功シタル後ニアラサレハ決シテ行フヘキニ非スト思料ス（英國ヲ日本及汪派ニ引ツケル爲ノ交渉ハ大イニ必要ナリ）

五、本會談ヲ打切リ重慶ヲ直接交渉ノ相手トスルハ二年間ニ亘ル我カ國策ノ一枚看板ヲ下スコトトナリ内ニ於テハ國内民衆ノ憤懣抑フルニ由ナク外ニ於テハ列國ニ我カ敗戰ヲ裏書キシ其ノ干渉彌カ上ニモ我ニ加ハルノミナラス又重慶ヲシテ凱歌ヲ奏セシメ蔣介石ヲ將來永ク救國ノ英雄タラシムベク而モ交渉ノ結果得ヘキ條件ハ現在ノ程度ニモ及ハストセハ政府ハ何ヲ以テ國民ヲ指導シ得ヘキヤ固ヨリ交渉ノ結果カ不滿ナラハ實力ヲ以テ北支蒙疆ニタテ籠ル方法モアルヘキカ斯クテハ汪派其ノ他ノ和平派ヲモ全部敵方ニ廻ハシ中國全体ヲ相手ニ永久ニ應戰セサルヲ得サルニ到リ事變ノ卽急解決ハ到底不可能トナルヘク之亦政府ノ企圖及國民ノ期待ニ副フ所以ニ非ラサルヘシ

六、英ヲ利用シ重慶ヲシテ共產黨ト絕緣セシメ之ヲ切掛ケニ直接交涉ニ入ル手段モアルヘキカ右ハ汪政權ヲ踏ミ臺トシテ我方自ラ重慶工作ヲナシ得ル体勢ニ於テ又英國カ日本及新政權ニ協力スル充分ノ具体案ヲ提示シ來レル場合ニ初メテ爲スヘキコトニシテ然ラサル限リハ日本ハ英ヲ背景トスル重慶ヲ相手トスルコトトナリ結果ハ完全ナル敗戰ト選フ所ナク南支島嶼問題鐵道民營ノ如キ一蹴セラルヘキコト必定ナルヘク日蘇ノ提携トテ事變解決ニ關スル限リ同一ノ結果ヲ見ルニ過キス

七、要スルニ我カ事變處理方針ハ汪政權ヲ速カニ樹立シ之ヲ足場トシテ對重慶工作ヲナシ重慶ト南京トヲ合流セシムル外ナク（日本ハ對内的ニ重慶カ合流シ來レリト宣傳スルヲ要ス）對第三國外交ハ右到達スルワキ役ニ過キサルヘキコトヲ確信スル次第ナルニ付若シ何レノ方面タルヲ問ハス新政府成立ヲ取リ止メ若クハ政（以下欠カ）

編注一　本文書の発着日時および電報番号は不明。

二　本文書は、東京大学近代日本法政史料センター原資料部所蔵「阿部信行関係文書」より採録。

（付記二）

本省発

第一〇號（極祕、館長符號扱）

貴電第三五號ニ關シ

二十日（十九日ハ延期）鈴木部長、陸海軍務、理財、東亞四局長會合（影佐、須賀同席シ影佐ノ說明後退席セリ）先ツ影佐ヨリ確約及指導腹案全体ニ亘リ汪側ノ修正意見及之ニ對スル日本側ノ意見ヲ說明シタル後鈴木部長ヨリ汪側意見ト我方意見ト對立スル主ナル問題ハ㈠防共駐兵地點㈡鐵道㈢通信、航空、海運㈣北支財源㈤北支蒙疆政權ノ權限㈥新上海ノ建設㈦治安駐兵㈧通貨ノ諸問題ナリト思ハルルカ之ニ對シテハ

㈠防共駐兵問題ハ原案維持トシ駐兵地點ハ追テ協議スルコト

㈡鐵道問題ハ國有國營ノ原則ハ之ヲ認ムルモ北支特殊地域及用兵上必要ナルモノハ現狀維持トス但シ交通會社ノ合理的調整（持株、人事等）ハ之ヲ實行スルニ異存ナキコト（中支ノ鐵道ハ軍事上ノ要求權ニ依リ之ヲ維持ス）

尙鐵道ノ監理ハ中央ニ屬セシメ北支ニ中央直屬ノ監理局ヲ設クルコト亦異存ナシ

㈢通信、航空、海運問題ニ付テハ

(イ)通信ハ北支ハ現狀維持、中支モ日本カ協力シテ把握ス

(ロ)航空ニ付テハ汪側意見ノ如ク中國歐亞及中華公司ノ現狀ニ基キ合辦トス

(ハ)揚子江海運ハ合理的調整ヲ加ヘ新ニ經營スルモノハ合辦トス

㈣北支ノ財政ニ付テハ財源確保ヲ目途トシ徵稅監督ハ中央ニ認ム

㈤蒙疆ノ自治權、北支政務委員會ノ權限問題ニ付テハ汪側ノ修正案ヲ承認ス但シ日本側ト事前協議ヲ要スルコトトス

㈥新上海ノ建設ハ日支協力シテ之ヲ行フ趣旨ニ依リ具体案ニ付協議スルコト

㈦治安駐兵問題ニ付テハ撤兵ハ日本カ自主的ニ之ヲ行フ建

前ノ下ニ日本ハ平和克復後治安安寧ノ確立ヲ認ムレハ撤兵ヲ始メ二年間ニ之ヲ完了ス但シ南支沿岸特定島嶼ニ於ケル艦船部隊ノ駐兵基地ニ付テハ別途取極ヲ行フ(海軍側ヨリ揚子江沿岸主要地點ヲ追加スル意見出テタルモ之ハ決定ニ至ラス)

(八)通貨ニ付テハ新中央銀行設立及新券發行ハ餘リ飛躍的ナレハ之ヲ規定ニ入レス大体現狀維持トシ度キモ本件ハ專門的事項ナレハ石渡氏ヲシテ汪側ノ希望ヲ確メサセタル上更ニ考慮ス(聯銀券問題ニ付テハ發行高ヲ定ムルコト及聯銀券ト新法幣ノ兌換率ヲ規定スルコトハ不可ナルモ㈠發行額準備金額ハ隨時之ヲ中央ニ報告シ中央ハ隨時人ヲ派シテ檢查ス㈡聯銀券行使區域ハ北支ニ限ルコト㈢聯銀券行使區域內ト雖モ新法幣ハ聯銀券ト同時ニ流通スルコト㈣北支ノ爲替統制ハ中央ノ認可ヲ經ルヲ要ス等ハ之ヲ認メ差支ナシトノ軍側ノ意向ナリ)

トノ意見ヲ披露シ全体ニ亘リ意見交換ノ結果前記各項ノ腹案ニ基キ出先ニ於テ汪側ヲ納得セシムル様指導シ中央政治會議開催ニ持チ行ク様努力シ其ノ間成ルヘク既定ノ決定ニ近寄ラシムル様努ムルコト右ニ依リ如何ニシテモ解決付カヌ場合ニハ改メテ政府最後ノ決定ヲ仰クコトニ申合セ本申合セニ基キ各官廳上司ノ諒解ヲ求ムルコトトシ各自異議ナカリシモ大藏省ハ理財局長不在ニテ代理者出席セル爲本日ノ決定ハ單ニ大臣ニ報告スルニ止ムヘシトノ留保アリタリ尙其ノ節東亞局長ヨリ本件交涉カ永引クニ於テハ內外ニ不安ヲ與ヘ重慶側ノ策謀モ盛トナリ新政權樹立ヲ頓挫セシムル危險アルヲ以テ速ニ妥結ニ達スル様政府ノ政治的考量ヲ促ス要アルコト及意見不一致ノ點ニ付駐兵鐵道等ハ我方ニテ讓步出來サルモ新上海ノ建設ハ新政權ノ人心把握及第三國ヲ引付ケル上ヨリ支那側ノ希望ヲ認ムルノ要アル旨ヲ力說シ置ケリ

北京ニ轉電セリ

編注　本文書の発電日時は不明。

522

昭和14年11月27日　在南京堀総領事より
野村外務大臣宛(電報)

内約交涉における日本側提案は新政府樹立の意義を損なうとして条件緩和を求める汪兆銘

の態度について

南　京　11月27日後発
本　省　11月27日夜着

第二二七號（館長符號扱）
谷次官ヘ依光參與官ヨリ
二十五日上海ニ於テ汪精衛ト會談二時間汪ハ「日本政府ノ提案ハ假ニ此ノ儘鵜呑ミトスルモ民心ハ收攬シ難シ支那大衆ニ新政權ハ結局日本ノ傀儡ニ過キス滿洲國ト選フ所ナシトノ感シヲ與フレハ新政權樹立ノ意義ハ沒却セラルルノミナラス却テ蔣政權ヲ强化セシメ戰爭ハ何時迄モ終熄スルコトナカラン自分ハ飽迄日本ヲ信賴新政府ノ樹立ニ邁進スヘキモ日本ニ於カレテモ自分ノ立場ヲ今少シ了解シ消化シ易キ膳立ヲ出サルル樣希望ス」ト述ヘ稍々腐リ氣味ニ見エタルニ付本官ハ「日本ハ未曾有ノ大戰ニ當リ而モ今日ノ大捷ヲ博シ居ル手前モアリ國民ハ戰果ニ付テハ多少ノ期待ト關心トヲ以テ臨ミ居ルコトトテ貴下ノ申出ハ一應御尤モナルモ左樣簡單ニハ行クマシク歩ミ寄リニハ相當ノ困難ヲ伴フモノト思フモ日本官民ハ擧ケテ貴下ニ協力シ事變ノ解決ヲ一日モ速カナランコトヲ熱望シ居ル際ナレハ貴下ニ於カレテモ氣ヲ腐ラスコトナク此ノ上トモ一層御自愛御努力ヲ祈ル」ト激勵シ置キタリ御參考迄大臣ヘモ可然御傳ヘ請フ
上海ヘ轉電セリ

523

昭和14年12月2日　在上海加藤公使より
野村外務大臣宛（電報）

英国に対する応酬方針は内約交渉における汪側との諒解内容の確定をまって実施すべき旨意見具申

上　海　12月2日後発
本　省　12月2日後着

第四四號（極祕、館長符號扱）
英宛貴電第四五七號（見当ラス）ニ關シ
一、英國ニ對シ本電ノ如キ應酬ヲ爲シ其ノ目的ヲ達センカ爲ニハ中央政府ノ樹立工作カ完全ニ軌道ニ乘リ來ルコトヲ前提トスヘキ處日支基本的要項ニ關スル會談ハ目下停止狀態ニアリテ之カ妥結ヲ見ル迄ニハ我方限リ內部的ニ具體的意見ヲ取纏メル爲ニモ或ハ相當ノ日數ヲ要スヘキノミナラス三巨頭會談カ圓滿ニ進行シ次テ中央政治會議ニ

於テ諸手續カ完了シタル上ニ非レハ政府樹立工作ハ必スシモ安心ヲ許サス殊ニ昨今本會談ノ停頓ハ重慶トシテ之ヲ逆宣傳ニ利用スルニ至ラシメ居ル一方汪派スラ(親日ヲ云々スルモ先ツ支那人タル點ニ於テハ重慶ト同樣ナリ)其機關紙ヲシテ盛ニ國憲擁護ノ形ニ依リ日本ニ對シ無遠慮ナル社論ヲ連續掲載セシメツツアル實情ナルヲ以テ中央政府成立ヲ繞ル工作ハ重慶ヲ相手トスルニセヨ英國ニ働キ掛ケルニセヨ交涉及宣傳兩方面共早クトモ中央會議終了後初メテ之ヲ本格的ナラシメ得ルモノト認メラル

二、次ニ日支了解成立後重慶ヲ如何ニ取扱フヤノ問題ナルカ中央政府ノ力ヲ以テ重慶ヲ崩壞セシメ個々ノ要人脫出參加ヲ期待スルモ先ツ見込無ク且右ハ事變ノ急速解決ニ資スルコト尠キヲ以テ重慶ヲ一體トシテ南京ニ合流セシムル工作ニ主ヲ置クコトトナルヘキ處之カ爲ニハ(一)對英米或ハ蘇聯邦外交ニ主眼ヲ置クヘキヤ又(二)重慶ニ對シ中央政府及我方カ働キ掛ケルヘキヤ(其ノ方法アリ)ノ二途アル處現階段ニ於ケル我方ノ要求カ最少限度ノ必要ニ限ラレ支那側ノ立場ヲ認メヤル幅カ廣ケレハ廣キ程後者即(二)ノ方法ニ依ル見込大ナル譯ニシテ汪派ニ對スル要求條件ノ範圍如何ハ日支兩國限リニテ本事變ヲ終結セシメントスル我根本方針ヲ建貫キ得ルヤ否ヤヲ決スル關鍵タルト共ニ英國カ冒頭往電我方働キカケニ如何ナル程度ニ乘リ來ルヤモ直接間接右條件ニヨリ決定セラルヘク(重慶カ動キ出ス可能性强ケレハ英國モ嫌々乍ラテモ乘出シ又鐵道問題等ニ關シ條件カ穩當ノモノナラハ自發的ニ口ヲキク場合モアルヘシ)又場合ニヨリテハ對英問題ハ我方ト中央政府ノ協力ニヨリ解決シ得ルコトトナリ冒頭貴電ノ如キ趣旨ノ應酬ニヨリテ英ヲ我方ニ惹キ付クル必要モ無クナルヘク觀シ來レハ汪トノ間ノ日支諒解ノ內容カ先決問題ニシテ對英應酬ハ右內容ノ確定ヲ待テ之ヲ始メルモ遲カラスト思考セラル

英へ轉電セリ

524

昭和14年12月6日　在上海加藤公使より
野村外務大臣宛(電報)

時局に関する田尻書記官の観測

上　海　12月6日後発
本　省　12月6日夜着

第五一號（部外極祕、館長符號扱）
東亞局長ヘ田尻ヨリ[1]
左記各項ハ本官限リノ私見ニテ恐縮ナルモ時局對策企畫上何等御參考トナラハ幸甚ナリ
一、臨時政府ノ要人ハ王克敏ハ素ヨリ北方派ノ人物ト雖支那統一ヲ願ヒ所謂北支ノ特殊性ヲ最少限度ニ止メ出來得レハ之ヲ經濟關係ニ限リタキ願望アリ彼等カ出馬シタルハ日本ノ要求ヲ或程度容ルルコトニ依リ支那ノ分裂支那全般ニ對スル日本ノ把握ヲ阻止セントスルニアリ故ニ日本ト共ニ新中央政府ニ對抗シ特殊性ヲ擴大スルカ如キ意嚮毛頭無ク現ニ王カ北支政務委員會ノ權限ハ「國交調整」ノ當事者タル汪兆銘ノ決定スヘキコトニシテ自分等カ何等中央政府ニ對シ權限呼ハリヲスヘキ筋合ノモノニアラスト言ヒ其ノ他ノ者カ新政府成立セハ我等ノ任務ハ終レリト言フハ今日迄微力ヲ以テ支那ノ崩壞ヲ防衞シ來リタルカ中央政府カ出來レハ之ニ任セタク又任セタ方カ全般的ニ有利ナリト考フル爲ニシテ新政府ノ出現ニ反對アルカ爲ニハアラス彼等ハ傀儡ニアラスシテ愛國者ナリ（彼等カ公然靑天白日旗ヲ攻擊スルハ實ハ日本側ニ受ノ良キ強硬論ニ托シテ北方ニ特殊性ヲ云々シ強硬ナル中央政府ノ出現ヲ阻止セントスル日本側ノ態度ニ對シ敵本主義的鬱憤ヲ晴ラシ居ルモノナリ）彼等ニハ政府ノ首領カ汪ナルト蔣介石ナルトハ問フ所ニアラスシテ何人ニテモ中央ノ名ヲ用ヒテヨリ有效ニ日本ニ對抗スル組織カ速ニ出來ルコトカ問題ナリ換言セハ北支ヲ特殊化シ得ルモノハ日本ノ實力ニ依ル把握以外ニハ何物モナク無理ヲシテ特殊性ヲ形式化セントセハ（例ヘハ鐵道然リ）北支自體ノ民心ヲモ失フニ至ルヘシ
二、[2]中央政府工作カ玆迄進展セシ以上汪精衞ハ退クニ所ナカルヘキヲ以テ相當ノ無理ヲ承諾スヘシトノ判斷ハ誤解ナリ彼ハ革命兒ニシテ斷シテ政治屋ニハナレヌ人物ナレハ日本ノ要求カ屈辱的ニテ到底堪ヘ得サレハ何時ニテモ現工作ヲ拋ケ出スヘシ最近ノ汪ハ甚シク腐リ氣味ナルモ唯近衞公始メ日本側ノ同志ニ迷惑ヲ掛ケ度ク無シトノ考ヨリ仲間ヲ押ヘ我方ニ「ミート」スヘク努力シツツアリ若シ此ノ間ノ內情ヲ無視シ難題ヲ强フレハ汪ハ勿論彼ニ先

立チ其ノ同志カ逃ケ出ス可能性モ多分ニアリ従テ假令會談ヲ延期スルモ累次往電ノ如キ見透以上ニ先方カ折レ來ルコト無ク寧ロ現工作ハ中止トナリ流産トナリ重慶ト第三國ハ之ニ乘シテ強クナリ逆ニ汪ノ立場惡クナル爲其ノ際我方カ條件ヲ緩和シ再起ヲ促シテモ汪ハ之ヲ承諾シ得ス又重慶カ承諾セヌコトハ勿論ナルヲ以テ我カ條件ハ今ニ於テ此ノ角度ヨリ再檢討ノ上最少限度ノモノトスル要アルヘシ

三、(3) 我カ條件次第ニテ汪政府カ占領地ニ於テ相當ノ人氣ヲ獲得スルコトハ可能ナルモ重慶ニ比スレハ弱體無勢力ニシテ重慶要人ノ引張リ出シヲ策シテモ重慶ノ團結强ク警戒嚴重ナル爲當分殆ト效果ナキコトハ內外人ノ一致セル觀測ナルノミナラス汪ヲ除ク彼等同志ノ考モ全ク同樣ニシテ從テ對重慶工作ハ如何ニセハ重慶全部ヲ其ノ儘ニ南京ニ牽キ付ケ得ルヤノ問題トナリ之ニハ汪ニ呑(込)マスモノヲ重慶カ承諾スル程度ニ止メルコトヲ第一條件トスル次第ニシテ現會談ハ實質的ニハ重慶トノ和平交涉ニ外ナラス汪ヲシテ「フランコ」政權タラシメ逐次重慶崩壞ニ導カントスル當初ノ計畫ヲ變更シ成ルヘク速ナル機會ニ於テ重慶ト我方トカ實質的和平ヲナス踏臺タルニ止メントスルハ前述ノ如ク新政權カ無力ナルヘキ見透ナル外國際情勢カ支那事變ノ速急解決ヲ要求スルカ爲ナリ從テ時局解決ノ樣式ハ日本ト汪トノ國交調整會談、中央政府樹立及之ト重慶トノ合流方ノ交涉、双方政府ノ解消、新統一政府誕生ノ段取トナリ右期間カ永引カハ中央政府承認モ現實ニ必要トナルヘキ處承認ハ宣言ニ依ラスシテ基本條約締結ノ形式ヲ選ヘハ無理ヲセスニ右期間ヲ延引スルヲ得ヘシ又統一政府ニハ蔣モ入リ來ラサル一方或ハ汪モ投ケ出サレ實體ハ重慶派ヲ主流トシ汪派ノCC團等カ參加シテ甦生サルヘク重慶カ我カ汪トノ會談ノ結果ヲ承認シ政府ヲ解體シ來ル以上其ノ排日容共政策ハ放棄サルル次第ナルモ人的構成、思想ノ主流ハ依然トシテ蔣介石ノ改造セル國民黨竝ニ國家主權ノ獨立尊重及之ヲ阻止スルモノノ排斥ニアルコト疑ノ餘地ナク之テハ何ノ爲ニ多大ノ犧牲ヲ拂ヒ事變ヲ戰ヒツツアリヤトノ有力ナル反對モ起ルヘキ處右解決案ニ代ルモノトシテハ長期戰爭アルノミトセハ又右カ我國ノ實力ノ不足ニ基因スルモノトセハ蓋シ已ムヲ得サル所ナルヘシ

四、元來今次ノ事變ヲ以テ抗日容共政策ニ對スル膺懲ナリトスルハ看板ニシテ實ハ新興國トシテ伸ヒ來レル支那ノ成長力ヲ一應破壞スルニ在リ（尤モ支那カ日本ニ對シ友好的ナリセハ或ハ事變ヲ避ケタルヘキヲ以テ前記看板ハ半分ハ嘘ニアラス）聖戰二年半支那ノ物質的破壞ハ目的ヲ達シ日支實力ハ相當ノ開キヲ生シタルカ支那人ノ精神力ハ却テ旺盛トナリ將來恐ルヘキモノアルヲ以テ我國民カ之ヲ認識シ生產擴充、國防充實等ニ覺悟ヲ新ニセハ更ニ事變ノ收穫ハ大トナルヘク加フルニ滿蒙問題ノ最後的解決竝ニ北支ニ於ケル永久駐兵及開發建設ノ遂行ノ如キ和平ニ伴フ直接ノ收穫ヲ想ヘハ今次事變ハ充分ノ目的ヲ達シ得ル譯ニテ日本現在ノ環境ニ於テ北支ノ併合ヲ求メ或ハ國民的感情ニ名ヲ藉リ北支ノ特殊性ヲ形式化セントスルニハ未タ機熟セス又事變ノ眞意義ヲ認識シ國民ノ覺悟カ確固タルモノアラハ重慶派カ其ノ儘南京ニ歸來スルモ何等邪魔ニナラス日本トシテハ寧ロ事變ノ急速解決ニ依リ自由ナル立場ニ歸リ得ル利益ノ方遙ニ大ナルヘシ

編　注　本文書は、東京大学近代日本法政史料センター原資料部所蔵「阿部信行関係文書」より採録。

525

昭和14年12月8日　興亜院会議決定

「中央政權樹立工作ニ關スル申合セ」

付　記　昭和十四年十二月十九日発野村外務大臣より在上海加藤公使宛電報第三三号右決定の文言確定経緯について

中央政權樹立工作ニ關スル申合セ

昭和十四年十二月八日

興亞院會議決定

一、梅機關對汪工作ノ經過ヨリ見ルニ去ル十一月一日興亞院會議決定ニ依ル我ガ方要求ヲ今直チニ全面的ニ確約セシメントセバ汪ニ依ル新中央政府樹立ハ困難ト見ラレ又新中央政府樹立ヲ可能ナラシムル爲ノ汪側主張ハ我方ニ於テソノ儘之ヲ容認シ難キモノアリ

二、然ルニ國家內外ノ情勢ハ新中央政府ヲ速ニ樹立スルヲ有利ト認メラルルヲ以テ此ノ際現交涉ノ程度ニ於ケル彼我主張ノ開キノ如キハ一應梅機關ノ責任ニ於テ之ヲ呑込マ

シメ兎モ角モ速ニ汪政權ヲ樹立セシム
此ノ場合梅機關トシテハ彼我意見ノ一致セザル點ニ就テハ將來正式交涉ニ移リタル場合更メテ折衝ノ餘地ヲ存スル如ク出來得ル限リノ措置ヲ講ズルモノトス
三、政府ハ新中央政府樹立後諸般ノ情勢ヲ考慮ノ上適當ノ時機ニ右政府ト正式交涉ス
四、十一月一日興亞院會議ノ決定ニ就イテハ國內外ノ情勢ヲ見極メ且梅機關汪間ノ話合ヲ考慮シ要スレバ修正スルコトアルベシ

（付記）

第三三號（館長符號扱）
往電第三二號ニ關シ
矢野ヘ田尻ヨリ
八日ノ興亞院會議決議草案第二項ニハ「彼我主張ノ開キハ政府關係機關ノ內面的諒解ノ下ニ一應梅機關ノ責任云々」トアリシ模樣ナルモ右ハ削除セラレ又興亞院會議提出ノ原案第三項冒頭ニ「政府ハ表面上內外ニ對シ梅機關工作トハ

本　省　12月19日8時30分発（編注）

無關係ナル立場ヲ堅持シ新中央政府云々」トアリシヲ外務大臣ノ提案ニ依リ之ヲ削除シ往電第一九號ノ如ク修正シタルカ右ハ政府ノ責任ヲ「內面的了解」ノ範圍ニ止メズ梅機關ノ最後案カ法外ナモノニアラサル限リ政府自体カ之ヲ呑ムトノ趣旨ニテ本件ニ關スル決意ヲ示シタル次第ニテ十九日岡少將ノ談ニ依レハ海軍ハ右修正ニ全幅的ニ贊成ナル由

編　注　本電報の発電時間が午前・午後のいずれであるかは不明。

526

昭和14年12月9日　在上海三浦総領事より野村外務大臣宛（電報）

呉佩孚死亡に関する報道について

上　海　12月9日後発
本　省　12月9日夜着

第三三〇四號

六、七日重慶發中央社及外電ハ吳佩孚ノ死亡ニ對シ蔣介石、宋美齡、孔祥熙、于右任及王寵惠等重慶政府要人ハ續々トシテ鄭重ナル弔電ヲ發シタル旨竝ニ中央日報ハ六日ノ社說

ニ於テ精神的抗戰ニ偉大ナル貢獻ヲ齎ラシ支那ノ民族史上光輝アル一頁ヲ占ムヘシトテ其ノ死ヲ悔ミタルカ七日ニハ吳ハ敵國醫師ノ爲殺害セラルト題シ吳ハ三日日本醫師ノ神祕的手術ノ爲昏睡狀態ニ陷リ翌日蘇生後親戚知友トノ會見ヲ希望セルモ夫人以外接見ヲ許サレス夫人ニ對シ余ハ死ヌ方カ增タトテ其苦衷ヲ洩シタルカ更ニ日本醫師ノ注射ヲ受クルヤ再ヒ意識不明トナリ遂ニ死亡セリトテ如何ニモ其ノ死カ毒殺ニ依ルカ如キ印象的書振リヲナシ居ル旨報シ居レリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

527

昭和14年12月22日　在上海加藤公使より
野村外務大臣宛（電報）

新中央政府樹立阻止を目的とする重慶側の策動活発化の情報に鑑み内約交渉の協議内容の取扱いにつき注意喚起について

上　海　12月22日後発
本　省　12月23日前着

第七〇號（極祕、館長符號扱）

一、汪精衛側ヨリ重慶ニ潛入セルモノカ陳立夫ヨリ得タル情報ニ依レハ最近重慶側ハ新中央政府樹立運動ノ阻止ニ躍起ノ活動ヲ爲シ殊ニ其ノ重點ヲ日本側ト汪精衛トノ離間策ト新中央政府樹立時期ノ遷延策トノ二點ニ置キ日本人側汪精衛內部既成政權側等ニ對シ組織的ニ働キ掛ケ居ルコト確實ニシテ既ニ日支トモ此ノ策動ニ乘セラレ居ルモノアルヤノ懸念アリ現ニ汪精衛內部ニ於ケル有力分子ニモ容疑者アル模樣ナリ

二、影佐機關ト汪側トノ交涉ハ目下最高潮ニ達シ居リ狀況宜シケレハ引續キ三巨頭會談ヲ準備スル爲ノ諸交涉ニ推移スル段取ナルカ重慶側ノ策動モアリ寔ニ複雜微妙ナル情勢ニアリ又日支交涉ノ內容ハ概シテ日本カ發表シタキ事項ハ支那內部ニハ不利ナルモノ多ク之ニ反シ支那ノ民心把握上發表シタキ事項ハ我カ國內情勢上不利ナルコト多キ次第ニシテ双方トモ一方的意思ヲ以テ其ノ內容ノ一部ニテモ曝露センカ今後ノ運動ニ重大ナル支障ヲ來ス惧多分ニアリ

三、以上ノ見地ニ鑑ミ近ク開會セラルヘキ議會ニ於テハ政府樹立問題ノ取扱ハ深甚ナル御注意ヲ必要トスヘク單ニ日

本側ノ一方的考ヘ方ニ基キ交渉内容ノ一部ニテモ發表セラルルコトアリテハ今後ノ工作ニ一大支障ヲ來ス次第ニ付本件取扱ニ萬遺漏無キヲ期セラルルコト肝要ト存ス

北京、南京、香港へ轉電セリ

528

昭和14年12月28日　興亜院会議決定

「吳工作善後處置要領」

吳工作善後處置要領

昭和十四年十二月二十八日

興亞院會議決定

一、吳佩孚ノ急死ニ伴ヒ其ノ出馬促進ノ工作ハ之ヲ中止シ成ル可ク速カニ善後處置ヲ完了ノ上關係諸工作中、中央政府樹立ニ必要ナルモノハ之ヲ梅機關ニ繼承實施セシムルモノトス

二、右ニ要スル經費ハ吳工作所要經費ノ殘額ヲ以テ之ニ充當スルモノトシ竹機關ノ解散後ハ其ノ正金銀行ニ對スル債務ハ梅機關ニ於テ之ヲ繼承セシムルモノトス

529

昭和14年12月30日

「日支新關係調整ニ關スル協議書類」

付　記　昭和十四年十二月三十日

「日支新關係調整ニ關スル協議書類（別冊）」

十二月三十一日印刷

日支新關係調整ニ關スル協議書類

目　次

日支新關係調整要綱

別紙第一（日支新關係調整ニ關スル基本原則）

別紙第二（日支新關係調整ニ關スル具體原則）

祕密諒解事項

第一　新中央政府ト既成政府トノ關係調整要領

第二　金融、財政關係事項

第三　經濟關係事項

第四　交通關係事項

第五　揚子江下流地帶ニ於ケル日支協力關係事項

第六　日本人顧問職員招聘採用關係事項

第七　主權尊重原則實行ニ關スル支那側要望ニ對スル

回答關係事項

第八　雜　件

日支新關係調整要綱

一、日支兩國政府ハ別紙日支新關係調整ニ關スル原則ニ準據シ新國交ヲ調整スルコト

二、新國交修復以前ニ於テ既成政府ノ辨シタル事項ハ差當リ之ヲ繼承シ事態之ヲ許スニ伴ヒ第一項ノ原則ニ準據シテ調整セラルヘキコト

三、事變繼續中ハ之ニ伴フ特殊ノ事態ノ存在ヲ諒解スルコト

右特殊事態ハ情勢ノ推移乃至事變ノ解決ニ伴ヒ第一項ノ原則ニ準據シ整理セラルヘキコト

別紙第一

日支新關係調整ニ關スル基本原則

日滿支三國ハ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ理想ノ下ニ相互ニ善隣トシテ結合シ東洋平和ノ樞軸タルコトヲ共同ノ目標トヲス、之カ爲基礎タルヘキ事項左ノ如シ

左　記

一、互惠ヲ基調トスル日滿支一般提携就中善隣友好、共同防共、經濟提携原則ヲ設定スルコト

二、北支及蒙疆ニ於ケル國防上竝ニ經濟上日支間ノ緊密ナル合作地帶ヲ設定スルコト

蒙疆地方ハ前項ノ外特ニ防共ノ爲軍事上竝ニ政治上特殊地位ヲ設定スルコト

三、揚子江下流地域ニ於テ經濟上日支間ノ緊密ナル合作ヲ具現スルコト

四、南支沿岸特定島嶼ニ於ケル軍事上緊密ナル合作ヲ具現スルコト

五、右諸項ノ具體的事項ニ關シテハ別紙第二ニ準據シ所要ノ協定ヲ締結スルコト

別紙第二

日支新關係調整ニ關スル具體原則

第一、善隣友好ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ相互ニ本然ノ特質ヲ尊重シ緊密ニ相提携シテ東洋ノ平和ヲ確保シ善隣友好ノ實ヲ擧クル爲各般ニ亘リ互助敦睦ノ手段ヲ講スルコト

一、支那ハ滿洲帝國ヲ承認シ日本ハ支那ノ領土及行政ノ保全竝ニ主權ノ獨立ヲ尊重シ日滿支三國ハ新國交ヲ修復スルコト

二、日滿支三國ハ政治、外交、教育、宣傳、交易等諸般ニ亘リ相互ニ好誼ヲ破壞スルカ如キ措置及原因ヲ撤廢シ且將來ニ亘リ之ヲ禁絕スルコト

三、日滿支三國ハ相互提携ヲ基調トスル外交ヲ行フコト

四、日滿支三國ハ文化ノ融合、創造及發展ニ協力スルコト

五、日滿支善隣關係ノ具現ニ伴ヒ日本ハ漸次租界、治外法權等ノ返還ヲ考慮スルコト

第二、共同防共ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ協同シテ防共ニ當ル

一、日滿支三國ハ各々其ノ領域内ニ於ケル共産分子及組織ヲ芟除スルト共ニ防共ニ關スル情報、宣傳等ニ就キ提携協力スルコト

二、日支協同シテ防共ヲ實行スルコト、之カ爲日本ハ所要ノ軍隊ヲ蒙疆及北支ノ一定地域ニ駐屯スルコト

三、支那ハ駐屯地域及之ニ關聯スル地域ニ存在スル鐵道、航空、通信、主要港灣及水路ニ對シ別ニ協定スル所ニ從ヒ日本ノ軍事上ノ必要事項ニ關シ其ノ要求ニ應スルコト

但シ日本ハ平時ニ於テハ其ノ行政權及管理權ヲ尊重スルコト

第三、經濟提携ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ互助及防共ノ實ヲ擧クル爲產業、經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ平等互惠ヲ旨トスルコト

一、北支、蒙疆ニ於ケル特定資源就中國防上必要ナル埋藏資源ニ關シテハ共同防共及經濟合作ノ見地ヨリ日支協力シテ開發シ其ノ利用ニ關シテハ支那ノ需要ヲ考慮シ日本ニ特別ノ便宜ヲ供與スルコト

其ノ他ノ地域ニ於テモ國防上必要ナル特定資源ノ開發利用ニ關シ經濟合作ノ見地ヨリ日本ニ必要ナル便宜ヲ供與スル但シ利用ニ關シテハ支那ノ需要ヲ考慮スルコト

二、一般產業ニ就テハ日本ハ支那トノ協議ニ基キ支那ニ必要ナル援助ヲ與フルコト

三、支那ノ財政、金融(特ニ新中央銀行ノ設立、新通貨ノ發行等)、經濟政策ノ確立ニ關シ日本ハ支那トノ協議ニ基キ支那ニ所要ノ援助ヲ爲スコト

四、交易ニ關シテハ關稅ノ自主ト双方ノ利益トヲ尊重シ妥當

ナル關稅及通關手續ヲ採用スル等日滿支間ノ一般通商ヲ振興スルト共ニ日滿支就中北支間ノ物資需給ニ就キ各自給ヲ妨ケサル範圍ニ於テ便宜且合理的ナラシムルコト

五、支那ニ於ケル交通、通信、氣象及測量ノ發達ニ關シテハ日本ハ支那トノ協議ニ基キ支那ニ所要ノ援助乃至協力ヲ與フルコト

六、新上海ノ建設ニ付日本ハ支那トノ協議ニ基キ所要ノ援助及協力ヲナスコト

第四、共通ノ治安維持ニ關スル協力竝ニ撤兵ニ關スル事項

日支兩國ハ共通ノ治安維持ニ關シ協力スルコト

一、日本ハ平和克復後約定以外ノ軍隊ノ撤去ヲ開始シ治安確立ト共ニ二ケ年以內ニ之ヲ完了シ支那ハ本期間ニ於テ治安確立ヲ保證スルコト

二、共通ノ治安維持ヲ必要トスル間ノ駐兵地域其他ニ關シテハ日支協議ノ上之ヲ定ムルコト

三、共通ノ治安維持ノ爲メノ艦船部隊ノ駐屯、航泊ニ關スル地域其他ニ關シテハ日支協議ノ上之ヲ定ムルコト

四、支那ハ駐兵地域及之ニ關聯スル地域ニ存在スル鐵道、航空、通信、主要港灣及水路ニ對シ別ニ協定スル所ニ從ヒ日本ノ軍事上ノ必要事項ニ關シ其要求ニ應スルコト

但シ日本ハ平時ニ於テハ其ノ行政權管理權ヲ尊重スルコト

第五、其ノ他ノ事項

一、支那ハ別ニ定ムル所ニ依リ日支協力事項ニ關シ日本人顧問、職員ヲ招聘採用スルコト

二、日本ハ事變ノ爲生シタル支那難民ノ救濟ニ協力スルコト

三、支那ハ事變發生以來支那ニ於テ日本國臣民ノ蒙リタル權利利益ノ損害ヲ補償スルコト

祕密諒解事項（第一）

新中央政府ト既成政府トノ關係調整要領

第一、臨時政府トノ關係調整要領

一、北支トハ內長城線（含ム）以南ノ河北省及山西省竝ニ山東省ノ地域トス

二、中央政府ハ北支ニ於テ北支政務委員會ヲ設置ス

三、臨時政府ノ名稱ハ之ヲ廢止シ其ノ政務ハ北支政務委員會ニ依リ繼承ス

四、北支政務委員會ノ權限、構成等ニ關スル具體的事項ハ中央政治會議ニ於テ之ヲ決定ス

右權限構成ハ平和克復後左記條項ヲ具現シ得ルヲ以テ限度トシ之ヲ目途トシテ速カニ調整整理セラルヘキモノトス

左記

㈠中央政府規定ノ範圍内ニ於ケル日支協力事項ニ關スル北支ノ地方的處理中防共及治安協力ニ關スル事項

1日本軍駐屯ニ伴フ事項ニ關スル處理

2日支防共及治安協力ニ關スル所要事項ノ處理

3其ノ他日支軍事協力ニ關スル處理

但シ國防軍ニ關スル處理ハ中央政府ノ北支ニ特設スル軍事處理機關ニ依ルモノトス又北支政務委員會ノ保有スル綏靖部隊ノ兵力ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ據ル

㈡中央政府規定ノ範圍内ニ於ケル日支協力事項ニ關シ北支ノ地方的處理中經濟提携就中國防上必要ナル埋藏資源ノ開發利用及日滿蒙疆及北支間ノ物資需給ニ關スル事項

1日本ニ對シ資源就中國防上必要ナル埋藏資源ノ開發利用ニ關シ特別ノ便宜供與ニ關スル處理

2日滿蒙疆及北支間物資需給ノ便宜且合理化ニ關スル處理

3日滿蒙疆及北支間ノ通貨竝ニ爲替ニ就テノ協力ニ關スル處理

4鐵道、航空、通信、主要海運ニ就テノ協力ニ關スル處理

㈢北支政務委員會カ上記各項ヲ處理セシ場合ハ隨時之ヲ中央政府ニ報告スルモノトシ中央政府ハ右處置カ規定ノ範圍ヲ脫越セリト認ムル場合ハ之カ修正ヲナスコトヲ得但シ日支協力事項ニ就テハ日本大使ト連絡協議スルコト

㈣中央ノ關係法令ニ基キ日本人顧問及職員ノ招聘任用ニ關スル處理

㈤中國聯合準備銀行制度及之ニ關聯スル爲替制度ヲ存續スルヲ必要トスル間ハ中央政府ハ必要ナル助成ヲ爲スモノトス

其ノ具體的要領ハ中央政府ニ於テ日本ト協議ノ上別ニ決定ス

㈥其ノ他ノ事項ノ處理

1北支政務委員會所要經費ハ中央政府ニ於テ一括シテ之

ヲ交付スルモノトス

2關稅、鹽稅及統稅ハ中央稅トス

但シ當分ノ間關稅收入剩餘ノ五割及鹽稅收入剩餘ノ七割竝統稅收入ハ北支政務委員會ノ財源トス

徵稅及監督ニ就テハ關稅ハ中央政府鹽稅ハ中央政府ヨリ派遣セル人員カ北支政務委員會ト共同シテ之ヲ行ヒ統治ハ中央政府ヨリ北支政務委員會ニ委任ス之カ爲北支政務委員會ヨリ徵稅官及監督官ヲ推薦シ中央政府之ニ委任ス

3北支政務委員會ハ內債ニ限リ中央政府ノ認可ヲ得テ之ヲ募集スルコトヲ得

4北支ニ在ル官有財產中國家ニ屬スルモノハ中央政府ニ歸屬シ北支政務委員會之ヲ管理ス　又北支各省、市等ニ屬スルモノハ夫々省、市政府等之ヲ管理ス

5海關、郵政及航空ハ中央政府成立後速カニ其ノ統一管理下ニ入ラシムルモノトス

有線電報ニ關シテハ右ニ準ス

6特任官及簡任官ハ中央政府ニ於テ任免ス

但シ當分ノ間簡任官ハ北支政務委員會之ヲ推薦スルモノトス

7北支政務委員會ハ日滿トノ純粹ナル地方的處理ニ關スル交涉ニ限リ之ヲ行フコトヲ得

但シ隨時中央政府ニ報告スルモノトス

8中央政府ノ決定セル範圍內ニ於テ蒙疆トノ地方的連絡ニ關スル處理ハ北支政務委員會之ヲ行フコトヲ得

但シ隨時中央政府ニ報告スルモノトス

第三、維新政府トノ關係調整要領

一、維新政府ノ立場ヲ尊重シ其ノ動搖ヲ防止シ中央政府成立迄ハ安ンシテ政務ヲ繼續セシメ且中央政府ト融合歸一スル如ク考慮スルモノトス

二、維新政府ヲシテ中央政府成立後政務委員會等ヲ設置セサルコトヲ納得セシムルモ其ノ主要人物ノ體面ト地位トニ關シテハ之ヲ考慮ス

三、中央政府成立シ維新政府解消セル場合ハ中央政府ハ維新政府ノ辨シタル事項ニ對シ差當リ現狀ヲ維持シ速カニ之ヲ調整スルモノトス

四、揚子江下流地帶ニ於ケル日支間ノ緊密ナル合作ヲ具現スル爲日支經濟協議會(名稱未定)ニ於テ日支協議シ中央政

府又ハ上海市政府ニ於テ適當ナル方法ヲ講スルモノトス

五、上海ニ就テハ別ニ協定スル所ニ據ル

第三、蒙古聯合自治政府トノ關係調整要領

一、蒙疆トハ內長城線（含マス）以北ノ地域トス

二、蒙疆ハ國防上、經濟上日滿支三國强度結合地帶タル特殊性ニ鑑ミ現狀ニ基キ廣汎ナル自治權ヲ認メタル高度ノ防共自治區域トス

其ノ權限ハ中央政府ノ規定スル內蒙自治法ニ依ルモノトス、而シテ內蒙自治法ノ制定ニ就テハ豫メ日本側ト協議スルモノトス

三、中央政府ト蒙古聯合自治政府トノ新關係設定ノ爲中央政治會議開催前汪精衞又ハ其ノ代表者ト德王又ハ其ノ代表者トノ會見ニ於テ左記各項ヲ文書ヲ以テ約定スルモノトス

左　記

㈠中央政府ハ現狀ニ基キ蒙古聯合自治政府ノ高度防共自治權ヲ認ムルコト

㈡中央政府ト蒙古聯合自治政府トノ關係調整ニ關シテハ本諒解ニ基キ中央政府成立後別途協定スルコト

四、前項ノ諒解成立セル際ハ蒙古聯合自治政府ハ中央政治會議ニ代表者ヲ出席セシムルモノトス

五、中央政治會議ニ於テハ第三項諒解ノ範圍外ノ論議ハ行ハサルモノトス

第四、厦門

中央政府ハ厦門特別市ヲ設ク

厦門特別市ニ於ケル日支協力事項ニ關シテハ日支間ニ於テ別ニ協定スルコト

第五、海南島及附近ノ諸島嶼

中央政府ハ海南島及附近ノ諸島嶼ヲ以テ一省トナス

中央政府ハ專員ヲ駐派シ日支協力事項中左記事項ニ關シ圓滑ニ處理シ得ル如ク措置スルコト

一、軍事協力ニ關スル事項

二、經濟提携ニ關スル事項

祕密諒解事項（第二）

金融、財政關係

一、中國聯合準備銀行（以下聯銀ト略稱ス）制度及之ニ關聯スル制度ニ關スル件

聯銀ヲ存續スルヲ必要トスル間ハ左ノ如ク處置ス

1、聯銀券ノ正貨準備率ニ關シテハ中央ノ認可ヲ受ク發行額及準備金額ハ隨時之ヲ中央政府ニ報告シ中央政府ハ隨時又ハ常時人ヲ派シテ檢査ス

2、聯銀券ノ行使區域ハ北支ヲ以テ限界トス聯銀券ト新法幣トノ兌換等ニ關シテハ別ニ適當ノ處置ヲ講ス

3、北支ノ爲替統制ハ中央政府ノ政策ニ則リ之ヲ行フモノトス

（備考）

一、日本ハ支那ノ財政、金融ノ自主權ヲ尊重ス

二、中央政府ハ聯銀制度ノ存續ヲ必要トスル期間中之ヲ認ム

三、通貨ノ動搖ヲ生スヘキ原因ヲ釀成セサルコトニ就キ善處スルコト

二、華興商業銀行ニ關スル件

華興商業銀行ハ繼續シテ存在スルコトトス

新中央銀行成立シ新法幣發行セラルルニ至ラハ華興商業銀行ノ發行權ヲ取消シ既發行券ハ之ヲ回收スルコト

三、軍票ニ關スル件

軍票ニ關シテハ日本側ハ必要以上ノ增發ヲ避ケ其ノ價値ノ維持ニ努メ之ヲ以テ日本ヨリ輸入スル物資ノ決濟ニ充當スル等之カ回收ニ關シテハ遺憾ナキ方法ヲ講ス

回收以前ノ軍票ト新法幣トノ流通面ニ於ケル調節ニ就テハ相互ニ充分考慮スルモノトス

祕密諒解事項（第三）

經濟關係事項

一、日支合辨國策會社ノ合辨目的ヲ促進達成セシムル爲メ其ノ事業ニ關シ中央政府ハ適宜日本大使ト協議シ緊密ナル連絡ヲ保ツモノトス　但シ中央政府ニ屬スル右會社ノ行政監督權ヲ尊重スルコト

又北支ニ於ケル地方的處理事項ニ關シテハ中央政府ノ定ムル範圍內ニ於テ北支政務委員會ハ前記要領ニ準シ處理ス

二、支那ハ對外貿易ニ關シ統制ヲ必要トスル場合ハ自主的ニ之ヲ行フモ日支新關係調整要綱第三經濟提携ニ關スル原則ト牴觸セサルヘキコト

祕密諒解事項（第四）

交通關係事項

全支ニ於ケル航空ノ發達、北支ニ於ケル鐵道、日支間及支那沿岸ニ於ケル主要海運、揚子江ニ於ケル水運及北支竝ニ揚子江下流ニ於ケル通信ハ日支交通協力ノ重點トスルコトヽ之カ爲具體的方案左ノ如シ

全支ニ於ケル航空ニ就テハ中國、歐亞及中華各航空會社ノ制度ヲ參照シテ合辨トス

全支鐵道ハ國有國營トス、但北支ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ據ル

海（水）運ハ現事態ニ對シ合理的調整ヲ加フ

北支及揚子江下流ニ於ケル通信ニ就テハ日本ハ支那ト協議シ支那ニ援助乃至協力ヲ與フ

有線電報ハ國有國營トシ事態之ヲ許スニ伴ヒ調整ス

祕密諒解事項（第五）

揚子江下流地帶ニ於ケル日支協力關係事項

一、日支兩國ハ揚子江下流地帶特ニ上海ニ於ケル貿易、金融、産業及交通等經濟上ノ問題ニ就キ協議ヲナシ相互ノ提携ヲ緊密ナラシム日支經濟協議會（名稱未定）ハ右工作ヲ擔當ス

日支經濟協議會ハ日支協定ニ基キ官民練達堪能ノ士ヲ以テ組織ス

而シテ本會ノ決議事項ハ其ノ性質ニ鑑ミ中央政府又ハ上海特別市政府ニ於テ採擇シ之ヲ實行スルモノトス

日支經濟協議會ハ議長ヲ除キ日支人同數トス　議長ハ支那側トス

二、思想、敎育、宣傳、文化事業及警察ニ關シテハ日支間緊密ニ連絡協力ス、之カ爲メ上海特別市政府ノ社會局、敎育局及警察局ニ日本人連絡專員ヲ招聘ス

三、特務工作ニ就テハ日支當事者ハ絕ヘス緊密ナル連絡ヲ保チ且協力ス

四、支那側ハ上海特別市ノ對外交涉ニ就テハ絕ヘス日本側ト緊密ナル連絡ヲ保チ且協力ス

五、支那側ハ上海租界工部局內日本人參事會員及幹部職員ノ增加ニ關シ協力ス

六、上海特別市ハ其ノ新都市建設ノ爲メ日本人ノ技術顧問及

技術員ヲ招聘ス

七、日支合辨事業ノ分野竝ニ日支産業ノ生産及販路協定等經濟協力ニ就テハ日支經濟協議會ノ意見ヲ充分考慮シ公正ナル基礎ニ於テ其ノ準速(則カ)ヲ定ムルモノトス

八、上海居留ノ日本人ハ日本人協議會(名稱未定)ヲ組織シ市政府ニ對シ日本人ノ居住營業ニ關スル意見ヲ具申シ市政府ハ之ニ對シ充分ノ考慮ヲ拂フ

九、日本軍駐屯ニ伴フ事項中上海ニ於ケル地方的處理ニ就テハ中央政府ノ定ムル處ニ從ヒ上海特別市政府之ヲ處理ス其他ノ地域ニ在リテハ中央政府又ハ省政府ニ於テ之ヲ處理ス

十、上海特別市ノ財源ニ就テハ中央政府ニ於テ充分考慮シ建設ニ支障ナカラシムルコト

(備考)

日本ハ大阪市役所ノ社會局、教育局ニ支那人連絡專員ヲ招聘ス

祕密諒解事項(第六)

日本人顧問、職員招聘採用關係事項

一、支那中央政府ハ財政、經濟、自然科學ノ各技術顧問ヲ招聘スルコトヲ得

北支政務委員會ハ經濟技術顧問ヲ、縣政府以外ノ地方行政機關ハ自然科學技術顧問ヲ招聘スルコトヲ得

北支政務委員會ニハ連絡專員ヲ置ク

上海特別市政府ニハ社會局、警察局及教育局ニ連絡專員ヲ置ク

廈門特別市政府ニ於テハ技術顧問中一名ヲシテ連絡專員ヲ兼務セシム

(備考)

一、連絡專員ハ其ノ服務機關ト當該地方駐在ノ日本側機關トノ連絡任務ニ當リ一般行政ニハ參與セサルモノトス

二、連絡專員ハ特ニ獨立ノ機關ヲ設ケサルコト

三、連絡專員ハ簡任又ハ薦任トス

四、北支政務委員會連絡專員ハ八名ヲ限度トス

五、北支政務委員會連絡專員ハ必要ノ場合所屬ノ各省政府及各特別市政府ニ出張シ服務スルコトヲ得

二、支那最高軍事機關ハ軍事顧問ヲ招聘スルコトヲ得

其ノ職權ハ支那一般國防軍事ノ施設及日支防共軍事協力事項ノ立案ヲ輔佐スルニアリ

日支防共軍事協力事項ノ立案ヲ輔佐スル顧問ハ最高軍事機關ノ派遣ニ依リ防共軍事上必要アル地點ニ於テ服務スルコトヲ得

第三國ノ軍事顧問ハ日支軍事協力事項ニ參與セシメス

三、支那軍隊及警察ノ教育機關ハ必要アル場合教授、教官ヲ招聘スルコトヲ得

其ノ職權ハ教授及訓練ニ限ルモノニシテ行政ニ參與セス

四、支那軍隊ニハ外國人顧問、職員ヲ招聘セス　但シ北支ニ於ケル綏靖部隊ハ此ノ限リニアラス

五、支那警察ニハ外國人顧問、職員ヲ招聘セス　但シ北京、天津、青島、上海及厦門ノ各警察局ニ於ケル日本人職員任用ニ就テハ日支別ニ協議ノ上決定ス

六、支那中央政府直屬機關ハ必要アル場合日本人教授、教官、海關吏及專門技術官等ヲ任用スルコトヲ得

七、地方行政機關及其ノ所屬機關ニハ外國人職員ヲ任用セス　但シ北支政務委員會直屬ノ重要經濟建設機關、上海及厦門兩特別市ハ必要アル場合中央關係法令ニ從ヒ日本人專門技術官ヲ任用スルコトヲ得

八、前記各項ノ顧問ノ職權及服務規定ハ中央政府ニ於テ祕密諒解事項（第六）同（第八）ノ關係各項ニ基キ日支協議ノ上之ヲ定ム

九、前記各項ノ職員ハ總テ支那一般行政法規ノ支配ヲ受クルモノトス

十、蒙古聯合自治政府ハ顧問職員ノ招聘ニ關シ適宜ノ措置ヲ爲スコトヲ得

但シ政治顧問招聘ニ關シテハ中央政府ニ報告スルモノトス

祕密諒解事項（第七）

主權尊重原則實行等ニ關スル中國側要望ニ對スル回答關係事項

第一、政治

一、日支兩國政府ノ協議ニ關スル件

支那ハ中央政府ニ政治顧問ヲ招聘スルコトナク日本政府カ支那ニ於テ支那政府ト協議ヲ要スル事項ハ支那駐在日本大使之ニ當ル

支那ハ日支善隣結合關係ヲ具現スル爲メ兩國ノ協力事項ニ關シ齟齬遺漏ナキ樣密ニ日本大使ト連絡スルコト

二、日本軍ト省政府、特別市政府、縣政府、普通市政府等トノ協力ニ關スル件

支那ハ對日本軍一般商議及涉外事項處理ノ爲メ臨時的ニ各省政府及各特別市政府ニ交涉專員ヲ又各縣政府、各普通市政府ニ交涉祕書ヲ置キ日本軍ハ專任人員ヲ指定シ各々其ノ責ニ任セシムルコト

日本軍ハ右諸政府ト協力スル場合ニハ外交的手續ヲ以テシ命令式文書又ハ口頭通知ヲ以テセサルコト　但シ事變繼續中ノ已ムヲ得サル特殊事情ニ卽スル措置ニ就テハ別ニ商議スルコト

三、各縣宣撫班ノ解消ニ關スル件

日支双方ノ努力ニ依リ事態ノ鎭靜ニ伴ヒ中央政府成立後成ルヘク速カニ之ヲ解消スルコト

第二、軍事

一、支那復歸軍隊ノ駐屯區域ニ關スル件

中央政府ニ復歸スル支那軍隊ニハ之カ便宜ヲ考慮シ日支協議ノ上其ノ駐屯ノ爲メ地域ヲ移讓スルコト

二、第三國人軍事專門家等招聘ニ關スル件

支那カ第三國人タル軍事專門家等ヲ招聘スル場合ニハ日支協力ノ精神ニ鑑ミ日本ト連絡スルコト

三、兵器製造工場ニ技師任用ニ關スル件

必要アル場合日本人及第三國人ノ專門家ヲ技師トシテ任用スルコトヲ得

但シ第三國人ノ場合ニハ第二項ノ趣旨ニ據ルコト

技師ノ職權ハ技術方面ニ限リ各工場ノ人事行政及經理ニハ參加セサルコト

第三、經濟

一、軍管理工場、鑛山及商店ニ關スル件

目下日本軍ニ於テ管理中ノ公營、私營ノ工場、鑛山及商店ハ占領又ハ沒收セシモノニ非ス　敵性アルモノ竝ニ軍事上ノ必要等已ムヲ得サル特殊事情アルモノノ外財產保護ノ措置トシテ管理シタルモノニ對シテハ速カニ日支新關係調整ノ原則ニ卽シ合理的方法ニ依リ支那側ニ移管スルコト

其ノ細目ニ就テハ日支別途具體的ニ協議スルコト

二、日支合辦事業ノ調整整理ニ關スル件

日支合辦事業ニシテ固有資產ノ評價適正ヲ缺クモノ在ルニ於テハ日支間ニ委員ヲ設ケ再評價セシメ善處スヘキコト　又不當ト認メラルルモノアラハ日支協議ノ上之ヲ是正スルコト

三、合辦事業ノ出資割合ニ關スル件

北支ノ國防上必要ナル特定事業ノ日本側出資割合ハ百分ノ五十五ヲ超過セサルコトトシ其ノ實行細目ハ日支別途協議スルコト

前項以外ノ合辦事業ノ日本側出資割合ハ百分ノ四十九ヲ超過セサルコト　但シ合辦起業ノ際已ムヲ得サル事情アル場合ニハ日支協議ノ上必要ナル措置ヲナスモノトス

蒙疆ハ適宜ノ措置ヲナスコトヲ得

（備考）

第二項但書ノ場合ノ日本側出資割合ハ百分ノ五十トシ支那側ノ出資金不足分ハ日本側ヨリ貸付ノ形式ニテ融通スルモノトス

四、既成政府ノ辨シタル事項ニ關スル件

臨時維新兩政府ノ辨シタル事項ハ一應中央政府ニ於テ繼承スヘク若シ日支新關係調整ノ原則ニ反スルモノアルニ於テハ再審査シ日支協議ノ上調整整理スルコト

第四、財政

一、稅收機關ニ關スル件

日本ハ支那ノ財政ノ獨立ヲ尊重ス

支那ノ各種稅收機關ニ就キ軍事上特異ノ狀態ヲ發生シアルモノニ關シテハ速カニ之ヲ調整整理スルコト

二、中央政府成立以前ニ於ケル上海海關收入及關稅剩餘ニ關スル件

横濱正金銀行上海支店ニ保管シアル上海海關ノ關稅收入中ヨリ中央政府成立前ニ借款形式ヲ以テ融通スルコト

新中央銀行成立以前ニ於ケル關稅剩餘ニ關シテハ前項ノ處理ト共ニ融通ニ付充分考慮スルコト

以上ノ融通金額ハ尠クモ四千萬元トシ尙別途協議ス　但シ其ノ內成ル可ク多額ヲ新中央銀行準備金ノ一部ニ充當シ中央政府ノ政費ハ成ル可ク速カニ新法幣ニ依ル如ク努ムルコト

三、中央政府成立後關稅收入保管ニ關スル件

横濱正金銀行ハ現在ノ儘關稅預託銀行タルヘキモ中央政府ノ收入タルヘキ關稅剩餘ノ若干部分ニ付テハ中央政府

ノ指定スル銀行ニ預託換ヘスルコト
新中央銀行成立セハ關稅剩餘ハ之ヲ移讓ス、國庫代理設立セラルレハ之ニ準シ別途協議スルコト
四、外債及賠償金ノ基金保管ニ關スル件
横濱正金銀行ニ於テ既往ノ協定及慣習ニ據リ之ヲ保管スルコト
五、統稅ニ關スル件
北支ニ於ケル統稅ニ付テハ別ニ定ムル所ニ準據スヘキモ其ノ他ノ各省ノ統稅局ハ中央政府成立セハ財政部之ヲ接收シ稅收ハ國庫ニ納ムルコト
六、鹽稅ニ關スル件
中央政府成立セハ鹽務行政及鹽稅納稅辨法ニ付事變中生シタル特殊事態ハ日支協議ノ上改訂セル事項ヲ除キ速カニ事變前ノ狀態ニ恢復セラルヘキコト
第五、其ノ他
一、長江開放ニ關スル件
日本側トシテハ之ニ關シ充分考慮シアリ
二、京滬鐵道通行證首都停車場等ノ檢查ニ關スル件
現地關係日支雙方責任者ヲ定メ速カニ協議ヲ開始スルコト

秘密諒解事項(第八)
雜件
一、秘密諒解事項(第一)中第一ノ四ノ左記中㈠ニ關スル件
1日本軍駐屯ニ伴フ事項ニ關スル處理トハ兵營、演習、移動、給養及軍需整備ニ關スル事項ナリ
2日支防共及治安協力ニ關スル所要事項ノ處理トハ警備、配置、相互救援、軍隊相互ノ連絡、情報交換及宣傳等ニ關スル事項ナリ
3其他日支軍事協力ニ關スル處理トハ顧問、職員ノ招聘採用、武器ノ供給及非常事變時ノ處置等ニ關スル事項ナリ
二、支那軍隊及警察隊建設ノ爲メ日本ハ日支協議ニ基キ武器ノ供給ヲナスコト　但シ支那ノ自製及第三國ヨリノ購入ヲ妨ケス
三、支那ハ日本軍駐兵地域內ニ於ケル軍隊、警察隊等武裝團體ノ配置竝ニ軍事施設ニハ相互協調ノ爲メ愼重ナル注意ヲ拂フコト

四、祕密諒解事項(第六)ニ關スル件
1支那ハ日支新關係調整要綱ニ基ク日本人顧問、職員招聘採用ニ關スル祕密諒解事項ニ記載ノ各項ノ顧問、職員ヲ招聘採用スルコトヲ日本ニ要請シ日本ハ之ニ應スルモノトス
2顧問ノ招聘ハ總テ支那側ノ實際上ノ必要ニ基キ自發的ニ之ヲ行フモノトス
3顧問ハ一般行政ニ參與セス　其ノ主要任務ハ所在機關主管長官ノ諮詢ニ備ヘ其專門的意見ヲ提供スルニアリ
4顧問ノ職務上處理スヘキ事務ハ支那ノ法令及通常ノ慣例ニ從ヒ當該主管長官ノ指揮及監督ニ服從スヘキモノトス

五、祕密諒解事項(第一)ノ第四厦門ニ關スル件
1厦門特別市ノ區域ニ關シテハ支那ハ日本側ノ希望ヲ考慮スルモノトス
2日支協力事項ハ概ネ海南島ニ準スルコト

六、祕密諒解事項(第一)第五海南島及附延(近カ)ノ諸島嶼ニ關スル件
1海南島及附近諸島嶼ニ於ケル軍事協力ニ關スル事項トハ共通ノ治安維持上必要トスル間ノ駐屯配置、警備、軍事施設、教育訓練、移動及連絡、相互救援、給養、情報宣傳、武器軍需品供給、非常事變時ノ處置、顧問ノ招聘、軍機保護、其他協定セル事項等ニ關スル事項ナリ
2海南島及附近諸島嶼ニ於ケル經濟提携ニ關スル事項トハ一部資源(主トシテ護謨、麻、棉ノ如キ農產資源)ニ關シ日支經濟提携ノ原則ニ準據シ日支協力シテ其ノ生產ヲ計リ支那ノ需要ヲ考慮シ日本ニ對シ利用上ノ便宜ヲ供與スルコト、竝ニ國防資源(主トシテ鐵、錫、銅ノ如キ鑛產資源)ニ關シ日支協力シテ開發シ支那ノ需要ヲ考慮シ日本ニ對シ利用上ノ特別ノ便宜ヲ供與スルコトヲ謂フ

(付記)

十二月三十一日印刷
梅機關寫

日支新關係調整ニ關スル協議書類(別冊)

目次

機密諒解事項

第一、防共駐兵地域關係事項

第二、北支鐵道問題關係事項

機密諒解事項(第一)

防共駐兵地域關係事項

一、防共駐兵ノ實施ハ蒙疆ノ外正太鐵道以北ノ山西省、北部河北省及膠濟鐵道沿線ノ地方トス　但シ艦船部隊ニ就テハ別ニ協定ス

二、防共駐兵期間ハ日支防共協定有效期間トス

(備考)

前記膠濟鐵道沿線中ニハ濟南及其隣接地區ヲ除クモノトス

機密諒解事項(第二)

北支鐵道問題關係事項

一、北支鐵道ハ國有國營トシ京山鐵道(支線京古鐵道ヲ含ム)京包鐵道及膠濟鐵道ハ中央政府主管部ト北支政務委員會トヨリ成ル北支鐵道管理委員會(名稱未定)之カ管理經營ニ當リ之ヲ華北交通會社ニ委託經營セシム　委託經營ノ年限ハ二十年トス

華北交通會社ハ日支合辨、支那法人トシ其ノ資本割當等ハ日支協力原則ニ基キ所要ノ調整ヲナス

二、華北交通會社ハ受託鐵道ノ收支狀態ヲ北支鐵道管理委員會ニ報告シ其ノ監督ヲ受ク

華北交通會社ハ受託鐵道ヨリ生スル利益金ヨリ所要ノ社內留保及配當等ヲ控除セル剩餘ヲ先ツ借款元利支拂ニ充當シ更ニ剩餘アル場合ハ之ヲ政府ニ上納ス

三、國營鐵道ト委託經營鐵道トハ協議ノ上相互通車ヲナシ以テ運輸ノ圓滑ヲ圖ル

四、國營鐵道タル北支各鐵道ニ對スル日本竝ニ華北交通會社ノ投資及融資ハ擔保附借款ノ形式ニ改ム

五、華北交通會社ノ經營スル以外ノ北支各鐵道管理局ハ別ニ協議スル處ニ從ヒ職員中ニ日本人ヲ採用スルコト

六、各鐵道ノ管理局ノ職員ニハ成ル可ク華北交通會社ノ日支人現在員ヲ採用シ以テ人心ノ動搖ヲ防クコト

七、軍事若クハ資源開發ノ爲メ必要ナル鐵道ノ建設及改良ハ日支人ヨリ成ル鐵道建設委員會(名稱未定)ニ於テ議決シ

北支鐵道管理委員會之ヲ採擇スルコト
但中央政府ノ計畫ニ基ク新鐵道建設ハ此ノ限リニアラサルモ前項ノ建設改良計畫トノ摩擦ヲ避クルモノトス
八、軍事輸送及物資輸送ヲ適正圓滑ナラシムル爲日支人ヨリ成ル運輸連絡委員會(名稱未定)ヲ設置スルコト　同蒲、正太及滄石(豫定)各鐵道ノ連絡ニ關シテハ特ニ右委員會內ニ特別委員會ヲ設置スルコト
委員會ノ議決事項ハ關係機關ニ於テ之ヲ採擇スルコト
九、前各號ノ經營方式ノ實行ニ就テハ日支間ニ細目協定ヲ締結スルコト
(備考)
第五項ニ基キ當分ノ間職員中ニ採用スル日本人左ノ如シ
一、同蒲及正太各鐵道管理局
1、運輸主任、會計主任(日支人併用)及會計補助者各一名トシ會計主任ノ任用ハ該鐵道ニ對スル借款ノ存在スル期間トス
2、運輸及工務人員各約三名
二、津浦及京漢各鐵道管理局
運輸、工務及會計人員各約三名

(別冊第三)
南支沿岸特定島嶼地點ニ關聯スル軍事機密了解事項(第三)
支那海ノ交通路ヲ維持シ其ノ安全ヲ確保スルコトハ日支兩國共通ノ利益ナルコトヲ認ムルニ依リ日支兩國ハ互ニ軍事上ノ協力ヲナス爲
一、日本ハ前記目的達成ニ必要ナル中國ノ軍事施設竝ニ中國海軍ノ建設ニ協力スルコト
二、別ニ協定スル地點島嶼ニ於ケル日本ノ軍事施設ニ關シテハ別ニ日支專門委員會ヲ設置シ之カ管理又ハ使用等具体的事項ニ付協議ノ上定ムルコト
三、前項措置ノ如何ニ拘ラス中國ハ日支兩國又ハ其ノ孰レカノ一方國カ第三國ヨリ戰爭又ハ國際的事變ノ脅威ヲ受ケ若シクハ之ト交戰狀態ニ入ル場合日本ノ要請スル時機ニ於テ前諸項ノ軍事施設ヲ支障ナク日本ノ作戰用途ニ使用又ハ維持セシメ得ル爲必要ナル措置ヲ執ルコト
四、日支夫々ノ軍事施設ハ日支別ニ協議スル所ニ基キ相互ニ使用シ得ルコト

二、日本ハ前諸事項地方ニ於テ別ニ協定スル期間其ノ艦船部隊ヲ維持シ得ルコト

（終）

530

昭和15年1月6日　興亜院会議決定

「中央政権樹立ニ關聯スル對處要綱」

付記　作成年月日、作成者不明

「現地交渉ニ依リ日本側ノ獲得セル重要成果」

中央政權樹立ニ關聯スル對處要綱

昭和十五年一月六日

興亞院會議決定

梅機關ノ對汪工作ノ現況ニ鑑ミ左記諒解ノ下ニ諸工作ヲ促進スルモノトス

一、昭和十四年十二月三十日梅機關汪精衞間ニ內約セル事項（卽チ日支新關係調整ニ關スル協議書類ニ示ス事項）ハ昭和十四年十二月八日興亞院會議決定「中央政府樹立工作ニ關スル申合セ」ノ趣旨ニ基キ一應之ヲ諒承シ中央政府ヲ樹立セシムルコト

二、新中央政府ヲ相手トスル正式國交調整交涉開始ノ時期竝ニ國交調整條件ハ該政府ノ發育及內外ノ情勢ヲ見極メタル上追テ之ヲ決定スルコト

三、我カ戰時經濟確立ノ爲メ必要ナル經濟建設ハ新中央政府ト正式ニ國交調整條件ノ妥結セラルル迄ハ概ネ既定方針ニ基キ急速ニ之ヲ促進スルモ戰時經濟ニ關係薄キ事項就中日支新關係調整要綱ノ主旨ニ反スルカ如キ施策ニ付テハ之カ調整ニ努ムルコト

四、汪側ヲシテ日本側ニ協力シ速ニ重慶屈服ニ其努力ヲ指向セシムルコト

五、梅機關ト汪精衞間ノ內約事項（卽チ「日支新關係調整ニ關スル協議書類」）ヲ發表スルニ當リテハ內外ニ及ホス影響ヲ考慮シ、支那側トモ協議ノ上適宜善處スルコト

六、新中央政府ニ對スル指導機構ハ別途研究ノ上之ヲ定ムルコト

七、梅機關ト汪精衞間ノ內約事項「日支新關係調整ニ關スル協議書類」ノ祕（機）密取扱ニ關シテハ別紙第一ニ依ルコト

備　考

閣議ニ對シテハ興亞院總裁ヨリ右協議書類ノ要旨ヲ適宜說明シ其ノ諒解ヲ求ムルモノトス

別紙第一

「日支新關係調整ニ關スル協議書類」ノ祕(機)密取扱ニ關スル件

十二月三十日梅機關ニ於テ汪側トノ間ニ交涉成立セル「日支新關係調整ニ關スル協議書類」ハ軍事、外交及經濟等ノ諸點ヨリ之ヲ祕密扱シ更ニ其ノ一部ハ機密扱スルヲ必要トスルヲ以テ之カ取扱ニ關シテハ左記各號ヲ嚴守スルモノトス

左　記

一、該協議書類全部ノ複寫ヲ嚴禁スルコト

二、該協議書類別冊(機密諒解事項)ヲ機密扱トスル外左ノ分ヲモ機密扱トナスコト

(1)「日支新關係調整ニ關スル具體原則」中第二ノ二(防共駐屯地域ノ件)

(2)「日支新關係調整ニ關スル具體原則」中第四ノ一(撤兵ノ件)

(3)祕密諒解事項(第二)(金融財政關係)

(4)祕密諒解事項(第四)(交通關係)

(5)祕密諒解事項(第七)中第三ノ三(合辨事業ノ出資割合ニ關スル件)

三、今後ノ事務處理上必要アル場合ハ前項ノ機密扱事項ヲ除キタルモノヲ必要最少限ニ印刷スルコト

四、閣議說明案ハ別ニ適宜作成スルコト

(付　記)

現地交涉ニ依リ日本側ノ獲得セル重要成果

一、政治、外交及文化上ノ權利利益確保

1、滿洲帝國ノ承認確約

2、外交、教育、宣傳及文化等ノ協力確保

3、軍事以外ノ防共協力ノ確約

二、地域的實權把握

1、蒙疆ノ包括的實權把握

2、北支ノ國防上及重要經濟上ノ實權把握

3、上海特別市及廈門特別市ノ確保

4、海南島及附近諸島嶼ニ於ケル軍事上ノ實權及資源開

發權ノ確保

三、軍事上ノ實權把握

1、防共駐屯權確保

2、治安駐屯權確保

㈠厦門竝ニ海南島及附近諸島嶼等ニ於ケル艦船部隊ノ駐屯

㈡其ノ他ノ駐屯

3、駐屯地域及之ニ關聯スル地域ニ存在スル鐵道、航空、通信、主要港灣及水路ニ對スル日本ノ軍事上ノ要求ニ應スル旨ノ確約

4、軍事顧問及教官ニ依ル支那軍內面指導權ノ確保

四、經濟上ノ權利利益ノ獲得

甲、全支

1、航空ニ關スル支配的地位確保

2、國防上必要ナル特定資源ノ開發利用ニ關スル企業權（北支ニ於テハ日本優位、其ノ他ノ地域ニ於テハ日支平等）

3、支那沿岸ノ主要海運ニ關スル參加權確保

4、關稅及通關手續ニ關スル親日政策實行ノ確約

5、日本人タル財政經濟技術顧問ヲ中央政府ニ招聘セシムルコトニ依ル我政策遂行方法ノ確保

乙、蒙疆

經濟ノ全部面ニ關スル指導權及參與權獲得

丙、北支

1、鐵道ニ關スル實權把握

2、通信（有線電信ヲ除ク）ニ關スル日支共同經營權（日本優位）ノ獲得

3、特定資源就中國防上必要ナル埋藏資源ノ開發利用權ノ確保

4、國防上必要ナル特定事業ニ關スル合辨事業參與權（日本優位）ノ確保

5、北支政務委員會ノ經濟行政ニ關スル內面指導權確保

丁、揚子江下流地帶

1、日支經濟協議會ノ設置ニ依リ貿易、金融、產業及交通等ニ關スル日支協議權ノ確保

2、上海特別市ノ新都市建設ニ技術顧問及技術員ヲ招聘セシムルコトニ依ル指導權確保

531

昭和15年1月7日　在北京土田大使館一等書記官より野村外務大臣宛（電報）

喜多華北連絡部長官の王克敏処遇に関する心境につき報告

北　京　1月7日後発
本　省　1月7日夜着

第一二號（部外絶對極祕、館長符號扱）

喜多長官ノ王克敏處理ニ關スル心境ニ付連絡部係官ヨリ絶對極祕ノ含ヲ以テ內報アリタルカ長官ニハ往電第一〇號ノ次第モアリ王ニ於テ果シテ永ク留マルヤ否ヤ全然判明セス他面王ハ勇退ノ意思モ手傳ヒタル爲カ近來兎角喧シキ議論ヲ爲シ仲々日本側ノ指導ニ追隨シ來ラサル傾アリテ北支軍ニ於テモ之ニ刺戟セラレ王排撃ノ空氣モ鮮カラス長官トシテハ出來得ル限リ王ヲ踏留マラスコト大局上宜シト信スルモ踏留マラスモノトセハ今日ノ如キ我儘ナル態度ヲ此ノ儘ニハ放置出來ス何等カ是正ノ必要アリト信シ居リ又罷メサセル方カ宜シトシテモ其ノ後ノ對策ハ早目ニ樹テ置ク必要アリトノ見地ヨリ大體三巨頭會談直後ノ最後ノ肚ヲ決メ自分（長官）ノ居ル間ニ今後ノ策ヲ確立シ膳立テモ作リ圓滑ニ取運フ樣致シ置キタシト內々熟慮中ナル趣ナリ

本電內容ハ長官ニ於テ森岡次長ニサヘ洩ラシ居ラサル由ナルニ付テハ長官及係官ノ立場モアリ絶對ニ外部ニ洩レサル樣特ニ御配慮相煩度ク尙往電第一〇號及第一一號ハ今日ノ情勢上特殊ノ意義アリト認メ冗長ヲ顧ミス電報セル次第御諒承請フ

532

昭和15年1月8日　閣議決定

「支那新中央政府樹立ニ關聯スル處理方針」

付　記　昭和十五年一月八日
閣議後の內閣書記官長談

支那新中央政府樹立ニ關聯スル處理方針

（昭一五、一、八　閣議決定）

一、昭和十四年十一月一日興亞院會議決定ニ基キ支那新中央政府樹立ニ關聯スル諸工作ヲ實施シ來リタル處昭和十四年十二月三十日ニ至リ日支工作員相互間ニ意見ノ合致ヲ見タルヲ以テ帝國政府トシテハ一應之ニ了解ヲ與ヘ速ニ新中央政府ヲ樹立セシムルコトトス

右工作員ノ間ニ於テ意見ノ合致ヲ見タル要旨別冊「日支新關係調整要綱」(編注)ノ如シ

二、新中央政府ヲ相手トスル正式國交調整交渉開始ノ時期竝ニ國交調整條件ハ該政府ノ發育及内外ノ情勢ヲ見極メタル上追テ之ヲ決定スルモノトス

編注　本書第529文書「日支新關係調整ニ關スル協議書類」中の「日支新關係調整要綱」と同文のため省略。

（付記）

書記官長談（一月八日閣議後）

事變處理ニ關スル帝國ノ方途ニ就テハ累次中外ニ聲明セラレタル處ニシテ特ニ昭和十三年十一月三日帝國政府ノ聲明次デ同年十二月二十二日近衛前總理大臣ノ談話ニ於テハ征戰究極ノ目的ヲ明カニセラレ爾來政戰兩略一貫シテ此目的ノ追求ニ努力シ來リシ次第ナルカ此間支那ニ於ケル同憂具眼ノ士ニシテ帝國ノ意圖ニ響應スルモノ逐次增加シ來リ遂ニ昨年春季ニ入リ國民黨ノ指導的地位ニ在ル汪精衛及其同志ハ公然反共親日、和平救國ヲ主張シ帝國トノ協力的活動ヲ開始シ爾來日々其勢力ヲ加ヘ最近ニ至リ新ナル中央政府ヲ樹立スルノ氣運トナレリ而シテ其ノ志ス處ヲ詳察スルニ時局收拾ノ方向概ネ帝國ノ企圖スル處ニ合致スルモノアルニヨリ帝國トシテハ今後有ユル努力ヲ傾注シテ之レカ成立發展ヲ支援スルコトトナシタリ

533

昭和15年1月17日　在上海加藤公使より
有田外務大臣宛（電報）

日本側との合意条件に不満を抱く高宗武らの離脱に対し汪兆銘は新中央政府樹立に向けた決意不変の態度を表明について

上　海　1月17日後発
本　省　1月17日夜着

第九號（館長符號扱）

本使十三十五日ノ兩日汪精衛ト會談シ新中央政府樹立ニ關スル最近ノ心境、對重慶竝ニ日本側ニ對スル希望等聽取シタルカ御參考トナルヘキ點左ノ通リ

一、汪ハ新中央政府樹立ニ關シテハ同志ノ者ノ間ニモ異論ヲ唱フル者アリ陶季(希カ)聖高宗武兩名モ過日日支間ニ話合纏リ

タル和平條件ニテハ新政府ヲ樹立スルモ時局ヲ解決スル望無シトテ上海ヲ離レタルカ其殘セル書面ニ今回ノ條件ニテハ㈠國民ノ希望ヲ滿足セシメ難ク㈡重慶ヲ切崩ス迫力無ク㈢英米佛等ヲ納得セシメ得ス㈣日本側ニテモ新政權ハ無力ニシテ時局解決ノ能力無シト觀測スルモノアリ政府成立後愈其無力ヲ暴露セハ一層非難セラルル惧アリ㈤歐洲戰局モ遠カラス終局スヘシトノ見透行ハレ居ルヲ以テ早急ノ和平解決出來サルトキハ東洋ノ問題ハ再ヒ紛糾スル可能性アリト述ヘ尚自分等ハ決シテ重慶側ト聯絡シテ新政權樹立ヲ妨害セントスルモノニアラス寧ロ一身ノ危險ヲ犯シ香港ニ滯在シ事態ノ推移ヲ見守ラントスルモノナリト附記シアリタリ右兩人ト同樣ノ見解ヲ懷キ居ル者尚鮮カラスト察セラレ其心情ニ對シテハ同情ニ値スルモノアリ自分モ其間ニ立チテ極メテ苦シキ立場ニ在ル次第ナルカ折角日本側ニテ努力ノ上作ラレタル和平條件ヲ捨テテ政權ノ樹立ヲ中止スルコトハ信義上忍ヒ得サル所ナルヲ以テ多數同志ト共ニ既定ノ方針ニ從ヒ勇往邁進スル覺悟ニシテ今回ノ和平條件ハ陶高兩名ノ言ノ如ク民心把握ノ上ヨリ觀テ不充分ナル點アルヘキモ吾人ノ今後ノ努力ニ依リ之ヲ補フコトヲ決心シ居ル次第ナリ固ヨリ前途ニハ尚幾多ノ困難ニ逢着スヘク例ヘハ青島會談ニ於テモ新政府ノ人事問題等相當ノ難關アルヘシト豫想セラルルモ自分ハ決心ヲ動搖セシメス一意新中央政府ノ樹立工作ニ邁進シ度キ考ナリ

二、(2)和平運動ニ關スル重慶方面及軍隊方面ニ於ケル一般ノ動向ニ關シ汪ハ現在重慶ニ殘留シ居ル文武兩方面ノ同志カ今尚躊躇逡巡シ居ルハ極メテ遺憾ナルカ彼等トシテハ和平條件ニ對シ懷疑心ヲ抱キ其ノ態度ヲ決シ兼ネ居ルモノト察セラル一般ニ事態カ改善セラルレハ出テ來タイトテ和平ニ參加セントスル考ヘナルカ彼等カ續々參加シ來ラサレハ和平ハ實現セサル次第ニテ此ノ點ハ結局循環論ニ終ルニ過キス軍隊方面モ最後ノ勝利ヲ信シ居ルニアラサレトモ今日支那ノ生キル途ハ抗戰以外ニナシト思込ミ居リ已ムナク死地ニ就ク實情ナリ從ツテ彼等ヲ和平ニ導クニハ日支間ニ和平ノ途アルコトヲ知ラシメサルヘカラス然ラサレハ如何ニ戰フモ彼等ヲ動搖セシムル能ハス例ヘハ南寧攻略ニ依リ廣西軍隊カ一般ノ豫想ヲ裏切リ何等ノ動搖ヲ示ササリシカ如シ要スルニ彼等ヲ轉向セシムルニ

ハ日支間ノ和平法案カ根本問題ナリ之ヲ無視シテ重慶及軍隊方面ヲ切崩スコトハ殆ト不可能ナリト述ヘタリ

三、對重慶工作ニ關シ本使ヨリ新中央政府樹立ノ準備愈々其ノ緒ニ着キタル今日積極的ニ對重慶工作ヲ行フ必要アルヘシト述ヘタルニ對シ汪ハ對重慶工作ハ極メテ重要ナルカ自分等カ之ヲ行フ場合ニモ日本側カ之ヲ行フ場合ニモ相互ニ聯絡シ充分打合セタル上實行スルコトト致度ク然ラサレハ重慶側ハ巧ニ離間策ヲ講スル惧レアリ今日迄ノ所我方ニ對シ重慶側ヨリ第三國人ヲ通シ間接ニ聯絡シ來リタルコトアルモ何レモ確實性ニ乏シク眞ノ工作ハ今後ニ俟タサルヘカラサル次第ナルカ對重慶工作ヲ考慮スル場合新中央政府ノ樹立ハ果シテ妥當ナルヤ否ヤノ議論アリ卽チ重慶側ハ極力新政府ノ樹立ニ反對シ居ルヲ以テ此ノ際新政府ノ樹立ハ益々對重慶工作ヲ困難ナラシムヘシトノ意見アリ若シ果シテ然ラハ政府ノ樹立ハ之ヲ後日ニ讓ルノ外ナカルヘシ然レ共自分ノ觀ル處ニテハ民國元年孫文カ南京ニ臨時政府ヲ樹立シテ却テ南北ノ和平ヲ促進セシメタル例モアリ新政府ノ樹立ハ寧ロ重慶ヲ切崩シ速ニ和平ヲ招來スル捷徑ナリト信スルモノナリ唯對重慶工作ニ注意スヘキハ蔣介石ト蔣介石以外ノ者トヲ區別シテ之カ對策ヲ考究スル必要アル點ナリ蔣ハ從來ノ遣口ヨリ觀ルニ權力ヲ一點ニ掌握シナカラ自ラハ其ノ責任ヲ執ラス然モ和戰共他人ノ容喙ヲ許サス自分ニ對シテモ頻リニ牽制策ヲ講シ權力ヲ剝脫シテ無力ノ儘重慶ニ留メ置カントセル狀態ニテ其ノ性格ヨリ言フモ到底事ヲ共ニシ難ク其ノ對外政策ニ至ツテハ特ニ重大ナル錯誤ニ陷リ今ヤ蘇聯ト離ルヘカラサル關係ヲ生シ日本ト講和セハ忽チ蘇聯ニ捨テラルル羽目トナルヲ以テ蘇聯ノ了解ナキ限リ彼ヲ和平ニ轉向セシムルコトハ到底不可能ナリ曾テ戴天仇ハ蔣介石カ亡フル時ハ支那モ亦同時ニ亡フヘシト言ヒタルコトアルカ右ハ至言ニシテ自分ハ蔣ニ對シテハ全ク望ヲ失ヒ居ル次第ナリ萬一日本側カ蔣ニ對シ和平ヲ談判スルコトアリトスルモ彼一人ニテハ決定シ難ク必ス先ツ「スターリン」ノ同意ヲ得サルヘカラス自分ノ知ル所ニテハ蔣ハ外交問題ニ關シテハ一々「スターリン」ニ報告スルヲ例トシ「カー」大使トノ會談ノ內容ノ如キモ詳細之ヲ「スターリン」ニ通報シ居ル實情ニテ要スルニ私心ノミアリテ眼中國家ナシト言フヘキナリ

四、(3)新中央政府成立後ノ承認問題ニ關シテハ極メテ熱心ナル面持ニテ昨年東京ニ於テ政府要路ト會談ノ際モ述ヘタル通リ政府成立ノ際ハ日本大使ハ速ニ南京ニ歸任セラレタク獨伊英佛米國各使臣モ成ルヘク速ニ南京ニ來ル様施策セラレタシ川越大使カ辭職シ居ラサレハ其ノ儘歸任セラルルコトニ依リ事實上ノ承認トナルヘキモ若シ辭職シ居ラルレハ新ニ全權大使ヲ任命セラレ政府承認ノ手續ヲ執ラレタシ新政府ノ基礎ヲ鞏固ニシ其ノ發展ヲ圖ル爲ニハ極メテ肝要ナル問題ナリ日本カ早急ニ新政府ヲ承認スルコトハ重慶側ノ合流ヲ妨クル惧アリト爲ス論アルモ右ハ寧ロ反對ニシテ若シ承認セサレハ重慶側ハ新政府ヲ僞組織ナリト宣傳シ旺ニ破壞工作ヲ試ミルヘク重慶側ヲ合流セシムルコト不可能ニ立到ルヘシ若シ速ニ承認ヲ得ハ新政府ハ支那ノ正式政府トナリ民衆初メテ安堵シ對外關係亦好轉スヘシ伊太利大使トハ二回ニ亘リ會談シタルカ新政府樹立ヲ待ツテ直ニ外交關係ヲ結フ爲今尚重慶政府ニ對スル國書捧呈ヲ見合セ居レリト述ヘ獨逸モ恐ラク伊太利ニ追隨スヘク英佛米ト雖正式ノ承認ハ兎モ角トシテ日伊獨カ承認ヲ與フレハ西班牙ノ例ニ於テモ知ラルル通リ不取敢商務官位ヲ派遣シテ事實上ノ承認ヲ爲スノ外無シト想像セラル何レニスルモ日本トノ外交關係回復カ先決問題ニシテ日本カ躊躇セハ是等各國ハ新政府ヲ見限ルコトトナリ新政府ハ對外的ニモ立行カサル破目ニ陷ルヘシ此ノ點ハ日本政府ニ於テモ充分考慮セラレタシト述ヘタリ

五、本使ヨリ何應欽、白崇禧等ノ態度ニ付質問シタルニ汪ハ何ハ軍事上ノ勢望蔣ニ次ク第一人者ト言フヘク陳誠ノ如キハ何ノ位置ニ取ツテ代ラントシツツアルモ其ノ閱歷聲望到底何ニ比スヘクモアラス而シテ何ハ終始戰爭ニ反對ニシテ和平ヲ希望シ居ルコト自分ト同様ナルカ軍人トシテ部下ヲ擁スル關係上我々政治家ト異リ身ヲ以テ脫出スルコト難キ實情ニ在リ又彼トシテハ其ノ勢力ヲ維持スル必要上重慶ニ留ルコトヲ得策ト思考シ居ルモノナルヘシ白ハ何ト異リ其ノ動機如何ハ暫ク別トシ終始一貫抗戰ヲ主張シ居リ今日ノ所到底我々ノ和平ニ贊成スル可能性無シト認メラル尤モ白ハ何ト異リ寧ロ蔣ト離レタキ心境ナルヲ以テ或ハ偶然ノ機會ニ蔣ヲ離レ我方ニ投シ來ルコト無キヲ保セス極ク微妙ナル關係ニ在リ

534

昭和15年1月17日　在上海加藤公使より
有田外務大臣宛（電報）

新政府樹立後の対重慶工作に関する周仏海の見解について

上　海　1月17日後発
本　省　1月18日前着

第一二號（極祕、館長符號扱）

周佛海ハ十四日清水ニ對シ新中央政府モ近ク成立ノ運ヒニ立到ルヘキ處全般的和平ヲ實現スル爲ニハ重慶ニ對スル工作其ノ他ノ政治問題ヲ解決スル必要アリ若シ之ニ成功セサレハ新政府樹立ノ意義ヲ失フコトトナルヘキニ付此ノ點ニ日夜苦慮シツツアリ元來自分ハ新政府ノ財政部長ニ擬セラレツツアルモ斯ル煩瑣ナル職ハ他ノ適當ナル者例ヘハ陳公博邊リニ讓リ（陳ハ過日汪ニ對シ外交部長ト財政部長丈ケハ御免蒙ムリタシト述ヘタル由）無任所大臣ノ格ニテ專ラ是等政治問題ノ解決ニ當リタキ心組ナルニ付日本側同志ニ於テモ諒トセラレタク尚對重慶工作ハ極メテ重要且機微ナル關係アルヲ以テ日本側トモ充分腹ヲ合ハセ實行シタキ所存ナリト語レル趣ナルカ十五日本使ト會談ノ際偶々對重慶工作問題ニ觸ルルヤ周ハ重慶工作ヲ行フニ當リテハ先ツ重慶側カ如何ナル態度ニ出ツルヤヲ豫想シテ總ユル場合ニ應シ打ツヘキ手ヲ研究シ置ク必要アリ自分ノ觀ル所ニテハ重慶ノ出方ハ大體次ノ如キモノニ要約スルヲ得ヘシ卽チ㈠蔣介石カ下野シテ和平ニ參加シタル場合㈡蔣カ下野セス其ノ儘和平ニ參加シ來ル場合但シ此ノ場合ヲ更ニ細分スレハ㈠第三國ヲ介在セシメテ來ル場合㈡和平條件ノ緩和ヲ要求シ來タル場合㈢先ツ日本軍ノ撤退ヲ要求シ來タル場合㈡新中央政府ノ取消ヲ要求シ來タル場合等是ナリ是等ノ各場合ニ應スル對策ニ付テハ日本側ト共ニ豫メ檢討シタキ希望ナリト述ヘタリ

535

昭和15年1月20日　在上海加藤公使より
有田外務大臣宛（電報）

新中央政府承認問題等に関する褚民誼と在中国米国大使との会談内容について

上　海　1月20日後発
本　省　1月20日夜着

第一七號（極祕）

汪精衛ハ上海ニ於テ機會アル毎ニ褚民誼ヲシテ各國大使館總領事館側ト内々聯絡セシメ和平運動ノ實情ヲ認識セシムルニ努力シツツアル處十九日褚民誼ハ米國大使ト會見シ大要左ノ如キ談話ヲ交換シタル趣ナリ

一、褚ヨリ汪ヲ中心トスル和平運動ノ狀況ヲ說明シタル處「ジヨ」ハ米國トシテハ洋ノ東西ヲ問ハス世界ノ平和ヲ希望スル點ニ於テ人後ニ落チサルモ遠慮ナク言ハハ米國ノ輿論ハ汪ニ對シ匂シカラサル實情ナリト述ヘタルニ依リ褚ハ我等ハ數年來和平ノ爲ニ總ユル努力ヲ爲シ來レルモ重慶政權ハ今尚之ヲ肯ンセサル狀態ナリ然レトモ我等カ依然全面的和平ヲ希望シ其ノ實現ノ爲努力シ居ル氣持ハ去ル十六日ノ蔣介石宛ノ汪ノ電報ニテモ明カナル通リナリ若シ重慶カ依然トシテ之ヲ肯ンセサレハ遺憾乍ラ重慶ノ態度如何ニ不拘中央政府ヲ樹立ノ上和平運動ニ邁進スル覺悟ナリ其ノ際ハ米國トシテモ西南ニ偏在スル重慶政府ニ掛リ合フヨリモ地域廣大ニシテ且ツ米國ノ權益上重要ナル地域ヲ包含スル我新中央政府ヲ承認スル方得策ナルヘシ又米國ノ輿論ニ對シテハ大使ヨリ支那ノ現情特ニ汪ノ平和運動ヲ說明シテ空氣ノ緩和ヲ計ル樣努力セラレタシト述ヘタリ

二、右褚ノ要望ニ對シ「ジヨ」ハ余ハ重慶政府ニ派遣セラレタル大使ニシテ且ツ新中央政府承認ノ件ハ本國政府ノ取扱フヘキ問題ナルニ付今玆ニ新政府承認問題ニ觸ルル自由ヲ有セス又米國ハ元來言論自由ノ國柄ナルヲ以テ政府ヨリ之ニ干涉スルコトヲ得サル實情ナルコトハ御承知ノ通ナリト語リ之ニ對シ褚ハ重ネテ大使ハ近ク重慶ニ赴ク由ナルニ付重慶ニ到著ノ際ハ我等ノ眞面目ナル和平ノ趣旨ヲ重慶側ニ傳ヘラレ度ク又米國ノ輿論緩和方ニ付テモ充分好意ヲ以テ考量セラレ度シト述ヘタリ

北京、南京、香港へ轉電セリ

536

昭和15年1月22日　在香港黃田總領事代理より有田外務大臣宛（電報）

高宗武および陶希聖が日本と汪側との内約協議文書を大公報紙上に暴露について

香　港　1月22日後発
本　省　1月22日後着

第四六號（至急）

高及陶カ發表ノ和平條件ハ當地ノ大公報カ我方トノ日支新關係調整要項及同附屬全文(日本文)ノ寫眞及右支那文ノ外客年八月汪カ我方ニ提示ノ希望條項及之ニ對スル十月ノ我方回答文ヲ夫々登載(寫眞以外ハ他ノ新聞ニモ)スルト共ニ各紙共社說ヲ掲ケ二十一箇條ヨリモ酷シトテ汪ノブケイ締約ヲ罵ル一方高及陶ヲ稱讃セルカ其ノ中國民日報ハ特ニ米？國ノ注意ヲ喚起シ又リトウホウハ高ハ來香後直ニ右ヲ在野某要人ニ託シ重慶ニ送付セルニ對シ重慶ハ大イニ喜ヒ高等ノ處分取消ノ計畫ニテ其ノ歸渝方希望シ來レルモ高ハ外遊シ海外宣傳ニ當リ度キ意嚮ナリ尚高夫人ハ十八日上海ヲ脫シ來香セリト報シ居レリ

上海、廣東へ轉電セリ

537

昭和15年1月22日　有田外務大臣より在伊国天羽(英二)大使、在米国堀内大使他宛(電報)

内約協議文書暴露問題へのわが方対処方針について

本省　1月22日後10時5分発

合第一二四號(極祕、至急)

往電合第四八號ニ關シ

二十二日香港ニ於テ大公報カ高宗武及陶希聖ノ手紙ニ基クモノトシテ最近ノ我方汪精衞間ノ話合ヲ詳細暴露セル事件ニ關シテハ差當リ我方トシテハ右發表ノ內容カ事實ニ反スル旨輕ク否定シ置クト共ニ所要ノ反駁ハ汪精衞側ヲシテ之ヲ行ハシムルコトトセリ

尚本件大公報發表ニ所謂客年末ノ協定及附屬文書トハ實ハ客年十一月一日興亞院會議決定ニ基キ我現地機關カ汪精衞側ニ提示セル原案ニ該當スルモノニシテ其ノ後二ケ月ニ亘ル折衝ニ依リ支那ノ自主獨立ニ關スル汪側ノ要望ヲ多分ニ容レ客年末彼我ノ間ニ意見一致ヲ見ルニ至レル決定案ニ非サル次第ナリ爲念

本電宛先　伊、米、蘇、佛

伊ヨリ英、獨、白ヘ轉電アリ度

米ヨリ關係ノ公館ニ可然轉報アリ度

538

昭和15年1月23日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛(電報)

外国人記者会見における内約協議文書暴露問題に対する現地応酬振りについて

上　海　1月23日後発
本　省　1月23日夜着

第一三五號

高宗武ノ協定暴露ニ關シ二十二日ノ外人記者會見ニテ種々立入リテ質問アリタルカ係官ヨリ左記趣旨ニテ應酬シ置ケル趣

一、(イ)高カ汪側ト日本側トノ協定ナリトシテ諸条件ヲ発表セル旨ノ香港電報ハ新聞紙上ニテ承知シ居ルモ其ノ真相ハ承知セス

(ロ)我方ト汪側トノ間ニ和平ニ關スル各種ノ問題ニ付話合ノ行ハレ居ルハ事實ニシテ之ニ關シテハ本月八日内閣書記官長談ヲ以テ時局收拾ニ關スル日本側及汪側ノ意嚮合致シ居レリトノ趣旨發表セラレ居リ夫レ以上ノコトハ言明スヘキ立場ニ非ルモ我方ト汪側トノ談合ハ所謂近衞聲明ヨリ出發シ居ルモノニシテ支那ノ主權ヲ侵害シ或ハ條約ヲ侵犯スルカ如キ性質ノモノニ非ルハ改メテ云フ迄モナシ

(ハ)汪側トノ談合ハ日本政府ヲ拘束スルモノナリヤトノ質問ニ對シテハ日本側トノ談合トノ意味ニテ必スシモ理論上ノ嚴格ナル意味ニ於ケル帝國政府代表者トノ談合ニハ非スト應酬シ置ケリ

(ニ)賠償ノ問題ニ關スル質問ニ對シテハ近衞聲明ニハ無賠償ノ方針ヲ明カニシアルモ國際法上賠償ナル語ハ種々ノ意味ニ解セラル例ヘハ國家間ノ戰費賠償或ハ個人ニ對スル損失補償トモ解セラルヘキカ近衞聲明ノ所謂賠償ニ如何ナル定義ヲ下スヘキカニ關シテハ自分ハ説明スヘキ立場ニ非スト應酬シ置ケリ

右説明振ハ二十三日各英字紙ニ掲載セラレタルカ委細郵報ス

二、右説明ニ對シ「ユーピー」ハ別電(省略)第一三六號ノ如キ趣旨ヲ海外ニ電報シ居レルカ其ノ内大使館「スポークスマン」ハ新政權ニ對シ日本カ賠償ヲ要求スルノ可能性ヲ洩セリ云々ノ點ニ關シテハ「ユーピー」側ノ注意ヲ喚起セリ

本電別電ト共ニ北京、天津、南京、漢口、青島、香港へ轉電セリ

539

昭和15年1月23日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛（電報）

暴露された内約協議文書を売国協定と弾劾する漢字紙報道について

上　海　1月23日後発
本　省　1月23日夜着

第一三七號

一、二十三日當地各漢字紙ハ二十二日香港發中央社電ニ依リ日支新關係調整要項及同附屬書竝ニ附屬其ノ一（日支新關係調整原則）及其ノ二（日支新關係調整要項）ヲ大々的ニ發表（原文空送ス）スルト共ニ何レモ社說ニ於テ賣國協定ナリトテ之ヲ彈劾シ居レリ

二、中華日報ハ汪祕書長陳春甫（圃カ）談トシテ右ハ對日交涉ニ於ケル日本側ノ一方的提案ニ過キスシテ而モ最後的折衝ノ結果ニ非ス之ハ高陶兩名ノ關知セサル所ニシテ斷シテ支那ノ生存ト自由獨立ヲ毀損スルモノニ非ス其ノ和平條件ハ何レ公布セラルヘキニ付重慶側ノ和平運動破壞ノ謀略的謠言ニ迷フ勿レト發表シ其ノ社說ニ於テ陳ノ談話ヲ引用敷衍スルト共ニ發表文獻ハ事實上和平提案ノ基礎ナルモ正式ノ和平條約ハ中央政府ノ名義ニ於テ調印セラレ且發表セラルヘシ之ハ南京陷落前「トラウトマン」大使ノ取次キタル日本側ノ和平條件ニシテ蔣カ承認シタル程度ニ比シ支那ニ數倍有利ナルハ責任ヲ以テ國民ニ明言シ得ル所ナリ

三、二十二日重慶發「ユーピー」及「ルーター」電ニ依レハ政府發言人ハ高陶ノ政府ニ宛テタル日本側ト汪トノ交換文書及協定文ノ寫眞副本ハ二十一日接到セルカ之ハ日本カ支那ヲ第二ノ滿洲國トシ汪ヲ第二ノ傅儀（溥カ）ト爲スモノニシテ汪ノ對蔣和平勸告電ニ於テ保證セル日本側ノ合理的媾和條件ハ其ノ可能性ナキコト判明セリ尤モ汪ハ斯ル協定ヲ締結スル權能ナキヲ以テ外交部ニ於テハ目下之カ對策考究中ナルカ高陶及陳公博カ汪ヨリ離脫セル以上汪一派ハ全面的解體ヲ見ルヘキ旨發表セリ又官邊側ハ更ニ其ノ發表ニ依リ日本ノ交戰決意ハ益々強化セラレ和平勵奬ノ可能性ハ消失セリト斷シ居レル趣ナリ

在支各總領事及香港へ轉電セリ

540　昭和15年1月24日　在香港黄田総領事代理より有田外務大臣宛（電報）

内約協議文書暴露問題に対する蔣介石声明について

香　港　1月24日後発
本　省　1月24日夜着

第五一號

二十三日蔣介石ハ友邦人士ニ告クルノ書ヲ發表シ日汪協定ハ責任ノ地位ニ在ラサル汪カ勝手ニ作レルモノナレハ何等取上クルニ足ラサルモ之ニ依リ日本軍閥カ夢想スル世界制覇少クトモ支那ノ主權及列國ノ權益ヲ無視シ東亞ノ利益ヲ壟斷センタスル野心ハ明カニ證明セラレタリ列國ハ蔣政權ノ抗日戰爭カ單ニ支那ノミナラス世界平和ト人道擁護トノ爲ナサレ居ル所以ヲ認識シ苟クモ日本ヘ武器彈藥ヲ送ルカ如キ愚ヲ止メ積極的對支援助ニ乘出シ速ニ世界ノ公敵ヲ葬リ去ルヘク徒ニ逡巡シ時期ヲ逸センカ後ニ臍ヲ噛ムトモ遲カルヘシト述ヘ尚同時ニ軍民ニ告クルノ書ヲ公表シ汪ノ賣國的行爲ニ詳細說明ヲ加ヘ頻リニ反汪感情ヲ唆ルト共ニ抗日精神ノ發揚ニ努メ居レリ

541　昭和15年1月26日　在青島石川（実）総領事代理より有田外務大臣宛（電報）

高宗武および陶希聖の背反に対する汪兆銘声明について

青　島　1月26日後発
本　省　1月26日後着

第四八號

汪[1]精衛ハ二十三日午後「ロイター」及「エー、ピー」ノ特派員ヲ引見シ高、陶ノ所謂日支和平條件ニ關シ大要左ノ通リ聲明ヲ發表セリ

高及陶ハ何レモ最初ヨリ和平運動ニ參加シタルモノナルカ昨年三月二十一日曾仲鳴カ河内ニテ暗殺セラレテヨリ兩人共極メテ臆病ニナリ余カ河内ニ滯在中屢高宗武ニ招電ヲ發セルニ來ラス同志間ニ於テモ久シキ以前ヨリ之ヲ相手ニシナクナツテ居タ次第テ陶希聖モ亦優柔不斷テ堅イ決心ヲ有セサリシコト高ト同樣テアツタ乍併余ハ兩人共逸早ク和平運動ニ參加シタモノテアルカラ出來ル丈寬容ナル態度ヲ以テ彼等ヲ遇スルニ努メタカ昨年十二月頃其ノ態度ニ疑ハシキ形跡アルコトヲ發見シタノテ其ノ後ハ重要ナル交涉ニハ

參加サセナイ様ニシテ居タ今次兩人ハ昨年十一月五日ノ日本側現地一部ノ私案ヲ盗ミ重慶側ト通謀スルニ至ツタノテアル如何ナル運動テモ斯ル腐敗分子ノ出ルノハ免レ難キモノテ其ノ結果ハ却テ自己淘汰トナリ大局ニハ聊カモ害ハ無イ余ノ和平運動カ種々ノ障碍困難ニ遭フコトハ固ヨリ覺悟ノ前テアリ余ハ中國カ今日和平以外救ハルル途ノ無イコト及和平運動ハ日ヲ逐フテ發展成功ニ近ツキツツアルコトヲ堅ク信スルモノテアル

國家存亡ノ非常時ニ於テハ自己ヲ犠牲ニスルノ決心カナケレハナラヌ抗戰失敗セハ抗戰者其ノ責ヲ負フヘク和平運動失敗セハ其ノ運動者其ノ責ニ任スヘク徒ニ首鼠兩端ヲ持スルカ如キハ斷シテ許サルヘキテナイ余及余ノ同志ハ何レモ此ノ決心ヲ抱キ勇往邁進シツツアリ高陶ノ如キ變節者ヲ出シタコトハ誠ニ痛惜ニ堪エナイカ一方カラ言ヘハ夫レカ爲益々吾人ノ責任負擔ノ念ヲ強ムルノテアル若シ夫レ和平法案ニ至ツテハ中日双方共兩國百年ノ大計ト東亞ノ前途ニ思ヲ致シ相互信賴互讓ノ精神ニ基キ作成ヲ見ルニ至リ中國ハ其ノ復興ノ基礎ヲ築キ且東亞ノ和平ト新秩序建設トノ責任ヲ分擔スルコトトナツタノテアル從テ右ハ高陶兩人ノ捏造發表セル文書トハ遙ニ異ツタモノテアツテ此ノ點ハ將來事實カ之ヲ證明スルテアラウ

在支各總領事ニ轉電セリ

542

昭和15年1月26日　在青島石川総領事代理より
有田外務大臣宛（電報）

青島にて開催の汪兆銘・王克敏・梁鴻志による三巨頭会談の結果について

付記　昭和十五年二月四日、梅機関作成

「青島會談記錄」

青　島　1月26日後発
本　省　1月26日後着

第四九號（極祕、館長符號扱）
往電第四五號ニ關シ

二十五日引續キ會談ヲ行ヒタルカ其ノ結果大要左ノ通リ

一、日支新關係調整要綱及祕密了解事項ニ關スル件ニ付豫テ打合ノ通リ差支ナキ部分ヲ汪ヨリ說明シタリ尙本件發表方ニ付テハ高宗武等ノ暴露事件アリタル爲王克敏及梁鴻志ヨリ時期ヲ早メテハ如何トノ意見アリタルモ日本側ト

ノ關係モアリ發表ノ時期ハ汪ニ一任スルコトニ決定

二、北支政務委員會條例ニ付テハ臨時政府側ノ希望ニテ多少ノ修正ヲ行ヒタルカ其ノ主ナルモノハ第六條分課規定ヲ內務、財務、教育、建設、治安ノ六總處及政務、祕書兩廳ト爲スコト第十一條綏靖部隊ニ總司令ヲ置キ治安總處督辦是ヲ兼任スルコト等ナリ

三、中央政治會議組織綱領及條令其ノ儘通過

四、中央政治委員會組織條令其ノ儘通過

五、中央政府ノ構成組織ニ付テハ訓練總監部ヲ軍事訓練部ト改メ警察總監部ヲ警政部ト改ム

六、憲政實施問題ニ付テハ憲政實施委員會ヲ設クルコトニ決定

以上ヲ以テ青島會談ノ案件ハ全部終了シ出席者一同議事錄ニ署名シテ散會セリ

中央政治會議ハ大體三月初メ開催引續キ中央政府ヲ樹立スル豫定ニテ會議ノ地點ハ南京ト爲スコトニ決定セリ

以上ノ通リ青島會談ハ豫想外ニ順調ニ終了シ二十六日午後汪側及臨時、維新兩政府側ニテ談話ノ形式ニテ聲明ヲ發表シ二十七日夫々歸任スル豫定ナリ

上海公使、北京、天津、香港、南京、漢口、廣東、濟南ニ轉電セリ

冒頭往電南京、漢口、廣東、濟南ニ轉電シ置ケリ

編　注　本文書付記中の「北支政務委員會組織條例」には、內務、財務、教育、建設、治安に加え、「實業總署」の設置が記載されている。

（付　記）

二月四日　梅機關

青島會談記錄

本記錄ハ汪側ノ作製ニ係ルモノヲ飜譯セルモノナリ

青島會談記錄目次

一、第一次會談記錄

二、第二次會談記錄

三、中央政府樹立大綱（協議決定全文）

四、政綱（協議決定全文）

五、華北政務委員會組織條例（協議修正全文）

六、既成政權及華北政務委員會ニ關スル祕密諒解事項(協議修正全文)
七、中央政治會議組織綱要(協議修正全文)
八、中央政治會議組織條例(協議修正全文)
九、中央政治委員會組織條例(協議修正全文)
十、國民政府機構豫定一覽表(協議修正表)

(以上)

第一次會談

期日　中華民國二十九年一月二十四日
地點　青島迎賓館
出席者　汪兆銘　王克敏　梁鴻志
　　溫宗堯　齊燮元　朱深(王克敏代理)
　　陳群　任援道　周佛海
　　褚民誼　梅思平　劉郁芬
　　林柏生　王揖唐
主席　汪兆銘
記錄　羅君強　張仲寰

(甲)報告事項
主席ヨリ昨年九月二十一日ノ南京會談以後ノ對外折衝及各方面協力ノ情況ヲ報告シ更ニ法統問題及今回會談ノ議事日程其他關係事項ニ付說明ス

(乙)決定事項
一、中央政府樹立大綱ニ關スル件
原案通トシ汪主席ヨリ中央政治會議ニ提出スルコトニ協議內定ス
二、政府ノ名稱、國旗及首都ニ關スル件
スヘテ國民政府ノ辨法ヲ沿用シ汪主席ヨリ中央政治會議ニ提出スルコトニ協議內定ス
三、中央政府樹立ノ時期ニ關スル件
本年三月中旬ト定ムルコトニ協議內定ス
四、政綱ニ關スル件
原案通リトシ汪主席ヨリ中央政治會議ニ提出スルコトニ協議內定ス

第二次會談

期　日　中華民國二十九年一月二十五日

地　點　青島迎賓館

出席者　汪兆銘　王克敏　梁鴻志
　　陳　群　齊燮元　王揖唐
　　溫宗堯　朱　深(王克敏代理)　褚民誼
　　梅思平　劉郁芬　周佛海
　　林柏生　任援道

主　席　汪兆銘

記　錄　羅君強　張仲寰

(甲)報告事項

第一次會談記錄ヲ宣讀ス

(乙)決定事項

一、日支新關係調整要綱及祕密諒解事項ニ關スル件

汪主席ヨリ說明、協議ノ結果將來汪主席ニ一任シテ處理セシメ發表迄ハ祕密ヲ嚴守スルコトニ同意ス

二、華北政務委員會組織條例ニ關スル件

修正案ノ通リ汪主席ヨリ中央政治會議ニ提出スルコトニ協議內定ス

三、既成政權及華北政務委員會ニ關スル祕密諒解事項ノ件

修正案通リ實行スルコトニ協議決定ス

四、中央政治會議組織綱要及條例ニ關スル件

修正案通リ協議決定ス

五、中央政治委員會組織條例

修正案ノ通リ汪主席ヨリ中央政治會議ニ提出スルコトニ協議內定

六、中央政府ノ構成組織ニ關スル件

修正國民政府機構豫定一覽ノ通リ汪主席ヨリ中央政治會議ニ提出スルコトニ協議內定ス

七、國民大會ノ召集及憲政ノ實施ニ關スル件

中央政治會議ニ於テ中央政府成立ノ際直チニ憲政實施委員會ヲ設置スヘキ旨決議セシムルコトニ協議內定ス

八、會談事項ノ處理及中央政治會議ノ開催ニ關スル件

(一)本會談ニ於テ協議決定セル事項ノ內左記ノモノハ題目ノミヲ發表スルコト

(1)中央政府樹立大綱

(2)華北政務委員會條例

(3)中央政治委員會條例
(4)國民政府政綱
(5)政府ノ名稱首都及國旗
(6)中央政府組織構成
(7)國民大會ノ召集及憲政ノ實施
左記ノモノハ題目及內容ノ概略ヲ發表スルコト
(1)中央政治會議綱要
(2)中央政治會議條例
左記ノモノハ全然發表セサルコト
(1)政府成立ノ時期
(2)日支新關係調整要綱及祕密諒解事項
(3)對重慶工作
(二)中央政治會議ハ本年三月初南京ニ於テ開催ノコトニ協議決定ス

中央政府樹立ニ關スル大綱

一、中央政府ハ國民黨、既成政府、在野合法政黨及社會上其他有力分子ヲ以テ其ノ構成ノ基礎ト爲ス　重慶政權ニシテ若シ能ク徹底的ニ改組セハ固ヨリ中央政府構成ノ一要素タラシムルコトヲ妨ケス

二、中央政府ハ日支新關係調整要綱ニ準據シテ日支ノ國交ヲ正式ニ調整スルモノトス　其ノ具體的事項ニ關シテハ中央政府樹立前構成分子代表者ト日本側ト協議決定スルモノトス

三、第一條ニ所謂重慶政權ノ徹底的改組トハ左記二條件ヲ具備スルコトヲ稱スルモノトス
1、抗日容共政策ヲ放棄スルコト
2、本大綱第一、第二條ニ示セル方案ヲ受諾スルコト

四、重慶政權ノ重要分子ニ對シテハ汪精衞ヲ中心トシ既成政府、各黨各派等相協力シ能フ限リ多數ヲ獲得シ中央政府ニ合作セシムル如ク施策スルモノトス

國民政府政綱

一、善隣友好ノ方針ニ基キ和平外交ヲ以テ中國ノ主權行政ノ獨立完整ヲ求メ以テ東亞永久ノ和平及新秩序建設ノ責任ヲ分擔ス

二、各友邦ノ正當ナル權益ヲ尊重シ竝ニ其ノ關係ヲ調整シ以テ友誼ヲ增進ス

三、各友邦ト聯合シ共同シテ國際共產黨ノ陰謀及其ノ一切ノ
　平和攪亂ノ活動ヲ防壓ス
四、歸來スル軍隊及各地遊擊隊ニ對シテハ夫々之ヲ收容安定
　セシメ竝ニ國防軍ヲ建設シ軍政軍令兩大權ヲ明瞭ニ區分
　シ以テ軍事獨裁制度ヲ打破ス
五、中央政治委員會及各種民衆機關ニ各黨各派ノ人材ヲ網羅
　シ全國ノ輿論ヲ集中シ以テ政治ヲ指導ス
六、國民大會ヲ召集シ憲法ヲ定メ憲政ヲ實施ス
七、各友邦ニ資本ト技術トノ合作ヲ要求シ以テ戰後經濟ノ恢
　復ト產業ノ發展トヲ圖ル
八、對外貿易ヲ振興シ國際收支ノ均衡ヲ圖リ竝ニ中央銀行ヲ
　設立シテ幣制ヲ確立シ以テ社會金融ノ救濟及安定ヲ圖ル
九、稅制ヲ整理シ人民ノ負擔ヲ輕減シ農村ヲ復興シ且難民ヲ
　救濟シテ各其ノ生業ニ安セシム
十、反共和平建國ヲ以テ教育ノ方針トナシ且科學教育ノ程度
　ヲ高メテ浮華盲動ノ學風ヲ一掃ス

北支政務委員會組織條例

第一條　國民政府ハ河北、山東、山西三省及北京、天津、青島三特別市管內ニ於ケル防共、治安、經濟其他國民政府ヨリ委任セラレタル政務ヲ處理セシメ且所屬各省市ヲ監督セシムル爲メ北支政務委員會ヲ設置ス

第二條　本會ニ委員十七人乃至二十一人ヲ設ケ內一人ヲ指定シテ委員長トナシ五人乃至九人ヲ指定シテ常務委員トナス　其ノ人選ハ行政院長ヨリ中央政治委員會ニ提議シ通過後國民政府之ヲ任命ス

第三條　委員長ハ本會ノ會務ヲ綜理シ且本會ノ職員ヲ指導監督ス

第四條　常務委員ハ委員長ヲ輔佐シ本會ノ會務ヲ處理ス

第五條　本會會議規則ハ別ニ之ヲ定ム

第六條　本會ニ左記各總署及廳ヲ設ク

一、內務總署
二、財務總署
三、治安總署
四、教育總署
五、實業總署
六、建設總署
七、政務廳

八、祕書鐵(廳カ)

第七條　本會ノ各總署ニ督辨一名ヲ設ケ委員ヲシテ之ヲ兼任セシメ各廳ニハ簡任タル廳長一名ヲ設ケ夫々各總署、各廳ノ事務ヲ掌理セシム

各總署及廳ノ組織及辨事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　本會ニ顧問、參議、諮議、專員各若干名ヲ置クコトヲ得

第九條　本會ハ其ノ管下各機關ニ於ケル薦任官以下ノ公務員ヲ先行任免スルコトヲ得

第十條　本會ハ防共及治安ニ關スル事項ヲ處理スル爲メ中央法令ノ規定スル範圍內ニ於テ便宜ノ處置ヲナスコトヲ得

第十一條　本會ハ北支ノ治安ヲ維持スル爲メ綏靖部隊ヲ設置シ且之ヲ指揮スルコトヲ得

北支ノ綏靖軍ニ總司令一名ヲ置キ治安總署督辨ヲシテ之ヲ兼任セシム

第十二條　本會ハ北支ノ資源開發ノ爲メ中央ノ法令ノ規定スル範圍內ニ於テ便宜ノ處置ヲナスコトヲ得

第十三條　本會ハ北支ノ經濟及對外物資ノ需給關係ヲ調節スル爲メ中央ノ法令ノ許ス範圍內ニ於テ便宜ノ處置ヲナスコトヲ得

第十四條　本會ハ國民政府ノ委任ヲ受ケ北支ニ於ケル國有財產ヲ管理スルコトヲ得

第十五條　本會ハ國民政府ノ委任ヲ受ケ地方的涉外事項ヲ處理スルコトヲ得

第十六條　本會ハ其ノ職權ノ範圍內ニ於テ管下各省市政府ヲ指揮監督スルコトヲ得

第十七條　本會ハ中央法令ノ範圍內ニ於テ命令及單行法規ヲ發布スルコトヲ得

第十八條　本會ノ經費ハ國民政府ニ於テ統籌シテ之ヲ交付ス

第十九條　本會ハ之ヲ北京ニ置ク

第二十條　本條例ハ必要アル場合國民政府ニ申請シ之ヲ修正スルコトヲ得

第二十一條　本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（備　考）

一、本條例第一條及第十六條ノ「各省市政府」ハ將來公署ノ名義ヲ用フル場合ニハ「各省市公署」ト改ム

二、各總署督辨ノ下ニ署長ヲ置キ簡任職トス
三、北支綏靖軍ノ兵力ハ別ニ協議ノ上之ヲ決定ス

既成政權及北支政務委員會ニ關スル祕密諒解事項

一、國民政府成立時ノ宣言中ニ臨時維新兩政府ノ辨シタル事項ハ差當リ之ヲ繼承シ事態許スニ伴ヒ日支新關係調整要綱ニ準據シテ調整セラルヘキ旨ヲ加入スヘキコト
二、國民政府ト北支政務委員會管下ノ各機關ノ政務上ノ往復ハ原則トシテ北支政務委員會ヲ經由シテ行フモノナルコトヲ別ニ規定スルコト
三、北支政務委員會ノ權限ハ該委員會條例公布ノ日ヨリ其ノ儘直ニ實行セラルヘキモノニ非ス　事態ノ推移ニ伴ヒ速ニ實行ニ移サルヘキコト

中央政治會議組織綱要

一、中國々民黨代表大會ノ決議ニ基キ汪主席ヨリ既成政府、在野合法各政黨及社會ニ重望アル人士ヲ會同シ中央政治會議ヲ組織シ一黨專制ヲ放棄シ以テ各黨各派合作ノ效ヲ收メンコトヲ期ス
二、中央政治會議ニ參加スヘキ既成政府及在野合法政黨ノ人名ハ汪主席ト既成政府黨局（當カ）及在野各合法政黨ノ領袖ト夫々會商ノ上之ヲ決定シ社會ニ重望アル人士ハ汪主席ニ於テ之ヲ招聘ス
三、中國々民黨ヨリ中央政治會議ニ參加スヘキ人名ハ汪主席之ヲ指定ス
四、中央政治會議ニ主席一人ヲ置キ汪主席之ニ任ス
又議員三十人ヲ置キ其振當左ノ如シ
㈠中國々民黨中央執行委員中央監察委員計十人
㈡臨時政府代表五人
㈢維新政府代表五人
㈣蒙古聯合自治政府代表二人
㈤在野合法各政黨代表計四人
㈥社會ニ重望アル人士四人
五、中央政治會議ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ
㈠日支新關係調整方針竝ニ中央政府樹立ニ關スル大綱ノ決定ヲ汪主席ニ一任スルノ件
㈡中央政府ノ成立ニ關スル件
甲、中央政府ノ名稱、首都及國旗ニ關スル件

乙、中央政府成立ノ時期ニ關スル件
丙、中央政府ノ構成ニ關スル件
丁、臨時政府及維新政府ノ名稱廢止及其善後問題ニ關スル件
㈢中央政府ノ政綱ニ關スル件
㈣對重慶政府方策及其善後問題ニ關スル件
㈤國民大會ノ召集及憲政ノ實施ニ關スル件
六、中央政治會議ノ決議ハ議題ノ性質ニ應シ過半數又ハ四分ノ三以上ノ票決ニ依リ之ヲ定ム

中央政治會議組織條例

第一條　本條例ハ中央政治會議組織綱要ニ基キ之ヲ制定ス
第二條　中央政治會議ニハ主席一人議員三十人ヲ置キ主席ニ於テ夫々之ヲ指定又ハ招聘ス
第三條　中央政治會議ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ
一、日支新關係調整方針竝ニ中央政府樹立ニ關スル大綱ノ決定ヲ汪主席ニ一任スル件
二、中央政府成立ニ關スル件
甲、中央政府ノ名稱、首都及國旗ニ關スル件
乙、中央政府成立ノ時期ニ關スル件
丙、中央政府ノ構成ニ關スル件
丁、臨時政府及維新政府ノ名稱廢止及其ノ善後問題ニ關スル件
三、中央政府ノ政綱ニ關スル件
四、對重慶政府方策及其善後問題ニ關スル件
五、國民大會ノ召集及憲政ノ實施ニ關スル件
第四條　中央政治會議ノ決議ハ議題ノ性質ニ應シ過半數又ハ四分ノ三以上ノ票決ヲ以テ之ヲ定ム
第五條　中央政治會議ハ第三條各項ノ議決ヲ終リタル後直ニ解散ス
第六條　中央政治會議ニ於テ議決セラレタル事項ハ中央政府ニ於テ之ヲ執行シ且ツ中央政治委員會ニ移管シテ審査ニ備フ
第七條　本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

中央政治委員會組織條例

第一條　中央政治委員會ハ全國政治ノ最高指導機關トナシ左記事項ハ中央政治委員會ノ決議ヲ經ルモノトス

一、立　法　原　則
二、施　政　方　針
三、軍事及外交大計
四、財政及經濟計畫
五、國民政府主席及委員各院々長、副院長竝各政務官ノ人選
六、中央政治委員會主席ニ於テ會議ニ提出スヘキモノト認ムル事項

第二條　中央政治委員會ニ主席一名ヲ置ク、主席ハ憲政準備期間中ニ在リテハ中國國民黨中央執行委員會主席ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　中央政治委員會ニ委員二十四人乃至三十人ヲ設ケ主席ヨリ左記人員中ニ就キ夫々指定シ又ハ招聘ス
一、中國國民黨中央執行委員及中央監察委員
二、其他合法政黨幹部人員
三、社會上重望アル人士

中央政治委員會委員ノ任期ハ一年トス

第四條　中央政治委員會ニ常務委員六人乃至八人ヲ設ケ主席ニ於テ委員中ヨリ之ヲ指定ス

第五條　中央政治委員會開會ノ際委員ハ代表ヲ以テ出席ニ代ラシムルコトヲ得ス

中央政治委員會開會ノ際主席ハ政務人員ノ請求アル場合隨時其ノ列席報告ヲ許可スルコトヲ得

第六條　中央政治委員會ハ直接法令ヲ發佈シ又ハ政務ヲ處理セサルモノトス　其ノ決議ハ國民政府ニ交付シ之ヲ執行セシム

中央政治委員會ノ決議ニシテ國民政府及各院又ハ軍事最高機關ニ交付シ討論又ハ執行セシムルモノハ當該各長官之カ處理ノ責ニ任ス

第七條　本條例第一條ニ列記スル各事項ニシテ事機緊急ノ爲會議ニ提出シ決定スルノ遑ナキモノニ關シテハ中央政治委員會主席ハ便宜ノ處置トシテ政府ニ交付ノ上執行セシムルコトヲ得　但シ最近ノ會議ニ提出シ之カ追認ヲ受クルヲ要ス

第八條　中央政治委員會ニ法制、內政、外交、軍事、財政、經濟、教育及其ノ他ノ專門委員會ヲ設ケ各主任委員、副主任委員各一人、委員九人乃至十三人ヲ置キ夫々審査及設計事務ヲ擔任セシム　其ノ人選ハ主席ヨリ之ヲ指定ス

委員會組織規定ハ別ニ之ヲ定ム

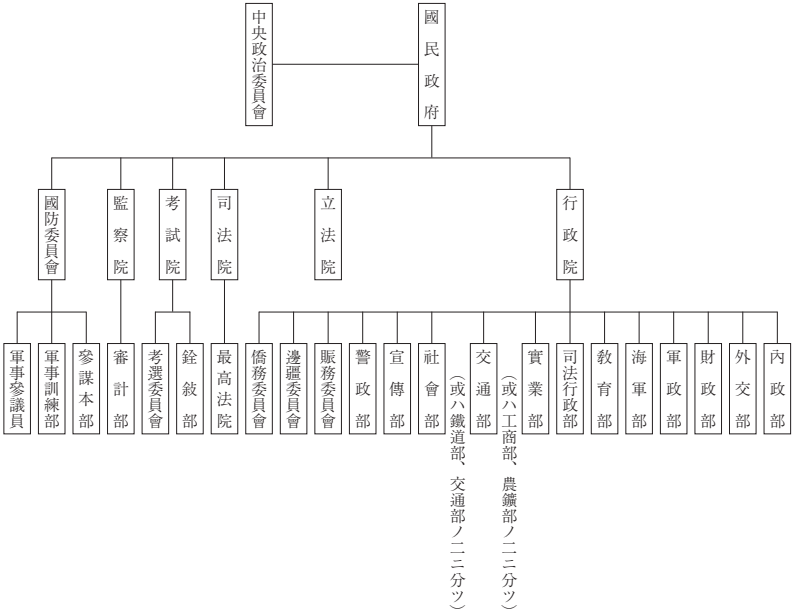
第九條　中央政治委員會ニ祕書廳ヲ置キ祕書長一人、副祕書長一人又ハ二人祕書及辨事人員若干人ヲ設ケ主席ニ於テ任命シ且之ヲ指揮ス

祕書廳ノ組織規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十條　中央政治委員會議事規則及辨事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條　本條例ハ決議ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國民政府構成豫定一覽表



543

昭和15年2月4日　在北京藤井大使館参事官より有田外務大臣宛（電報）

華北政務委員会成立後における王克敏の勇退意思を容認する喜多華北連絡部長官の意向について

北　京　2月4日後発
本　省　2月4日夜着

第九四號（部外極祕、館長符號扱）
往電第一二號ニ關シ
山田ニ於テ喜多長官ノ心境ヲ叩キタル處王克敏ハ軍ヨリ王獨リカ種々頑張ル樣取ラルルノミナラス中央政府ノ人事問題（王揖唐ハ青島ヨリ歸來南京行ヲ拒絶スルニ至リ目下說得中ノ由）複雜ナル等ノコトアリ愈々嫌氣カ差シ居ル模樣ニテ靑島ニ於テ汪精衞ノ激勵ヲ受ケタル次第ハアルモ北支政務委員會成立後二三ケ月後ニハ勇退スルコトニ肚ヲ決メ居ルモノノ如ク長官トシテモ之以上王ニ無理ハサセタクナシトノ心境ニテ目下ノ所ハ勇退セシムル方針ニテ指導中ノ趣ナリ從テ特ニ此ノ際我儘ノ調整等ハセス一ニ北支政情ニ動搖ヲ齎ササル趣旨ニ依リ二三ケ月ヲ經過セシメ其ノ間諸般ノ準備ヲ整ヘ圓滑ヲ期スル考ニテ王ノ後任者トシテハ一應湯爾和ヲ考ヘ居リ湯モ絶對ニ引受ケストハ言ハサル現狀ナリトノコトナリ

544

昭和15年2月9日　在上海加藤公使より有田外務大臣宛（電報）

中央政治会議開催に向け汪側と各党派代表との会合の開催決定について

上　海　2月9日後発
本　省　2月9日夜着

第五一號（極祕）
汪精衞側ニ於テハ來ルヘキ中央政治會議ニ備ヘ靑島會談ニ引續キ各黨各派ノ聯合協議會ヲ開催スル豫定ニテ準備ヲ進メ居タルカ愈二月十二日上海ニ於テ國家社會黨及中國靑年黨ノ代表竝ニ無黨無派ノ有力者ヲ招集シ所謂上海會談ヲ開催スルコトニ決定セリ右會談ニ於テハ靑島會談ト同樣ノ議題ヲ提出スル豫定ナルカ旣ニ相當ノ聯絡アルヲ以テ代表等ノ意見一致ヲ見ルニ至ルヘク兩黨トモ代表各二名ヲ中央政治會議ニ參加セシムルコトトナル模樣ナリ

追テ本會談ニ關シテハ支那側ヨリ發表アル迄極祕トナリ居ルニ付右御含置キヲ請フ
在支總領事及香港ヘ轉電セリ

545　昭和15年2月10日　在上海加藤公使より　有田外務大臣宛（電報）

新中央政府樹立に際し特命全権大使特派の必要につき意見具申

上　海　2月10日後発
本　省　2月10日夜着

第五三號（極祕、館長符號扱）
過般青島會談ニ於テ新中央政府樹立ハ三月中適當ノ時期ニ行フヘキ旨決定セラレ現ニ着々其ノ準備ノ進捗ヲ見ツツアル處ナルカ我方ハ右新情勢ニ卽應シ諸般ノ對策樹立及之カ實施ニ間然スル所無キヲ要スルハ論ヲ俟タサル處汪側トシテハ豫テ我國ニ依ル正式承認ノ一日モ早カランコトヲ要望シ居ルモ右正式承認ノ時期及方法等ハ愼重考慮ヲ加フヘキ重要問題ナリ然レ共右承認ノ問題トハ暫ク離レ苟モ新中央政府成立シタル以上ハ之ト同時ニ我方トシテハ之ト對位スヘキ機關卽チ特命全權大使ヲ特派スルハ㈠或程度迄事實上汪側卽時正式承認要望ノ趣旨ニ應スルモノニシテ且內外ニ對スル其ノ聲望ヲ昂揚セシムル所以ナルニ止マラス㈡右大使ヲシテ新中央政府ノ政務ニ對スル內面的協力事務ヲ處理セシメ現存興亞院聯絡部ノ事務ヲ事情ニ應シ漸次統合シ以テ獨立政府タルノ面目ヲ尊重スルノ實ヲ示ス爲ニモ必要ニシテ又㈢特ニ中央政府トノ外交的折衝殊ニ差詰メ過般ノ日支會談ノ內容ニ則リ之カ具現ヲ圖リ國交調整ニ關スル正式交涉ヲ進ムル爲正式承認ニ到ル過渡的措置トシテ絕對的緊要事ナリト思料セラル右特派大使派遣ハ滿洲國成立ノ場合ニ於ケル先例等ニモ鑑ミ異常ノ措置ニアラサル一方今後ノ對重慶工作及汪側指導トノ關係ヨリスルモ少クトモ右程度ニ於テ帝國ノ決意及態度ヲ明カニスルハ絕對必要ナリト考ヘラルル次第ナリ
就テハ本省ニ於カレテハ至急本件特派大使派遣ノ方針ヲ正式確定ニ導カレ速ニ追加豫算計上ト所要ノ措置ヲ完了セラレタク右稟申ス

546

昭和15年2月14日　在上海加藤公使より
有田外務大臣宛（電報）

国家社会党など各党派の中央政治会議への参加決定について

上　海　2月14日後発
本　省　2月14日夜着

第五七號

往電第五一號ニ關シ

本件會談豫定通リ二月十二日愚園路汪側事務所ニ於テ開催セラレタルカ汪側ヨリハ周佛海、梅思平、林伯生（柏カ）、國家社會黨ヨリ陸昇撥諸青來中國青年黨ヨリ邵木公無黨無派トシテ趙正平趙叔雍岑德コウ等出席シ青島會談ト同樣ノ議題ニ依リ協議シタル結果全部異議ナク通過シ國家社會黨及中國青年黨ハ各々正式ニ二名宛ノ代表者ヲ中央政治會議ニ參加セシムルコトニ決定シ近ク夫々宣言ヲ發表シテ黨ノ立場ヲ闡明スルコトトナレリ尚當日中國青年黨代表張英華及無黨無派楊毓珣ハ旅行不在ノ爲缺席セリ（會議出席者人名ハ中央政治會議迄發表セサルコトトナリ居レルニ付御含ミ置ヲ請フ）

在支各總領事及香港へ轉電セリ

547

昭和15年2月24日　在香港岡崎総領事より
有田外務大臣宛（電報）

対重慶和平工作との整合性を考慮し新政府樹立に際して汪側との内約条件の緩和を考慮すべき旨意見具申

付　記　昭和十五年二月九日発在香港岡崎総領事より有田外務大臣宛電報郵第七五号
対重慶和平工作に拘泥せず速やかに汪政権を樹立すべき旨意見具申

香　港　2月24日後発
本　省　2月24日夜着

第一〇四號（極祕、館長符號扱）

往(1)電第七五號ノ六ニ關シ

一、高宗武ノ發表ニ依リ重慶方面ノ支那側モ汪協定ノ大體ノ輪郭ヲ想像シ中ニハ案外寛大ナル條件ナリト看做スモノアルモ多クハ之ヲ賣國的又ハ降服的ノモノト爲シ斯ル協定ヲ基礎トスル汪政權ニハ參加シ得ス又重慶ヲ動カスコ

トモ出來スト爲スニ傾ケリ

二、然ルニ本官過日東京及上海ニテ聞知スル所ニ依レハ外務當局ノミナラス陸海軍側モ最終的和平實現ノ爲ニハ重慶ト媾和スルヲ要シ重慶ト話合ヲ爲ス場合ハ汪トノ協定事項其ノ儘ニテハ到底纏マル見込無カルヘキニ付相當條件ヲ緩和スル用意アリト爲スヤノ印象ヲ得タリ果シテ然ラハ現在漢奸ノ汚名ヲ甘受シ乍ラ我方ト提携シツツアル汪ニ對シテハ過酷ナル條件ヲ以テ臨ミ抗戰ヲ繼續シ居ル敵タル重慶ニハ條件ヲ緩和スルモ宜シトノコトトナリ全ク不可解ナルノミナラス斯ル場合ハ汪ハ愈々其ノ立場ニ窮スヘク又我方トシテモ一般親日支那人ノ信ヲ失ヒ戰後ノ經營ニモ多大ノ支障ヲ生スヘシ

三、(2) 汪ニ對シアレ丈ケノ協定ヲナサシメ得タルハ素ヨリ大成功ナルモ右約束實行ノ實現ニ當リ我方カ力ヲ以テ一方的ニ之ヲ爲サントスルモノナレハ初ヨリ斯ル協定ノ必要ナク然ラスシテ支那側ノ協力ニ依リ實現セントスルモノナラハ結局中央政府カ强固ノモノトナルニアラサレハ實行不可能ニ陷ルヘキ處餘リニ密ナル協定ニ依リ新政權ヲ身動キナラヌ樣縛リ上クレハ新政權トシテモ積極的ニ働キ掛クル氣力ヲ失フヘク又之ヲ公表シテ內外ニ呼掛ケ各方面ノ支援ヲ得ルコトモ困難トナリ結局極メテ無力ナル傀儡政府ニ墮スル惧多カルヘシ然ルニ他方重慶ヲ引入ルル條件ヲ緩和スル用意アリトセハ結論トシテハ汪ノ新政權ノミニテ進ム場合モ重慶ヲ含メテ和スル場合モ共ニ現在ノ汪トノ約束ヲ其ノ儘政府間ノ協定ニ引直スハ策ヲ得タルモノニアラサルカ如シ

四、就テハ本件協定ハ形式的ニハ汪ト我方代表者トノ間ノ約束ナレハ之ヲ以テ汪自身ニ對シテ右內約事項ノ實現ニ責任ヲ感セシムル程度ニ止メ愈中央政權成立シ兩國間ニ基礎的協定ヲ作ル場合ハ其ノ內容ハ近衞聲明ノ大綱ノミニ限リ一切細カキ取極ヲ避ケ殊ニ祕密協定ノ如キハ必要ノ最小限度ニ止ムルコト望マシク(各種ノ具體的事項ハ前記汪ノ內諾ト我方ノ實際的工作ニ依リ事實上解決シ行カハ可ナルヘシ)之ニ依リ外國側及重慶側ヲ惹付クルコトモ可能ナルヘク又我方モ基礎協定ヲ障碍ナク成立セシメ速ニ第二段ノ工作ニ取掛リ得ル利益アリト存ス當方面ヨリ見タル卑見御參考迄

上海へ轉電アリタシ

（付　記）

香　港　2月9日発
本　省　2月17日着

郵第七五號（館長符號扱）

四、(3)之ヲ要スルニ重慶ヲ引入ルルニアラサレハ終局ノ和平ヲ齎シ得サルコトハ何人モ異議ナキ所ナルヘシト雖之ヲ實現スル方法トシテハ此ノ際重慶トノ接近ヲ急クニ於テハ却テ目的ニ反スル結果ヲ生スル惧アリ素ヨリ重慶モ和平ヲ欲スルコト我ニ劣ラサルヘキニ付我方ニテ蔣ヲ相手トスルコトヲ肯ンスレハ開談ノ運ニ迄ハ漕キ付ケ得ヘキモ先方ハ必スシモ戰ニ敗レタリトハ思ヒ居ラサルニ付和平ノ條件ニテ直ニ衝突シ（例ヘハ撤兵、海南島、特殊會社、防共駐兵、鐵道管理等）結局物別レトナル危險頗ル多シ而モ右會談中ハ汪派モ中央政權ニ付到底乘氣セサルヘキニ付虻蜂取ラスノ結果トナリ徒ニ事變ノ終結ヲ遲ラスニ至ルヘシ從テ此ノ際ハ兎ニ角蔣ヲ相手トセストノ政府聲明ヲ掛値無シニ實行シ之ニ反スル策動ヲ一切抑壓セラルヘキモノト存ス（從來トモ所謂私設ノ使節又ハ聯絡者ノ策動ノ弊害ニ付テハ御承知ノ通リ）卽チ我方ハ汪政權ノ速カナル樹立及之カ卽時承認竝ニ右ニ依ル占領地域ノ平和及經濟的發展ヲ圖リ（汪ニ其ノ力ナシト爲ス向多キモ占領地域ニ在ル以上或程度無力ナルハ已ムヲ得ス要ハ我方如何ニ之ヲ支援シ有力ナラシムルカニ懸ル）外國側モ之ニ協調セサレハ支那全土ノ八十％ニ餘ル經濟的利益ハ日本ニ獨占セラルルノ懸念ヲ暗示スルコトニ依リテノミ却テ重慶ノ崩壞ヲ早メ結局有利ナル條件ニテ重慶ヲモ含ム全支那トノ和平ヲ具現スル捷徑トナルヘシ

五、素ヨリ外國側ニ對シテハ威嚇ヲ以テ臨ムヘカラサレハ充分實質的協調ヲ圖ル必要アリ此ノ意味ニテ揚子江珠江ノ開放ノ如キモ機宜ニ副ヒタル御措置ナルカ右ニ對スル各國ノ期待大ナル丈ケ其ノ實施ノ時期及條件ハ彼等ニ幻滅ヲ感セシメサルモノタルヲ要スヘク又米國ハ在支外國權益ノ擁護者タルカ如キ氣分ナル限リ更ニ米國ノ權益ノ保護ノミヲ爲スハ效果少ク一般第三國利權ニ對シ公平ナル取扱ヲ爲スヘキヲ現地機關ニ充分徹底セシムル要アルヘシ尙右實現ハ成ルヘク汪政權ノ手ニ依ラシムルコト然ルヘキハ言ヲ俟タス（英國等モ遣方次第ニテ防共的ノ汪政

（欄外記入）

権ヲ事實上ノ相手トスル覺悟アルヤニモ觀測セラル）

六、(4)以上ノ見解ニ對シ我方ノ決心ヲ固ムル前ニ重慶ノ眞意ヲ確メタシトノ議論アルヘキモ右ハ結果ニ於テ我方ノ弱味ヲ示ス以外效果ナカルヘキハ前記ノ通リ又必要ノ場合重慶トノ聯絡ノ途ヲ開ケ置クヲ要ストノ意見アルヘキモ少クトモ當館ニテハ吳鐵城、孔祥熙及蔣自身トノ間ニモ聯絡シ得ル途ナキニアラス又英國ノ如キハ歐洲情勢ニモ關聯シ日支ヲ防共的ニ結合セシメタキ希望ニテ機會到ラハ仲介ヲナサントノ底意觀測セラルルヲ以テ此處ニモ重慶トノ聯絡ノ途アリト言フヘシ

實ハ若シ是非共重慶ノ眞意ヲ打診ノ要アリトセハ寧ロ從來ノ行懸リヲ棄テ此ノ際英國ヲ利用スルコト一策ナリト考ヘラル但シ斯ル場合ハ汪トノ協定ノ內容通リニテハ到底話纏ラサルヘキニ付今ニ於テ思ヒ切ツテ之ヲ緩和シ汪ニ於テ堂々ト一般民衆ニ呼ヒ掛ケ得ルカ如キ和平條件トナシ（祕密協定ヲ最少限度ニ止ム）同時ニ我方モ之ヲ世界ニ公表シ英佛等カ自然追從シ來ルカ如キ方向ニ進マンコト最モ望マシキ次第ナリ

（欄外記入）

半年前ノ當方ノ希望ナリ

編　注　本電報の第一、第二分割電は見当らない。

548

昭和15年2月27日　有田外務大臣より在伊国天羽大使宛（電報）

新政府承認の時期は事変処理の全局的観点から考慮すべきゆえわが方にて目下検討中である旨伊国およびスペイン政府へ伝達方訓令

本　省　2月27日後8時15分発

第五二號（極祕、館長符號扱）

貴電第七一號及第一三二號ニ關シ

（欄外記入）伊太利及西班牙ハ新中央政府成立ト同時ニ之ヲ承認スル意向ナリト思考セラルル處我國トシテモ可成速ニ之ヲ承認スルノ域ニ達セム事ヲ希望シ居ル次第ナルモ政府成立ト同時ニ又ハ成立後早急ニ之ヲ承認スヘキヤ否ヤニ關シテハ事變處理ノ全局ト關係アリ新政權カ內政上及第三國トノ關係ニ於テ或ル程度ノ成績ヲ示シ得ル以前ニ早急ニ之ヲ承認スル

ハ支那民心把握ノ點ヨリモ亦第三國トノ摩擦ヲ少クシ之等ヲシテ新政權ニ同調セシムル見地ヨリモ果シテ得策ナリヤ否ヤ考慮ノ要アリ折角當方ニ於テ研究中ナルニ付右貴官限リ極祕御含ミノ上伊側及西班牙側ニ對シ伊、西兩國カ克ク東亞ノ新事態ニ適應セラレ新中央政府ニ對シ同情ヲ與ヘラレ居ルニ對シテハ日本トシテモ深ク「アプレシェート」シ居ル所ニシテ新政府承認ニ關シテモ我方ヨリ伊、西兩國ニ密接ニ事前連絡スルコトト致度キ所存ナルニ付右兩國ニ於テモ同樣連絡方希望スル旨適宜述ヘ置カレ度

本大臣ノ訓令トシテ西ニ轉電アリ度

英、米、獨ニ轉電アリ度

上海、北京ニ轉電セリ

（欄外記入）

二月廿六日興亞院石川大佐、海軍省矢野課長、陸軍省永井中佐ト打合濟

549

昭和15年3月2日　在上海加藤公使より有田外務大臣宛（電報）

新政府樹立後における日本の即時承認を汪兆銘希望について

上　海　3月2日後発
本　省　3月3日前着

第八九號（極祕、館長符號扱）

往電第九〇號ニ關シ

二日汪ヲ訪問シタル處汪ハ前回ノ會談後承認問題ニ付充分考慮シタルカ抑々今回ノ事變ハ特別ナル性質ヲ有シ之カ收拾ニ關シテハ日本政府ハ最初一昨年國民政府ヲ相手トセスト聲明シタルカ同年十一月ニ至リ國民政府ニシテ容共抗日ノ政策ヲ捨ツルニ於テハ之ヲ容ルルニ吝ナラサルコトヲ闡明シ次テ昨年來國民政府ニシテ和平反共ノ態度ニ出ツルニ於テハ之ト共ニ時局ノ收拾ニ當ルヘキ旨ヲ表明スルニ至リシヲ以テ結局容共抗日ヲ捨テ反共和平ノ政策ヲ執ルニ至ラハ國民政府ト共ニ國交ノ平常化ヲ圖ルニ躊躇セストノ意嚮ナリト察セラレ右ハ支那國民大衆ノ希望トモ合致スルモノナリ而シテ右國交ノ平常化ヲ圖ルニハ全面的和平ヲ實現シ平常關係ヲ樹立シ次テ大使ノ交換ヲ行フト言フコト普通ノ行方ナレトモ今回ノ事變ノ特殊性ニ鑑ミ之ヲ速ニ解決スル

ニハ右ノ如キ通常ノ手續ニテハ間ニ合ハス最初ヨリ之ヲ正式ニ承認シテ中央政府ノ地位ヲ與フルコト必要ナリト思考ス蓋シ今回ノ新政府ハ其ノ力ノ有無カ問題ニアラス確固タル地位ヲ占ムルヤ否ヤカ問題ニシテ斯ル例ハ第一回歐洲大戰後「チエツコ」及波蘭ノ如キニ於テ之ヲ見ル通リ何レモ國際間ノ地位確認カ其ノ國家及政府ノ基礎ヲ爲シ居ル次第ナリ殊ニ前述ノ如ク日支兩國民トモ一日モ速ニ國交ノ恢復ヲ希望シ居ル實情ナルヲ以テ政府成立後ハ直ニ正式ニ承認セラルル樣希望スル次第ナリト述ヘタリ依テ本使ハ貴下ノ趣旨ハ好ク政府ニ傳達スヘシ素ヨリ日本側ニ於テモ新政府成立後ハ可成ク速ニ且他國ニ先シテ之ヲ承認スルノ方針ハ動クコト無ク只政府成立ト共ニ卽時承認ト言フカ如キコトハ前回申述ヘタルカ如キ諸般ノ情勢上問題ナルカ事情ノ許ス限リ速ニ承認スルノ意嚮ナリト信シ居レリト答ヘタルニ汪ハ政府成立ノ際ハ直ニ日本ヨリ全權大使ヲ派遣セラルルコトト承知シ居ルカ右ハ政府成立ノ慶祝ノ爲ノ代表トモ言フヘク夫レ丈ケニテハ未タ正式ノ承認トハナラス御信任狀ノ捧呈アリタル後始テ正式ノ大使トナルヘキモノナルニ付此ノ點考慮セラレタシト述ヘタリ次テ本使ヨリ昨年六月東京ニ於ケル約束文書中ニ日本大使館ハ中央政府成立後直ニ首都ニ歸駐スルト共ニ獨伊英佛米等ノ大使館ニ對シテモ成ルヘク速ニ歸駐セシムル樣努力スヘシト聞キ居ル處政府成立ト共ニ大使館ハ其ノ儘南京ニ移サルヘク日本側ノ方針カ急ニ變更シタ譯ニハアラスト述ヘタルニ對シ汪ハ當時未タ川越大使ノ辭職ヲ知悉シ居ラサリシ爲同大使カ南京ニ歸還セラルレハ夫レニテ問題無シト考ヘタルカ爲ナリ然ルニ同大使ハ旣ニ辭職シ居ル由ナルヲ以テ今回派遣セラルル大使ハ御信任狀捧呈ノ手續ヲ取ラサレハ正式ノ大使トハナラサル次第ナリ尤モ英佛米等ハ斯カル手續ヲ取ラス其ノ儘南京ニ移駐セラルレハ差支無キモノト信スト答ヘタリ最後ニ本使ヨリ貴下ノ話ノ趣旨ハ充分政府側ニ傳ヘ置クヘク政府モ諸般ノ事情ヲ考慮シテ善處スルモノト察セラルルカ可成ク速ニ且諸外國ニ先シテ承認ノ手續ヲ取ルヘキコトハ疑無キ所ナルヲ以テ安シテ中央政府樹立工作ニ邁進セラレタシト希望シタルニ汪ハ其ノ好意ヲ謝シ目下政府ノ樹立準備ニ懸命ノ努力ヲ拂ヒツツアル旨ヲ答ヘタリ

北大へ轉電セリ

550

昭和15年3月19日　興亜院会議決定

「日支新條約ニ關スル件」

日支新條約ニ關スル件

昭和十五年三月十九日
興亞院會議決定

一、支那新中央政府樹立後之ト締結スベキ日支條約ニ關シテハ速ニ同條約對策委員ヲ置キ其ノ要旨ヲ起案セシムルモノトス

二、右條約要旨ハ昭和十三年十一月三十日御前會議決定ヲ基礎トシ昭和十四年十二月三十日梅機關汪側間內約ニ準據シ之ヲ起案スルモノトス

三、前項要旨ハ興亞院連絡委員會ノ審議ヲ經テ興亞院會議ニ付議決定スルモノトス

日支條約對策委員

委員長	興亞院	政務部長
委員（幹事）	〃	政務部第一課長
〃（〃）	〃	〃第一課員　一
委員	陸軍省	軍務局軍務課長
〃（幹事）	〃	軍務課員　一
〃	海軍省	軍務局第一課長
〃（幹事）	〃	第一課員　一
〃	外務省	東亞局第一課長
〃（幹事）	〃	第一課員　一
〃	大藏省	理財局外事課長
〃（幹事）	〃	外事課員　一

551

昭和15年3月23日　閣議決定

「正式承認前ノ支那新中央政府ニ對スル協力機構」

正式承認前ノ支那新中央政府ニ對スル協力機構

昭和十五年三月二十三日　閣議決定

一、新中央政府樹立ト共ニ大正六年勅令第六四號ニヨル特命全權大使ヲ派遣ス

右大使ニ所要ノ隨員團ヲ附スルモノトス

二、特命全權大使ノ職務ハ內閣總理大臣及外務大臣ノ連署ノ

訓令ヲ以テ之ヲ定ムル如ク措置ス

三、前記訓令内容ハ概ネ左記ニ依ルモノトス

㈠特命全權大使ハ内閣總理大臣ノ命ヲ受ケ中央政府ニ對スル協力業務（軍事協力事項ヲ除ク）ヲ行フ

㈡特命全權大使ハ外務大臣ノ命ヲ受ケ支那ニ於ケル帝國ノ第三國關係外交竝ニ日支新關係條約締結ニ關スル事務ヲ行フ

㈢特命全權大使ハ重要政策ノ處理竝ニ治安ニ關連スル事項ニ就テハ關係ノ陸海軍最高指揮官ト協議ス

四、特命全權大使竝ニ其ノ隨員團ノ編成ハ概ネ左記ニ依ルモノトス

㈠特命全權大使ハ將來正式承認後正式大使タリ得ヘキ人物ヲ一般官民中ヨリ選定スルモノトス

㈡隨員團ハ興亞院、外務省職員竝陸海軍武官ヲ以テ編成ス

五、新中央政府ニ派遣セラルヘキ財政、經濟及自然科學等ノ技術顧問等ハ身分ヲ興亞院ニ置キ大使ノ指導ヲ承クルモノトス

閣議諒解事項

第三號㈠ノ内閣總理大臣トハ興亞院官制第六條ノ内閣總理大臣ヲ謂フ

552

昭和15年3月29日　有田外務大臣より在米国堀内大使、在独国来栖大使他宛（電報）

新中央政府成立に際するわが方措置振りにつき通報

本省　3月29日後11時0分発

合第五九四號（極祕）

一、汪精衛ハ三月三十日新中央政府ヲ樹立シ中華民國國民政府ノ名ヲ用ヒ國旗モ青天白日滿地紅旗ヲ襲用スルコトトナリ（但シ重慶側トノ識別ヲ明ニスル爲軍事上ノ必要ニ基キ差當リ「反共、和平、建國」ノ文字ヲ記セル黄色三角布片ヲ之ニ添附ス）從來ノ國民黨ヲ中心トスル支那正統政府ノ法統ヲ繼承シ南京ニ還都スル旨宣傳シ居ル處右ハ支那人心ノ把握及對重慶工作等國内的必要ニ基クモノニシテ我方モ之ヲ許容シ居ルモ國際法上ハ明ニ新政府ノ樹立ナルヲ以テ帝國政府トシテハ此ノ建前ヲ以テ諸般ノ

問題ヲ處理スル方針ナリ

二、新政府ニ對シテハ之ヲ正式承認スル前提トシテ不取敢大正六年勅令第六四號ニ依ル特派大使ヲ派遣シ（同大使ハ慶祝使節ヲ兼ネ阿部前總理ニ内定セリ）興亞院所管ノ所謂協力業務（支那ニ於テ處理ヲ要スル政治經濟文化ノ業務ニ付支那側ニ對シ指導協力ヲ爲ス事ナリ）ヲ處理セシムル一方支那ニ於ケル第三國關係外交及日支新關係ヲ律スヘキ條約締結ノ任ニ當ラシムルコトトシ遲クトモ四月央頃ニハ赴任ヲ見ル豫定ナリ尚大使ハ現地陸海軍最高指揮官ト中央ノ決定ニ基ク重要政策ノ現地ニ於ケル執行竝治安事項ニ關シ協議ヲ爲スモ軍指揮官ハ大使ニ對シ區處又ハ指示ヲ爲サス（大使ト興亞院及軍指揮官トノ關係ハ絕對極祕トセラレタシ）

三、新政府ノ正式承認ハ特派大使カ日支ノ新關係ヲ律スヘキ基本協定ヲ調印スル時期トシ度含ミニテ目下必要ナル事務手續進行中ナルカ右時期ハ未タ具體的ニ豫定スルヲ得ス從テ過般來伊太利（及西班牙）カ承認ノ用意アルコトヲ表明シ居ルモ右樣ノ内部關係アル爲第三國ニ依ル新政府ノ承認促進ニ付我方ヨリ進ンテ申出ヲ爲ス迄ニハ至リ居ラス

四、新政府ノ滿洲國承認ニ付テハ汪兆銘ハ既ニ承諾濟ミノコトナルカ是レ亦手續上大体前記條約調印ト同時トナル豫定ナリ

五、新政府ノ顏觸レハ汪ヲ中心トスル國民黨改組派及CC團ニ臨時、維新兩政府要人ノ一部ヲ加ヘ一應整ヒタルモ（各部次長以上國民黨員約六割ヲ占ム）管内ノ治安全カラス財政ノ基礎タル關稅ハ法幣及聯銀建ニテ年四億ニ充タス鹽稅、統稅ニモ多クヲ期待シ難ク又自己ノ軍隊ヲ有セサルヲ以テ我方ノ正式承認ハ時期尚早ニ傀儡政府ヲ作リ排他的ニ之ヲ利用セントストノ非難ヲ受ケ第三國トノ關係ニ於テ相當ノ困難ヲ招來スル虞ナキニ非ス之ニ拮抗スル爲新政府カ相當ノ實力ヲ具フルニハ同政府トシテモ我方トシテモ多大ノ努力ヲ要スヘシ

六、斯ル情況ニ於テハ新政府ヲシテ善政ヲ布カシムルコトニ依リ内外人心ノ把握ニ努メ外支人ノ信賴ヲ高ムル方圖（途カ）ヲ講スルコト緊要ニシテ右ハ特派大使ノ一重要任務ヲナス次第ナリ

七、尚右ト竝行シ日本及新政府ノ對第三國關係調整其ノ他ノ

外交施策ニ依リ彼等ヲシテ新政府ニ同調スルノ態度ニ出テシメ以テ間接ニ重慶ノ國際的弱体化ヲ企圖スルコトモ必要ニシテ之ニハ客年往電合第二八五四號ノ方針ニ則リ日支提携シテ對第三國外交ヲ促進スルノ要アリ（差當リノ措置トシテ支那ニ於ケル排外運動ノ禁遏、權益毀損ニ對スル補正ノ促進、天津租界問題調整及揚子江、珠江開放ノ急速實行等「滬西問題竝ニ虹口地區ノ開放及同地區ヘノ工部局警察ノ復歸問題ハ既ニ解決濟ミ」ニ付交涉又ハ準備進行中ナリ）

此ノ點ニ關シ第一新政府カ防共ヲ標榜スル以上蘇聯トノ間ニ釋然タラサル關係生スルコトアルヘキハ豫想ニ難カラス就テハ我方トシテ汪政權ノ防共方針ハ差當リ國內政治方面ニ限局セシムルト共ニ蘇聯カ目下其ノ主タル關心ヲ歐洲方面ニ有スル事情ニモ鑑ミ日蘇懸案ヲ解決シ同國トノ關係カ是以上惡化セサル如クスルノ要アリト考ヘ居レリ次ニ新政府カ支那ノ新秩序ヲ標榜スル以上其ノ程度ノ厚薄ハ別トスルモ九國條約關係國トノ間ニ相當ノ摩擦ヲ生スヘキハ明カニシテ其ノ內最モ困難ナルヘキハ米國トノ關係ナル處支那ニ於ケル關係列國ノ權益ハ共通ナルニ付我方トシテハ處理シ易キ國ヨリ權益問題ノ解決ヲ計ルコト肝要ニシテ此ノ見地ヨリスレハ英佛ト國交調整ノ談合ヲ進ムルコト便ナリト思考シ居リ尙伊國ハ帝國ノ東亞新秩序建設ニ積極的ニ同調スルノ態度ヲ示シ居ルヲ以テ之ヲ善用スルトキハ九國條約關係列國間ニ相當ノ協調ヲ保チ得ル譯ニテ一方米國ニ對シテモ支那ニ於ケル諸懸案ノ解決ニ依リ現在以上我方トノ關係ノ惡化ヲ避クルニ努ムルトキハ日米關係ノ最惡化ヲ防キ得ルヤニ思考シ居レリ

ハ、新政府ハ不取敢南京、上海ニ其ノ實力ヲ扶植スルコトニ重點ヲ置ク考ヘニシテ其ノ上ハ重慶部內ノ要人ノ脫出、中央軍中ノ寢返リ又支那實業界、財界ノ新政府ニ對スル協力モ逐次實現スヘキ可能性アル處右ハ相當ノ時日ヲ要シ從テ事變ノ速急解決ハ先ツ望マレサルヲ以テ我方トシテハ之ニ對應スル國內態勢ヲ整フルト共ニ重慶ニ對スル軍事行動ヲ攻擊的態勢ニ置クコト必要ニシテ斯クテコソ重慶ノ崩壞工作モ其ノ時期ヲ早ムルモノト觀察セラレ此ノ際早急ニ重慶ニ對シ何等施策ヲナスコトハ絕對禁物ナルカ時機熟スルニ伴ヒ適當ノ方法ニ依リ新政府ト共同シ

テ重慶ニ働キ掛ケ又ハ第三國カ重慶ニ對シ自發的ニ和平ノ勸告ヲ爲ス樣仕向クルコトハ之ヲ排除スル要ナキモノト考ヘ居レリ御含ミ迄

本電宛先　佛、獨、米、香港、北京(參事官)、上海、天津、廣東、南京、滿

佛ヨリ英、伊、白、土ヘ獨ヨリ蘇、蘭ヘ轉電アリタシ

553

昭和15年3月29日　在上海加藤公使より有田外務大臣宛(電報)

李士群警政部次長による新中央政府の内部観察につき報告

上　海　3月29日後発
本　省　3月29日夜着

第一四四號(極祕)

新[1]中央政府警。政部次長李士群ハ館員ニ對シ大要左ノ通リ內話シタル趣ナルカ同人カ警政部及特務工作ノ實際上ノ責任者タル點ニ於テ其ノ對內部觀察ハ新政府ノ今後ノ動向及對華北政權及維新政府系要人ニ對スル國民黨ノ態度ニ付幾多ノ示唆ニ富ムヤニ考ヘラルルニ付御參考迄(本談話ハ同人ノ立場モアリ部外絕對極祕トセラレタシ)

一、今般新中央政府カ汪派ヲ中心トシ華北政權、維新政府及其ノ他政黨ヲ兎モ角モ打ツテ一丸ト爲シ得タルハ一ハ汪精衞ノ政治主張カ中庸ナルコト一ハ日本側ノ新政府支持アリシ爲ニ他ナラス

二、汪ハ現ニ左派卽チ抗戰派ヨリハ漢奸ト目サレ又右派卽チ徹底的親日論者ヨリハ重慶ノ出店ナリト非難サレ居ル點ヨリシテモ明カナルカ如ク汪ノ主張ハ現在ノ支那ノ政治主張ノ中庸ヲ行クモノナリ左レハコソ前記各派ヲ結合シ得タル譯ニテ現在左派ノ主張ニ幾多ノ共鳴者アル如ク又右派ノ理論ニモ鮮カラサル贊成者アル如ク汪ノ中庸ノ主張ニモ亦必スヤ多クノ國民的同情ヲ得ルモノト確信ス此ノ點日本側ノ新政府支持ノ態度ト共ニ今次中央政府ノ强味ナリ

三、乍併反面幾多ノ弱點アルハ否定シ得ス(一)前途各派結合ノ力ハ汪ノ政治主張ト日本側ノ支持ナルカ汪ノ政治主張ハ實力ヲ伴ハス日本側ノ支持ハ實力ヲ背景トスルモノナレハ新政府ノ決定力ハ結局日本側ノ手中ニ在リト謂フヘク左リトテ汪ノ政治主張無クハ此ノ結合ハ實現セサリシナ

ラン左レハ右結合ノ二大要素中一ニテモ缺クルコトアラン カ新政府ハ忽チ瓦解スルノ運命ニ逢着スル危險アリト謂フヘシ

(二)[2]現在ノ一般的環境ヨリスレハ汪ノ意思如何ニ拘ラス政治ノ官僚化ハ先ツ免レサルヘシ又今次南京會合ニ當リ汪派幹部中ニスラ朱ニ交レハ赤クナルノ比喩ノ如ク漸次腐敗化シ行クニアラスヤト思ハルル事實見受ケラレタリ斯クテ延イテハ政治ノ官僚化官吏ノ腐敗化ヲ馴致スルニアラサルカ眞ニ憂慮ニ堪エス(三)更ニ華北政權及新(維カ)政府系要人ハ殆ント汪ニ大ナル不滿ヲ抱キ居リ今日之カ未タ表面化セサルハ唯日本側ノ威壓アルカ爲ニ他ナラサルカ彼等ノ中ニハ交々相提携シ或者ハ重慶ト又或者ハ日本ト夫々勾結シ以テ汪追出シノ陰謀ヲ企マントシツツアル者アルヤニ認メラル

四、之等諸弱點モ汪ノ眞ノ實力アルニ於テハ左シタル問題ニハアラサルヘキモ如何セン現在ノ汪ニハ其ノ力ナシ從テ新政府ノ前途誠ニ多難ナルモノアルヲ思ハシム汪ハ目下之カ爲實ニ苦惱多キ次第ナルカ左レハトテ汪ノ態度及主張ニ變化アルヘシトハ到底信セラレス切ニ日本側ノ不斷ノ支持ヲ希望スルモノナリ

五、斯ル環境ノ下ニ於テ警政部(特務工作ヲ含ムモノナル如ク警政部ハ半公開的機關ナリ)ノ責任及重要性ハ一層加重サレタル譯ニテ今回自分カ(ママ)(李)ノ如キ政府委員中最若年者ヲ警政部次長(部長周佛海ハ兼任ニテ李ハ實際上ノ部長ナリ)ノ重要ナル「ポスト」ニ据ヘタルハ汪カ自分ヲキカ(如何カ)ニ信賴シ本件工作ヲ生命線ト考ヘ居ル證據ニテ自分カ今後身命ヲ擲ツテ汪ノ爲ニ盡ス覺悟ナリ

北京、南京へ轉電セリ

554

昭和15年3月29日　在北京藤井大使館參事官より有田外務大臣宛(電報)

新政府還都式典に際する臨時政府の対応振り決定について

北　京　3月29日後発
本　省　3月29日夜着

第二六六號(至急)

一、三十日還都典禮ニ關シ臨時政府ニ於テハ左ノ通リ決定セリ

㈠午前十時臨時政府各委員ヲ召集臨時政府解散ノ動議ヲ通過シタル上新國旗揭揚式ヲ行ヒ引續キ華北政務委員會第一次會議ヲ開催布告案ヲ通過シタル後政務委員會ノ成立ヲ宣言シ國民政府ニ委員ノ就任ヲ通電ス本式典ハ支那側ノミ參列シ極メテ簡素ニ行フ

㈡省以下地方官署ニ於テハ各地方ノ狀況ニ應シ適宜ノ式典ヲ行フ

㈢新國旗ハ官公衙ハ之ヲ揭揚スルモ其ノ他ニ於テハ日支合辦會社ニ於テ日支兩國旗ヲ交叉スル外一般ニ新舊兩國旗トモ揭揚セス

二、政務委員會委員以下ノ管下各職員ノ任命ニ關シテハ政務委員會成立後各總處、廳等ノ組織決定ヲ俟チ一括處理スルコトトシ不取敢新委員長ノ名ニ於テ各職員ハ新命令ノ接到スル迄引續キ職務上ノ責任ヲ負ヒ職務ヲ執行スヘキ旨ノ命令發出セラルル豫定ナリ

三、政務委員會ノ會議規則綱要廳等ノ組織及辦事細則ハ目下政府側ニ於テ立案中、委員會成立後引續キ所要ノ手續ヲ經タル上發布ノ豫定ナリ

上海公使、在支各總領事へ轉電セリ

555

昭和15年3月30日

南京国民政府成立に関する日本政府声明

付　記　昭和十五年三月三十日　南京国民政府成立に関する有田外相車中談

新中華民國政府成立ニ對スル帝國政府聲明

（昭和十五年三月三十日）

夫レ生命ハ不斷ニ發展シ、事象ハ時時ニ變化ス、國際ノ秩序亦コレニ遵フ、帝國ハ常ニコノ裡ニ在リテ國際正義ノ昂揚ト人類平和ノ確立トニ力ヲ致スモノナリ、今ヤ支那新中央政府樹立セラレ、更生支那ノ建設ソノ緒ニ就ク、帝國政府ハソノ成立ヲ慶賀スルト共ニ、其發展ニ對シテハ屢次ノ聲明ニ基キ全幅ノ協力ト支援トヲ與ヘントス、帝國ハ列國カ又克ク此ノ嚴然タル事實ヲ確認シ、速カニ東亞ノ平和建設ニ寄與セン事ヲ期待ス、帝國カ支那ニ冀求スル所ハ、支那カ克ク道義ニ立脚シテ眞ニ其ノ獨立ト自由トヲ完成シ帝國ト互ニ相携ヘテ東亞新秩序ノ建設ニ邁進シ、其ノ興隆ヲ共ニセンコトニ存ス、帝國カ東亞諸邦ト共ニ其ノ生存ヲ確保センカ爲、特ニ支那資源ノ開發利用ニ關聯シ、特殊ノ關

心ト要求トヲ有スルハ固ヨリ其ノ所タリ、然レトモ、帝國ハ東亞ノ新事態ニ卽スル第三國ノ平和的經濟活動ニ對シテハ、敢テ之ヲ排除セサルノミナラス、進ンテ是等諸邦ト協力シ、倶ニ國際修交ノ福利ヲ享受セントスルモノニシテ、帝國カソノ作戰繼續中ノ異常事態ニ拘ラス、多大ノ不便ヲ忍ビ、列國ノ在支權益ノ擁護ニ努力シ來レルノ眞意實ニココニ存ス、更生新支那亦ソノ方途ヲ一ニスヘキハ帝國政府ノ確信スル所ナリ、茲ニ更生新支那ノ發足ヲ見、東亞ノ情勢將ニ一轉機ヲ劃セントス、帝國ハ殘存容共抗日勢力ニシテ迷夢猶醒メサル限リ、之ニ對シ斷シテ矛ヲ戢ムルコトナキハ、勿論、今後生スルコトアルヘキ一切ノ障碍ニ對シ確固タル決意ト不斷ノ用意トヲ以テ之ヲ克服突破シ依テ聖戰目的ノ完遂ヲ期スルモノナリ。

（付　記）

汪精衞氏ヲ首班トスル中華民國新中央政府成立ニ關シ有田外務大臣車中談

（昭和十五年三月三十日）

（小田原電話）

本日汪精衞氏ヲ首班トスル中華民國新中央政府ノ成立ヲ見タコトハ日華兩國竝東亞平和ノ爲ハ勿論世界平和ノ爲洵ニ喜ハシイコトテ衷心カラ欣快ニ堪ヘナイ。

東亞ノ平和ト發達ヲ目標トスル共通ノ使命ヲ目覺シ幾多ノ艱難ヲ顧ミズ敢然トシテ支那四僑（億カ）民衆救濟ノ爲此ノ歷史的大事業達成サレタ汪精衞氏其他各位ノ勇氣ト苦心努力ニ對シテ深ク敬意ヲ表シ度イ。新政府ト帝國トノ協調方法ニ關シテハ種々噂サレテ居ルガ根本ノ方針ハ帝國政府屢次ノ聲明デ明カナ通リ決シテ侵略的テナイコトハ今後ニ現ハレテ來ル事實カ實證シテ行クコトテ根據ノナイ臆測ナコトハ今更何モ氣ニスルコトハナイト思フ。

從ツテ列國側トシテモ漸次帝國ノ公正ナル意圖ヲ了解スルニ至ルヘク新政府ノ成立ヲ機トシテ東亞新秩序ノ建設ヲ阻止妨害セムトスル擧ニ出ツルヲ恐レルカ如キハ一部人士ノ杞憂ニ過キナイモノト謂フヘキテアル假令大勢ニ無理解ナルモノアリトスルモ東亞新秩序建設ニ對スル帝國不拔ノ決意ト覺悟ノ前ニハ敢テ意トスルニ足ラナイモノト思ハレル。

556

昭和15年3月30日　在米国堀内大使より
有田外務大臣宛（電報）

南京国民政府成立に対し重慶政権を支持する旨ハル米国務長官声明について

付　記　昭和十五年四月一日
右声明に対する情報部長談話

ワシントン　3月30日前発
本　省　3月31日後着

第四四四號（至急）
三十日「ハル」長官ハ新中央政府成立ニ關シ聲明ヲ發シタルカ右ハ米政府ノ新「レジーム」成立ニ對スル態度竝ニ立場ニ關スル質問ニ答フルモノナリト冒頭シ要旨左ノ通リ述ヘ居レリ
一九三一年以來ノ支那各方面ニ於ケル出來事ニ照シ南京新「レジーム」ノ樹立ハ武力ニ依リテ隣國ヲ壓制シ世界ノ一大地域ヲ其ノ他ノ世界ノ部分トノ間ノ正常ナル政治的經濟的關係ヨリ隔絕セントスル一國ノ計畫カ更ニ一歩ヲ進メタルモノナル感アリ卽チ右ハ之迄一外國ノ庇護ノ下ニ支那ニ於テ樹立セラレタル他ノ「レジーム」等ト類ヲ同フシ特ニ一外國ノミノ利益ヲ計リ米國其ノ他第三國民カ久シキニ亘リ正當ニ享有セル平等待遇ノ權利ヲ否認セントスルモノノ如シ米政府ハ前記一外國ノ高官連カ自分等ノ國ハ外國ノ政治的獨立及自由ヲ尊重スル意嚮ナル旨竝ニ東亞今後ノ事態ハ右意嚮ヲ立證スヘキ旨聲明セルヲ承知スルモ今回ノ新「レジーム」成立ニ伴フ軍事的外交的情勢ハ右意嚮ト符合スルモノト思ハレス米政府ハ重ネテ國際法現行條約及協定ニ基キ總ユル米ノ權利ヲ完全ニ留保シ重慶政府カ依然支那國民大多數ノ忠誠ト支持トヲ有スト信スル充分ノ理由ヲ認メ勿論今後トモ同政府ヲ支那國政府ト認ムルモノナリ（爲念「テキスト」別電（省略）ス）
本電ノミ伊へ轉電セリ
伊ヨリ英、佛、獨、白、土へ轉電アリタシ
紐育へ郵送セリ
蘇、滿へ轉電アリタシ

（付　記）
「ハル」米國國務長官ノ新中國中央政府否認聲明ニ關スル須磨情報部長談話

（昭和十五年四月一日）

四月一日情報部長ノ定例外人記者會見ニ於テ記者ヨリ所謂「ハル」聲明ニ對スル意見如何トノ質問アリ、之ニ對シ須磨部長ハ左ノ如キ旨ノ回答ヲ爲セリ。

「ハル」長官聲明ニ付テハ有田外相カ既ニ其車中談テ見解ヲ述ヘラレテ居ルカ大體今次「ハル」聲明ハ米國從來ノ態度カラ觀テ當然ノ歸結ト觀ルヘキテアル。

然シ余ハ玆ニ二ツノ點ヲ指摘シテ置キタイ。

第一ニハ米國大使「グルー」氏ハ昨年野村外務大臣トノ會談ニ於テ米國政府ハ日米間ノ問題ニ付建設精神ヲ以テ交涉スル用意カアルト言明シタノテアルカ今回ノ「ハル」長官聲明ハ東亞ニ新秩序ヲ齎シ平和ヲ確立スル目的ヲ以テ樹立サレタ汪精衞氏以下ノ新中國中央政府ヲ否認シ又現ニ我日本ト戰鬪ヲ繼續中ノ重慶政府ヲ認メ之ヲ使嗾シ援助スルノ擧ニ出タモノテアツテ斷シテ建設的精神トハ相容レス相互矛盾撞著シタモノテアル、「ハル」聲明ハ「スチムソン」氏一派ノ日本侵略不參加委員會ノ連中ノ反日的策動ヲ刺戟シ同時ニ重慶政府ニ對シテ相當大ナル援助ヲ與ヘル行爲テアル。

第二ニハ我方ハ日米間ノ問題ヲ解決シ兩國國交改善ノ爲從來終始一貫シテ最善ノ努力ヲ拂ヒ來タモノテアルニ不拘「ハル」聲明ハ我方ノ斯カル努力ノ成果ヲ見極メルタケノ忍耐ト雅量トヲ示サス反對ニ我方ノ誠意アル努力ヲ無視シ如何ニモ日本カ日滿華「ブロック」ヲ形成シテ米國ノ經濟的活動ヲ排除スルモノテアルカノ如ク獨斷的ニ考ヘ込ンテヰル點テアル、我方トシテハ日米間ノ種々ナ問題解決ノ爲ニハ一切ノ可能ナル方途ヲ講シ盡シテ居ルノテアルカラ米國トシテハ今少シ辛棒シテ其具體的成果ヲ見守ルヘキカ當然テアルト思フ、斯カル忍耐ヲ缺イテ「ハル」聲明ノ如キモノヲ出シタコトハ遺憾千萬テアル。

尙「ハル」長官ハ重慶政府カ如何ニモ有力ナ勢力テアルカノ如キ口吻ヲ示シタカ事實ハ決シテ左樣ナモノテハナイ、新中央政府ノ抱擁スル地域コソ重慶勢力下ノ未占據區域ト比較スレハ狹少テアルカ中國關稅總收入ノ約九割ハ汪精衞氏等ノ政府ノ把握スルトコロテアリ其他重要行政地域ハ悉ク新政府ノ範圍内ニ屬スル、斯樣ナ現實ノ事態ニ對シテハ何人ト雖眼ヲ蔽フコトハ出來ヌ筈テアル。

更ニ東亞ノ新事態ニ就テハ米國政府ハ一昨年十二月末ノ對

日通牒ニ於テ米國政府ハ「事態ノ變化シツツアル事實ハ充分認識スル」旨ヲ明記シテヰルノテアルカラ東亞ニ於テ發生シタ此現實ノ新事態ヲ無視シ得ル道理ハナイノテアル、「ハル」聲明ニ對スル意見ヲ費（貫カ）サレタ此機會ニ以上ノ諸點ヲ明確ニシテ置ク。